埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第104集

幡　羅　遺　跡　Ⅳ

― 実務官衙域の調査(2) ―

2009.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第104集

幡羅遺跡Ⅳ

― 実務官衙域の調査(2) ―

2009.3

深谷市教育委員会

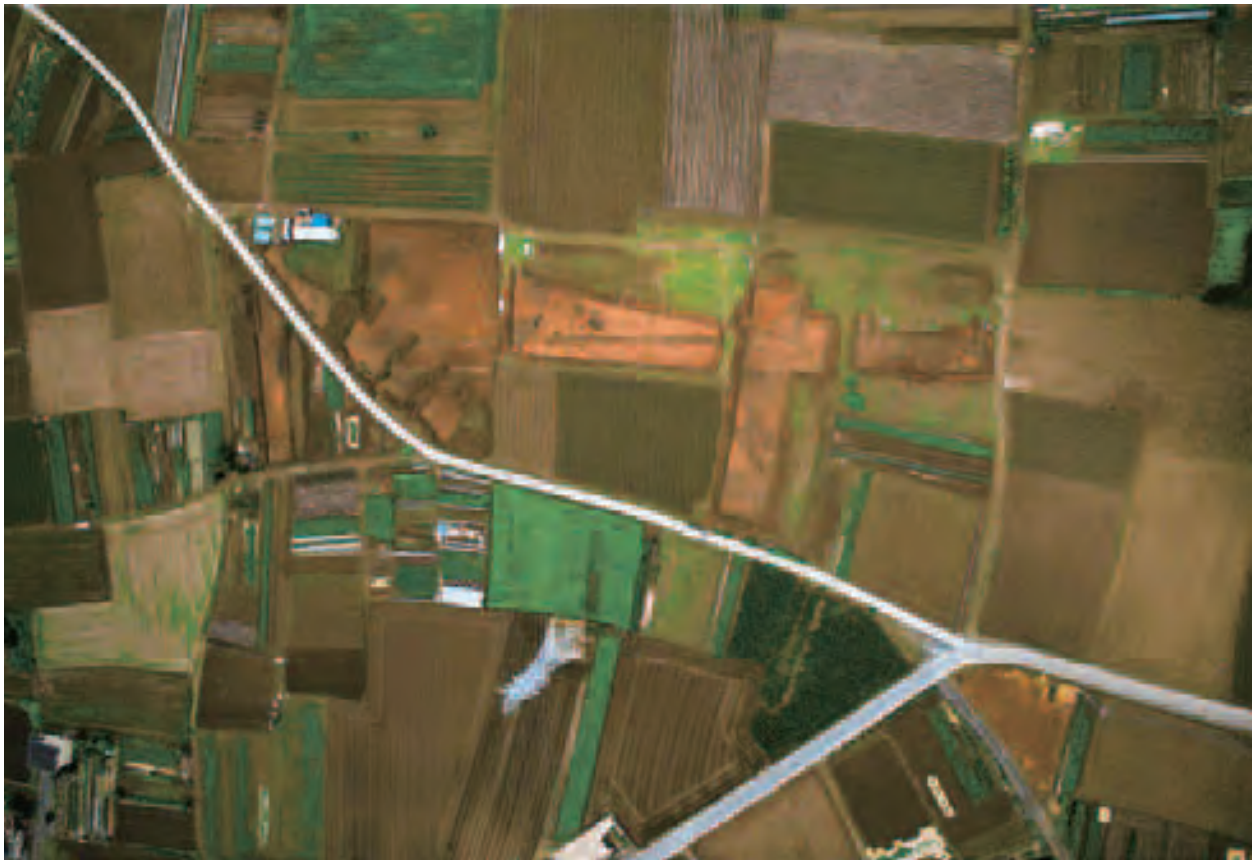
巻頭図版 1

幡羅遺跡全景

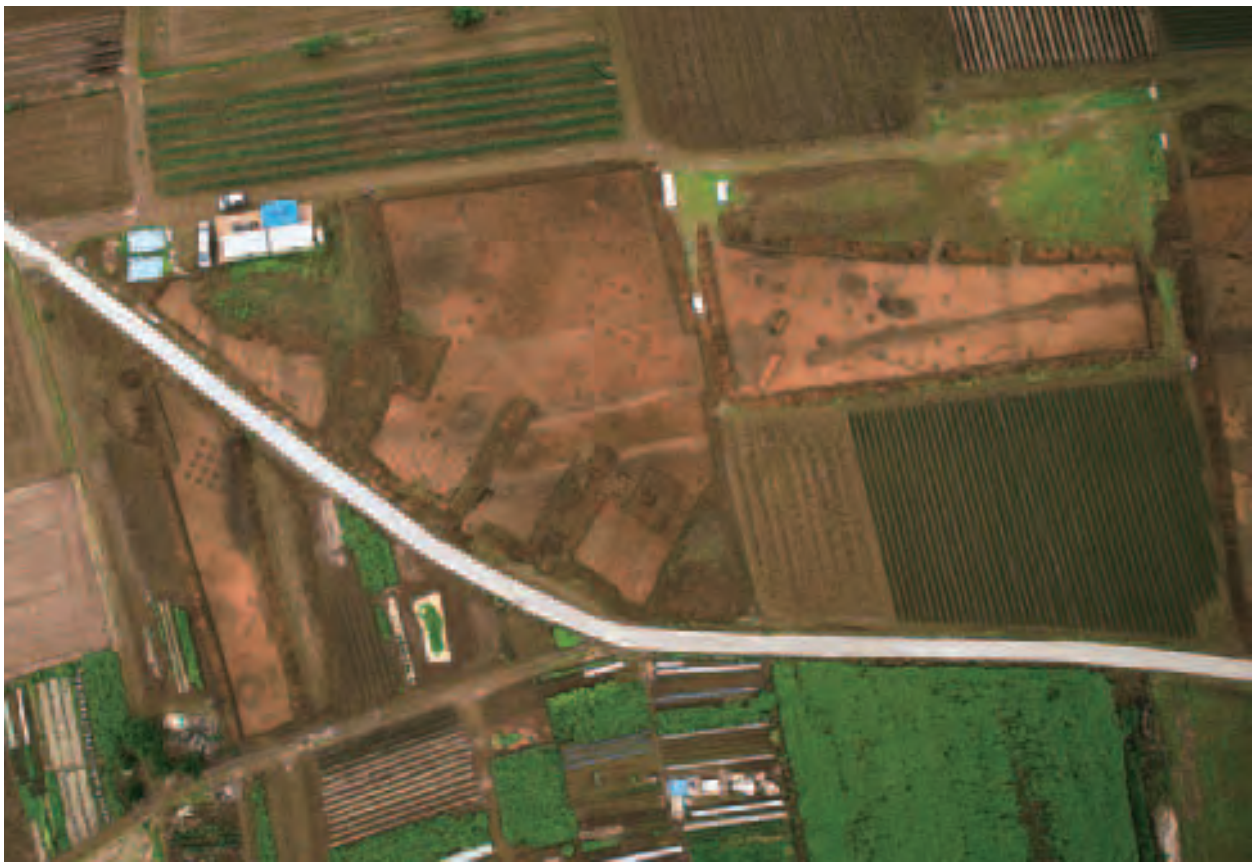
第 3 ～ 6 号特殊土坑

巻頭図版 2

第19次調査区遠景



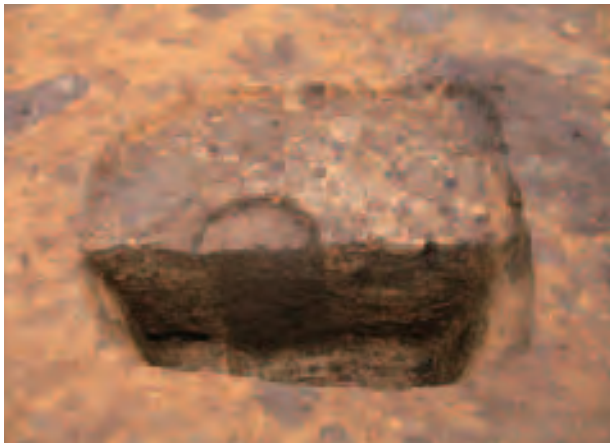
第19次調査区全景



第19次調査区Ｃ～Ｆ区

巻頭図版４

塀による区画施設



第47号建物跡Ｐ22

第47号建物跡Ｐ13

序

幡羅遺跡は、これまでの調査で、遺跡の全体像が徐々に明らかになってきました。広大な範囲を有し、その中には大型の倉庫跡や行政実務を行なうための建物跡、道路跡などが配置されていました。中枢施設である郡庁跡の確認には至っていませんが、関東屈指の古代郡役所跡と言えるでしょう。隣接する熊谷市側には、西別府廃寺跡、西別府祭祀遺跡があり、それらと共に、古代郡役所跡の景観を非常に良く残しています。

大化の改新以降、様々な改革が行なわれ、約半世紀をかけて日本という国家が整えられていきます。幡羅遺跡はそうした時代の中で形成され、200年以上という非常に長期間にわたり幡羅郡の中心であり続けました。こうした地域史の中でも中核となる遺跡が、ほとんど無傷で残っている例は全国的に見ても稀であり、地域で誇れるものです。そのため、深谷市教育委員会では、幡羅遺跡範囲内容確認調査を行ない、この貴重な遺跡を末永く保存していく所存です。

今回の調査報告書は、郡役所の実務的な機能を持っていたと思われる区域の調査成果の一部をまとめたものです。この成果を広く市民の皆様にご紹介することで、日本の歴史の中に息づく地域の歴史や文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

地権者の方々をはじめとして、発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成21年３月

深谷市教育委員会

教育長　　猪　野　幸　男

例　　言

1．本書は、埼玉県深谷市東方に所在する幡羅遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、重要遺跡の範囲内容確認調査であり、国庫補助金、県費補助金の交付を受け、深谷市教育委員会が実施した。

3．調査にあたっては、文化庁文化財部記念物課、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会の指導を受けた。

4．今回報告するのは、平成17・18・20年度に行った、第18・19・31次調査のそれぞれ一部に関するものである。第18次調査については、『幡羅遺跡Ⅲ』で報告しなかった特殊土坑について、第19・31次調査については、掘立柱建物跡及び掘立柱塀跡について今回報告する。各調査区の地権者・地番・面積・調査担当者・調査期間は第１表の通りである。

5．発掘調査及び出土遺物の整理、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。

6．遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。

7．動物遺体の分析は、阿部常樹氏、江田真毅氏に依頼した。また、炭化材の樹種同定は、株式会社パレオ・ラボに委託した。

8．出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。

9．本遺跡における概要は一部公表されているが、本書をもって正報告とする。

10．発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

文化庁　　埼玉県生涯学習文化財課

赤熊　浩一	浅野　晴樹	新井　　端	荒井　秀規	板橋　正幸	出浦　　崇
出縄　康行	井上　尚明	今井　　宏	江口　　桂	大橋　泰夫	大谷　　徹
書上　元博	金子　正之	川口　武彦	川原　秀夫	木戸　春夫	木下　　良
木本　雅康	栗岡真理子	小林　　高	小宮　　豪	小宮　俊久	齋藤　直美
齋藤　欣延	酒井　清治	坂井　秀弥	坂爪　久純	坂本　和俊	酒寄　雅志
佐藤　康二	佐藤　　信	寺社　下博	篠原　英政	清水　理史	末木　啓介
菅谷　浩之	菅原　祥夫	鈴木　靖民	須田　　勉	関　　和彦	高島　英之
高橋　一夫	竹野谷俊夫	田中　広明	田中　弘志	辻　　史郎	富田　和夫
中島　広顕	中島　　宏	中村　太一	禰宜田佳男	根本　　靖	原　　京子
平野　　修	昼間　孝志	深谷　　昇	藤木　　海	前澤　和之	松田　　哲
松本　太郎	水口由紀子	宮瀧　交二	村木　志伸	村田　晃一	村松　　篤
室伏　　徹	山路　直充	山中　敏史	吉野　　健	渡辺　　一	（敬称略）

凡　　例

１．図面中の方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。

２．遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りで表現した。また、釉のかかる範囲や赤彩部分については、適宜スクリーントーンで表した。

３．遺物観察表の記載は、以下の通りである。

・計測値の単位はcmである。

・器径、器高で（ ）を付したものは推定値である。

・種別は土師器をＨ、須恵器をＳ、ロクロ土師器をＲとした。

・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。

Ａ…白色粒子、Ｂ…赤色粒子、Ｃ…黒色粒子、Ｄ…石英、Ｅ…角閃石、Ｆ…片岩

Ｇ…白色針状物質、Ｈ…砂礫、Ｉ…雲母

４．遺構の略号は、次の通りである。

建物跡…ＳＢ、塀跡…ＳＡ、竪穴建物跡…ＳＪ、溝…ＳＤ、土坑…ＳＫ、特殊土坑…ＳＸ

５．遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。

６．土層説明中の色調については、『新版標準土色帖』によった。

年 度	調査区	調査期間	地権者	地　　番	調査面積	調　査　通　知	担当者
平成17	第18次	H17.9.1～12.15	平川　照次 富田　俊行 山崎　松男	東方字辻3026、3040、3045-1、	2,700㎡	H17.7.28付深教生発第245号	知久　裕昭
平成18	第19次	H18.4.11～8.18	栗田　満朗 野村　いせ 蛭川武一郎 富田　俊行 平川とし子	東方字辻3031、3034、3035、3038、3039、3083	4,000㎡	H18.4.13付深教生発第43号	知久　裕昭
平成20	第31次	H20.4.23～5.30	野村　いせ 蛭川武一郎	東方字辻3034、3035	600㎡	H20.4.23付深教生発第99号	知久　裕昭

第１表　調査区一覧表

発掘調査の組織

発掘調査・整理作業（平成17・18・20年度）

	教 育 長	青木　秀夫（平成17年度）
		猪野　幸男（平成18・20年度）
	教育次長	古川　国康（平成17・18年度）
		石田　文雄（平成20年度）
	次　　長	大澤　芳正（平成17年度）
		中村　信雄（平成18・20年度）
事務局　深谷市教育委員会生涯学習課	課　　長	山口　　清（平成17年度）
		澤出　晃越（平成17・18・20年度）
	主幹兼課長補佐	澤出　晃越（平成17年度）
		武井　　茂（平成18年度）
	課長補佐	原　　常博（平成17年度）
		猪野塚　昇（平成17年度）
		萩原　昭一（平成17年度）
		大谷　住雄（平成18年度）
		吉場　厚仁（平成20年度）
	文化財保護係長	青木　克尚（平成17年度）
		古池　晋禄（平成18年度）
		鳥羽　政之（平成20年度）
	主　　査	高村　敏則（平成18年度）
		森下昌市郎（平成20年度）
		宮本　直樹（平成20年度）
	主　　任	畦元　直大（平成17年度）
		荻野　直美（平成17・18・20年度）
		知久　裕昭（平成17・18・20年度）
	主　　事	幾島　　審（平成20年度）
	臨時職員	永井　智教（平成17・18年度）
		吉野　智貴（平成18年度）
		栗原貴世実（平成18・20年度）

調査参加者

阿部ルリ子	市川喜和子	伊藤　　昌	江原佳与子	大木　良子
大澤　大美	大島　周子	小野寺和子	笠原　淑江	久米　紀子
倉上多美子	小沼　和子	齋藤　　舞	島崎　祐子	砂田伊久子
関口由美子	高田　秀子	滝田　悦子	田代さち子	田中香代子
富田もえみ	根岸　紀次	浜野　光子	丸山　和枝	除村　敦子
横山　明美	吉野九の枝	吉野真由美	吉野みゆき	

目　　次

序
例言
凡例
発掘調査の組織
Ⅰ　発掘調査の経過 …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　調査方法 …… 1
　3　調査の経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の環境 …… 3
　1　地理的環境 …… 3
　2　歴史的環境 …… 4
Ⅲ　遺構と遺物 ……11
　1　縄文時代の遺物 …… 11
　2　第18次調査区 …… 11
　　a　概要 …… 11
　　b　特殊土坑 …… 11
　3　第19・31次調査区 …… 83
　　a　概要 …… 83
　　b　建物跡 …… 83
　　c　塀跡 …… 114
Ⅳ　調査のまとめ …… 121
付編１　幡羅遺跡出土の動物遺体 …… 137
付編２　幡羅遺跡第18次調査出土炭化材の樹種同定…… 154
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　グリッド分割図……２
第２図　埼玉県の地形図……３
第３図　幡羅遺跡周辺の遺跡……５
第４図　幡羅遺跡周辺の地籍図……６
第５図　幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡……７
第６図　幡羅遺跡全体測量図……８
第７図　第18次調査区Ｃ区周辺……９
第８図　第18次調査区Ｃ区測量図……10
第９図　縄文時代の遺物……11
第10図　第３～６号特殊土坑……12
第11図　第３～６号特殊土坑土層断面図（１）……13
第12図　第３～６号特殊土坑土層断面図（２）……14
第13図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（１）…16
第14図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（２）…17
第15図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（３）…18
第16図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（４）…19
第17図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（５）…20
第18図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（６）…21
第19図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（７）…22
第20図　第３号特殊土坑出土遺物（１）……23
第21図　第３号特殊土坑出土遺物（２）……24
第22図　第３号特殊土坑出土遺物（３）……25
第23図　第３号特殊土坑出土遺物（４）……26
第24図　第３号特殊土坑出土遺物（５）……27
第25図　第３号特殊土坑出土遺物（６）……28
第26図　第３号特殊土坑出土遺物（７）……29
第27図　第３号特殊土坑出土遺物（８）……30
第28図　第３号特殊土坑出土遺物（９）……31
第29図　第３号特殊土坑出土遺物（10）……32
第30図　第３号特殊土坑出土遺物（11）……33
第31図　第３号特殊土坑出土遺物（12）……34
第32図　第３号特殊土坑出土遺物（13）……35
第33図　第４号特殊土坑出土遺物（１）……44
第34図　第４号特殊土坑出土遺物（２）……45
第35図　第４号特殊土坑出土遺物（３）……46
第36図　第４号特殊土坑出土遺物（４）……47
第37図　第４号特殊土坑出土遺物（５）……48
第38図　第４号特殊土坑出土遺物（６）……49
第39図　第４号特殊土坑出土遺物（７）……50
第40図　第４号特殊土坑出土遺物（８）……51
第41図　第４号特殊土坑出土遺物（９）……52
第42図　第４号特殊土坑出土遺物（10）……53
第43図　第４号特殊土坑出土遺物（11）……54
第44図　第４号特殊土坑出土遺物（12）……55
第45図　第４号特殊土坑出土遺物（13）……56
第46図　第４号特殊土坑出土遺物（14）……57
第47図　第４号特殊土坑出土遺物（15）……58
第48図　第４号特殊土坑出土遺物（16）……59
第49図　第４号特殊土坑出土遺物（17）……60
第50図　第４号特殊土坑出土遺物（18）……61
第51図　第５号特殊土坑出土遺物（１）……73
第52図　第５号特殊土坑出土遺物（２）……74
第53図　第６号特殊土坑出土遺物（１）……75
第54図　第６号特殊土坑出土遺物（２）……76
第55図　第６号特殊土坑出土遺物（３）……77
第56図　第６号特殊土坑出土遺物（４）……78
第57図　第６号特殊土坑出土遺物（５）……79
第58図　特殊土坑群出土遺物……82
第59図　追加掲載遺物……83
第60図　第19・31次調査区全体測量図（１）……84
第61図　第19・31次調査区全体測量図（２）……85
第62図　第19・31次調査区全体測量図（３）……86
第63図　第19・31次調査区全体測量図（４）……87
第64図　第19・31次調査区全体測量図（５）……88
第65図　第19・31次調査区全体測量図（６）……89
第66図　第19・31次調査区全体測量図（７）……90
第67図　第19・31次調査区全体測量図（８）……91
第68図　第19・31次調査区全体測量図（９）……92
第69図　第19・31次調査区全体測量図（10）……93
第70図　第19・31次調査区全体測量図（11）……94
第71図　第41号建物跡……95
第72図　第42・44号建物跡……96
第73図　第43号建物跡……97
第74図　第45号建物跡……98

第75図　第46号建物跡……99
第76図　第47号建物跡 ……101
第77図　第48号建物跡 ……103
第78図　第49号建物跡 ……104
第79図　第50号建物跡 ……105
第80図　第51号建物跡 ……106
第81図　第52号建物跡 ……107
第82図　第53・54号建物跡 ……108
第83図　第55号建物跡 ……109
第84図　第55号建物跡土層断面図 ……110
第85図　第56号建物跡 ……111
第86図　第57号建物跡 ……111
第87図　第58号建物跡 ……112
第88図　第66 ～ 68号建物跡……113
第89図　第４～６号塀跡 ……115
第90図　第７～９号塀跡 ……116
第91図　第７～９号塀跡土層断面図 ……117
第92図　建物跡・塀跡出土遺物 ……119
第93図　模倣坏、有段口縁坏出土状況 ……122
第94図　北武蔵型坏出土状況 ……123
第95図　暗文坏、暗文系無文坏、ミガキを有する坏出土状況（１） ……124
第96図　暗文坏、暗文系無文坏、ミガキを有する坏出土状況（２） ……125
第97図　土師器皿出土状況 ……126
第98図　須恵器供膳具出土状況（１） ……127
第99図　須恵器供膳具出土状況（２） ……128
第100図　器種組成と径高分布（１）……129
第101図　器種組成と径高分布（２）……130
第102図　器種組成と径高分布（３）……131
第103図　幡羅・熊野遺跡の土器（１）……132
第104図　幡羅・熊野遺跡の土器（２）……133
第105図　幡羅・熊野遺跡の土器（３）……134

表　目　次

第１表　調査区一覧表
第２表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（１）……36
第３表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（２）……37
第４表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（３）……38
第５表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（４）……39
第６表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（５）……40
第７表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（６）……41
第８表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（７）……42
第９表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（８）……43
第10表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（１）……62
第11表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（２）……63
第12表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（３）……64
第13表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（４）……65
第14表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（５）……66
第15表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（６）……67
第16表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（７）……68
第17表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（８）……69
第18表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（９）……70
第19表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（10）……71
第20表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（11）……72
第21表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（１）……74
第22表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（２）……76
第23表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（３）……79
第24表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（１）……79
第25表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（２）……80
第26表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（３）……81
第27表　特殊土坑群出土遺物観察表（１）……81
第28表　特殊土坑群出土遺物観察表（２）……82
第29表　追加掲載遺物観察表……83
第30表　建物跡・塀跡出土遺物観察表 ……120

図 版 目 次

巻頭図版１　幡羅遺跡全景　第３～６号特殊土坑
巻頭図版２　第19次調査区遠景
巻頭図版３　第19次調査区全景　第19次調査区Ｃ～Ｆ区
巻頭図版４　塀による区画施設　第47号建物跡Ｐ22　第47号建物跡Ｐ13
図版１　第３～６号特殊土坑遺物出土状況　第３～６号特殊土坑完掘状況　第３号特殊土坑土層断面
図版２　第19次調査区全景　第19次調査区Ｃ～Ｆ区　第19次調査区Ｂ区（１）
図版３　第19次調査区Ｂ区（２）　第41・42・44号建物跡　第41号建物跡
図版４　第42・44号建物跡　第55号建物跡　第43号建物跡、第４～６号塀跡
図版５　塀による区画施設（１）　塀による区画施設（２）　塀による区画施設（３）
図版６　塀による区画施設（４）　塀による区画施設（５）　塀による区画施設（６）
図版７　第７・８号塀跡　第７号塀跡　第45号建物跡
図版８　第47号建物跡（１）　第47号建物跡（２）　第49号建物跡
図版９　第51号建物跡　第56号建物跡　第58号建物跡
図版10　第41号建物跡Ｐ５　第42号建物跡Ｐ12　第45号建物跡Ｐ６　第47号建物跡Ｐ８
第47号建物跡Ｐ13　第47号建物跡Ｐ18　第47号建物跡Ｐ21　第47号建物跡Ｐ22
図版11　第50号建物跡Ｐ１　第55号建物跡Ｐ２　第55号建物跡Ｐ３　第４号塀跡Ｐ１　第７号塀跡Ｐ１
第８号塀跡Ｐ１　第９号塀跡Ｐ10　幡羅小学校生徒による見学
図版12　現地説明会（１）　現地説明会（２）　現地説明会（３）
図版13　第20図１（ＳＸ３）　第20図２（ＳＸ３）　第20図５（ＳＸ３）　第20図５（ＳＸ３）内面
第20図16（ＳＸ３）　第20図19（ＳＸ３）　第20図20（ＳＸ３）　第20図21（ＳＸ３）
第20図24（ＳＸ３）　第20図25（ＳＸ３）　第20図25（ＳＸ３）内面　第20図25（ＳＸ３）外面
第20図26（ＳＸ３）　第20図28（ＳＸ３）　第20図30（ＳＸ３）　第20図41（ＳＸ３）
第21図43（ＳＸ３）　第21図45（ＳＸ３）
図版14　第21図47（ＳＸ３）　第21図52（ＳＸ３）　第21図56（ＳＸ３）　第21図57（ＳＸ３）
第21図58（ＳＸ３）　第21図62（ＳＸ３）　第21図65（ＳＸ３）　第21図69（ＳＸ３）
第21図71（ＳＸ３）　第21図72（ＳＸ３）　第21図76（ＳＸ３）　第21図78（ＳＸ３）
第21図83（ＳＸ３）　第22図88（ＳＸ３）　第22図91（ＳＸ３）　第22図94（ＳＸ３）
第22図98（ＳＸ３）　第22図100（ＳＸ３）
図版15　第22図107（ＳＸ３）　第22図109（ＳＸ３）　第22図115（ＳＸ３）　第22図119（ＳＸ３）
第22図121（ＳＸ３）　第22図125（ＳＸ３）　第23図133（ＳＸ３）　第23図140（ＳＸ３）
第23図141（ＳＸ３）　第23図144（ＳＸ３）　第23図145（ＳＸ３）　第23図146（ＳＸ３）
第23図147（ＳＸ３）　第23図148（ＳＸ３）　第24図151（ＳＸ３）　第24図159（ＳＸ３）
第24図163（ＳＸ３）
図版16　第24図164（ＳＸ３）　第24図169（ＳＸ３）　第24図171（ＳＸ３）　第24図173（ＳＸ３）
第24図175（ＳＸ３）　第24図176（ＳＸ３）　第24図177（ＳＸ３）　第24図178（ＳＸ３）
第24図179（ＳＸ３）　第24図180（ＳＸ３）　第24図183（ＳＸ３）　第25図186（ＳＸ３）
第25図188（ＳＸ３）　第25図189（ＳＸ３）
図版17　第25図191（ＳＸ３）　第25図194（ＳＸ３）外面　第25図195（ＳＸ３）
第25図195（ＳＸ３）外面　第25図196（ＳＸ３）　第25図197（ＳＸ３）　第25図198（ＳＸ３）
第25図199（ＳＸ３）　第25図201（ＳＸ３）　第25図202（ＳＸ３）　第25図206（ＳＸ３）
第25図207（ＳＸ３）　第25図210（ＳＸ３）　第25図211（ＳＸ３）　第25図211（ＳＸ３）内面
第25図212（ＳＸ３）　第25図216（ＳＸ３）　第26図222（ＳＸ３）

図版18　第26図223（ＳＸ３）　第26図224（ＳＸ３）　第26図227（ＳＸ３）　第26図228（ＳＸ３）
第26図230（ＳＸ３）　第26図232（ＳＸ３）　第26図234（ＳＸ３）　第26図237（ＳＸ３）
第26図238（ＳＸ３）　第26図240（ＳＸ３）　第26図243（ＳＸ３）　第26図245（ＳＸ３）
第26図247（ＳＸ３）　第27図254（ＳＸ３）　第27図263（ＳＸ３）
図版19　第30図310（ＳＸ３）　第30図314（ＳＸ３）　第31図328（ＳＸ３）　第31図329（ＳＸ３）
第31図330（ＳＸ３）　第33図366（ＳＸ４）　第33図367（ＳＸ４）　第33図371（ＳＸ４）
第33図372（ＳＸ４）　第33図375（ＳＸ４）　第33図376（ＳＸ４）　第33図377（ＳＸ４）
第33図381（ＳＸ４）　第33図383（ＳＸ４）
図版20　第33図384（ＳＸ４）　第33図387（ＳＸ４）　第33図388（ＳＸ４）　第33図389（ＳＸ４）
第33図389（ＳＸ４）内面　第33図390（ＳＸ４）内面　第33図391（ＳＸ４）
第33図391（ＳＸ４）内面　第33図392（ＳＸ４）　第33図392（ＳＸ４）内面　第33図393（ＳＸ４）
第33図394（ＳＸ４）　第34図398（ＳＸ４）　第34図399（ＳＸ４）　第34図400（ＳＸ４）
第34図401（ＳＸ４）　第34図403（ＳＸ４）　第34図404（ＳＸ４）
図版21　第34図407（ＳＸ４）　第34図409（ＳＸ４）　第34図410（ＳＸ４）　第34図411（ＳＸ４）
第34図413（ＳＸ４）　第34図415（ＳＸ４）　第34図419（ＳＸ４）　第34図420（ＳＸ４）
第34図423（ＳＸ４）　第34図426（ＳＸ４）　第34図427（ＳＸ４）　第34図428（ＳＸ４）
第34図429（ＳＸ４）　第34図430（ＳＸ４）　第34図431（ＳＸ４）　第34図433（ＳＸ４）
第34図435（ＳＸ４）　第35図436（ＳＸ４）
図版22　第35図439（ＳＸ４）　第35図448（ＳＸ４）　第35図450（ＳＸ４）　第35図451（ＳＸ４）
第35図460（ＳＸ４）　第35図461（ＳＸ４）　第35図465（ＳＸ４）　第35図468（ＳＸ４）
第35図469（ＳＸ４）　第35図470（ＳＸ４）　第36図477（ＳＸ４）　第36図478（ＳＸ４）
第36図485（ＳＸ４）　第36図487（ＳＸ４）　第36図488（ＳＸ４）　第36図489（ＳＸ４）
第36図492（ＳＸ４）　第36図493（ＳＸ４）
図版23　第36図495（ＳＸ４）　第36図496（ＳＸ４）　第36図500（ＳＸ４）　第36図501（ＳＸ４）
第36図502（ＳＸ４）　第36図503（ＳＸ４）　第36図504（ＳＸ４）　第36図505（ＳＸ４）
第36図511（ＳＸ４）　第36図512（ＳＸ４）　第36図513（ＳＸ４）　第37図519（ＳＸ４）
第37図520（ＳＸ４）　第37図523（ＳＸ４）　第37図525（ＳＸ４）　第37図527（ＳＸ４）
第37図528（ＳＸ４）　第37図529（ＳＸ４）
図版24　第37図530（ＳＸ４）　第37図531（ＳＸ４）　第37図532（ＳＸ４）　第37図537（ＳＸ４）
第37図537（ＳＸ４）内面　第37図538（ＳＸ４）　第37図539（ＳＸ４）　第37図540（ＳＸ４）
第37図542（ＳＸ４）　第37図543（ＳＸ４）　第37図545（ＳＸ４）　第37図546（ＳＸ４）
第37図547（ＳＸ４）　第37図549（ＳＸ４）　第37図552（ＳＸ４）　第37図553（ＳＸ４）
第37図555（ＳＸ４）　第38図558（ＳＸ４）
図版25　第38図560（ＳＸ４）　第38図562（ＳＸ４）　第38図565（ＳＸ４）　第38図566（ＳＸ４）
第38図568（ＳＸ４）　第38図568（ＳＸ４）内面　第38図570（ＳＸ４）　第38図572（ＳＸ４）
第38図573（ＳＸ４）　第38図574（ＳＸ４）　第38図583（ＳＸ４）　第38図584（ＳＸ４）
第38図585（ＳＸ４）　第38図586（ＳＸ４）　第38図589（ＳＸ４）　第38図590（ＳＸ４）
第38図591（ＳＸ４）　第38図592（ＳＸ４）
図版26　第38図593（ＳＸ４）　第38図594（ＳＸ４）　第39図595（ＳＸ４）　第39図597（ＳＸ４）
第39図598（ＳＸ４）　第39図599（ＳＸ４）　第39図600（ＳＸ４）　第39図601（ＳＸ４）
第39図606（ＳＸ４）　第39図608（ＳＸ４）　第39図612（ＳＸ４）　第39図613（ＳＸ４）
第39図614（ＳＸ４）　第39図615（ＳＸ４）　第39図622（ＳＸ４）　第39図625（ＳＸ４）
第39図629（ＳＸ４）　第39図631（ＳＸ４）

図版27　第40図635（ＳＸ４）　第40図640（ＳＸ４）　第40図642（ＳＸ４）　第40図643（ＳＸ４）
第40図644（ＳＸ４）　第40図647（ＳＸ４）　第40図653（ＳＸ４）　第40図654（ＳＸ４）
第40図666（ＳＸ４）　第41図667（ＳＸ４）　第41図669（ＳＸ４）　第41図670（ＳＸ４）
第41図672（ＳＸ４）　第41図674（ＳＸ４）　第41図675（ＳＸ４）
図版28　第41図676（ＳＸ４）　第41図679（ＳＸ４）　第41図682（ＳＸ４）　第41図683（ＳＸ４）
第41図685（ＳＸ４）　第41図686（ＳＸ４）　第41図687（ＳＸ４）　第42図692（ＳＸ４）
第42図693（ＳＸ４）　第42図694（ＳＸ４）　第42図695（ＳＸ４）　第42図696（ＳＸ４）
図版29　第42図697（ＳＸ４）　第42図698（ＳＸ４）　第42図699（ＳＸ４）　第42図700（ＳＸ４）
第42図701（ＳＸ４）　第42図706（ＳＸ４）　第42図707（ＳＸ４）　第42図709（ＳＸ４）
第43図711（ＳＸ４）　第43図712（ＳＸ４）　第43図713（ＳＸ４）　第43図716（ＳＸ４）
図版30　第43図717（ＳＸ４）　第43図718（ＳＸ４）　第43図719（ＳＸ４）　第43図720（ＳＸ４）
第43図721（ＳＸ４）　第43図722（ＳＸ４）　第43図724（ＳＸ４）　第43図725（ＳＸ４）
第43図726（ＳＸ４）　第43図727（ＳＸ４）　第43図729（ＳＸ４）　第43図730（ＳＸ４）
第43図731（ＳＸ４）　第43図733（ＳＸ４）　第43図734（ＳＸ４）　第43図736（ＳＸ４）
第43図741（ＳＸ４）　第43図743（ＳＸ４）
図版31　第43図744（ＳＸ４）　第43図745（ＳＸ４）　第44図747（ＳＸ４）　第44図755（ＳＸ４）
第44図760（ＳＸ４）　第44図762（ＳＸ４）　第44図763（ＳＸ４）　第44図772（ＳＸ４）
第44図774（ＳＸ４）　第44図775（ＳＸ４）　第44図776（ＳＸ４）　第44図777（ＳＸ４）
第45図778（ＳＸ４）　第45図779（ＳＸ４）　第45図780（ＳＸ４）　第45図781（ＳＸ４）
第45図785（ＳＸ４）　第45図786（ＳＸ４）
図版32　第45図790（ＳＸ４）　第45図791（ＳＸ４）　第45図801（ＳＸ４）　第45図804（ＳＸ４）
第45図805（ＳＸ４）　第46図807（ＳＸ４）　第46図810（ＳＸ４）　第46図813（ＳＸ４）
第47図826（ＳＸ４）
図版33　第47図835（ＳＸ４）　第47図837（ＳＸ４）　第48図844（ＳＸ４）　第48図845（ＳＸ４）
第49図855（ＳＸ４）　第49図860（ＳＸ４）
図版34　第49図861（ＳＸ４）　第50図872（ＳＸ４）　第50図873（ＳＸ４）　第50図874（ＳＸ４）
第50図875（ＳＸ４）　第51図888（ＳＸ５）　第51図896（ＳＸ５）　第51図897（ＳＸ５）
第51図899（ＳＸ５）　第51図902（ＳＸ５）　第51図908（ＳＸ５）　第52図922（ＳＸ５）
第53図924（ＳＸ６）
図版35　第53図926（ＳＸ６）　第53図929（ＳＸ６）　第53図930（ＳＸ６）　第53図933（ＳＸ６）
第53図934（ＳＸ６）　第53図935（ＳＸ６）　第53図936（ＳＸ６）　第53図937（ＳＸ６）
第53図940（ＳＸ６）　第53図941（ＳＸ６）　第53図942（ＳＸ６）　第53図943（ＳＸ６）
第53図945（ＳＸ６）　第53図946（ＳＸ６）　第53図948（ＳＸ６）　第53図949（ＳＸ６）
第53図950（ＳＸ６）　第53図952（ＳＸ６）
図版36　第53図955（ＳＸ６）　第53図956（ＳＸ６）　第53図958（ＳＸ６）　第54図962（ＳＸ６）
第54図965（ＳＸ６）　第54図966（ＳＸ６）　第54図967（ＳＸ６）　第54図968（ＳＸ６）
第54図975（ＳＸ６）　第54図977（ＳＸ６）　第54図978（ＳＸ６）　第54図979（ＳＸ６）
第56図991（ＳＸ６）
図版37　第56図999（ＳＸ６）　第57図1003（ＳＸ６）　第58図1026（特殊土坑群）
特殊土坑群出土線刻土師器　特殊土坑群出土土錘　特殊土坑群出土金属製品・羽口・鉄滓
図版38　特殊土坑群出土炭化種子　第59図１（ＳＪ70）　第59図２（ＳＪ122）　第59図３（ＳＪ122）
第92図３（ＳＢ43）　第92図６（ＳＢ48）　建物跡出土遺物

図版39　塀跡出土遺物　縄文時代の遺物
図版40　特殊土坑群出土動物遺存体（貝類・魚類）
図版41　特殊土坑群出土動物遺存体（鳥類）
図版42　特殊土坑群出土動物遺存体（哺乳類）

Ⅰ　発掘調査の経過

1　調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年１月１日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58㎢、人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。

幡羅遺跡は、深谷市の北東部、熊谷市との境に位置する。幡羅遺跡に隣接する熊谷市西別府廃寺跡の地は、かねてより瓦が採集されることが知られており、寺院跡や窯跡の可能性が指摘されていた。しかし、長らくその詳細が明らかとされることはなく、熊谷市教育委員会によって1990年に調査されるに至り、ようやく古代寺院跡であることが明らかとなった。

また、同様に隣接する西別府祭祀遺跡は、昭和38年に大場磐雄、小沢国平らによって調査され、馬形や櫛形等の滑石製模造品や土器等が採集された。遺跡は、台地下の湧水地点周辺にあり、水霊信仰との関係が強いと考えられる。

西別府における古代寺院跡や祭祀跡の存在は、周辺に官衙遺跡の存在を想定させるものであった。しかし、その所在については、全く不明であった。平成13年１月、遺跡の北端部で開発が行なわれることが明らかとなり、事前の確認調査が実施された。この時点で、古墳の他に大型の倉庫跡が存在することが明らかとなる。立地や周辺の状況は、既に発見されていた榛沢郡家跡である中宿遺跡に似ており、幡羅郡家の正倉跡との見方が強まった。そのため市教育委員会は、事業主体者と、遺跡保存のための協議を行い、設計変更による現状保存をすることで同意した。翌13年度には、更に詳細な確認調査を実施し、２棟の正倉跡と正倉院区画溝を確認している（第１・２次調査）。

市教育委員会では、この成果を受け、遺跡の重要性を認識し、平成14年度から保存目的の範囲内容確認調査を開始した。調査は、休耕時に農地を借り上げ、調査終了後は復旧する方針で行なった。平成14年度は第３次調査、15年度は第４次調査、16年度は第５～12・16・33次調査、17年度は第13～15・17・18次調査、18年度は19・20次調査、19年度は21～29次調査、20年度は30～32･34次調査を実施した。今回の報告分は、この内、実務官衙域に当たる第18・19・31次調査区の一部についてである。

2　調査方法

幡羅遺跡では、平成14年度に作成した、航空測量による地形図に基づいて区割りを行なっている（第１図）。範囲は南北600m、東西700mである。この範囲内に、100×100mの大グリッドを設定し、内部を５×５mの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に１～400と呼称した。

3　調査の経過

幡羅遺跡の範囲と構造を確認するため行なった調査の内、今回報告する実務官衙域の一部の調査経過について、年度毎に説明する。

平成17年度：第18次調査

実務官衙域の状況及び郡庁の確認を目的として設定した。郡庁の確認には至らなかったものの、掘立柱建物跡の分布状況や二重溝と土塁による区画の南限を確認できた。

確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡７棟、掘立柱塀跡２基、竪穴建物跡14棟、溝１条、土坑７基、二重溝と土塁による区画、特殊土坑４基等である。今回報告するのは、未報告の特殊土坑４基とその出土遺物、及び『幡羅遺跡Ⅲ』において掲載漏れのあった遺物についてである。

平成18年度：第19次調査

実務官衙域の状況及び郡庁の確認を目的として調査

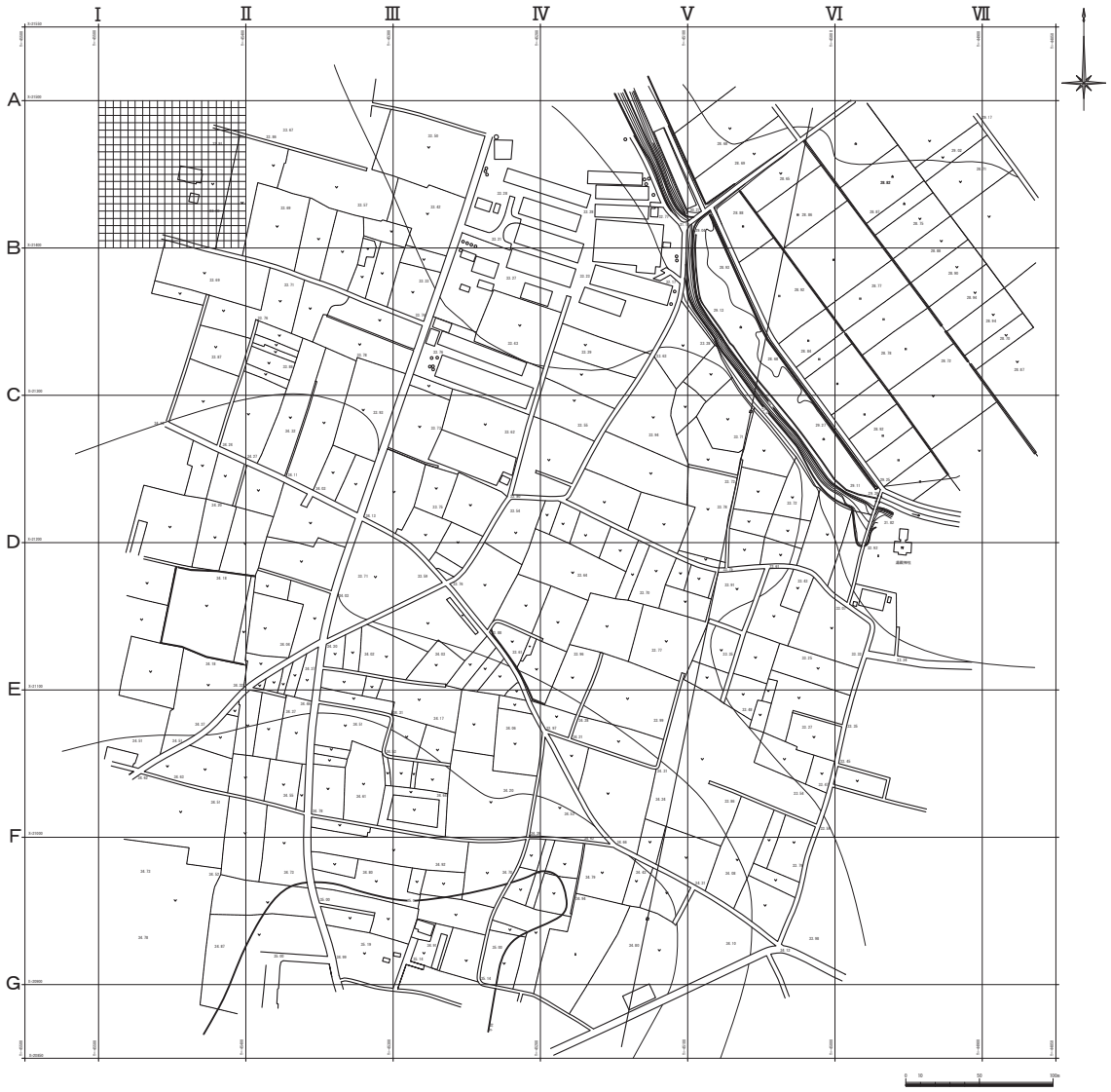
区を設定した。郡庁の確認には至らなかったものの、掘立柱塀による区画と溝による区画が東西に並んで確認された。塀による区画内には、四面庇建物を中心に掘立柱建物が配置されている。しかし、建て替えが認められず、長期にわたって継続性のある施設とは言えない。建物の配置や竪穴建物の分布状況も併せて、施設の性格には、少なくともある時期においては、館の可能性が最も高いと思われる。

また、溝による区画施設は、内部に掘立柱建物や塀、鍛冶工房等があり、工房を含む曹司と考えられる。

平成20年度：第31次調査

第31次調査区は、第30次調査区で確認された掘立柱建物群の性格を明らかにする目的で設定した。その結果、第30次で確認された掘立柱建物群は郡庁ではなく、曹司の一部であることが明らかとなった。

掘立柱建物跡は、Ｂ区の西部に集中して確認された。この箇所は、第19次調査区の塀による区画施設のすぐ北側、第18次調査区の特殊土坑群のすぐ南東に当たる。特殊土坑群からは、多量の土器、炭化物、焼土、食物残滓が出土しており、廃棄土坑と考えられる。饗宴や調理に伴う廃棄場所と考えられ、これらの掘立柱建物跡は、厨家の一部である可能性が高いと思われる。



第１図　グリッド分割図

Ⅱ　遺跡の環境

1　地理的環境

深谷市の地形は、ＪＲ高崎線付近を境として、南に櫛挽台地、北に妻沼低地が広がる。櫛挽台地は、荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は、構造的には北西側の武蔵野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と南東側の立川面に比定される寄居面（御稜威ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面はほぼＪＲ高崎線沿いの崖線で比高差５～10mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8km程延びていて、比高差２～５mをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は、櫛挽面が40～50m、寄居面が32～36m、妻沼低地が30～31mである。櫛挽面は標高70m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川等が北流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅い谷が発達したものと考えられる。末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地は、現在ではほとんど平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷等により、自然堤防が発達しているものと考えられる。

幡羅遺跡は、櫛挽台地の先端に位置する。周辺一帯は畑地であり、遺跡の保存状況は非常に良好である。北側の低地部分は、崖の切り崩しや埋め立てを伴う耕地整理が行なわれているが、台地上は土地の改変は無く、明治時代初期の地籍図とほとんど変わらない（第４図参照）。北西の西別府祭祀遺跡には、昭和40年代頃まで湧水が豊富にあったが、台地上に工業団地が建

第２図　埼玉県の地形図

設されると、湧水が枯渇したようである。

2　歴史的環境

幡羅遺跡周辺には、数多くの遺跡が存在する。ここでは、郡家成立前の古墳時代後期から平安時代にかけて概観する（第３図）。

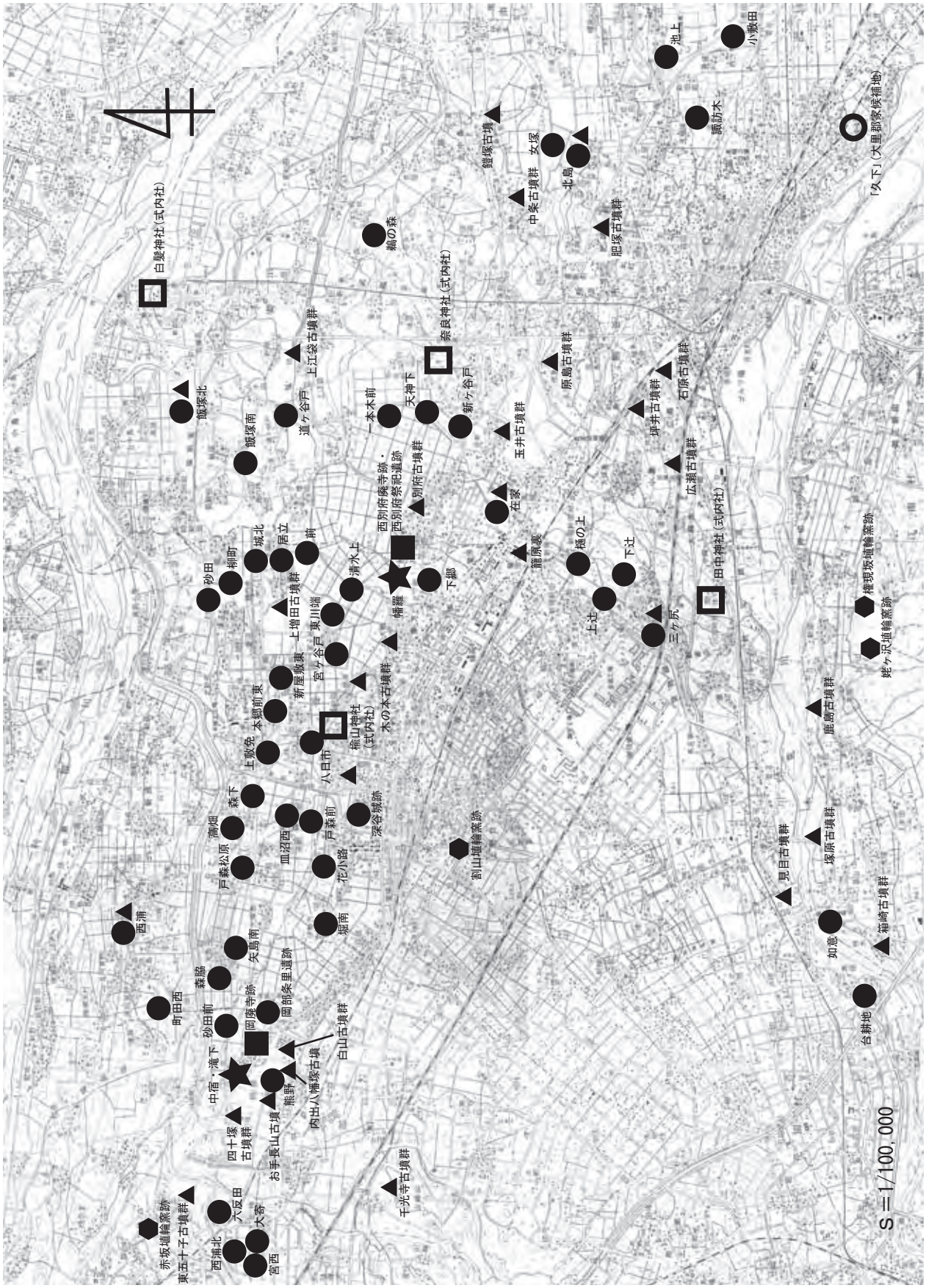
遺跡のほとんどは、低地から台地の縁辺部にかけて分布する。古墳時代後期には、低地域に集落、台地縁辺に古墳が築かれる場合が多い。６世紀代の集落は、上敷免遺跡周辺や城北遺跡周辺、一本木前遺跡等で爆発的に増加する。７世紀になると、それらの集落は規模を縮小させるものが多く、城北遺跡は継続しない。新屋敷東遺跡も同様に住居跡の数は減少するものの、７世紀後半或いは８世紀代と推定される大型倉庫跡が確認されており、特筆される。

一方、宮ヶ谷戸遺跡、東川端遺跡等、７世紀に入って規模が大きくなる集落も認められる。両遺跡は、幡羅遺跡の成立時期と重なる７世紀後半に入ってから住居数は増加し、関連性が考えられる。西別府祭祀遺跡では、遅くともその頃から、湧水点における祭祀が行なわれるようになる。出土品は石製模造品や墨書土器等で、木製品は今のところ確認されていない。祭祀は11世紀頃まで継続するとされる。また、西別府廃寺跡は８世紀初頭に造営されたと考えられ、基壇建物跡や区画溝、多量の瓦等が出土している。寺院は９世紀後半頃までは確実に機能していたと考えられ、その後は集落化が進む。

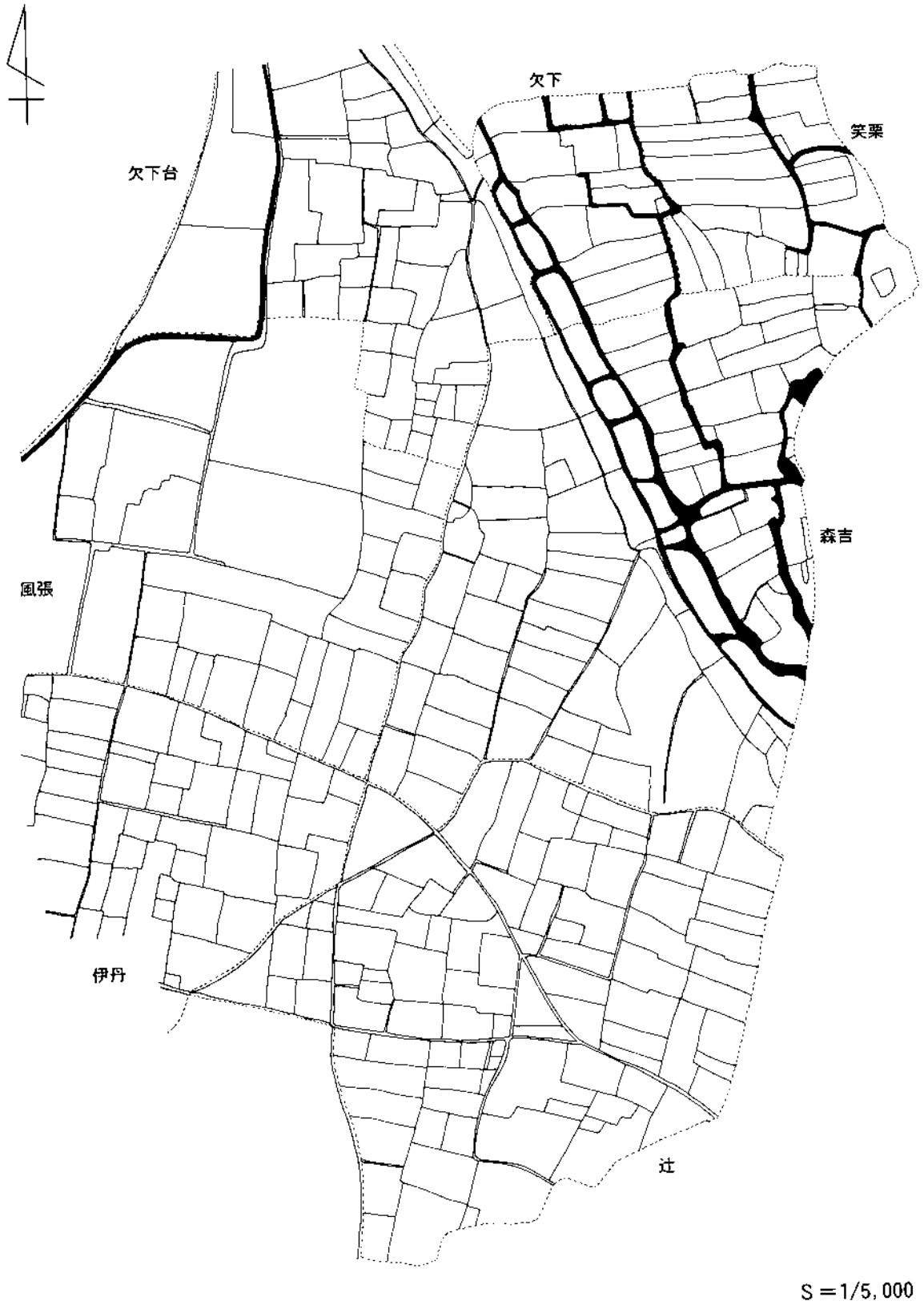
次に郡家跡についてみていく。幡羅遺跡は７世紀後半に、それまで墓域であった台地縁辺に出現する。官衙域の南に広がる下郷遺跡は、その周辺に広がる官衙に関連する集落跡で、出現は幡羅遺跡と同時期である。幡羅遺跡が郡家として整備される７世紀末から８世紀になると、住居跡の数が増加する。榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡も同様に７世紀後半、それまでの墓域に出現する。熊野遺跡は初期評家の機能を有していたと考えられている。幡羅郡の東の埼玉郡家跡についてはまだ確認されていないが、整然と並ぶ掘立柱建物跡が出土した池上遺跡、出挙木簡が出土した小敷田遺跡、律令期の祭祀跡や９～10世紀の居宅跡が確認された諏訪木遺跡の周辺に想定される。東山道武蔵路のルートは、この付近に推定される。これらの遺跡群のやや北西に位置する大集落である北島遺跡からは、東山道武蔵路から分岐するとみられる道路跡が確認されている。また、幡羅遺跡と熊野遺跡からも道路跡が確認されており、これらを結ぶルートは伝路であった可能性がある。このルートが旧中山道と一部重なっている点は注目すべきであろう。

９世紀以降になると、集落は分散化する傾向があり、小規模な集落が数多く認められる。台地縁辺部に深谷城跡、花小路遺跡、堀南遺跡等の集落が進出するのもこの頃である。深谷城跡からは掘立柱建物跡や多量の土器が出土し、灰釉陶器も含まれる。花小路遺跡は、庇を持つ建物跡や、柱掘方の規模が大きい掘立柱建物跡が確認されている。また、飯塚北遺跡、北島遺跡、諏訪木遺跡等で、方一町程度の方形区画施設跡がみられるようになる。幡羅遺跡においても、ほぼ同規模の方形区画施設が９世紀後半或いは10世紀頃出現する。内部の建物跡が未確認のため、施設の性格は不明だが、それらの遺跡との関係から館の可能性が考えられる。

後期古墳は、東は別府古墳群から西は楡山神社付近まで、幾つかのまとまりをもちながら分布している。この地域の古墳群においては、現在のところ、前方後円墳等傑出した古墳は確認されていない。終末期古墳については、幡羅遺跡の南方約２kmにある籠原裏遺跡で、径20m未満の円墳群が確認されている。ここからは、鉄製鞘尻金具、銅製双脚金物等が出土しており、古墳群中の幾つかは、八角形墳とする見解もある。また、同じく南東約５kmにある広瀬古墳群中には、上円下方墳といわれる宮塚古墳（径約24m）がある。一方、榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡周辺では、６世紀後半から７世紀にかけての首長墓とみられる４基の古墳があり、その変遷が推定されている。



第３図　幡羅遺跡周辺の遺跡（古墳時代後期～平安時代）

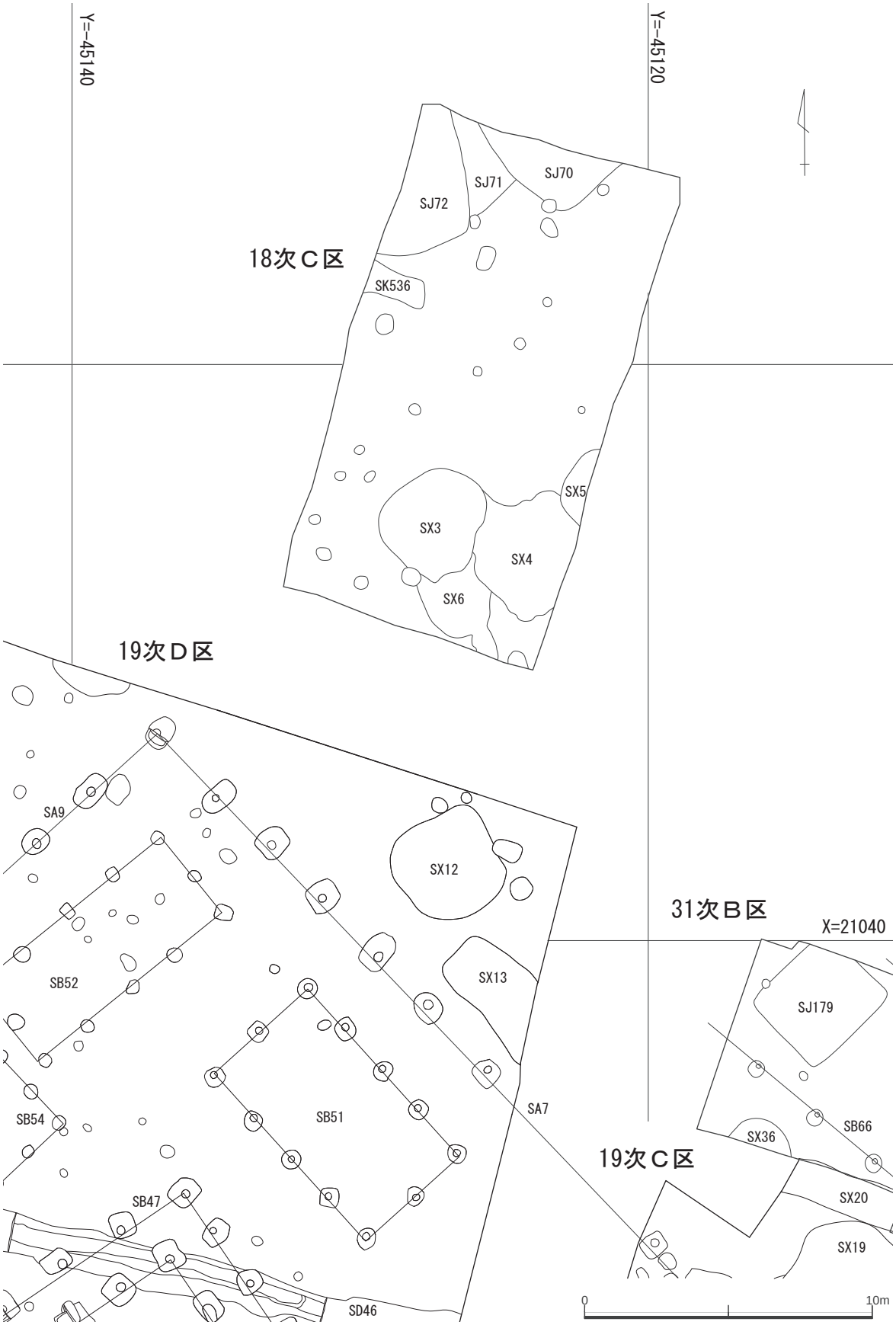


第４図　幡羅遺跡周辺の地籍図（明治時代の地籍図をもとに作成）

第５図　幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡

第６図　幡羅遺跡全体測量図

第７図　第18次調査区Ｃ区周辺



第８図　第18次調査区Ｃ区測量図

Ⅲ　遺構と遺物

１　縄文時代の遺物

第９図１～４は縄文土器である。いずれも中期の所産で、１は突起の一部である。縦位および斜位の沈線が施される。第19次調査区第38号溝から出土した。２は隆帯による区画内に縦位の沈線が施される。第19次調査区第92号竪穴建物跡から出土した。３は地文がＲＬの縄文で、斜位の隆帯が施される。第19次調査区第８号特殊土坑から出土した。４は地文がＲＬの縄文で、隆帯による蛇行懸垂文が施される。第19次調査区第79号竪穴建物跡から出土した。５は打製石斧である。凝灰岩製で、分銅形を呈する。基部を欠損し、残存長5.9cm、幅6.3cm、厚さ1.2cmを測る。第19次調査区第41号溝から出土した。

２　第18次調査区

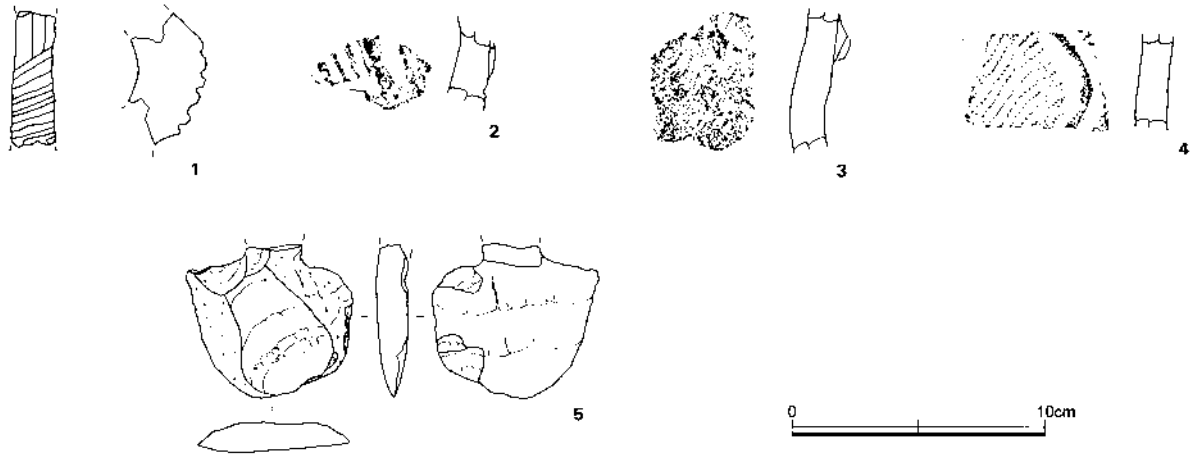
ａ　概要

第18次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南東部のＤ－Ⅳ－257～Ｅ－Ⅳ－194グリッドに設けた。大部分については、『幡羅遺跡Ⅲ』において報告したが、ここではＣ区で確認された第３～６号特殊土坑及びその出土遺物について報告する。また、『幡羅遺跡Ⅲ』において掲載漏れのあった第70号竪穴建物跡出土遺物、第18次調査区Ｃ区出土遺物についても掲載する。第21次調査区第121号竪穴建物跡出土の掲載漏れのあった遺物についても、ここで報告したい。

Ｃ区はＥ－Ⅳ－174～Ｅ－Ⅳ－194グリッドに位置し、標高は約34mである。確認面までの深さは約30cmを測る。なお、第19次調査で確認された塀による区画施設に近接した場所に当たり、両者は密接に関係しているものと思われる。第19次調査区の区画施設は、中心に四面庇建物を有し、その周囲に複数の掘立柱建物を伴う。その配置から、少なくともある時期においては、館という性格付けが最も適当と考えられる。特殊土坑群は、これに伴うものとして捉えられ、そこから出土した多量の遺物は、この区画施設の存続時期を示している可能性が高い。

ｂ　特殊土坑

Ｃ区南東隅から、４基の特殊土坑が確認された。出土遺物量は非常に多く、図示できたものだけでも1000点以上に及ぶ。炭化物や焼土、食物残滓も多く含まれており、遺構の性格としては、廃棄土坑が考えられる。ただし、土坑の掘方をみると、壁面がオーバーハングしている部分が多く、本来



第９図　縄文時代の遺物

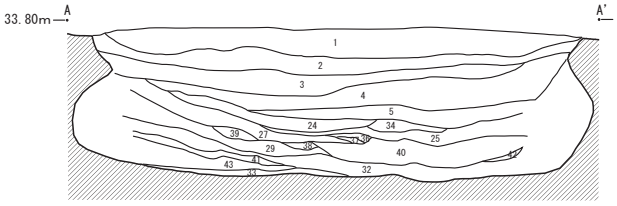
第10図　第３～６号特殊土坑

は土取り穴だった可能性がある。土層断面から切り合い関係が認められ、出土遺物からは、比較的長期にわたって廃棄場所として機能していたことが推定される。

出土遺物の取り扱いは、一連のものとして連番で示したが、可能な限り各遺構への帰属を行なった。以下、各土坑ごとに述べていきたい。

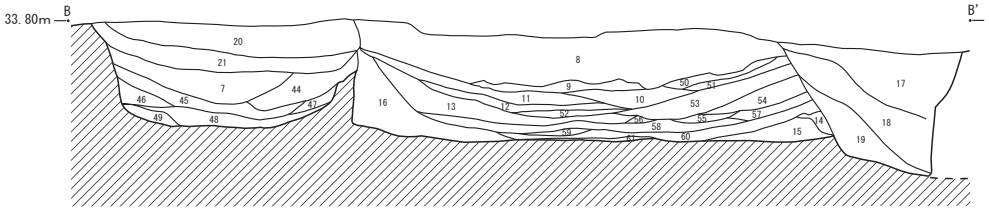
第３号特殊土坑（第10～32図、第２～９表）

特殊土坑群の中では最も北西に位置し、第４・６号特殊土坑が埋没後に掘り込まれているとみられる。平面形態は不整円形で、長径3.8m、短径3.5mを測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは1.2mである。壁は、北壁から西壁の下半部が最大30cm程オーバーハングして掘り込まれている。



A-A'
1層　暗褐色土　(10YR3/4)　ローム粒を少し含む。焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
2層　暗褐色土　(10YR3/4)　ローム粒を少し含む。焼土粒・焼土ブロック(1～10cm)・炭化粒を多く含む。
3層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・ブロック(1cm)をやや多く含む。焼土粒・炭化粒を含む。
4層　黒褐色土　(10YR2/1)　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
5層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒をやや多く含む。
6層　暗褐色土　(10YR3/3)　焼土粒を多量に含む。ローム粒・炭化粒を含む。
7層　黒褐色土　(10YR2/3)　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
8層　黒褐色土　(10YR3/1)　焼土粒・炭化粒を多く含む。ローム粒を含む。
9層　明黄褐色土　(10YR6/8)　ロームで構成される。SX5掘削時の廃土か
10層　黒色土　(10YR2/1)　炭化粒を多く含む。焼土粒・ローム粒・灰をやや多く含む。
11層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭土？粒を含む。焼土粒を多く含む。
12層　黒褐色土　(10YR2/2)　ローム粒・炭土？粒を少し含む。
13層　黒褐色土　(10YR3/2)　焼土粒・炭化粒を少し含む。
14層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ロームで構成される。
15層　黒色土　(10YR2/1)　ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
16層　黒色土　(10YR2/1)　焼土粒をやや多く含む。ローム粒・炭化粒をわずかに含む。
17層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
18層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・ブッロク（1～3cm）を多量に含む。焼土粒・炭化粒をわずかに含む。
19層　黒褐色土　(10YR2/2)　ローム粒を含む。焼土粒をわずかに含む。
20層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
21層　黒褐色土　(10YR3/2)　焼土粒・炭化粒を少し含む。

34層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ハードロームブロックを多く含む。炭化粒・焼土粒を含む。
36層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ハードロームブロックで構成。
37層　明黄褐色土　(2.5YR5/8)　焼土ブロックで構成。
38層　にぶい黄橙色土　(10YR6/4)　粘質土・焼土粒を少し含む。
39層　にぶい黄褐色土　(10YR5/3)　粘土粒を多量に含む。炭化粒・灰を含む。
40層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・焼土粒・炭化粒を多く含む。
41層　灰黄褐色土　(10YR5/2)　炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
42層　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　ローム粒をやや多く含む。
43層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・炭化粒・焼土粒を少し含む。
44層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
45層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒を少し含む。炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
46層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒を多く含む。焼土粒を少し含む。
47層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ソフトロームで構成。
48層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。粘性・しまり強い。
49層　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　ローム粒を多く含む。



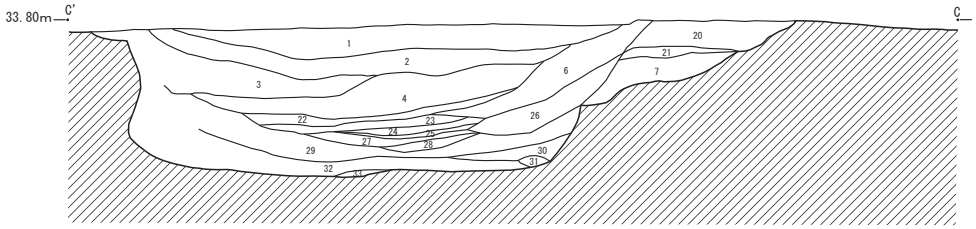
B-B'
50層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をやや多く含む。
51層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　焼土粒を多く含む。炭化粒を少し含む。
52層　黒色土　(10YR2/1)　炭化粒を多量に含む。焼土粒を少し含む。
53層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をやや多く含む。
54層　暗褐色土　(10YR3/4)　ローム粒・炭化粒を含む。焼土粒を少し含む。
55層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒を少し含む。
56層　灰褐色土　(10YR4/1)　炭化粒を少し含む。灰白色粘土ブロックを含む。
57層　暗褐色土　(10YR3/3)　炭化粒・焼土粒をわずかに含む。
58層　暗褐色土　(10YR3/3)　炭化粒・焼土粒をわずかに含む。
59層　黒褐色土　(10YR3/1)　炭化粒を多く含む。
60層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をわずかに含む。
61層　明赤褐色土　(2.5YR5/8)　焼土で構成。

0　2m

第11図　第３～６号特殊土坑土層断面図（1）

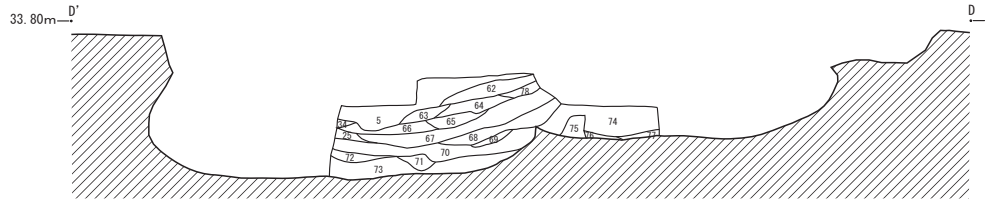
大部分が食物残滓と思われる、骨や貝等も多く出土した。

図示できた遺物は、第20図１～第32図356である。１～177は土師器供膳具で、１～６は模倣坏、７～12は有段口縁坏である。５は内面に「×」の線刻、12は暗文が施される。13は続比企型坏で、内外面が赤彩される。14～44は北武蔵型坏である。25は内外面に線刻が施される。45～63は暗文系無文坏、64～148は暗文坏である。146は螺旋暗文が施される。147は外面にミガキが施され、口縁部内面に沈線が巡る。底部は



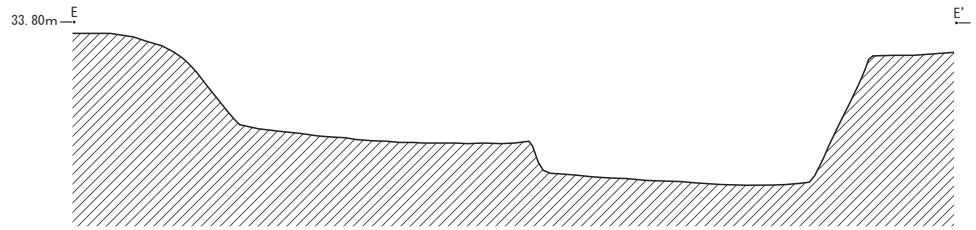
C-C'

22層	暗褐色土	(10YR3/3)	炭化粒・焼土粒を多く含む。ローム粒を少し含む。
23層	黒褐色土	(10YR3/1)	炭化粒・焼土粒・焼土ブロック（1～3cm）を多く含む。ローム粒を少し含む。
24層	黒色土	(10YR2/1)	炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
25層	暗褐色土	(10YR3/3)	焼土粒を多量に含む。炭化粒・灰を多く含む。
26層	黒褐色土	(10YR3/2)	ローム粒・炭化粒・焼土粒をやや多く含む。
27層	黒色土	(10YR2/1)	炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
28層	灰褐色土	(10YR4/1)	炭化粒・ローム粒を多く含む。灰黄褐粘土を含む。
29層	黒褐色土	(10YR3/1)	炭化粒・炭化物・焼土粒を多く含む。
30層	黒褐色土	(10YR3/2)	炭化粒・焼土粒・ブロック（1～2cm）を含む。
31層	黄褐色土	(10YR5/6)	ハードロームブロックで構成。
32層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・ブロック（1～2cm）を含む。 炭化粒・焼土粒を少し含む。
33層	灰黄褐色土	(10YR5/2)	炭化粒・ローム粒をわずか含む。粘性強い。



D-D'

62層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・焼土粒・炭化粒を多く含む。
63層	黒褐色土	(10YR3/2)	ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
64層	にぶい黄褐色土	(10YR5/4)	ロームブロック（5cm）焼土粒を多く含む。炭化粒を含む。
65層	黒褐色土	(10YR3/2)	炭化粒・焼土粒・灰を多く含む。
66層	暗褐色土	(10YR3/3)	炭化粒・焼土粒を多く含む。
67層	黒褐色土	(10YR3/2)	炭化粒・焼土粒・灰を含む。
68層	灰褐色土	(10YR4/1)	灰を多く含む。炭化粒・焼土粒を含む。
69層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ハードロームブロック・ロームで構成。
70層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。
71層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ハードロームブロックで構成。
72層	黒褐色土	(10YR2/2)	炭化粒・焼土粒を含む。
73層	黒色土	(10YR2/1)	炭化粒・焼土粒を少し含む。
74層	黒色土	(10YR2/1)	ローム粒をやや多く含む。炭化粒・焼土粒を含む。
75層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ソフトロームで構成。
76層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ソフトロームで構成。
77層	黒色土	(10YR2/1)	焼土粒を含む。
78層	黒褐色土	(10YR3/1)	焼土粒・炭化粒を多く含む。



第12図　第３～６号特殊土坑土層断面図（2）

回転ヘラ削りにより調整される。内面には斜行暗文と螺旋暗文が施される。148は平底で、外面にミガキ、内面に斜行暗文が施される。149～154は、内外面にミガキが施される一群である。155～157は、坏の内面に「×」の線刻が施される。158～167は暗文皿、168～177は無文皿である。

178～285は須恵器である。178・179は坏Ｈの蓋と坏身である。180～221は蓋である。194・195は同様の線刻が施される。222～253は坏、254～260は高台坏、261・262は脚付盤の脚部である。263は小型の壷、264は平瓶と思われる。265は瓶、267～285は甕である。

286～347は土師器甕等である。286は鉢、287～338・341は甕、339・340・342～347は台付甕である。

348は瓦、349・350は土錘、351は延板状銅製品、352は棒状鉄製品、353は鉄釘、354は鉄滓である。

355･356はロクロ土師器坏で、混入品と考えられる。

第４号特殊土坑（第10～19図、第33～50図、第10～20表）

特殊土坑群の中では中央部に位置し、本土坑が埋没後に、第３・５号特殊土坑が掘り込まれているとみられる。平面形態は不整円形で、長径4.3m、短径４ｍを測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは0.9ｍである。壁は、北壁及び南壁が10～20cmオーバーハングして掘り込まれている。

大部分が食物残滓と思われる、骨や貝等も多く出土した。

図示できた遺物は、第33図357～第50図884である。357～715は土師器供膳具で、357～384は模倣坏、365～444は有段口縁坏である。389～392は内面に「×」の線刻が施される。445は続比企型坏で、内外面が赤彩される。446～458は北武蔵型坏、459～466は暗文系無文坏、467～655は暗文坏である。568は内面に「×」の線刻、506は細かい暗文が２段に施される。656は内外面にミガキが施されるものである。657～664は内面に、665は外面に「×」を基調とする線刻が施される。666は輪状摘みの蓋である。667～712は暗文皿、713～715は無文皿である。708は内面に「×」の線刻が施される。

716～818は須恵器である。716～723は坏Ｈで、716～720は蓋、721～723は坏身である。716・717・722は外面に線刻が施される。724～771は蓋で、764・765はかえりを持たない。772～800は坏、801～803は高台坏である。804は脚付盤と思われる。器形の歪みが非常に大きい。内面に当て具痕が残る。805～807・810は脚付盤である。806・807は内面にカキメが施される。808・809は盤である。811は瓶、812～818は甕である。

819～874は土師器甕等である。819～864は甕、870～872は台付甕である。873・874は鉢状の形態を呈する。甑の可能性もある。

875は土製支脚、876は大型の土錘である。877は棒状鉄製品、878は刀子、879は羽口、880・881は鉄滓である。882はニホンジカの骨を素材とした用途不明の骨角製品である。

883は円筒埴輪、884はロクロ土師器坏で、混入品と考えられる。

第５号特殊土坑（第10～19図、第51～52図、第21～23表）

特殊土坑群の中では最も東部に位置し、第４号特殊土坑が埋没後に掘り込まれているとみられる。西端部のみの検出で、検出部分の径は約2.8mを測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは1.0mである。壁は、北壁及び南壁が30cmオーバーハングして掘り込まれている。

骨や貝等はほとんど認められなかった。

図示できた遺物は、第51図885～第52図923である。885～907は土師器供膳具で、885・886は模倣坏、887～889は有段口縁坏、890～893は北武蔵型坏、894～898は暗文系無文坏、899～902は暗文坏である。903は坏の内面に「×」の線刻が施される。904～906は暗文皿、907は無文皿である。

908～921は須恵器である。908は坏Ｈの蓋、909～

第13図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（1）

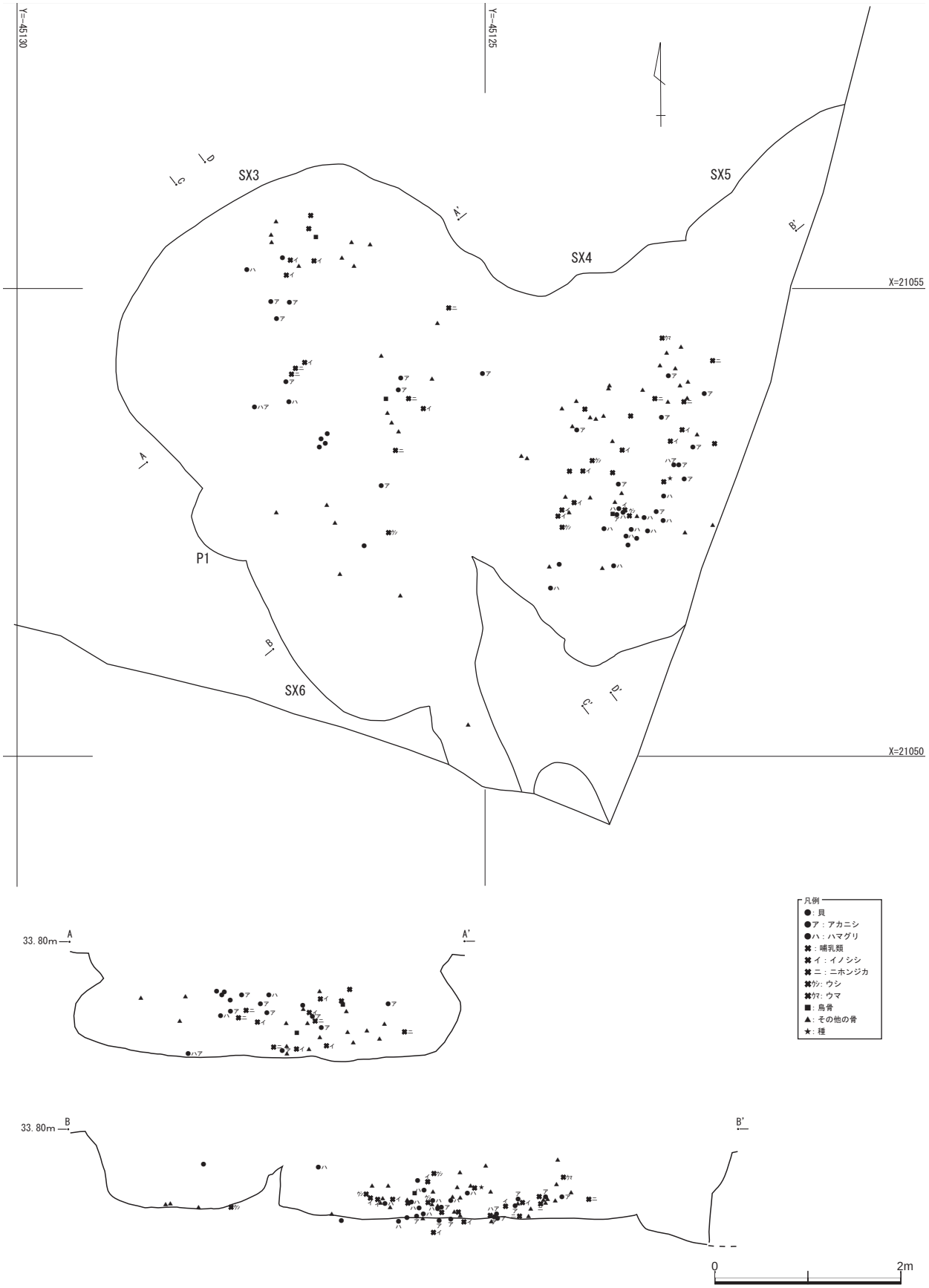
第14図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（2）

第15図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（3）

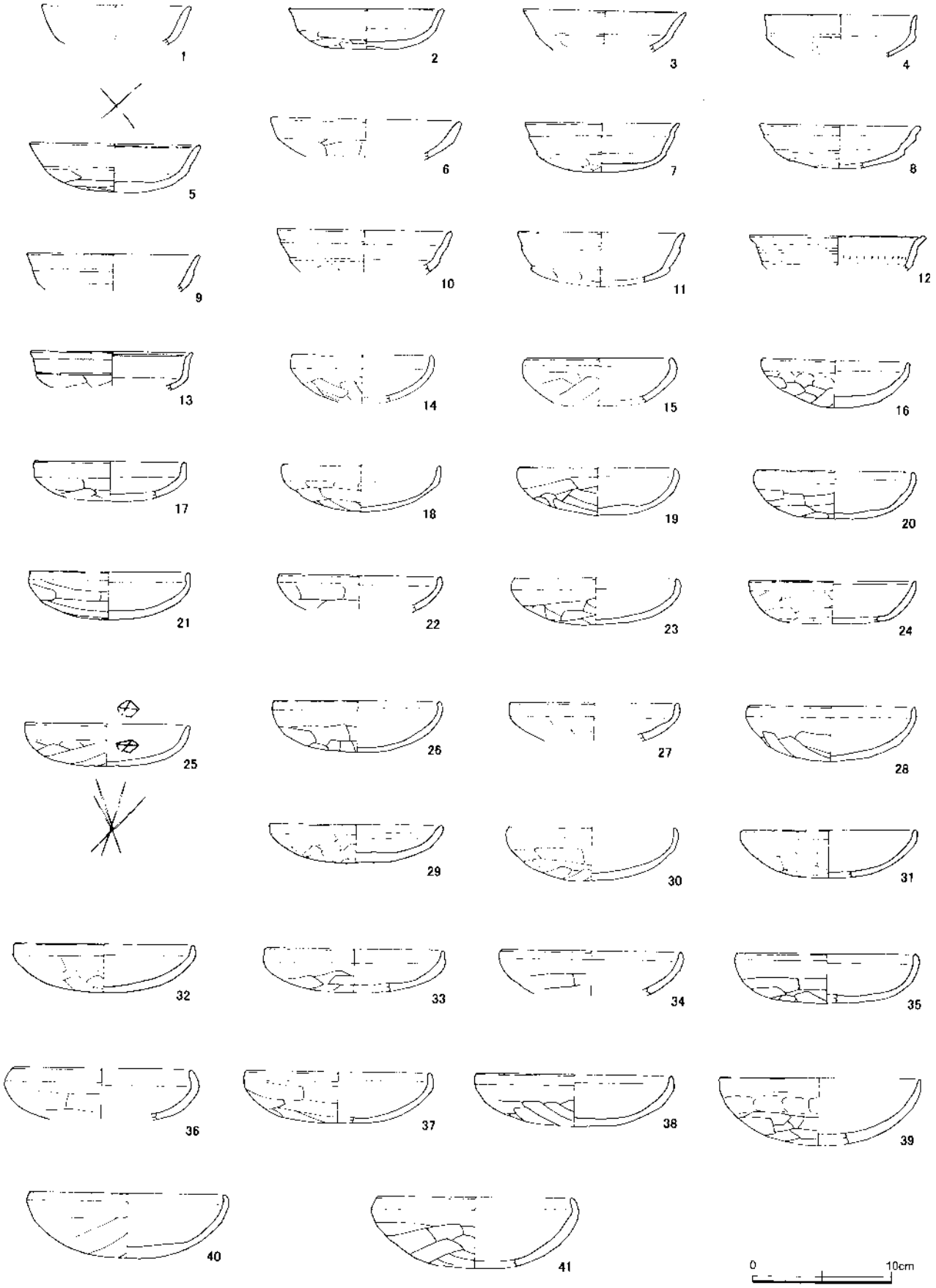
第16図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（4）

第17図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（5）

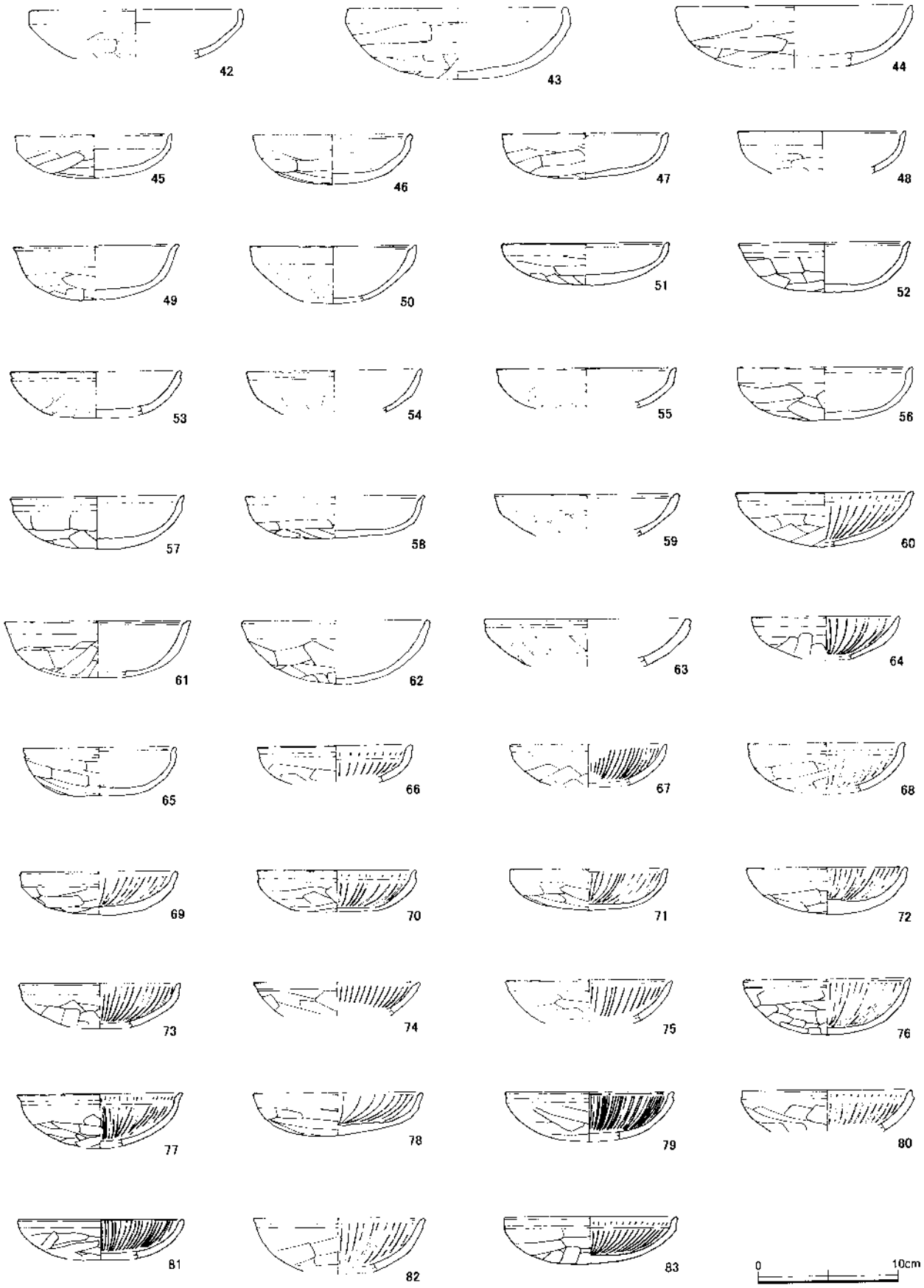
第18図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（6）



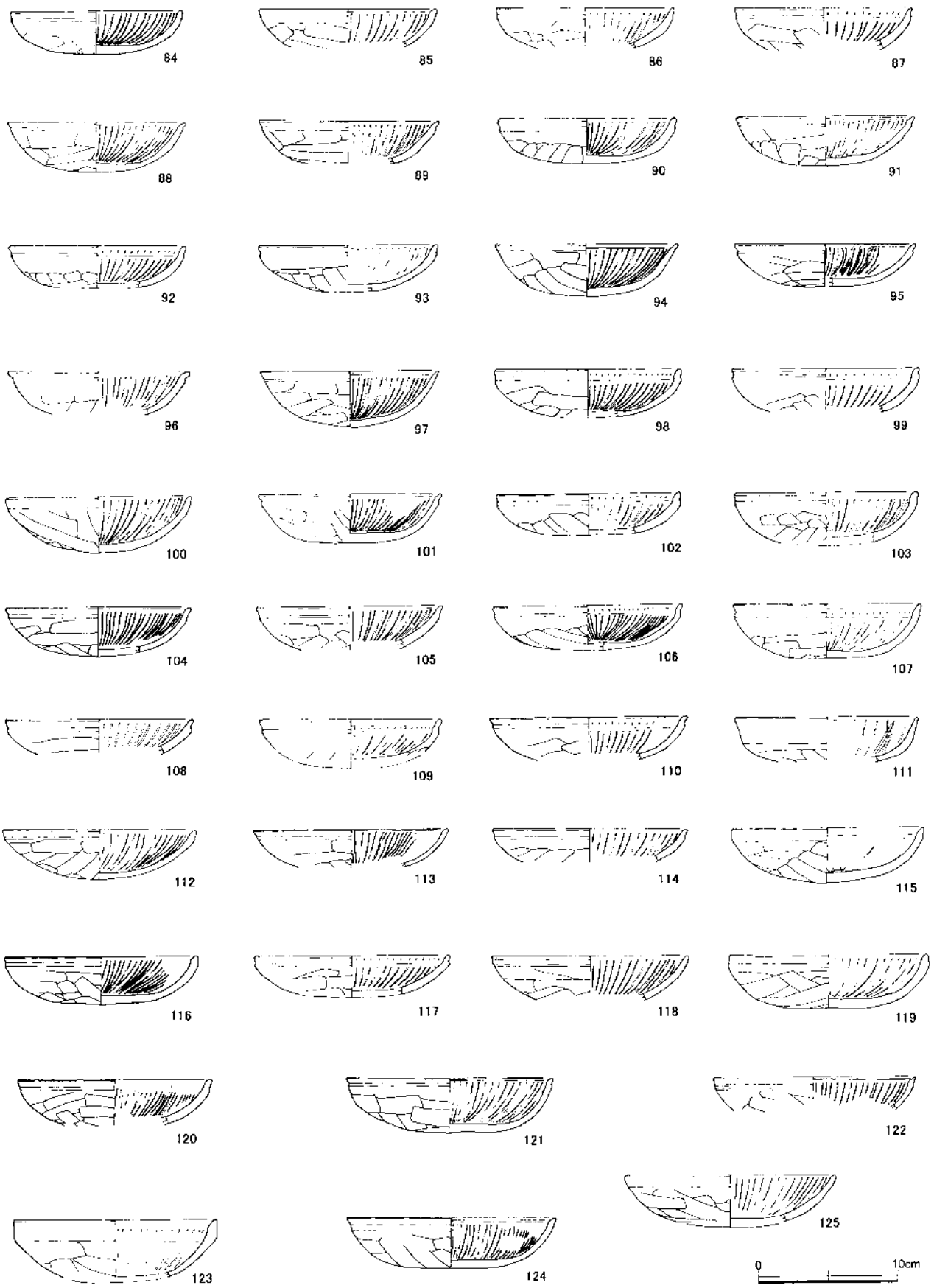
第19図　第３～６号特殊土坑遺物出土状況（7）



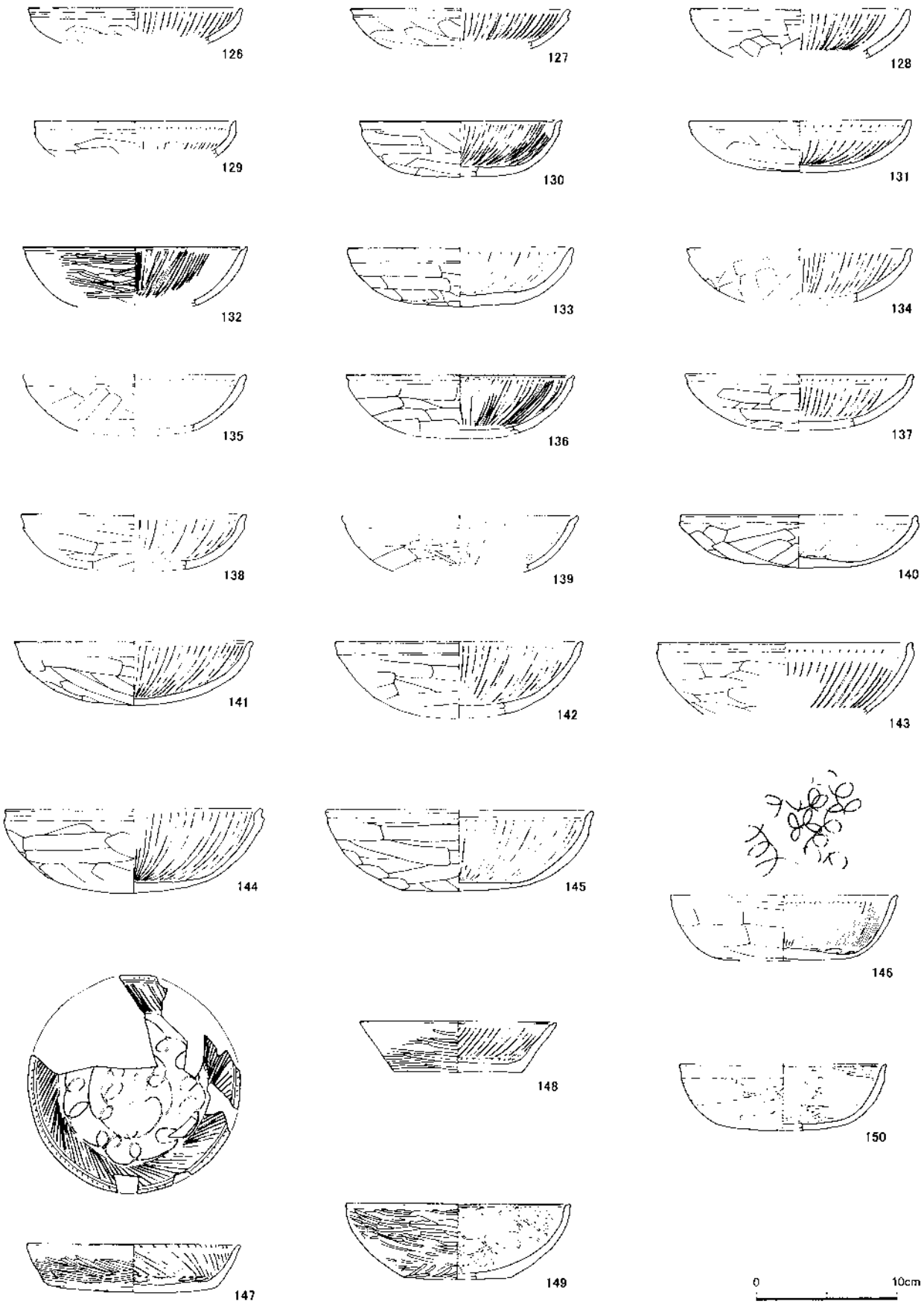
第20図　第３号特殊土坑出土遺物（1）



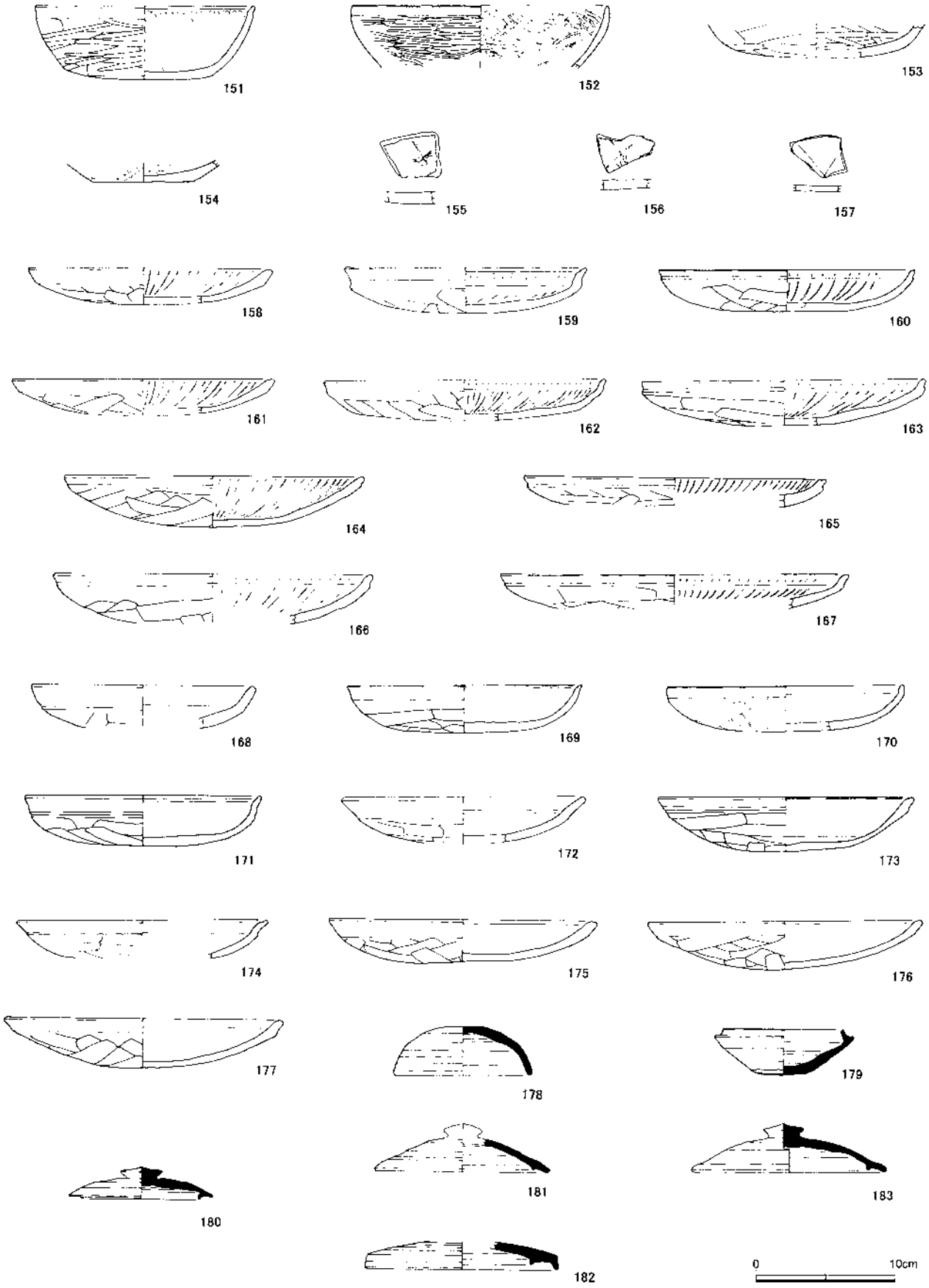
第21図　第３号特殊土坑出土遺物（2）



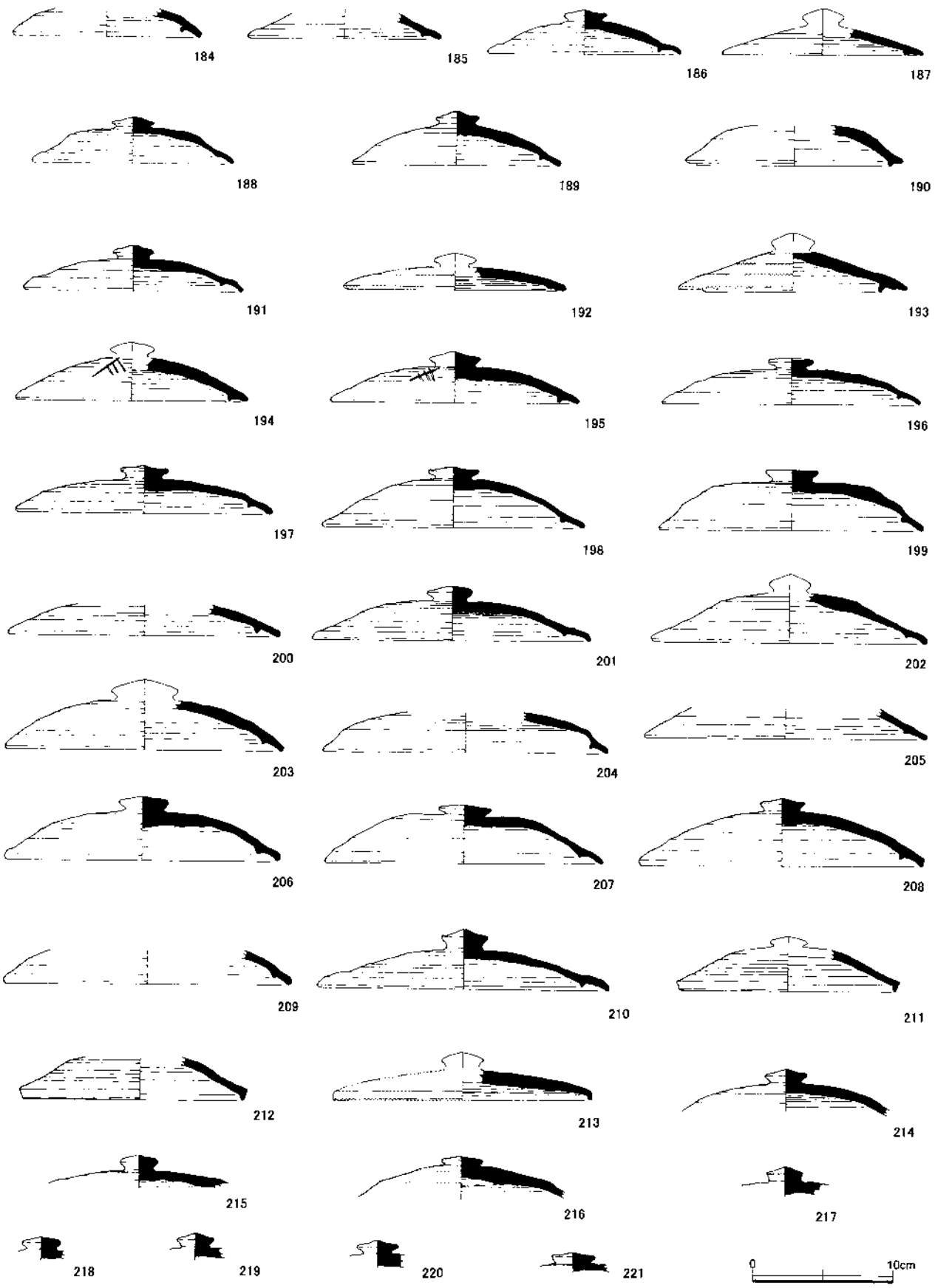
第22図　第３号特殊土坑出土遺物（3）



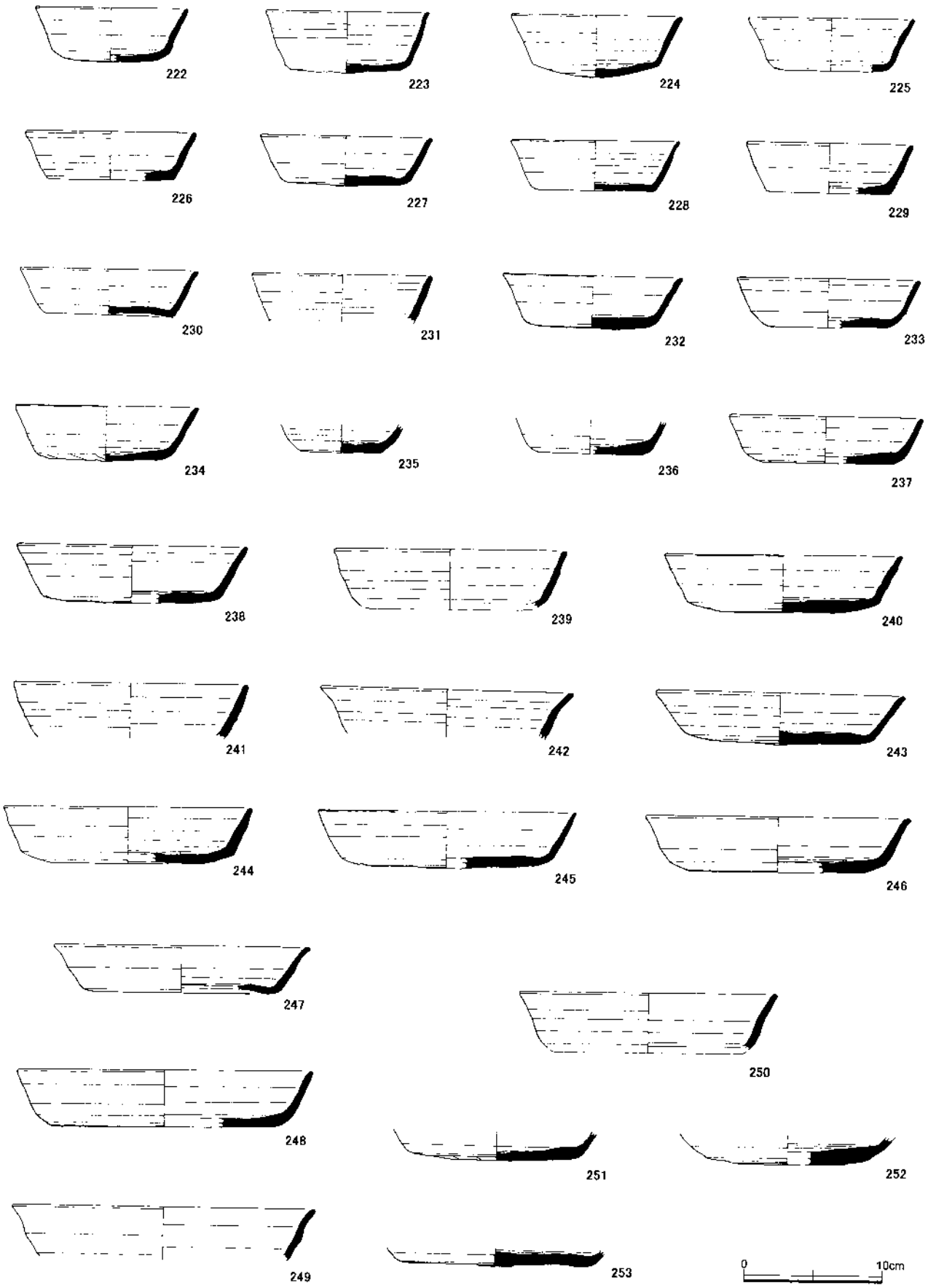
第23図　第３号特殊土坑出土遺物（4）



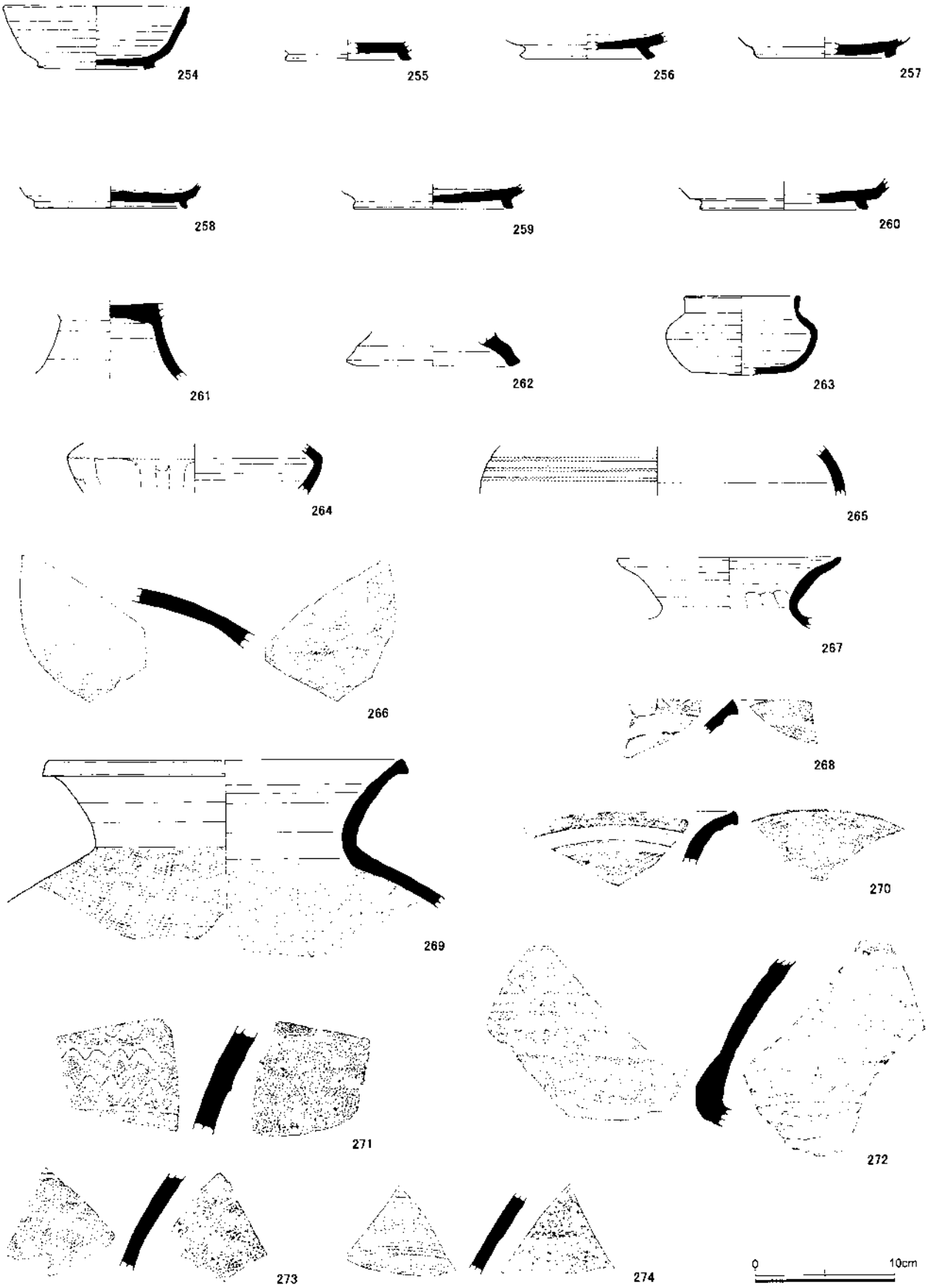
第24図　第３号特殊土坑出土遺物（5）



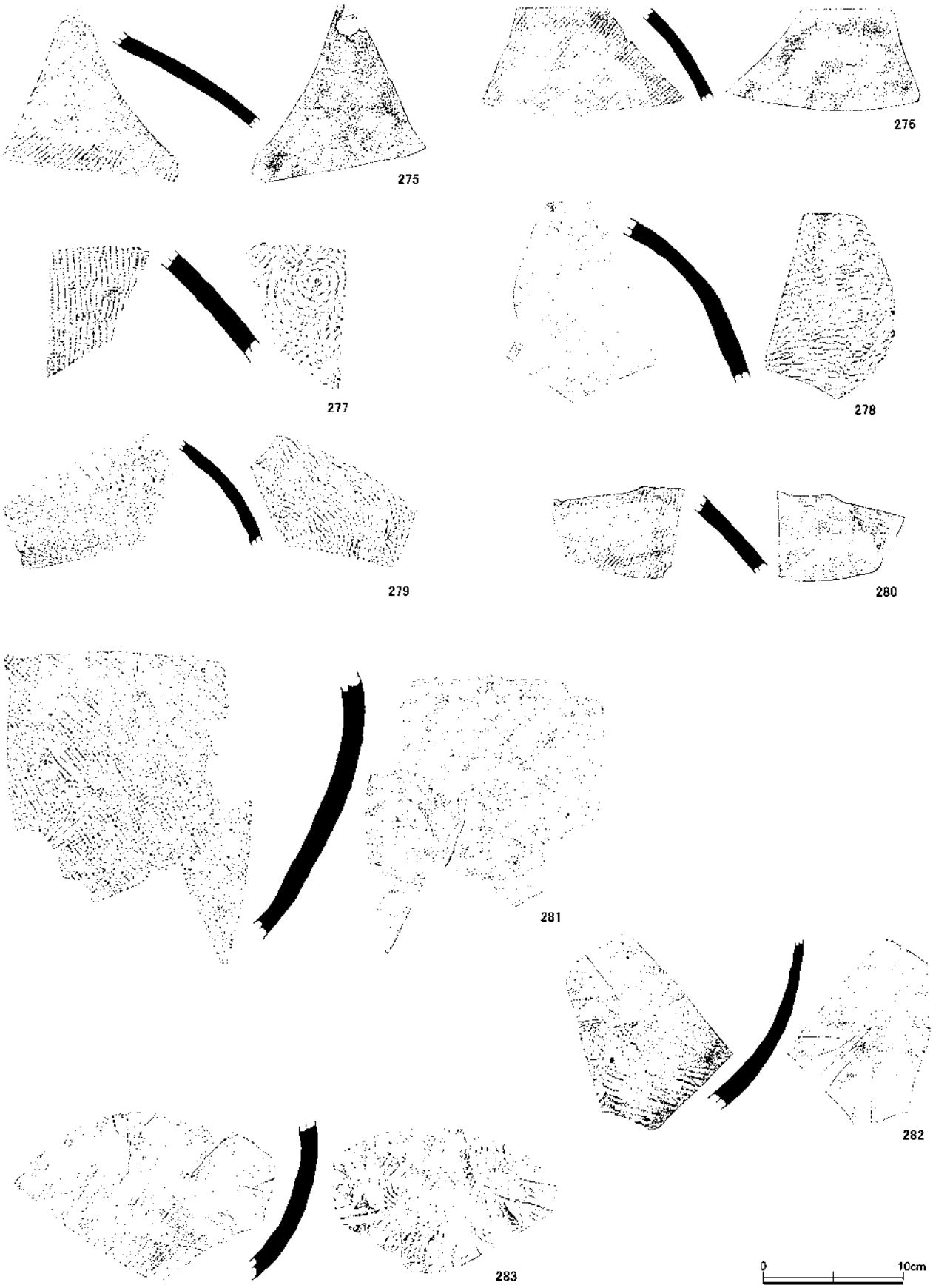
第25図　第３号特殊土坑出土遺物（6）



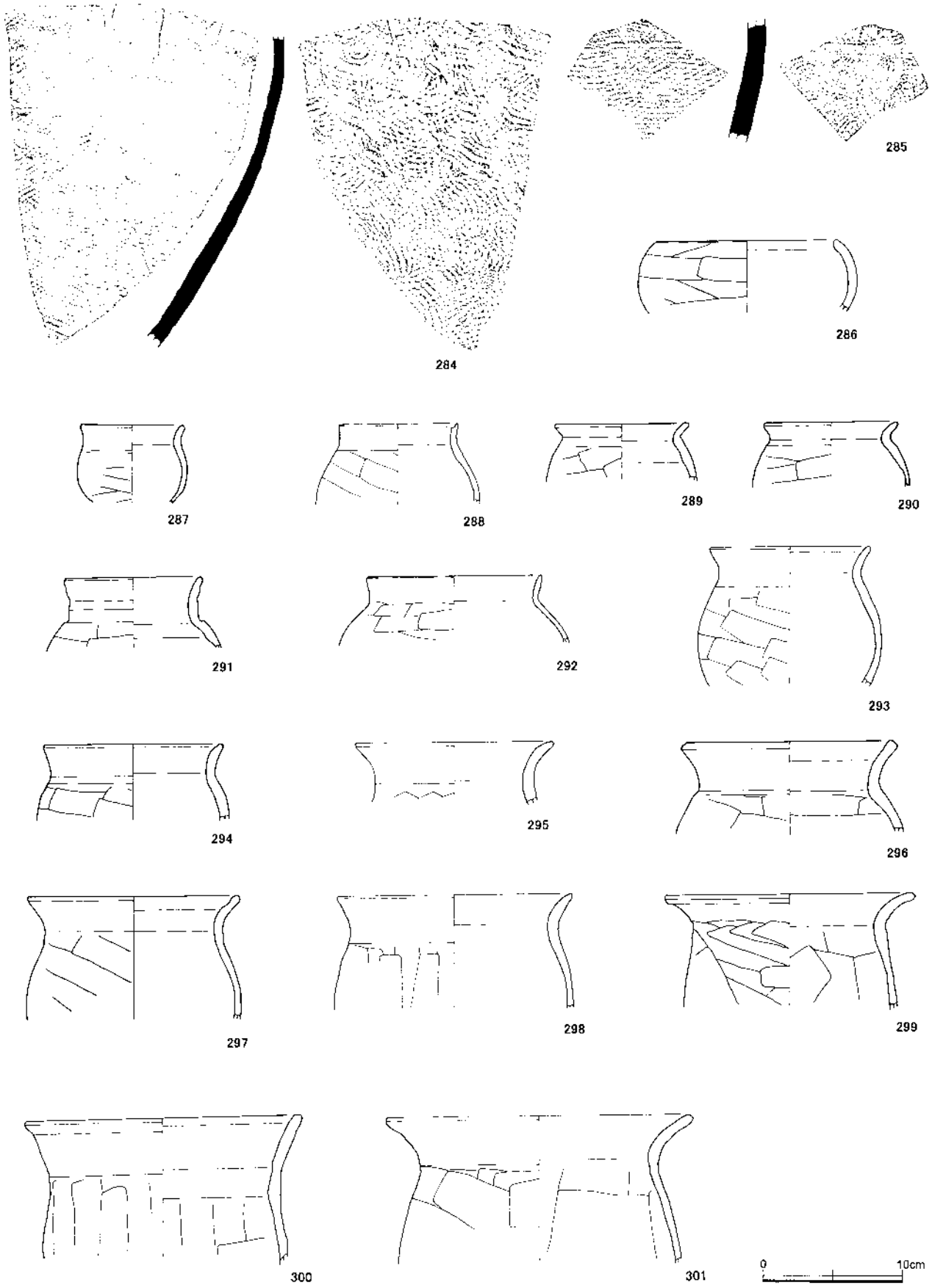
第26図　第３号特殊土坑出土遺物（7）



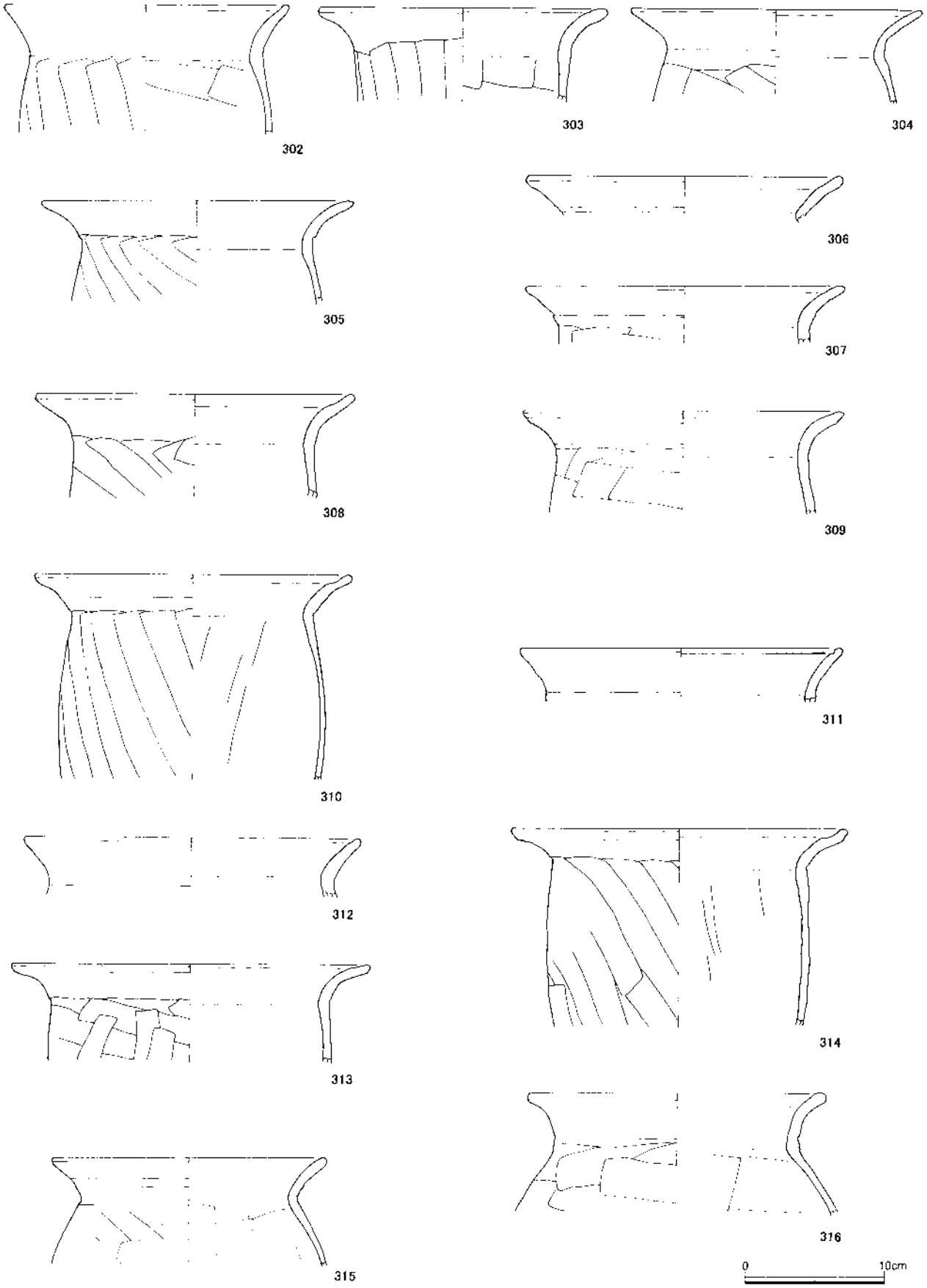
第27図　第３号特殊土坑出土遺物（8）



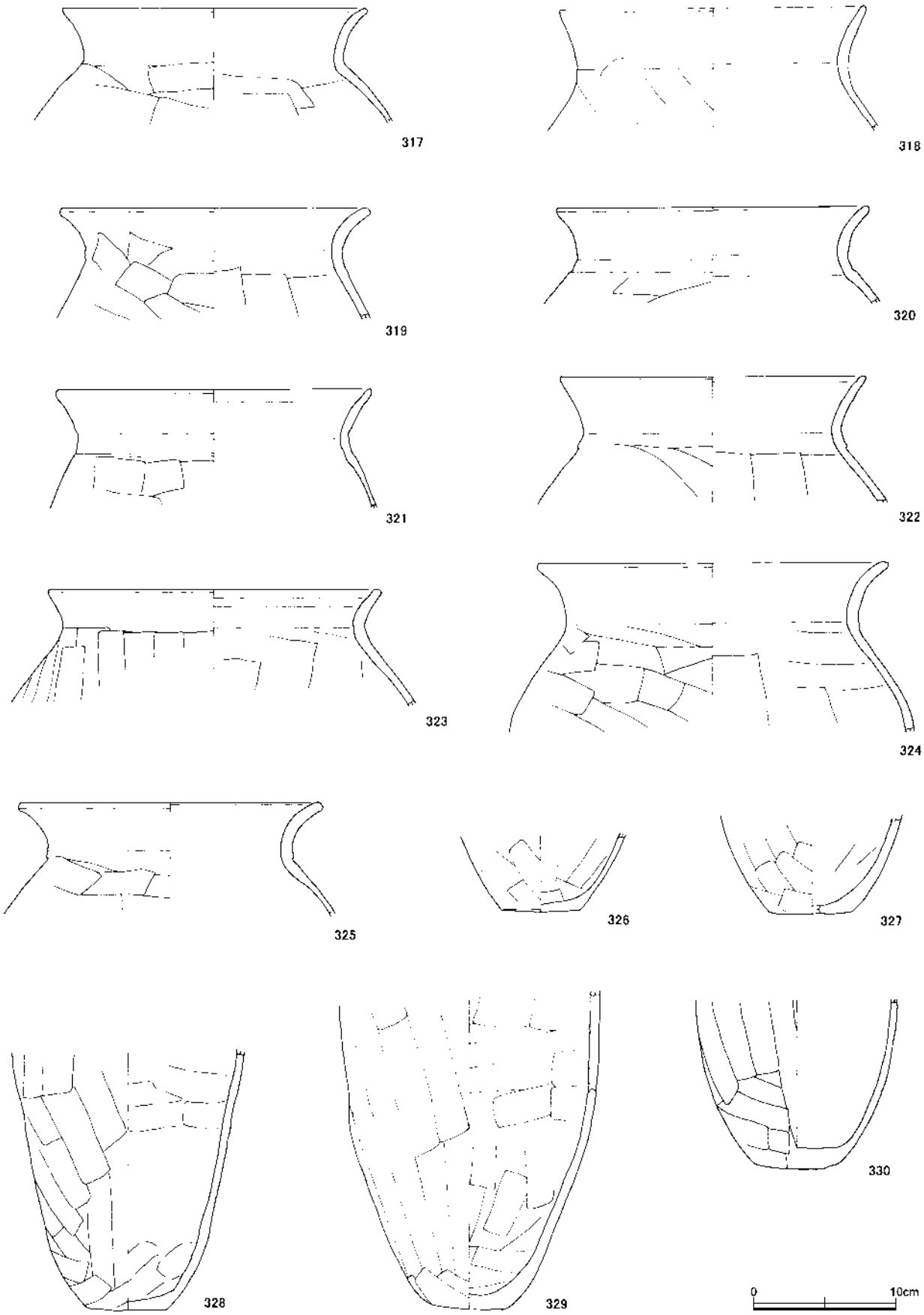
第28図　第３号特殊土坑出土遺物（9）



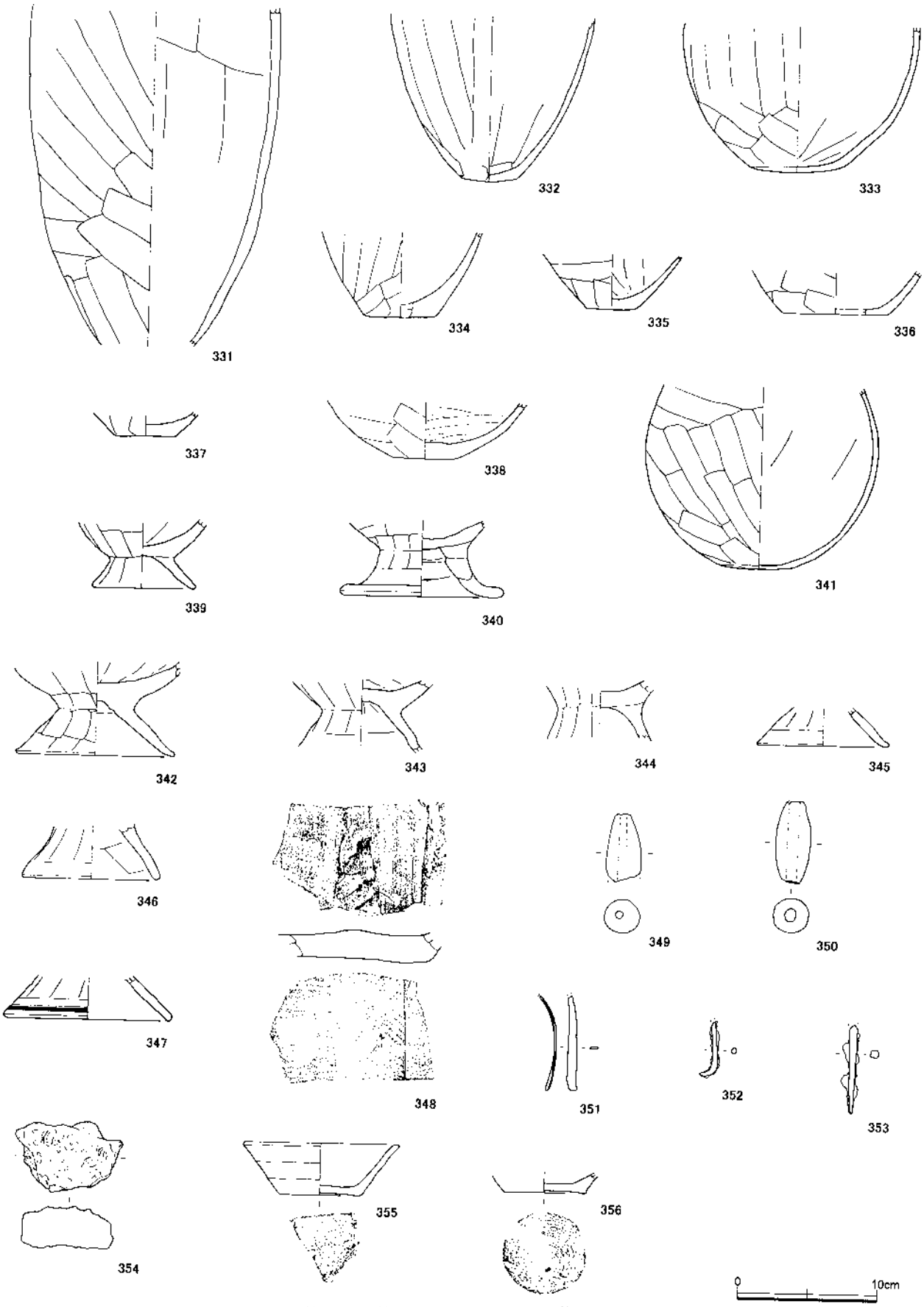
第29図　第３号特殊土坑出土遺物（10）



第30図　第３号特殊土坑出土遺物（11）



第31図　第３号特殊土坑出土遺物（12）



第32図　第３号特殊土坑出土遺物（13）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第20図 1	H	坏	10.8			ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
2	H	坏	11.0	2.9		ＡＣＥ	普	黒褐	90%	
3	H	坏	(11.6)			ＡＣＥＦ	良	橙	20%	
4	H	坏	(10.8)			ＡＢ	良	にぶい赤褐	20%	
5	H	坏	12.1	3.5		ＡＣＥＨ	普	橙	70%	内面に「×」の線刻
6	H	坏	(13.5)			ＡＣ	普	にぶい橙	20%	
7	H	坏	(10.9)	3.6		ＡＢＣ	普	黒褐	25%	
8	H	坏	(11.3)	(3.1)		ＡＣＥＦ	普	橙	25%	
9	H	坏	(12.4)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
10	H	坏	(12.4)			ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	20%	
11	H	坏	(11.8)	(3.9)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
12	H	坏	(12.4)			ＡＢＣＥ	良	橙	20%	内面に暗文
13	H	坏	(11.5)			ＡＣ	普	赤褐	15%	内外面を赤彩
14	H	坏	(10.0)	(3.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
15	H	坏	(10.4)	(3.5)		ＡＥＩ	普	橙	20%	
16	H	坏	10.5	3.4		ＡＣＩ	普	橙	95%	
17	H	坏	(10.8)	(2.9)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
18	H	坏	11.2	3.4		ＡＣ	普	にぶい橙	40%	
19	H	坏	11.2	3.4		ＡＣＥ	良	橙	80%	
20	H	坏	11.2	3.4		ＡＣＥ	普	橙	98%	
21	H	坏	11.4	3.4		ＡＣＥ	普	橙	98%	
22	H	坏	(11.5)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
23	H	坏	(11.6)	3.4		ＡＣＤＥ	普	橙	60%	
24	H	坏	11.9	(3.1)		ＡＢＣ	良	橙	45%	
25	H	坏	11.8	3.1		ＡＣＥ	良	橙	98%	内面に線刻
26	H	坏	11.9	3.7		ＡＣＥ	普	橙	55%	
27	H	坏	(12.0)			ＡＣ	不良	にぶい橙	20%	
28	H	坏	11.8	4.0		ＡＣＥＩ	普	暗褐	80%	
29	H	坏	(12.3)	2.8		ＡＣＥ	良	橙	45%	
30	H	坏	(11.9)	3.9		ＡＢＣＥ	普	橙	70%	
31	H	坏	(12.5)	(3.5)		ＡＣＥ	良	橙	30%	
32	H	坏	(12.9)	3.5		ＡＣＥＩ	普	橙	40%	
33	H	坏	(12.7)	(3.1)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	25%	
34	H	坏	(12.9)			ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
35	H	坏	(12.8)	(3.5)		ＡＣＥＩ	普	橙	40%	
36	H	坏	(12.8)			ＡＣＥＩ	普	橙	20%	
37	H	坏	(13.3)	3.7		ＡＣＥＨＩ	普	橙	40%	
38	H	坏	(14.0)	3.8		ＡＢＣＥ	普	暗褐	50%	
39	H	坏	(14.4)	(4.9)		ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	40%	
40	H	坏	(14.0)	4.7		ＡＣＥ	普	にぶい橙	40%	
41	H	坏	13.8	(5.1)		ＡＢＣＥＨ	普	橙	90%	
第21図 42	H	坏	(15.0)			ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	30%	
43	H	坏	15.4	5.1		ＡＣＥ	良	橙	90%	
44	H	坏	(16.7)	(4.5)		ＡＢＣＤＥ	普	白橙	35%	
45	H	坏	11.1	3.1		ＡＢＣＥ	良	橙	98%	
46	H	坏	11.2	3.6		ＡＣＥ	良	橙	50%	
47	H	坏	11.7	3.3		ＡＣＥ	良	橙	100%	
48	H	坏	(11.9)			ＡＢＣ	良	にぶい赤褐	25%	
49	H	坏	(11.6)	3.9		ＡＢＣＥ	普	橙	45%	

第２表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第21図 50	H	坏	(11.8)	(4.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
51	H	坏	(11.8)	3.0		ＡＢＣＥ	良	橙	60%	
52	H	坏	12.1	3.6		ＡＣＥ	良	橙	90%	
53	H	坏	(12.0)	(3.4)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
54	H	坏	(12.3)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
55	H	坏	(12.7)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
56	H	坏	12.3	3.8		ＡＣＥ	普	橙	80%	
57	H	坏	12.3	3.8		ＡＣＥ	普	橙	50%	
58	H	坏	12.6	3.1		ＡＢＣＥ	普	橙	85%	
59	H	坏	(12.9)			ＡＣＤ	普	橙	20%	
60	H	坏	(12.4)	3.9		ＡＣＥＨ	普	にぶい橙	25%	
61	H	坏	(13.2)	(4.0)		ＡＢＣＥ	良	橙	40%	
62	H	坏	13.2	4.5		ＡＣＥ	良	橙	75%	
63	H	坏	(14.3)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
64	H	坏	(10.4)	(3.1)		ＡＢＣＥ	普	暗赤褐	25%	
65	H	坏	10.8	3.5		ＡＢＣＥ	良	橙	85%	
66	H	坏	(10.8)			ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
67	H	坏	(11.0)	(3.1)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
68	H	坏	(11.0)	(3.7)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
69	H	坏	11.0	3.1		ＡＣＥ	普	橙	50%	
70	H	坏	(11.2)	(3.0)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
71	H	坏	11.0	2.9		ＡＣＥ	良	橙	100%	
72	H	坏	11.3	3.3		ＡＢＣＥ	普	橙	85%	
73	H	坏	(11.4)	(3.3)		ＡＣＥ	良	赤褐	25%	
74	H	坏	(11.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
75	H	坏	(11.7)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
76	H	坏	11.7	4.0		ＡＢＣＥ	普	赤褐	85%	
77	H	坏	(11.7)	(4.0)		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
78	H	坏	11.9	3.1		ＡＣＥＨ	良	橙	85%	
79	H	坏	(11.8)	(3.6)		ＡＣＥ	良	赤褐	35%	
80	H	坏	(12.0)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
81	H	坏	(11.8)	(3.0)		ＡＢＣＥ	良	橙	25%	
82	H	坏	(12.1)	(4.0)		ＡＣＥ	普	黄橙	20%	
83	H	坏	12.3	3.4		ＡＢＣＥ	普	橙	95%	
第22図 84	H	坏	(12.1)	3.1		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
85	H	坏	(12.5)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
86	H	坏	(12.5)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
87	H	坏	(12.6)			ＡＢＣＥ	良	橙	20%	
88	H	坏	12.6	3.6		ＡＣＥ	普	橙	80%	
89	H	坏	(12.7)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
90	H	坏	(12.4)	3.3		ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	40%	
91	H	坏	12.6	3.6		ＡＣＤＥ	普	橙	95%	
92	H	坏	(12.5)	(3.1)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
93	H	坏	(12.5)	(3.3)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
94	H	坏	12.9	3.8		ＡＢＣＥ	良	橙	95%	
95	H	坏	(12.7)	(3.1)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
96	H	坏	(12.8)			ＡＣＥ	普	橙	30%	
97	H	坏	(12.5)	4.1		ＡＣＥＨ	普	橙	40%	
98	H	坏	(13.1)	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	70%	

第３表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（2）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第22図　99	H	坏	(13.2)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
100	H	坏	13.0	4.0		ＡＣＥ	良	橙	80%	
101	H	坏	(12.9)	3.5		ＡＣＤＥ	良	橙	50%	
102	H	坏	(12.8)	(3.0)		ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
103	H	坏	(12.7)	(3.8)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
104	H	坏	(13.1)	(3.5)		ＡＣＥ	良	橙	40%	
105	H	坏	(13.1)			ＡＣＥＩ	普	赤褐	25%	
106	H	坏	13.2	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	45%	
107	H	坏	13.2	3.9		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
108	H	坏	(13.3)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
109	H	坏	(12.8)	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
110	H	坏	(13.9)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
111	H	坏	(12.8)			ＡＢＣＥ	良	橙	20%	
112	H	坏	(13.7)	3.6		ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
113	H	坏	(13.7)			ＡＢＣＥ	良	橙	20%	
114	H	坏	(13.7)			ＡＢＣＥ	良	橙	20%	
115	H	坏	13.6	4.0		ＡＣＥ	良	橙	100%	
116	H	坏	(13.6)	3.4		ＡＢＣＥ	良	赤褐	40%	
117	H	坏	(13.7)	(3.0)		ＡＢＣＤＥ	普	橙	25%	
118	H	坏	(13.9)			ＡＣＤＥ	普	橙	25%	
119	H	坏	(13.9)	3.9		ＡＢＣＥ	良	橙	60%	
120	H	坏	(13.6)			ＡＣＥ	普	灰褐	35%	
121	H	坏	14.6	4.0		ＡＣＥ	普	橙	90%	
122	H	坏	(14.3)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
123	H	坏	(14.4)	(4.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
124	H	坏	(14.8)	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	45%	
125	H	坏	(14.9)	(3.7)		ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
第23図 126	H	坏	(15.0)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
127	H	坏	(15.3)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
128	H	坏	(15.3)			ＡＣＥＨ	普	にぶい橙	20%	
129	H	坏	(14.2)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
130	H	坏	(14.2)	(4.0)		ＡＢＣＥ	良	橙	35%	
131	H	坏	(15.5)	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
132	H	坏	(15.8)			ＡＣＤＥＨ	普	橙	20%	
133	H	坏	15.8	4.2		ＡＣＥ	良	橙	80%	
134	H	坏	(15.7)	(4.1)		ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
135	H	坏	(15.7)	(4.4)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
136	H	坏	(15.9)	(4.5)		ＡＣＥ	普	橙	35%	
137	H	坏	(15.9)	(4.0)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
138	H	坏	(15.8)	(4.1)		ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
139	H	坏	(16.6)			ＡＣＥ	普	橙	25%	
140	H	坏	16.6	3.7		ＡＣＥ	良	赤褐	70%	
141	H	坏	16.7	4.5		ＡＢＣＥ	普	橙	85%	
142	H	坏	(17.3)	(5.4)		ＡＣ	普	橙	25%	
143	H	坏	(17.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
144	H	坏	18.1	6.1		ＡＣＥ	普	橙	45%	
145	H	坏	18.2	5.8		ＡＢＣＥＨ	普	橙	80%	
146	H	坏	15.9	4.6	9.5	ＡＣＥ	普	橙	70%	
147	H	坏	14.9	3.5	11.4	ＡＣＥ	良	赤褐	70%	

第４表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（3）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第23図 148	H	坏	(13.8)	3.6	9.0	ＡＢＣＩ	普	橙	40%	
149	H	坏	(15.7)	(5.4)	(7.5)	ＡＣＥ	良	橙	40%	
150	H	坏	(14.4)	(4.7)		ＡＢＣ	良	暗褐	40%	
第24図 151	H	坏	15.5	5.3	10.2	ＡＣＥ	良	橙	75%	
152	H	坏	(18.2)			ＡＢＣＥ	良	橙	25%	
153	H	坏				ＡＣＥ	普	橙	20%	
154	H	坏			7.0	ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
155	H	坏				ＡＣＥ	普	灰褐		内面に「×」の線刻
156	H	坏				ＡＢＣＤＥ	普	橙		内面に「×」の線刻
157	H	坏				ＡＢＣＥ	普	灰褐		内面に「×」の線刻
158	H	皿	(17.1)	(2.6)		ＡＣＥ	普	灰褐	20%	
159	H	皿	(17.1)	3.3		ＡＣＤＥ	普	暗褐	50%	
160	H	皿	(17.1)	(3.0)		ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
161	H	皿	(18.4)	(2.6)		ＡＢＣＤＥ	普	にぶい橙	30%	
162	H	皿	(19.9)	(2.9)		ＡＢＣＤＥＩ	良	橙	35%	
163	H	皿	20.0	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	55%	
164	H	皿	21.2	3.7		ＡＢＣＥ	良	橙	90%	
165	H	皿	(21.2)			ＡＣＥ	普	灰褐	10%	
166	H	皿	(22.6)			ＡＢＣＥ	普	にぶい黄橙	20%	
167	H	皿	(24.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	15%	
168	H	皿	(15.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	５％	
169	H	皿	16.6	3.4		ＡＣＥ	良	橙	50%	
170	H	皿	(16.6)	(3.3)		ＡＢＣＤＥ	良	橙	15%	
171	H	皿	16.8	3.7		ＡＣＥ	普	橙	80%	
172	H	皿	(17.2)	(3.4)		ＡＣＤＥ	不良	灰褐	20%	
173	H	皿	18.1	3.9		ＡＣＥ	普	橙	90%	
174	H	皿	(17.9)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	５％	
175	H	皿	18.8	3.0		ＡＢＣＥ	普	灰褐	85%	
176	H	皿	19.3	3.5		ＡＢＣＥ	普	灰褐	80%	内面黒色処理
177	H	皿	19.7	3.5		ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	95%	内面黒色処理
178	S	蓋	9.5	3.5		ＡＣ	良	灰	45%	
179	S	坏	8.4	3.3		ＡＣ	良	青灰	55%	
180	S	蓋	(10.3)	2.3		ＡＣＦＨ	良	灰	45%	
181	S	蓋	(12.3)	(3.4)		ＡＣＦＨ	不良	灰褐	40%	
182	S	蓋	(13.7)			ＡＣ	良	青灰	20%	
183	S	蓋	13.7	3.5		ＡＣＦＨ	不良	灰褐	60%	
第25図 184	S	蓋	(13.3)			ＡＣ	普	灰	20%	
185	S	蓋	(13.5)			ＡＣＥ	普	灰	20%	
186	S	蓋	(13.6)	3.2		ＡＣＦＨ	良	青灰	70%	
187	S	蓋	(14.2)	(3.3)		ＡＣＦＨ	普	灰	30%	
188	S	蓋	(14.2)	3.3		ＡＣＦＨ	良	灰	60%	
189	S	蓋	14.6	3.8		ＡＣＦＨ	良	青灰	55%	
190	S	蓋	(15.3)			ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
191	S	蓋	(15.5)	3.3		ＡＣＨ	不良	橙	50%	
192	S	蓋	(15.5)	(2.6)		ＡＣ	良	灰	20%	外面に自然釉
193	S	蓋	(16.0)	(4.2)		ＡＣ	普	灰	25%	外面に自然釉
194	S	蓋	(16.4)	(4.2)		ＡＣＦＨ	良	青灰	25%	外面に線刻
195	S	蓋	17.5	3.6		ＡＣＦＨ	良	灰	45%	外面に線刻
196	S	蓋	(18.2)	3.2		ＡＣＦＨ	普	灰	45%	

第５表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（4）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第25図 197	S	蓋	(18.0)	3.4		ＡＣＤＦＨ	良	灰	50%	
198	S	蓋	(18.5)	4.4		ＡＣＦＨ	良	灰	40%	
199	S	蓋	(18.6)	4.3		ＡＣＦＨ	良	灰	40%	
200	S	蓋	(19.2)			ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
201	S	蓋	19.5	3.9		ＡＢＣＦＨＩ	普	灰	80%	
202	S	蓋	(19.2)	(4.9)		ＡＣＨ	普	橙	60%	
203	S	蓋	(19.6)	(5.0)		ＡＣＦＨ	普	灰褐	25%	
204	S	蓋	(20.1)			ＡＣ	良	灰	20%	
205	S	蓋	(19.8)			ＡＣＦＨ	良	灰	35%	
206	S	蓋	(19.3)	4.6		ＡＣＦＨ	不良	灰褐	50%	
207	S	蓋	19.7	4.1		ＡＣＦＨ	良	青灰	75%	外面に自然釉
208	S	蓋	(20.0)	4.8		ＡＢＣＦＨ	普	灰	30%	
209	S	蓋	(20.4)			ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
210	S	蓋	(20.5)	4.3		ＡＣＦＨ	普	にぶい橙	40%	
211	S	蓋	(15.2)	(3.9)		ＡＣ	良	灰	40%	内面に朱墨痕、転用硯
212	S	蓋	(15.8)			ＡＣＨ	良	灰	40%	
213	S	蓋	(18.2)	(3.5)		ＡＣ	良	灰	30%	外面に自然釉
214	S	蓋				ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
215	S	蓋				ＡＣＨ	普	灰	25%	
216	S	蓋				ＡＣ	良	灰	70%	外面に自然釉
217	S	蓋				ＡＣ	良	灰	10%	外面に自然釉
218	S	蓋				ＡＣ	良	青灰	５％	
219	S	蓋				ＡＣ	良	青灰	５％	
220	S	蓋				ＡＢＣＩ	普	橙	５％	
221	S	蓋				ＡＢＣＨＩ	普	灰褐	５％	
第26図 222	S	坏	(11.0)	(3.9)	(7.0)	ＡＣＦＨ	普	青灰	25%	
223	S	坏	12.5	4.5	7.9	ＡＣＦＨ	良	青灰	95%	
224	S	坏	(12.2)	4.5		ＡＣＦＨ	良	灰	50%	
225	S	坏	(11.8)	(3.8)	(8.0)	ＡＣＦＨ	良	青灰	25%	
226	S	坏	(12.1)	(3.5)	(9.0)	ＡＣＦＨ	良	灰	20%	
227	S	坏	12.1	3.6	8.4	ＡＣＥＦＨ	普	灰	65%	
228	S	坏	11.9	3.6	8.5	ＡＣＦＨ	良	灰褐	85%	
229	S	坏	(11.8)	(3.6)	(8.8)	ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
230	S	坏	12.6	3.3	9.4	ＡＢＣＦＨＩ	良	赤灰	100%	
231	S	坏	(12.7)			ＡＣ	良	青灰	15%	
232	S	坏	12.7	3.8	8.8	ＡＣＦＨ	良	灰	90%	
233	S	坏	(12.8)	(3.5)	(8.7)	ＡＣＨ	良	灰	25%	
234	S	坏	(13.0)	4.0	8.3	ＡＣＦＨ	普	灰	50%	
235	S	坏			(6.0)	ＡＣ	良	灰	25%	
236	S	坏			(7.8)	ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
237	S	坏	(13.7)	(3.4)	(9.2)	ＡＣＦＨ	良	青灰	40%	
238	S	坏	(16.5)	(4.2)	(9.0)	ＡＣＦＨ	普	青灰	30%	
239	S	坏	(16.4)	(4.4)	(10.3)	ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
240	S	坏	(16.8)	4.2	9.2	ＡＣＦＨ	良	灰	45%	
241	S	坏	(16.6)			ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
242	S	坏	(17.7)			ＡＨ	良	灰	10%	
243	S	坏	17.6	3.8	10.8	ＡＣＦＨ	良	青灰	90%	
244	S	坏	(17.7)	(4.1)	(10.5)	ＡＣＦＨ	良	青灰	20%	
245	S	坏	(18.5)	4.2	(12.0)	ＡＢＣＦＨ	普	灰	50%	

第６表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（5）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第26図 246	S	坏	(18.6)	4.0	(13.0)	ＡＣＦＨ	普	灰	25%	
247	S	坏	(18.2)	(3.4)	(12.8)	ＡＣＦＨ	良	灰	30%	
248	S	坏	(21.0)	4.1	(16.3)	ＡＣＦＨ	良	青灰	35%	
249	S	坏	(21.6)			ＡＣＦＨ	普	灰	10%	
250	S	坏	(18.2)	(4.4)	(13.5)	ＡＣＦＨ	普	灰	10%	
251	S	坏			10.3	ＡＣＦＨ	良	青灰	25%	
252	S	坏			7.6	ＡＣＦＨ	普	灰	40%	
253	S	坏			(13.8)	ＡＣＦＨ	普	灰	25%	
第27図 254	S	高台坏	(13.0)	4.5	(7.0)	ＡＣ	普	灰	30%	
255	S	高台坏			8.6	ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
256	S	高台坏			(8.8)	ＡＣＦＨ	普	灰	15%	
257	S	高台坏			(9.0)	ＡＣＨ	普	灰	15%	
258	S	高台坏			10.8	ＡＣ	良	灰	30%	
259	S	高台坏			10.7	ＡＣＦＨ	良	灰	30%	
260	S	高台坏			(11.7)	ＡＣ	良	灰	15%	
261	S	脚付盤				ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
262	S	脚付盤			(10.9)	ＡＣ	良	灰	５％	
263	S	壺	(8.0)	5.6	(6.9)	ＡＣＦＨ	良	青灰	30%	
264	S	平瓶				ＡＣ	良	黒褐	10%	外面に自然釉
265	S	瓶				ＡＣ	良	灰	５％	外面に自然釉
266	S	横瓶				ＡＣ	良	灰		
267	S	甕	(15.4)			ＡＣ	良	灰	５％	
268	S	甕				ＡＣ	良	黒褐		内面に自然釉
269	S	甕	(25.2)			ＡＣＦＨ	良	灰褐	15%	
270	S	甕				ＡＣＤＦＨ	良	青灰		
271	S	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		
272	S	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		
273	S	甕				ＡＣ	良	灰		内面に自然釉
274	S	甕				ＡＣ	良	灰		内面に自然釉
第28図 275	S	甕				ＡＣＦＨ	良	灰		外面に自然釉
276	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
277	S	甕				ＡＣＦＨ	良	灰褐		
278	S	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		
279	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
280	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
281	S	甕				ＡＣＦＨ	良	灰		外面に自然釉
282	S	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		外面に自然釉
283	S	甕				ＡＣＦＨ	普	灰		
第29図 284	S	甕				ＡＣＦＨ	良	灰		
285	S	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		
286	H	鉢	(12.7)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	25%	
287	H	甕	7.1			ＡＣＤ	普	灰褐	50%	
288	H	甕	(8.4)			ＡＣＥ	普	橙	30%	
289	H	甕	(9.2)			ＡＣＥ	普	黒褐	15%	
290	H	甕	9.2			ＡＢＣＥ	普	黒褐	40%	
291	H	甕	9.6			ＡＣＤＥ	普	橙	30%	
292	H	甕	(12.3)			ＡＣＥＨ	普	黒褐	15%	
293	H	甕	(11.3)			ＡＢＣＥＨ	良	橙	40%	
294	H	甕	(12.6)			ＡＢＣＥ	普	灰褐	15%	

第７表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（6）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第29図 295	H	甕	(13.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
296	H	甕	14.5			ＡＣＥＨ	普	橙	20%	
297	H	甕	14.9			ＡＢＣＥＨ	普	橙	25%	
298	H	甕	16.7			ＡＣＥＨ	普	橙	30%	
299	H	甕	(17.3)			ＡＣＥＨ	普	にぶい橙	15%	
300	H	甕	19.2			ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
301	H	甕	21.5			ＡＢＣＥＩ	普	橙	30%	
第30図 302	H	甕	19,2			ＡＢＣＥＩ	良	橙	20%	
303	H	甕	(19.5)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
304	H	甕	(20.0)			ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	15%	
305	H	甕	(21.2)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
306	H	甕	(21.7)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
307	H	甕	(22.0)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
308	H	甕	(22.0)			ＡＢＣ	普	にぶい橙	15%	
309	H	甕	(22.5)			ＡＢＣＨ	普	橙	15%	
310	H	甕	22.2			ＡＢＣＨ	良	橙	30%	
311	H	甕	22.7			ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	10%	
312	H	甕	23.8			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
313	H	甕	25.3			ＡＣＥ	良	灰褐	10%	
314	H	甕	23,5			ＡＢＣＥ	良	橙	40%	
315	H	甕	19.3			ＡＣＥ	良	黒褐	10%	
316	H	甕	(20.7)			ＡＢＣＤＥ	普	橙	10%	
第31図 317	H	甕	(21.2)			ＡＣＥ	良	橙	10%	
318	H	甕	(21.1)			ＡＣＥ	良	橙	10%	
319	H	甕	(21.1)			ＡＢＣＥ	良	橙	10%	
320	H	甕	(21.4)			ＡＢＣＥＨ	良	にぶい橙	20%	
321	H	甕	(22.1)			ＡＣＥＨ	良	橙	15%	
322	H	甕	(21.2)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
323	H	甕	(22.9)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
324	H	甕	(24.1)			ＡＢＣＥＨ	良	橙	20%	
325	H	甕	(21.0)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
326	H	甕			5.6	ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
327	H	甕			(5.9)	ＡＣＥ	普	橙	10%	
328	H	甕			5.7	ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	30%	
329	H	甕			5.4	ＡＣＤＥ	普	にぶい橙	30%	
330	H	甕			5.9	ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
第32図 331	H	甕				ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	25%	
332	H	甕			3.9	ＡＢＣＥＩ	普	橙	20%	
333	H	甕			6.4	ＡＣＥＨ	普	暗褐	25%	
334	H	甕			(5.0)	ＡＢＣＥ	普	赤褐	５％	
335	H	甕			3.5	ＡＣＥ	普	にぶい橙	５％	
336	H	甕			(7.5)	Ａ	普	灰褐	５％	
337	H	甕			(4.4)	ＡＢＣＨ	普	にぶい橙	５％	
338	H	甕			4.5	ＡＢＣＨＩ	普	灰褐	10%	
339	H	台付甕			7.0	ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
340	H	台付甕			(10.9)	ＡＢＣＥ	普	灰褐	25%	
341	H	甕			5.5	ＡＣＥ	普	灰褐	30%	
342	H	台付甕			(11.1)	ＡＣＥ	普	赤褐	15%	
343	H	台付甕				ＡＣＥ	良	橙	10%	

第８表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（7）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第32図 344	H	台付甕				ＡＣＥ	普	灰褐	10%	
345	H	台付甕			(9.2)	ＡＢＣ	普	橙	５%	
346	H	台付甕			(9.5)	ＡＣＩ	普	灰褐	15%	
347	H	台付甕			(11.7)	ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
348		瓦				ＡＢＣＥＨ	良	橙	10%	
349		土錘		幅2.5	厚2.5	ＡＢＣＥＨ	良	にぶい橙	60%	重さ　24.46ｇ
350		土錘	長5.9	幅2.5	厚2.5	ＡＣＥ	良	赤褐	95%	重さ　28.88ｇ
351		延板状銅製品		幅0.6	厚0.1					重さ　1.90ｇ
352		棒状鉄製品		幅0.4	厚0.4					重さ　2.25ｇ
353		鉄釘		幅0.6	厚0.5					重さ　5.25ｇ
354		鉄滓	長4.6	幅6.8	厚3.3					重さ 142.18ｇ
355	R	坏	(10.8)	3.7	(5.6)	ＡＣＥ	普	黄橙	25%	
356	R	坏			5.8	ＡＣＥ	普	黄橙	25%	

第９表　第３号特殊土坑出土遺物観察表（8）

914は蓋、915 ～ 917は坏、918は盤、919 ～ 921は甕である。

922・923は土師器甕で、922は外面と口唇部にハケメが施される。

第６号特殊土坑（第10 ～ 19図、第53 ～ 57図、第24 ～ 26表）

特殊土坑群の中では南部に位置し、本土坑が埋没後に、第３号特殊土坑が掘り込まれているとみられる。平面形態は楕円形で、長径2.2m以上、短径2.2mを測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは0.8mである。壁は、南壁の一部がわずかにオーバーハングして掘り込まれているが、概ね斜めに立ち上がる。

本土坑から、溝状の掘り込みが南へと延びる。幅60cm、確認面からの深さ65cmを測る。

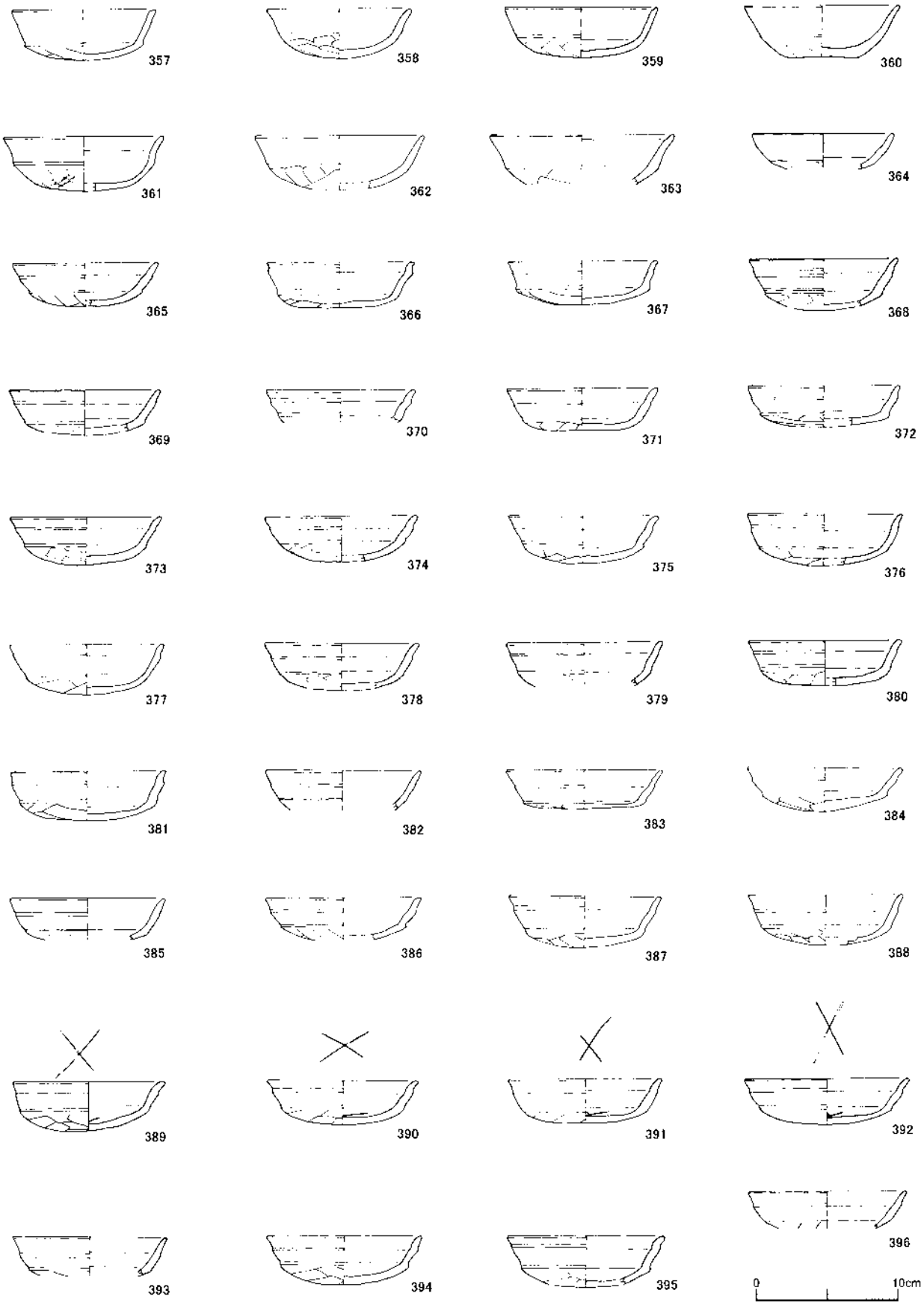
大部分が食物残滓と思われる、骨や貝等も出土した。

図示できた遺物は、第53図924 ～第57図1008である。924 ～ 965は土師器供膳具で、924 ～ 928は有段口縁坏である。929・930は続比企型坏で、内外面が赤彩される。931 ～ 937は北武蔵型坏、938 ～ 961は暗文坏である。962は平底のもので、内外面にミガキが施される。963 ～ 965は暗文皿である。

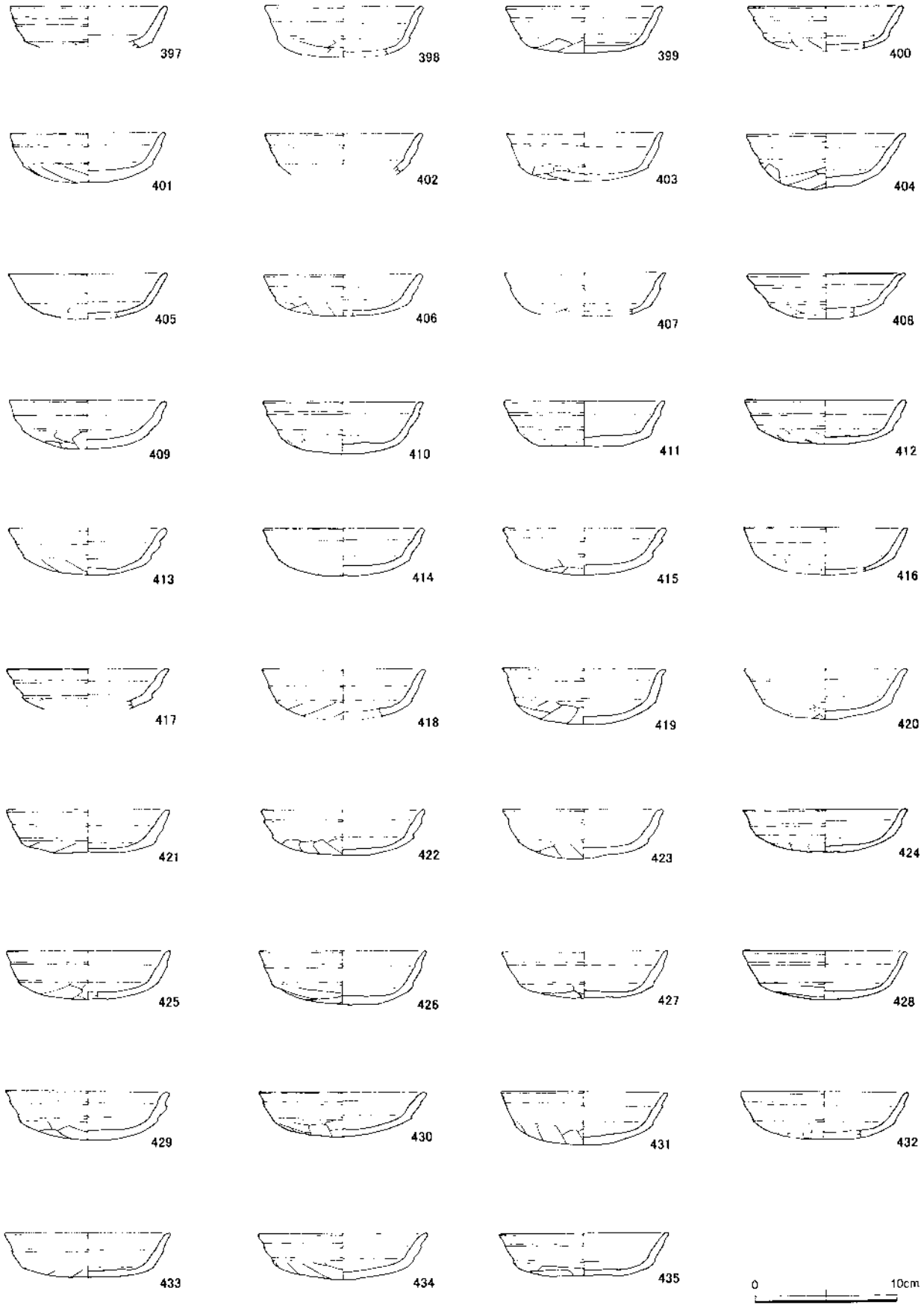
966 ～ 985は須恵器である。966・967は坏Ｈの蓋、968 ～ 972は蓋、973 ～ 976は坏、977 ～ 979は高台坏である。979は底面に線刻が施される。980 ～ 985は甕である。

986 ～ 1005は土師器甕、1006は台付甕である。1007は大型の土錘、1008は鉄釘である。

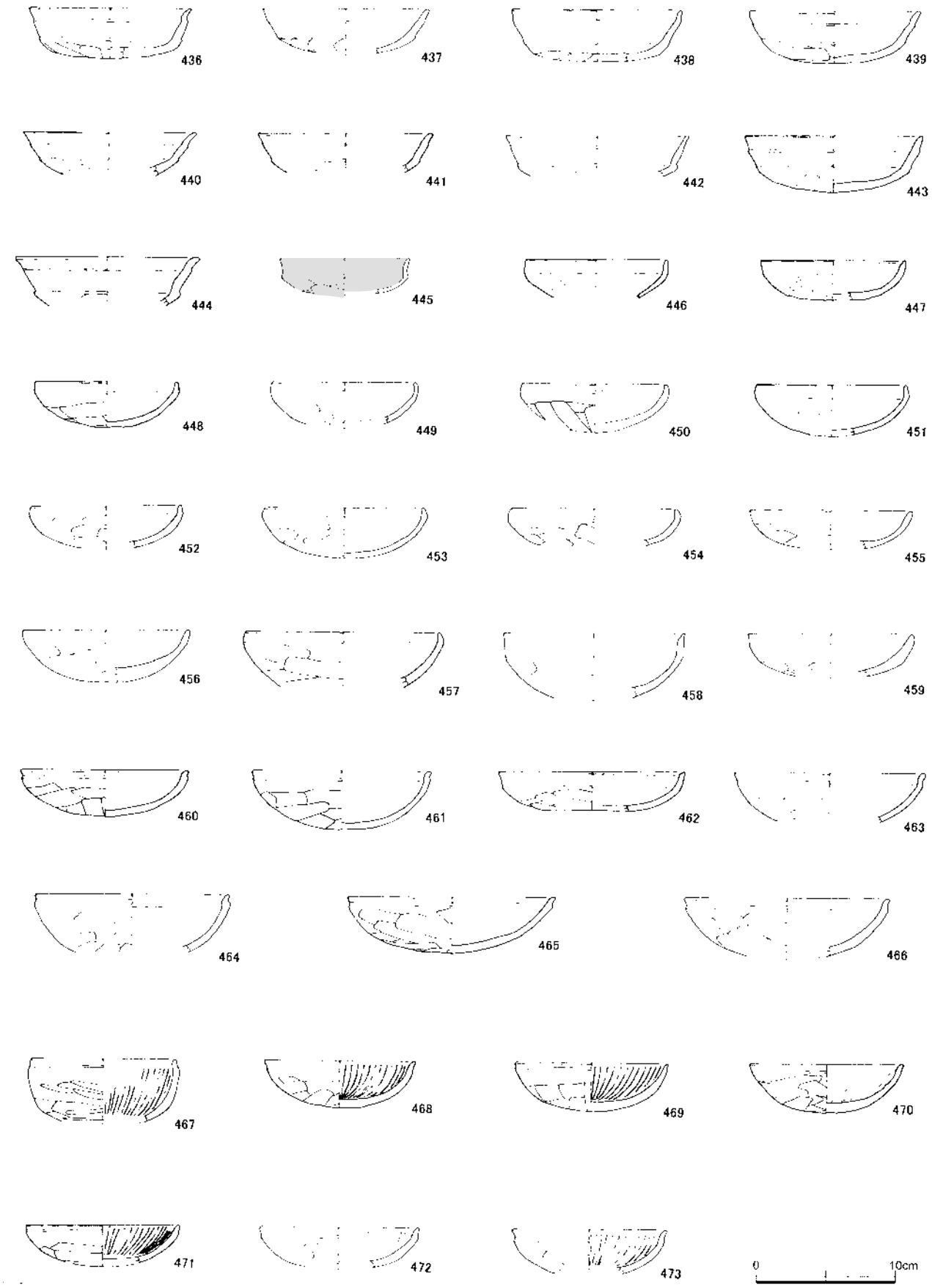
特殊土坑群遺物出土状況



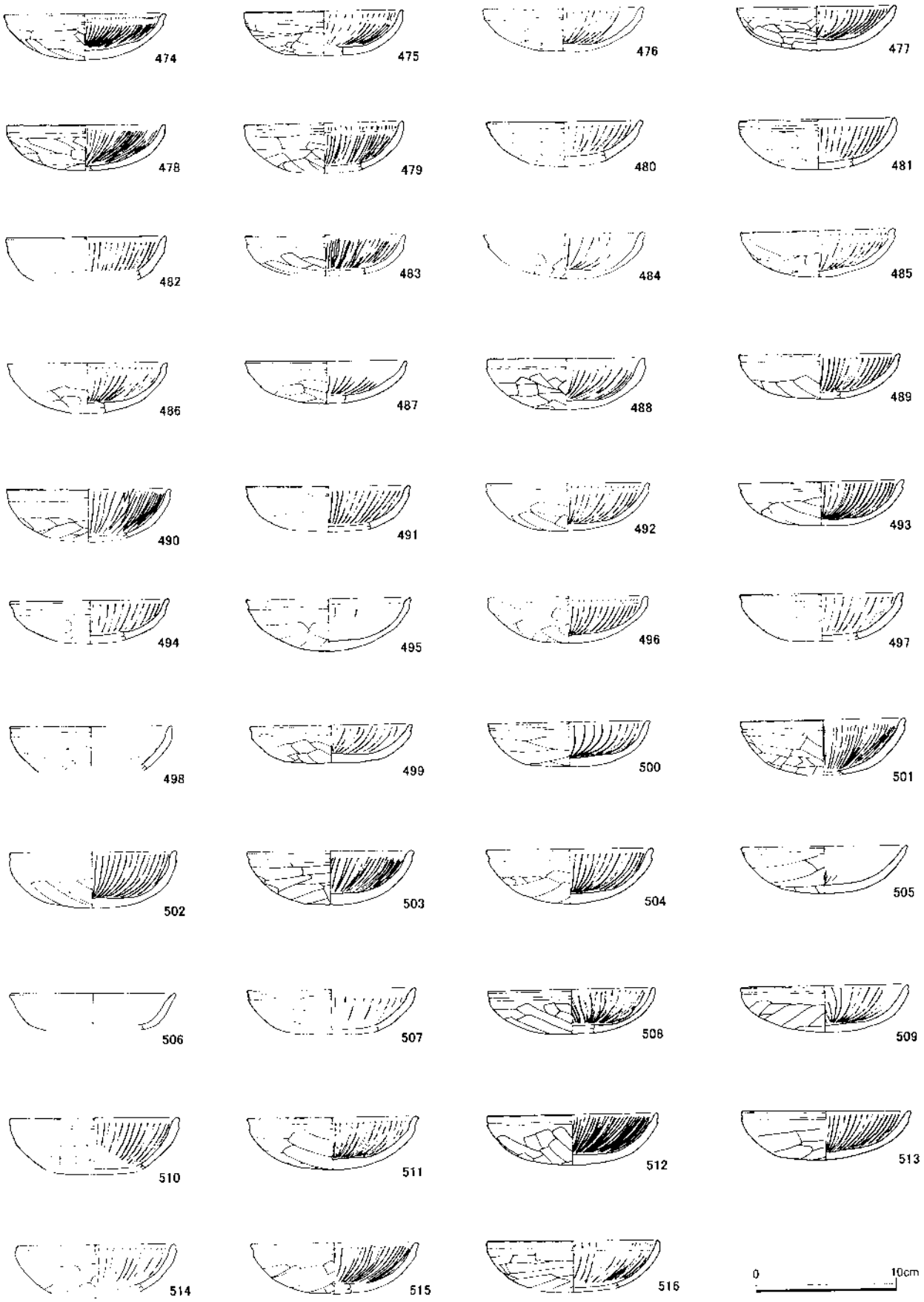
第33図　第４号特殊土坑出土遺物（1）



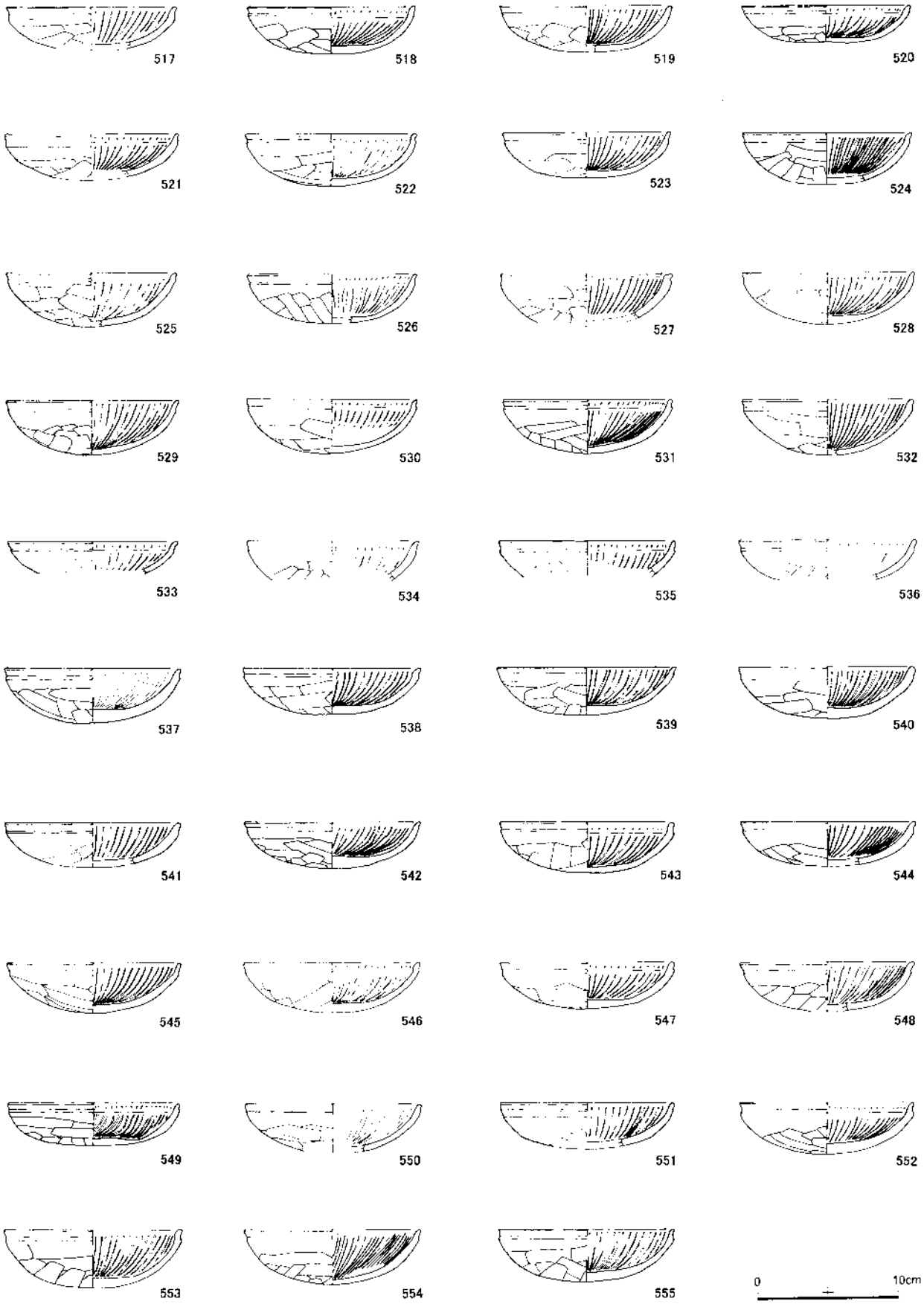
第34図　第４号特殊土坑出土遺物（2）



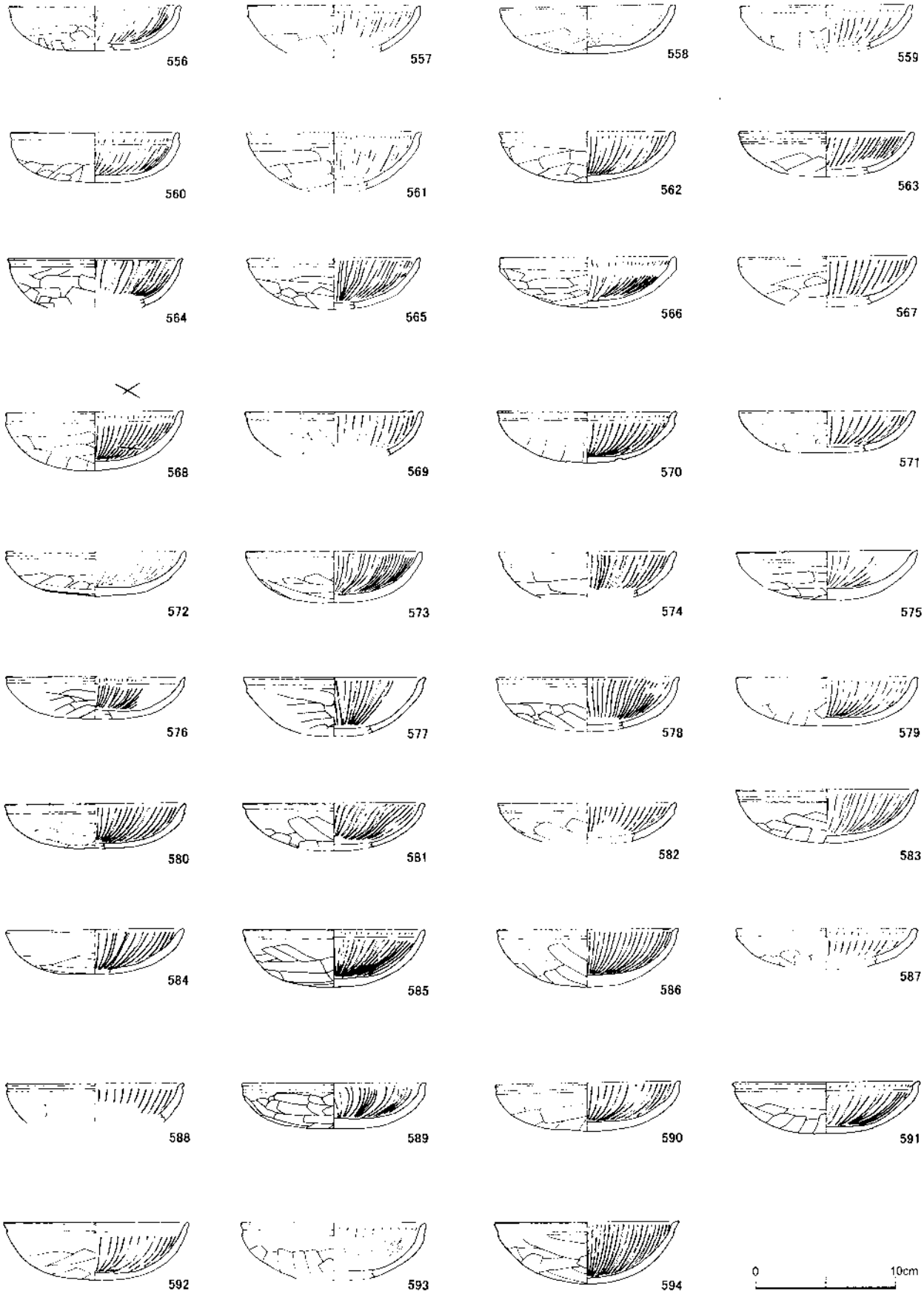
第35図　第４号特殊土坑出土遺物（3）



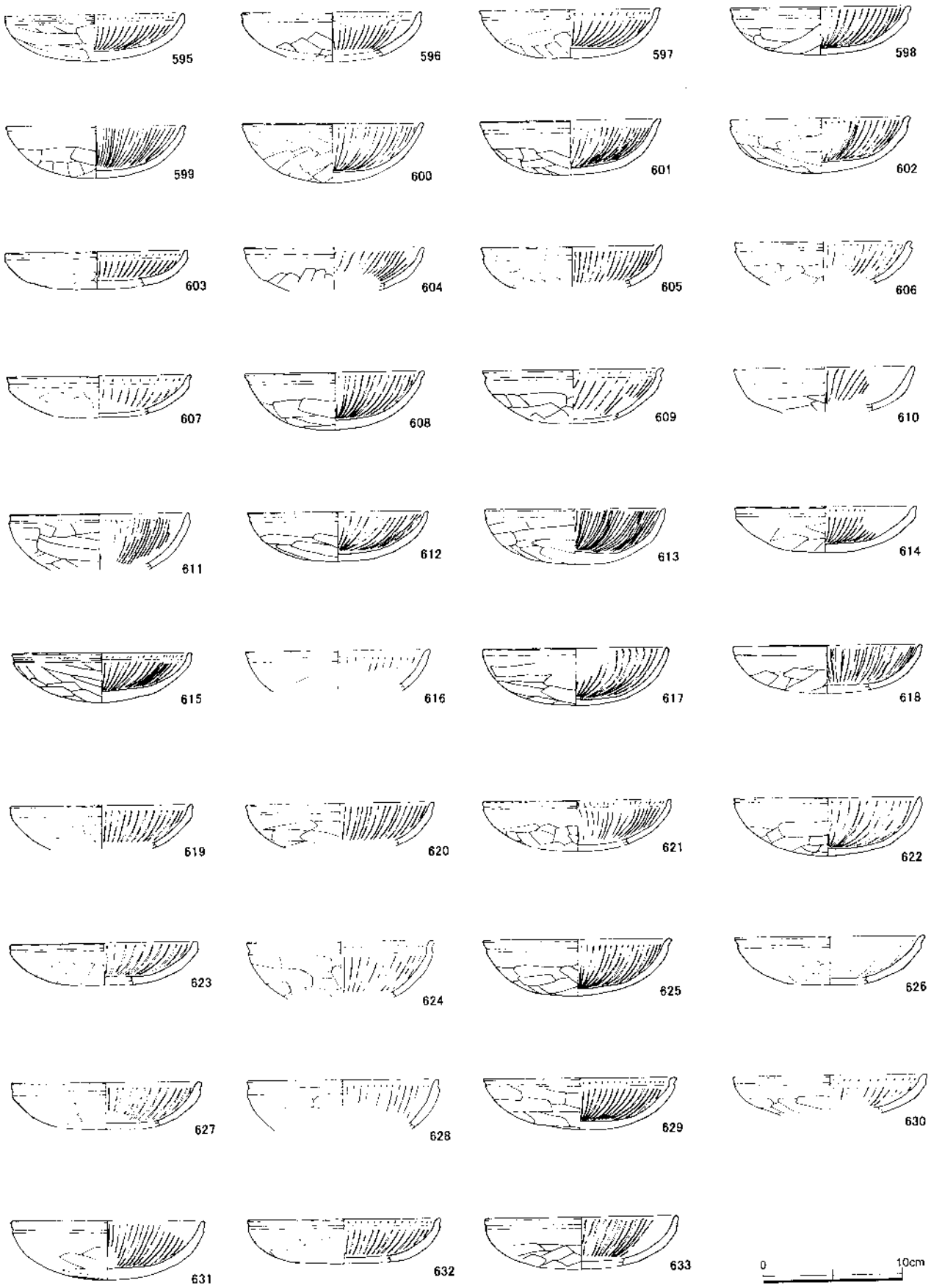
第36図　第４号特殊土坑出土遺物（4）



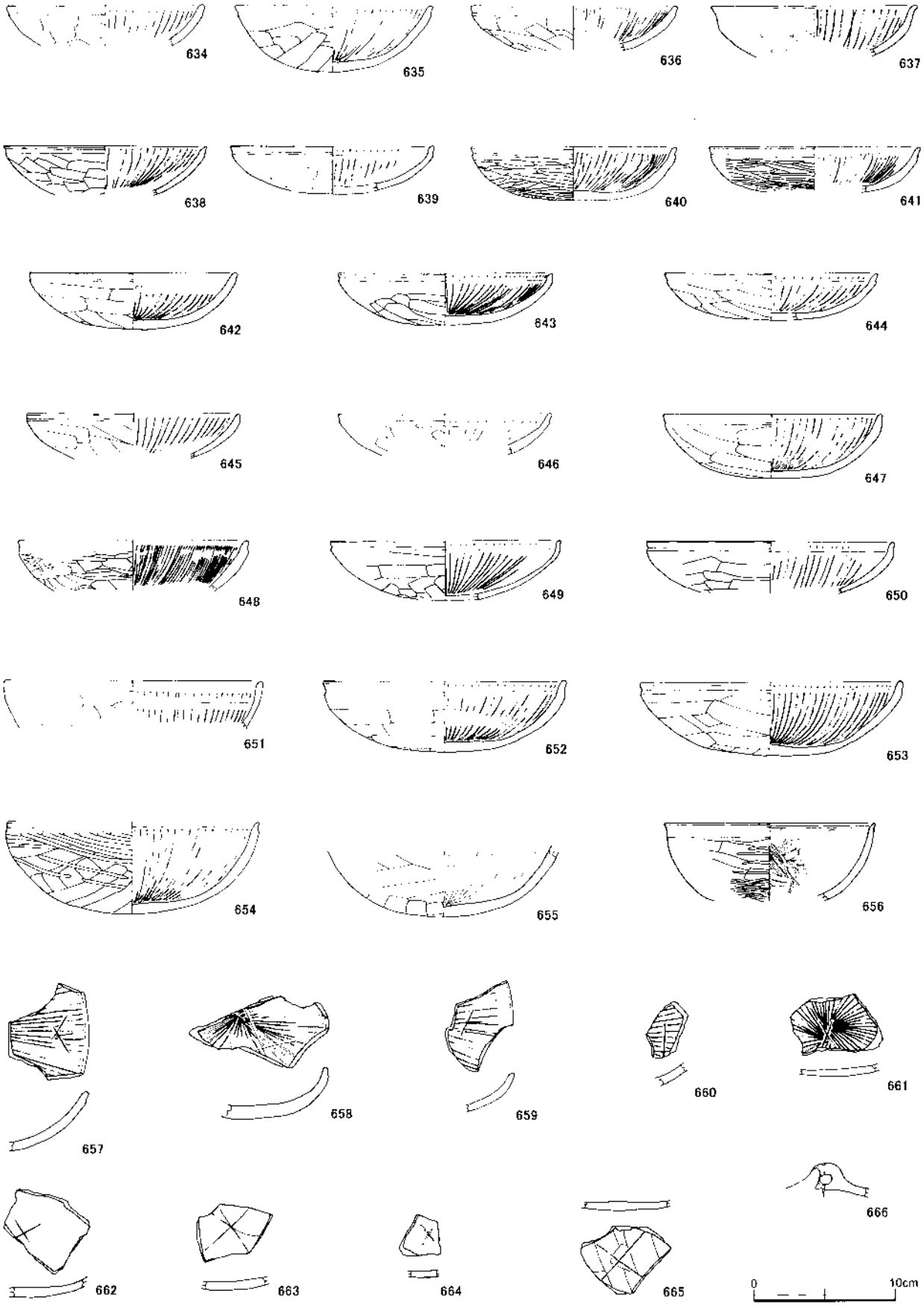
第37図　第４号特殊土坑出土遺物（5）



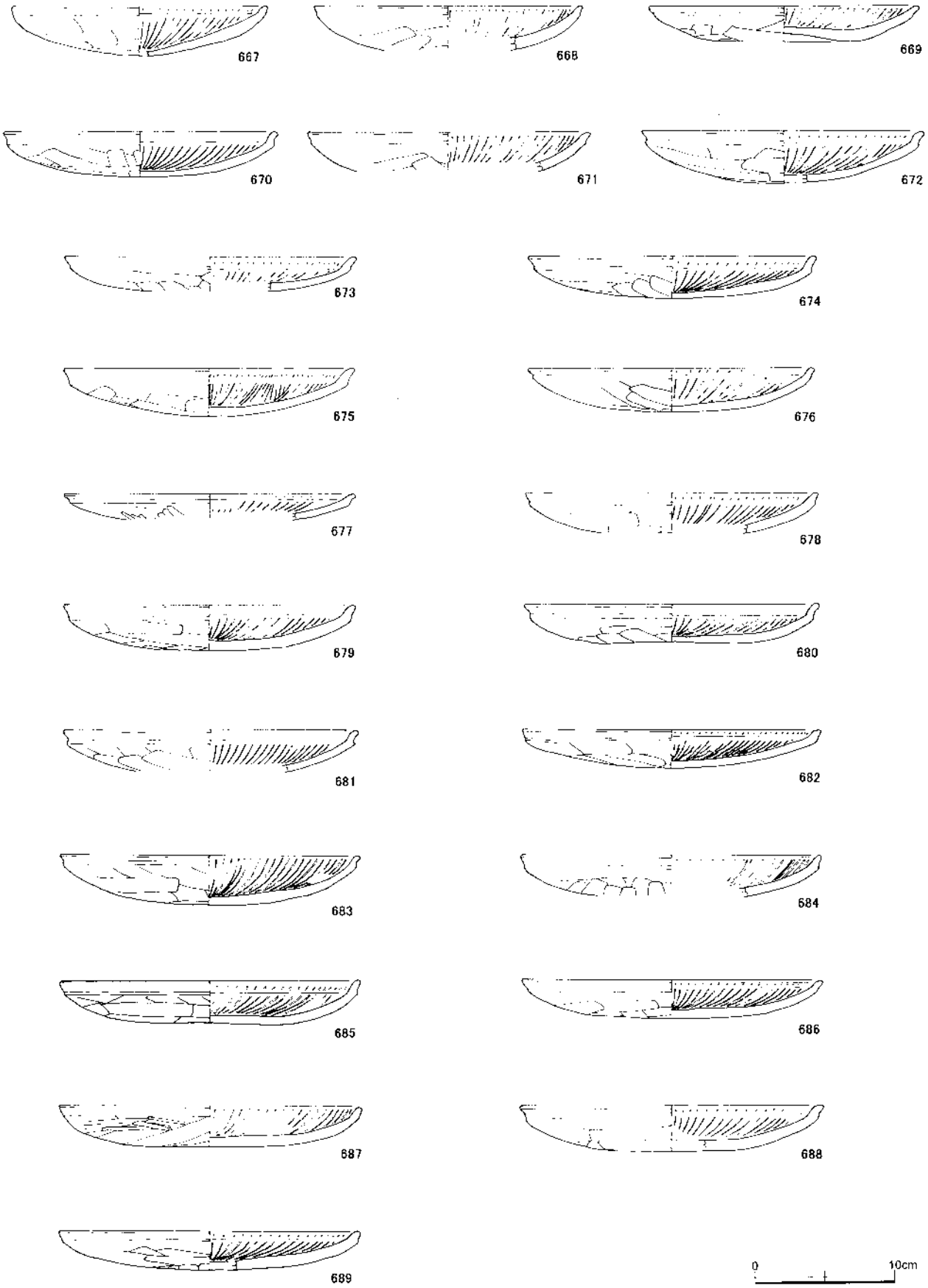
第38図　第４号特殊土坑出土遺物（6）



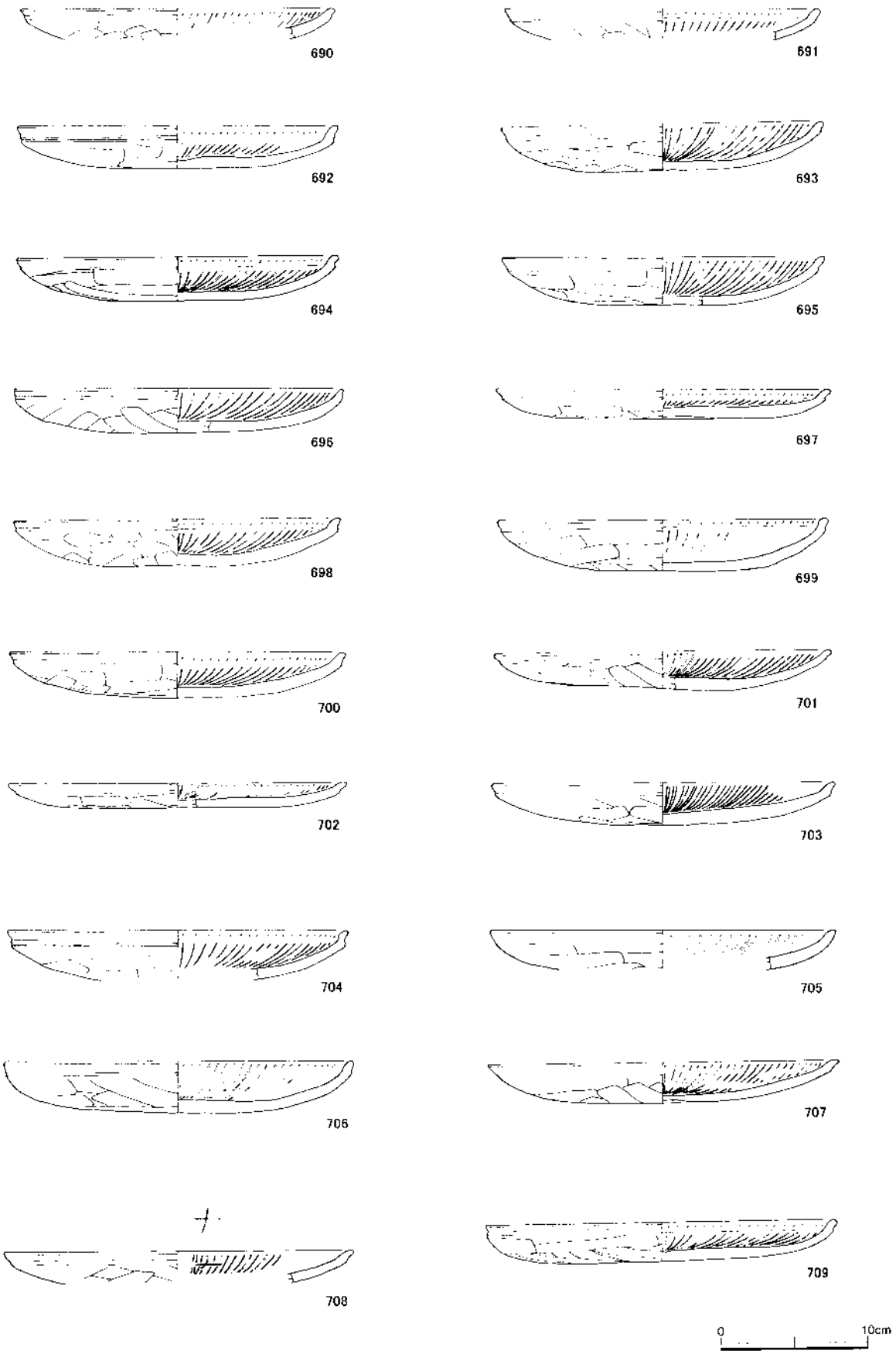
第39図　第４号特殊土坑出土遺物（7）



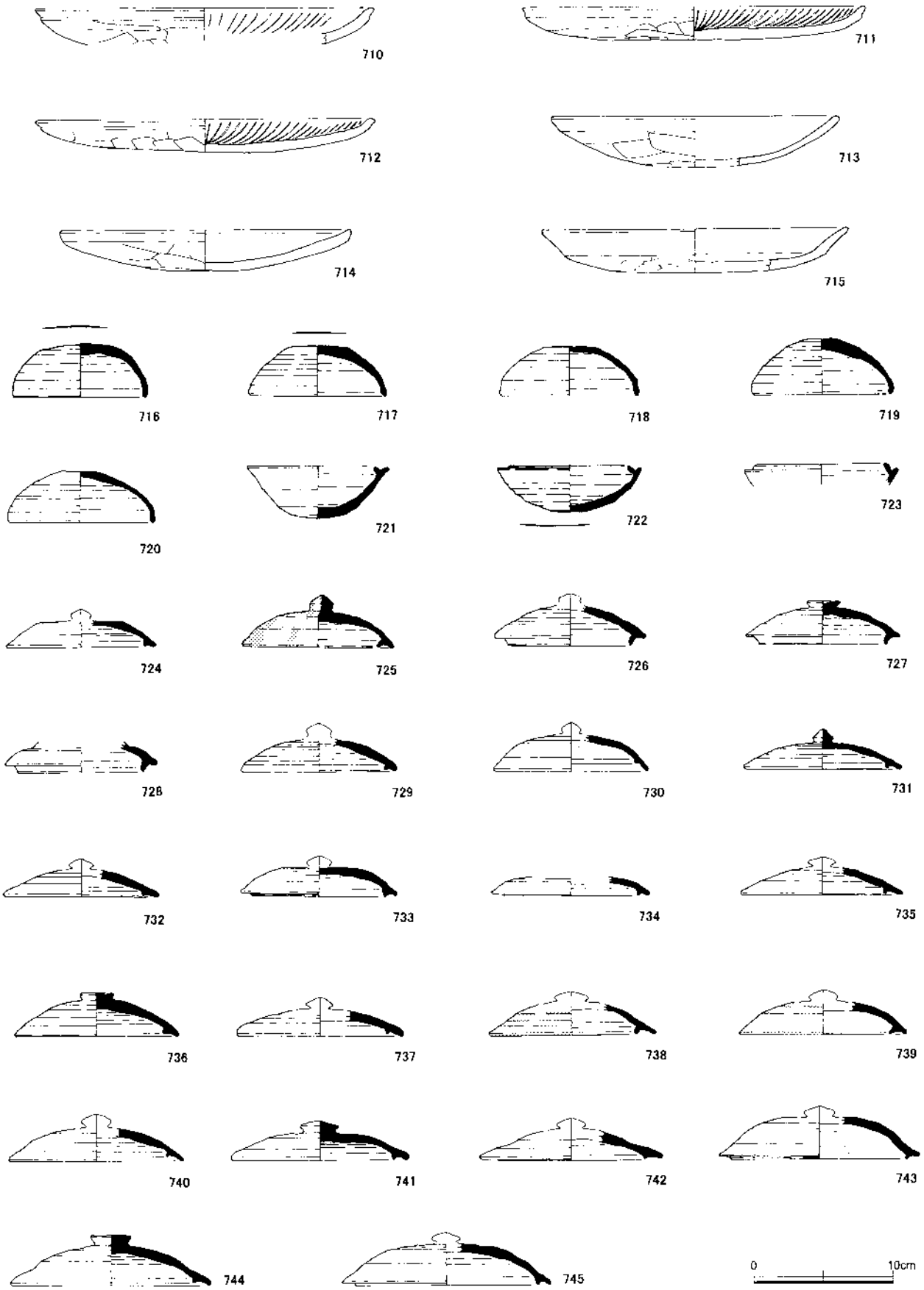
第40図　第４号特殊土坑出土遺物（8）



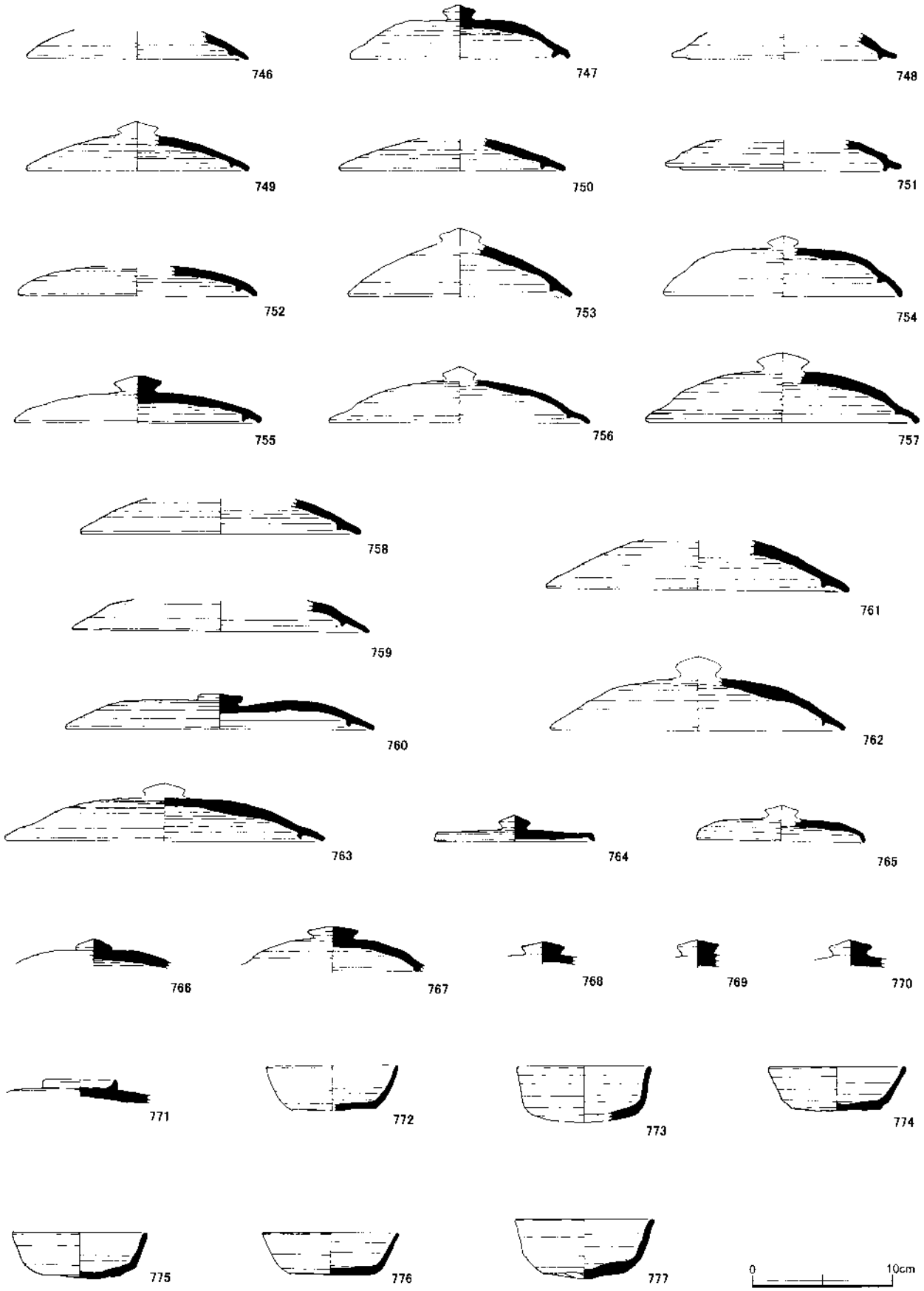
第41図　第４号特殊土坑出土遺物（9）



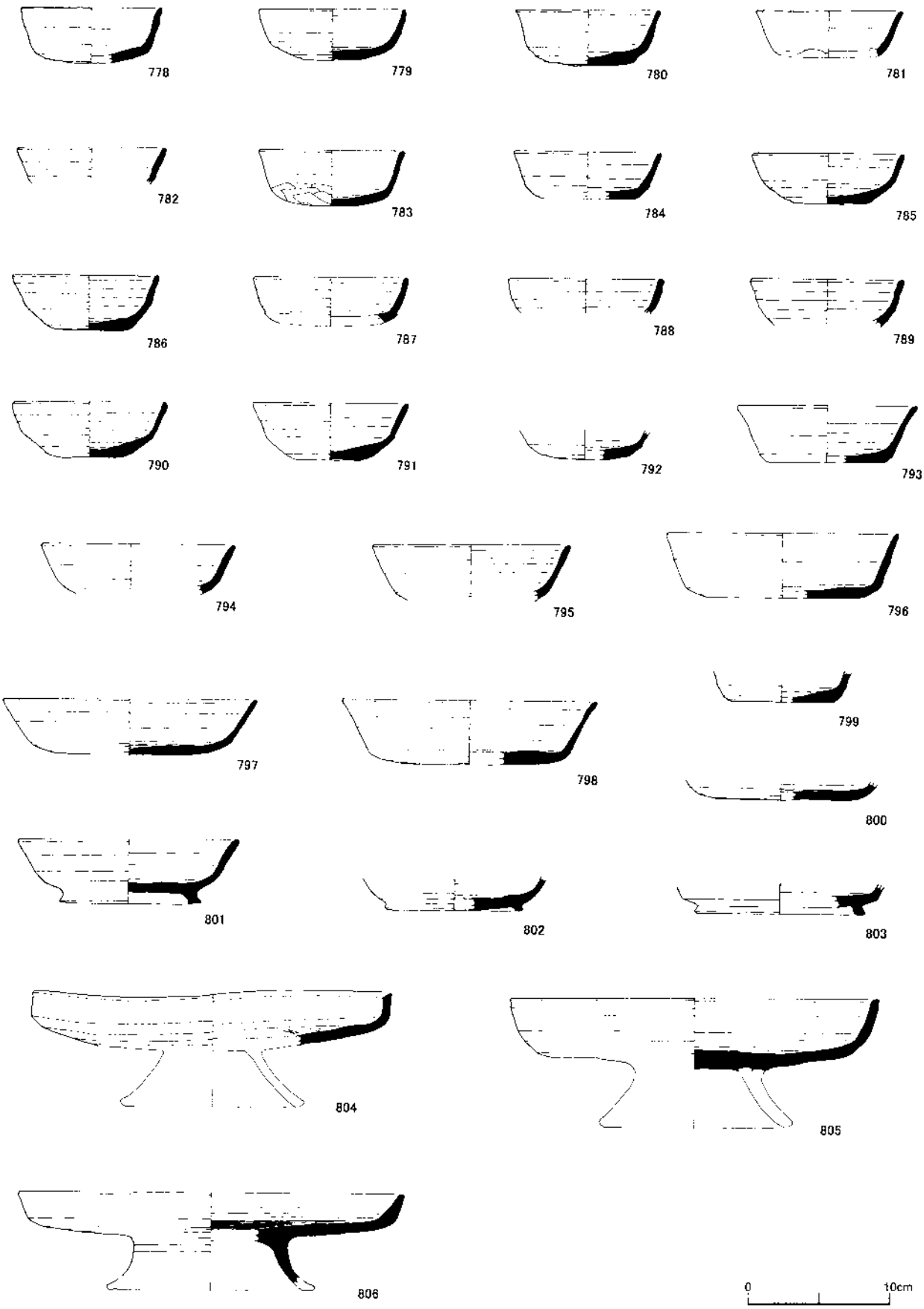
第42図　第４号特殊土坑出土遺物（10）



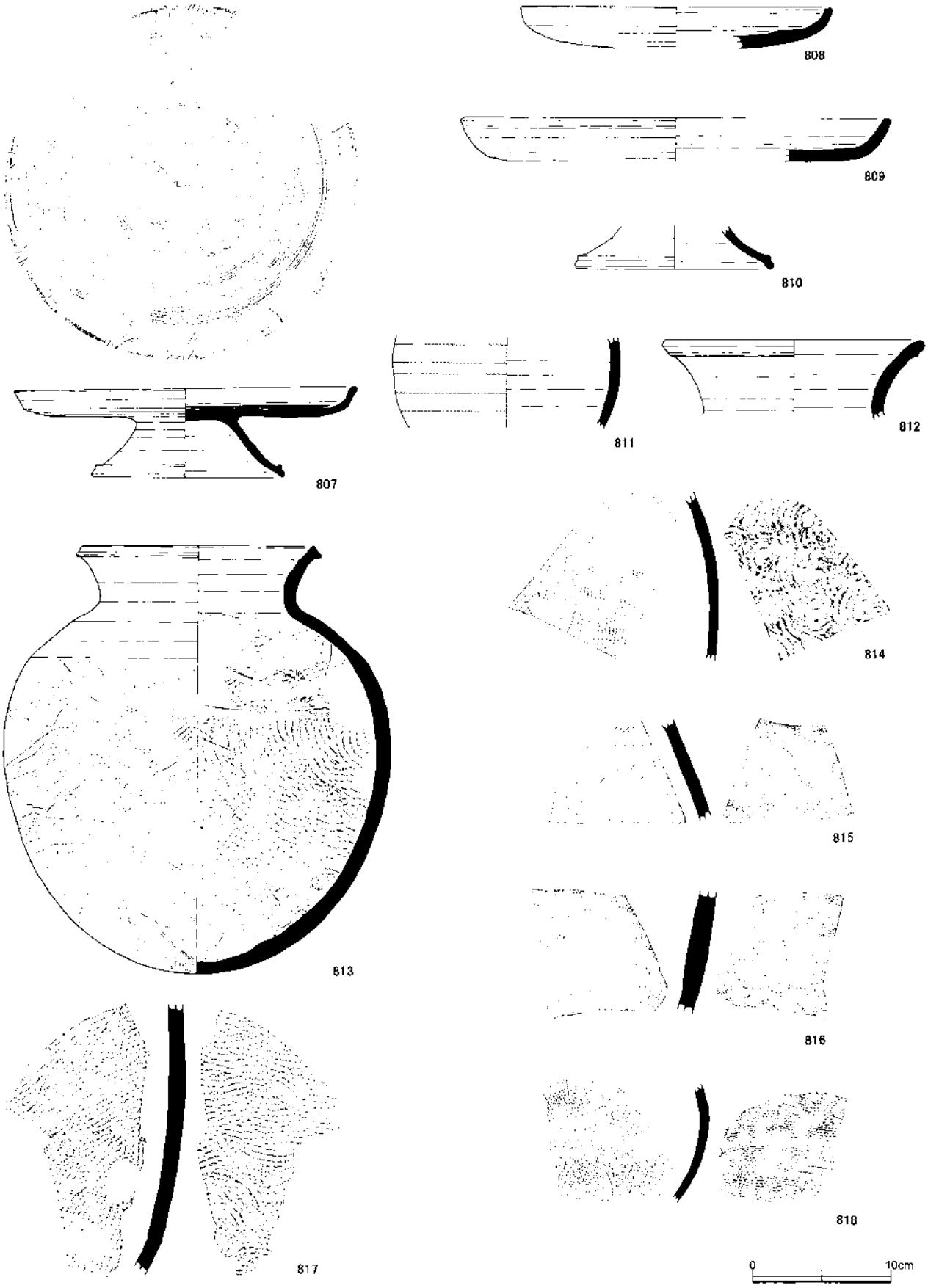
第43図　第４号特殊土坑出土遺物（11）



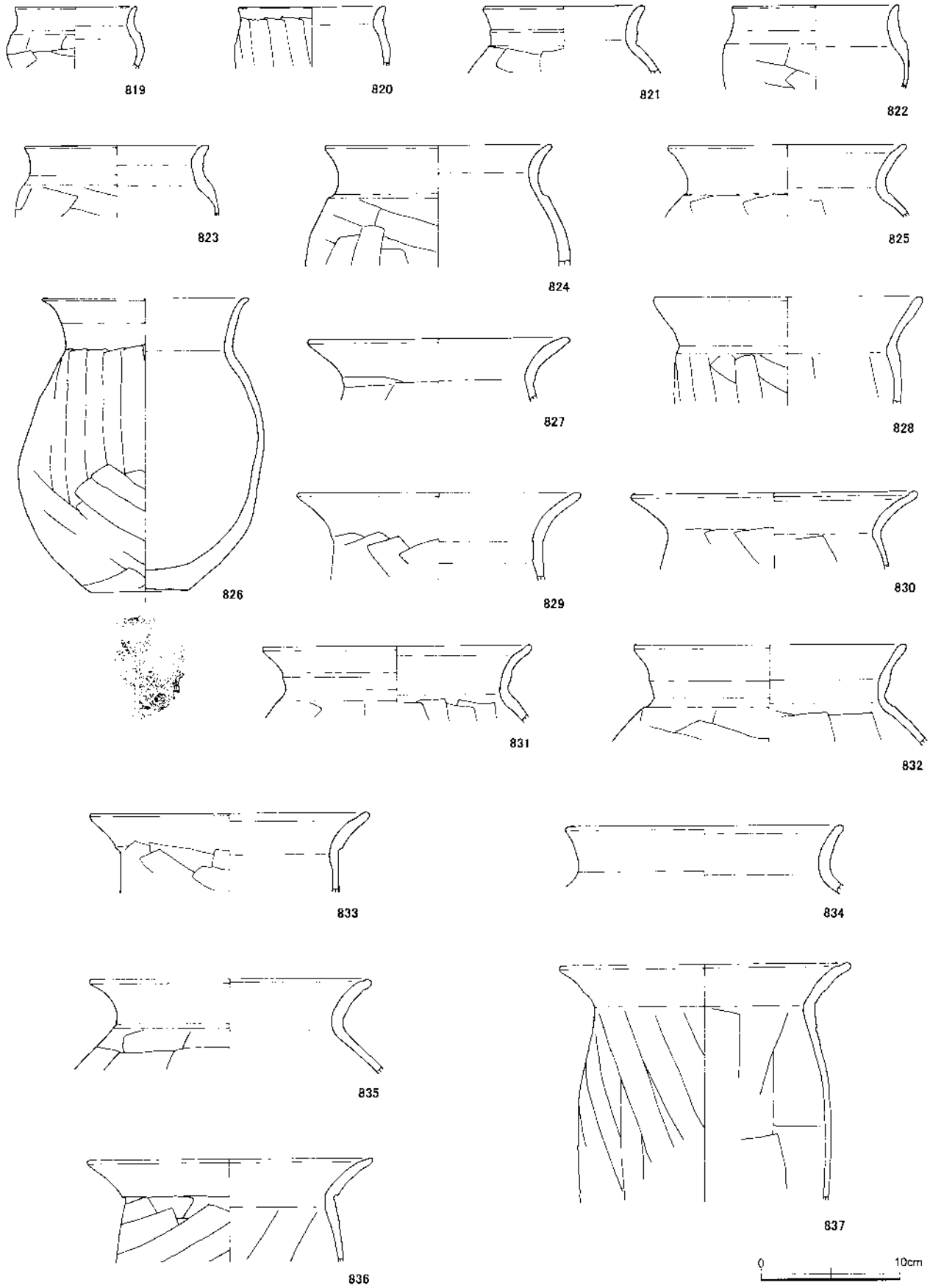
第44図　第４号特殊土坑出土遺物（12）



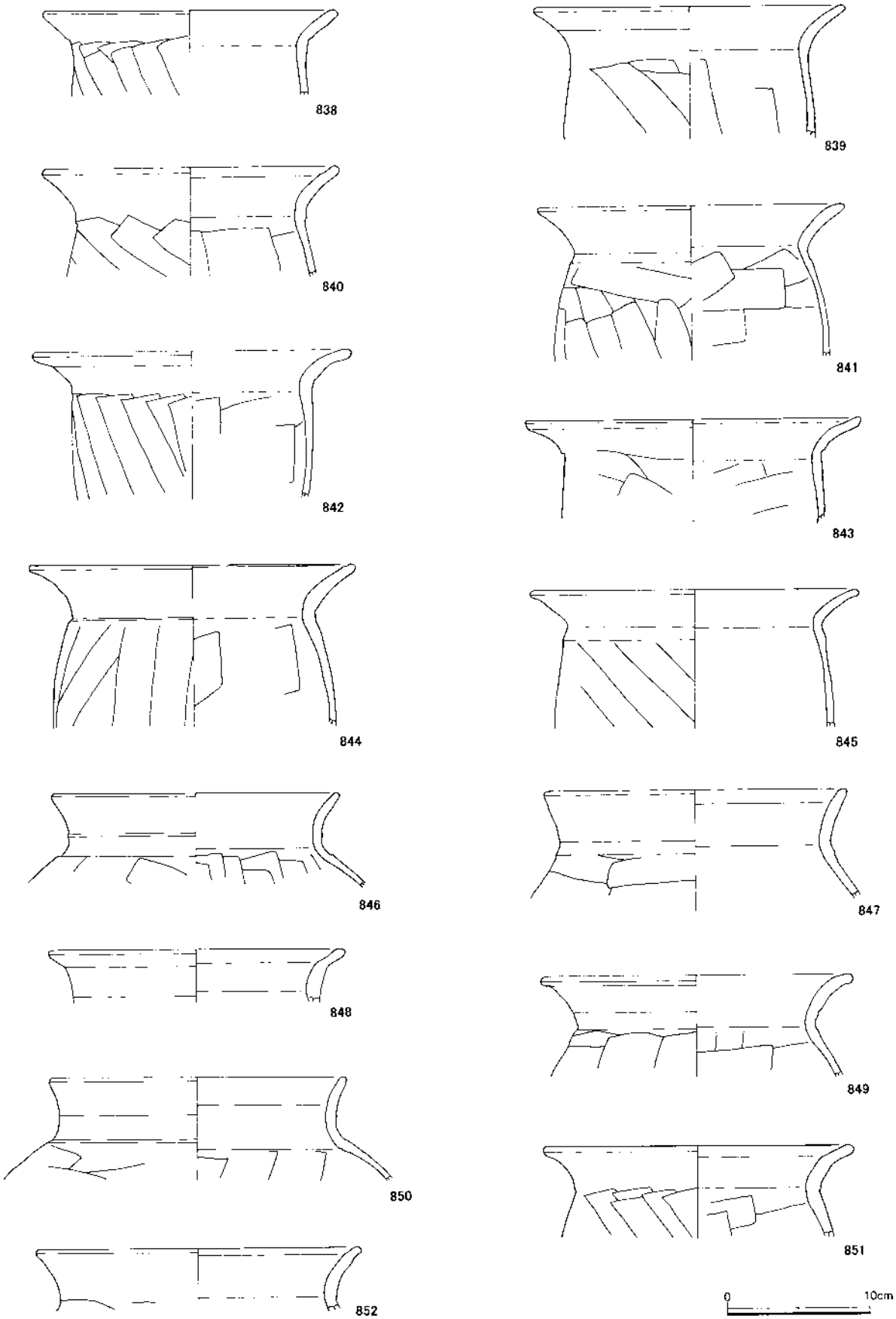
第45図　第４号特殊土坑出土遺物（13）



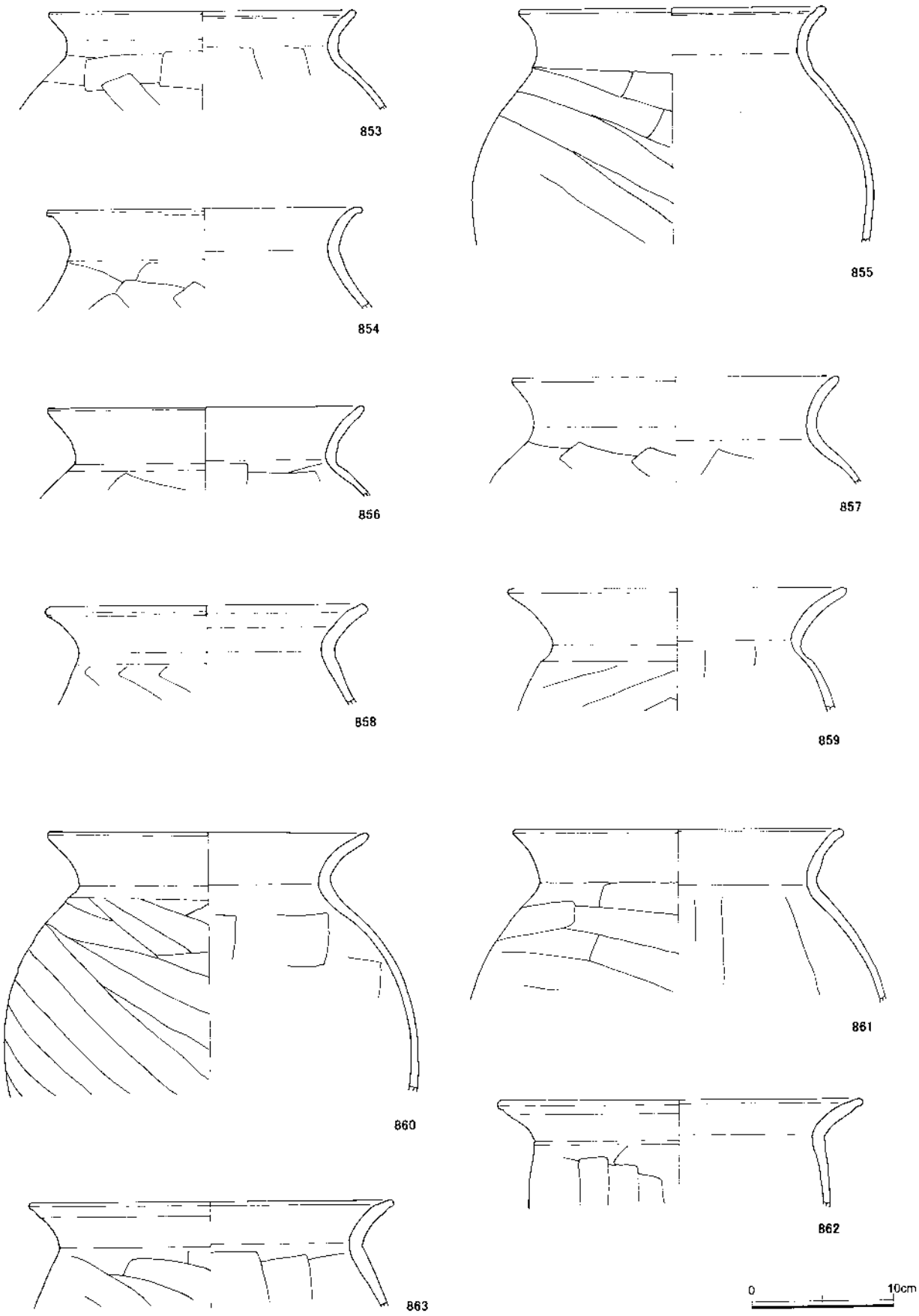
第46図　第４号特殊土坑出土遺物（14）



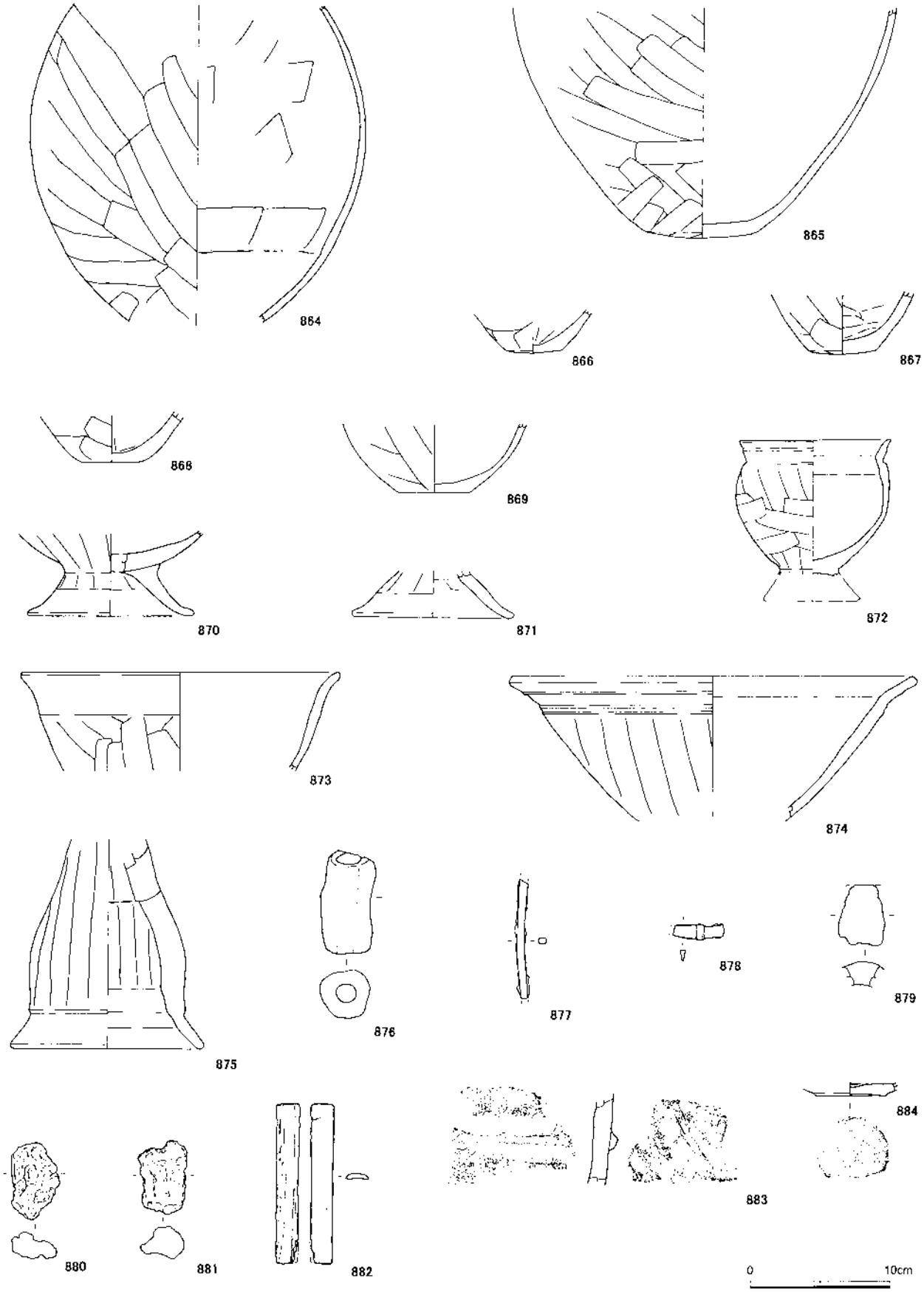
第47図　第４号特殊土坑出土遺物（15）



第48図　第４号特殊土坑出土遺物（16）



第49図　第４号特殊土坑出土遺物（17）



第50図　第４号特殊土坑出土遺物（18）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第33図 357	H	坏	(9.8)	3.6		ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	30%	
358	H	坏	(9.8)	3.5		ＡＣＥ	普	橙	40%	
359	H	坏	(10.5)	3.6		ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
360	H	坏	(10.8)	3.6	4.3	ＡＣＥ	普	灰褐	40%	
361	H	坏	11.1	(3.9)		ＡＣＥ	良	黒褐	45%	内面黒色処理
362	H	坏	(11.6)	(3.9)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
363	H	坏	(12.7)			ＡＢＣ	普	橙	20%	
364	H	坏	(9.7)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
365	H	坏	(10.0)	(3.0)		ＡＣＥ	普	灰褐	40%	
366	H	坏	10.0	3.2		ＡＣＥ	普	黒褐	60%	
367	H	坏	10.2	3.1		ＡＣＥ	普	橙	55%	
368	H	坏	(10.2)	(3.7)		ＡＢＣＥ	普	灰褐	25%	
369	H	坏	(10.4)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
370	H	坏	(10.2)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
371	H	坏	10.3	3.0	5.3	ＡＢＣＥ	普	黒褐	50%	
372	H	坏	10.4	(2.9)		ＡＣＥ	良	橙	50%	
373	H	坏	(10.4)	3.4		ＡＢＣＥ	普	黒褐	40%	
374	H	坏	10.4	(3.2)		ＡＣＥ	普	黒褐	45%	
375	H	坏	10.2	3.4		ＡＣＥ	普	灰褐	90%	
376	H	坏	10.8	(3.7)		ＡＢＣＥ	普	赤褐	50%	
377	H	坏	10.7	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	90%	
378	H	坏	(10.5)	(3.4)		ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
379	H	坏	(10.6)			ＡＣＥ	普	黒褐	25%	
380	H	坏	(10.3)	(3.2)		ＡＣＥ	普	灰褐	30%	
381	H	坏	10.7	3.5		ＡＣＥ	普	暗褐	60%	
382	H	坏	(10.7)			ＡＣＥ	普	灰褐	20%	
383	H	坏	(10.7)	2.8		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
384	H	坏	10.5	3.1		ＡＣＤＥ	普	灰褐	80%	
385	H	坏	(10.7)			ＡＣ	普	黒褐	20%	
386	H	坏	(10.7)	(3.1)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
387	H	坏	(10.4)	3.6		ＡＣＥ	普	橙	50%	
388	H	坏	(10.6)	(3.5)		ＡＢＣＤＥ	普	黒褐	50%	
389	H	坏	10.4	3.5		ＡＣＥ	普	灰褐	60%	内面に「×」の線刻
390	H	坏	(10.2)	3.1		ＡＣＥ	普	橙	30%	内面に「×」の線刻
391	H	坏	10.5	3.1		ＡＣＥ	普	黒褐	75%	内面に「×」の線刻
392	H	坏	11.4	3.3		ＡＣＥ	普	灰褐	60%	内面に「×」の線刻
393	H	坏	10.7			ＡＣＥ	普	黒褐	35%	
394	H	坏	10.6	3.5		ＡＣＥ	普	黒褐	90%	
395	H	坏	(10.8)	(3.6)		ＡＣＥ	普	灰褐	20%	
396	H	坏	(10.8)			ＡＣＥ	普	にぶい赤褐	30%	
第34図 397	H	坏	(10.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
398	H	坏	(10.8)	(3.6)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
399	H	坏	(10.6)	3.3		ＡＣＥ	普	黒褐	40%	
400	H	坏	(10.6)	(3.1)		ＡＢＣＥ	普	黒褐	30%	
401	H	坏	10.8	3.5		ＡＣＥ	普	橙	70%	
402	H	坏	(10.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
403	H	坏	10.7	3.4		ＡＣＥ	普	橙	100%	
404	H	坏	10.9	3.8		ＡＢＣＥ	普	橙	90%	
405	H	坏	(10.9)	(3.2)		ＡＣＥ	普	黒褐	30%	

第10表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第34図 406	H	坏	(10.8)	(2.9)		ＡＣＥ	普	黒褐	40%	
407	H	坏	(11.0)	(3.1)		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
408	H	坏	(10.8)	(3.2)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	25%	
409	H	坏	10.9	3.5		ＡＣＥ	良	灰褐	100%	
410	H	坏	(11.0)	3.7		ＡＢＣＥ	普	黒褐	40%	
411	H	坏	11.1	3.2		ＡＣＥ	良	灰褐	50%	
412	H	坏	(11.1)	3.1		ＡＣＥ	普	黒褐	25%	
413	H	坏	10.8	3.3		ＡＣＥ	普	黒褐	80%	
414	H	坏	(11.1)	3.4		ＡＢＣＥ	普	黒褐	35%	
415	H	坏	11.1	3.3		ＡＣＥ	普	灰褐	70%	
416	H	坏	(11.3)	(3.4)		ＡＣＥ	普	灰褐	20%	
417	H	坏	(11.2)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
418	H	坏	(11.2)	(3.6)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
419	H	坏	11.2	3.9		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
420	H	坏	11.2	3.6		ＡＣＥ	普	黒褐	75%	
421	H	坏	(11.2)	3.0		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
422	H	坏	(11.3)	3.2		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
423	H	坏	11.0	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	100%	
424	H	坏	(11.2)	3.1		ＡＣＥ	普	橙	30%	
425	H	坏	(11.4)	(3.4)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	30%	
426	H	坏	11.6	3.8		ＡＣＥ	普	灰褐	80%	
427	H	坏	11.4	3.3		ＡＣＥ	普	黒褐	90%	
428	H	坏	11.3	3.4		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
429	H	坏	11.3	3.4		ＡＣＥ	普	黒褐	75%	
430	H	坏	11.6	3.2		ＡＣＥ	普	橙	100%	
431	H	坏	11.4	3.8		ＡＣＥ	普	灰褐	75%	
432	H	坏	(11.5)	(3.4)		ＡＣＥ	普	灰褐	30%	
433	H	坏	11.4	3.2		ＡＣＥ	普	黒褐	95%	
434	H	坏	(11.7)	3.3		ＡＣＥ	普	橙	30%	
435	H	坏	(11.6)	3.0		ＡＣＥ	普	黒褐	45%	
第35図 436	H	坏	11.4	(3.6)		ＡＣＥ	普	黒褐	70%	
437	H	坏	(11.6)	(3.3)		ＡＣＤＥ	普	暗褐	40%	
438	H	坏	(11.9)	(3.7)		ＡＢＣＤＥ	良	橙	20%	
439	H	坏	12.0	3.8		ＡＣＥ	普	橙	85%	
440	H	坏	(12.2)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
441	H	坏	(12.2)			ＡＢＣＥ	良	赤褐	20%	
442	H	坏	(12.9)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
443	H	坏	(12.5)	4.1		ＡＣＥ	普	橙	30%	
444	H	坏	(12.8)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
445	H	坏	(9.1)	(2.6)		ＡＣ	良	赤褐	30%	内外面を赤彩
446	H	坏	(10.0)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	25%	
447	H	坏	(10.2)	(2.9)		ＡＢＣＥ	良	黒褐	35%	
448	H	坏	10.1	3.3		ＡＣＩ	普	橙	100%	
449	H	坏	(10.2)	(3.3)		ＡＣＤＥ	普	橙	40%	
450	H	坏	10.2	3.5		ＡＣＥ	普	橙	60%	
451	H	坏	10.6	(3.8)		ＡＣＥＨ	普	橙	50%	
452	H	坏	10.7	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
453	H	坏	(11.2)	3.6		ＡＣＥＩ	普	橙	40%	
454	H	坏	(11.7)			ＡＣＥ	普	橙	25%	

第11表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（2）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第35図 455	H	坏	(11.5)	(2.8)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
456	H	坏	(11.8)	(3.7)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
457	H	坏	(13.8)			ＡＣＥ	普	暗褐	25%	
458	H	坏	(12.8)	(4.8)		ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
459	H	坏	(11.7)	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	黒褐	20%	
460	H	坏	(11.8)	3.4		ＡＣＥＩ	普	橙	50%	
461	H	坏	12.6	4.2		ＡＢＣＥＦ	普	橙	95%	
462	H	坏	(13.2)	(2.8)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
463	H	坏	(13.6)			ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
464	H	坏	(13.8)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
465	H	坏	14.7	4.1		ＡＣＥ	普	橙	80%	
466	H	坏	(14.5)	(4.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
467	H	坏	(10.3)	(4.7)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
468	H	坏	10.6	3.4		ＡＢＣＥ	普	橙	90%	
469	H	坏	10.8	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	75%	
470	H	坏	10.8	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	60%	
471	H	坏	(10.9)	(3.0)		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
472	H	坏	(11.3)	(3.1)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
473	H	坏	(11.0)	(3.3)		ＡＣＥ	普	赤褐	20%	
第36図 474	H	坏	(11.3)	3.3		ＡＣＥ	普	橙	50%	
475	H	坏	(11.2)	(3.2)		ＡＣＥ	良	赤褐	40%	
476	H	坏	(11.2)	3.1		ＡＣＥ	普	にぶい橙	25%	
477	H	坏	11.0	3.1		ＡＣＥ	普	赤褐	60%	
478	H	坏	(11.1)	(3.3)		ＡＣＥ	普	橙	50%	
479	H	坏	(11.1)	(3.6)		ＡＣＥ	良	赤褐	25%	
480	H	坏	(10.8)	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
481	H	坏	(10.9)	(3.6)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
482	H	坏	(11.3)			ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
483	H	坏	(11.2)	(2.9)		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
484	H	坏	(11.2)	3.2		ＡＣＥ	普	にぶい橙	35%	
485	H	坏	10.8	3.4		ＡＢＣＥ	良	橙	80%	
486	H	坏	(11.3)	(3.6)		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
487	H	坏	11.3	(3.0)		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
488	H	坏	(10.9)	3.7		ＡＣＥ	普	橙	55%	
489	H	坏	11.3	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	60%	
490	H	坏	11.5	(3.8)		ＡＣＥ	普	橙	45%	
491	H	坏	(11.4)	(3.3)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
492	H	坏	11.3	3.4		ＡＣＥ	普	橙	80%	
493	H	坏	11.5	3.2		ＡＣＥ	普	橙	60%	
494	H	坏	(11.2)	(3.1)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
495	H	坏	11.5	3.8		ＡＣＥ	普	橙	75%	
496	H	坏	11.1	3.3		ＡＢＣＥＨ	普	赤褐	85%	
497	H	坏	(11.4)	(3.4)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
498	H	坏	(11.4)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
499	H	坏	(11.3)	2.7		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
500	H	坏	11.3	3.2		ＡＢＣＥ	良	橙	80%	
501	H	坏	11.5	(4.0)		ＡＣＥ	普	橙	45%	
502	H	坏	11.7	4.0		ＡＣＥ	普	橙	90%	
503	H	坏	(11.6)	3.8		ＡＣＥ	普	橙	50%	

第12表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（3）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第36図 504	H	坏	11.6	3.9		ＡＢＣＥ	普	橙	70%	
505	H	坏	11.6	3.4		ＡＣＥ	普	橙	70%	
506	H	坏	(11.7)			ＡＣＥ	普	黒褐	10%	
507	H	坏	(11.7)	(3.3)		ＡＢＣＥ	普	橙	15%	
508	H	坏	(11.7)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
509	H	坏	(11.7)	3.3		ＡＢＣＥ	普	黒褐	50%	
510	H	坏	(11.8)	(4.1)		ＡＣＥ	普	灰褐	15%	
511	H	坏	11.9	3.8		ＡＢＣＥ	普	橙	100%	
512	H	坏	(11.9)	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
513	H	坏	(11.7)	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	60%	
514	H	坏	(11.2)	(3.8)		ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
515	H	坏	(11.7)	3.6		ＡＣＥ	普	赤褐	45%	
516	H	坏	(12.1)	(3.7)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
第37図 517	H	坏	(11.8)	(3.1)		ＡＣＥ	良	橙	40%	
518	H	坏	(11.7)	3.3		ＡＢＣＥ	普	赤褐	35%	
519	H	坏	11.9	(3.3)		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
520	H	坏	11.7	2.6		ＡＣＥ	良	橙	55%	
521	H	坏	(12.1)	(3.3)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
522	H	坏	(11.8)	3.8		ＡＣＥ	普	橙	40%	
523	H	坏	(11.6)	3.2		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
524	H	坏	(11.8)	(3.7)		ＡＣＥ	普	灰褐	30%	
525	H	坏	11.9	(3.8)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
526	H	坏	(11.8)	(3.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
527	H	坏	11.8	(3.8)		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
528	H	坏	11.9	3.8		ＡＣＥ	普	赤褐	75%	
529	H	坏	12.0	3.9		ＡＣＥ	普	橙	90%	
530	H	坏	11.9	3.8		ＡＣＥ	普	橙	70%	
531	H	坏	(11.8)	3.8		ＡＣＥ	良	赤褐	50%	
532	H	坏	(11.8)	(3.9)		ＡＣＥ	普	橙	45%	
533	H	坏	(11.8)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
534	H	坏	(11.9)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
535	H	坏	(12.3)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
536	H	坏	(12.2)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
537	H	坏	12.3	3.9		ＡＣＥ	普	灰褐	95%	
538	H	坏	12.3	3.3		ＡＢＣＥ	普	橙	65%	
539	H	坏	12.4	3.4		ＡＣＥ	良	赤褐	75%	
540	H	坏	12.1	3.8		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
541	H	坏	(12.3)	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
542	H	坏	12.3	3.3		ＡＣＥ	良	赤褐	55%	
543	H	坏	12.0	3.6		ＡＢＣＤＥ	普	橙	80%	
544	H	坏	(12.1)	(3.2)		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
545	H	坏	12.2	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	95%	
546	H	坏	12.2	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	100%	
547	H	坏	12.0	3.3		ＡＢＣＥ	普	赤褐	55%	
548	H	坏	(12.0)	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	35%	
549	H	坏	(12.1)	3.0		ＡＣＥ	普	にぶい橙	45%	
550	H	坏	(12.1)	(3.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
551	H	坏	(12.0)	(3.3)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
552	H	坏	(12.1)	3.7		ＡＣＥ	普	橙	45%	

第13表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（4）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第37図 553	H	坏	12.4	4.1		ＡＣＥ	普	黒褐	80%	内面黒色処理
554	H	坏	(12.3)	3.9		ＡＢＣＥ	良	橙	45%	
555	H	坏	12.1	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	100%	
第38図 556	H	坏	(12.1)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	45%	
557	H	坏	(12.1)	(3.7)		ＡＢＣＤＥ	普	赤褐	20%	
558	H	坏	12.3	3.4		ＡＢＣＥ	良	赤褐	75%	
559	H	坏	(11.9)	(3.3)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
560	H	坏	(11.8)	3.6		ＡＣＥ	普	橙	50%	
561	H	坏	(12.3)	(4.3)		ＡＣＥ	普	橙	35%	
562	H	坏	12.2	3.6		ＡＣＥ	普	橙	75%	
563	H	坏	(12.1)	(3.2)		ＡＣＥ	普	赤褐	40%	
564	H	坏	(12.2)			ＡＣＥ	普	灰褐	30%	
565	H	坏	12.0	(3.7)		ＡＣＥ	普	橙	50%	
566	H	坏	(12.2)	3.6		ＡＣＥ	普	橙	50%	
567	H	坏	(12.3)	(3.6)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
568	H	坏	12.5	4.2		ＡＣＥ	普	灰褐	90%	内面に「×」の線刻
569	H	坏	(12.4)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
570	H	坏	12.4	3.7		ＡＣＥ	普	橙	60%	
571	H	坏	(12.3)	(3.0)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
572	H	坏	12.6	3.2		ＡＢＣＥ	普	橙	95%	
573	H	坏	(12.3)	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
574	H	坏	(12.4)			ＡＣＥ	普	橙	40%	
575	H	坏	(12.7)	3.5		ＡＢＣＥ	良	橙	50%	
576	H	坏	(12.6)	(3.0)		ＡＢＣＥ	良	赤褐	25%	
577	H	坏	(12.7)	(4.3)		ＡＣＥ	普	灰褐	25%	
578	H	坏	(12.7)	(3.9)		ＡＣＥ	普	橙	40%	
579	H	坏	(12.7)	3.5		ＡＣＥ	普	橙	30%	
580	H	坏	(12.8)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
581	H	坏	(12.7)	(3.5)		ＡＢＣＥ	普	黒褐	40%	
582	H	坏	(12.4)	(3.0)		ＡＣＥ	普	橙	35%	
583	H	坏	12.8	3.8		ＡＣＥ	普	橙	60%	
584	H	坏	12.4	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	90%	
585	H	坏	(12.8)	4.2		ＡＢＣＥ	普	赤褐	50%	
586	H	坏	12.6	4.1		ＡＣＥ	普	橙	80%	
587	H	坏	(12.6)	(2.9)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
588	H	坏	(12.4)			ＡＢＣＥ	普	橙	15%	
589	H	坏	(12.8)	3.3		ＡＢＣＥ	良	橙	40%	
590	H	坏	12.9	3.4		ＡＢＣＥ	普	橙	75%	
591	H	坏	(12.9)	3.7		ＡＣＥ	普	橙	50%	
592	H	坏	13.1	4.1		ＡＣＥ	普	橙	95%	
593	H	坏	12.9	(4.1)		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
594	H	坏	12.8	4.4		ＡＢＣＥ	普	橙	85%	
第39図 595	H	坏	12.7	3.3		ＡＣＥ	普	橙	85%	
596	H	坏	(12.7)	(3.6)		ＡＣＥ	普	赤褐	20%	
597	H	坏	(12.6)	3.5		ＡＣＥ	普	赤褐	50%	
598	H	坏	(12.6)	3.5		ＡＣＥ	普	橙	50%	
599	H	坏	12.6	3.8		ＡＢＣＤＥ	普	橙	55%	
600	H	坏	12.7	4.3		ＡＣＥ	普	橙	60%	
601	H	坏	(12.6)	4.0		ＡＣＥ	普	橙	45%	

第14表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（5）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第39図 602	H	坏	(12.5)	4.0		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
603	H	坏	(12.9)	(2.7)		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
604	H	坏	(12.6)			ＡＣＥ	普	橙	25%	
605	H	坏	(12.7)			ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	25%	
606	H	坏	12.3			ＡＣＥ	普	にぶい橙	40%	
607	H	坏	(13.0)	(3.0)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
608	H	坏	12.6	4.2		ＡＣＥ	普	赤褐	70%	
609	H	坏	(12.6)	(3.9)		ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
610	H	坏	(12.7)			ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
611	H	坏	12.7			ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
612	H	坏	12.7	3.6		ＡＣＥ	良	橙	50%	
613	H	坏	(12.7)	4.1		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
614	H	坏	(12.7)	3.3		ＡＣＥ	普	橙	50%	
615	H	坏	(12.6)	3.6		ＡＢＣＥ	良	橙	45%	
616	H	坏	(13.0)			ＡＣＥＩ	普	橙	20%	
617	H	坏	(13.0)	4.1		ＡＣＥ	普	黒褐	40%	
618	H	坏	(13.3)	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
619	H	坏	(12.9)			ＡＣＥ	普	赤褐	20%	
620	H	坏	(13.2)			ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
621	H	坏	(13.2)	(3.7)		ＡＢＣＥ	良	橙	35%	
622	H	坏	13.2	4.2		ＡＣＥ	普	黒褐	90%	
623	H	坏	(13.2)	(3.1)		ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
624	H	坏	(13.1)			ＡＣＥ	良	橙	25%	
625	H	坏	13,2	4.1		ＡＣＥＨ	普	橙	50%	
626	H	坏	(13.3)	(3.5)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
627	H	坏	(13.4)	(3.4)		ＡＣＥ	普	灰褐	25%	
628	H	坏	(13.5)			ＡＣＥ	普	黒褐	20%	
629	H	坏	13.4	3.8		ＡＢＣＥ	普	橙	90%	
630	H	坏	(13.6)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
631	H	坏	(13.7)	4.3		ＡＢＣＥ	普	赤褐	40%	
632	H	坏	(13.7)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
633	H	坏	(13.6)	(3.8)		ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
第40図 634	H	坏	(13.6)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
635	H	坏	(13.6)	4.7		ＡＣＥ	普	黒褐	60%	
636	H	坏	(14.3)			ＡＣＥ	普	橙	25%	
637	H	坏	(14.2)			ＡＣＥ	普	にぶい赤褐	20%	
638	H	坏	(14.2)			ＡＣＥ	普	灰褐	35%	
639	H	坏	(14.2)	(3.4)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
640	H	坏	14.2	3.8		ＡＣＥ	良	橙	60%	
641	H	坏	(14.7)			ＡＢＣＥ	良	橙	25%	
642	H	坏	14.3	4.1		ＡＣＥ	普	暗褐	75%	
643	H	坏	(14.8)	3.7		ＡＢＣＥ	普	赤褐	50%	
644	H	坏	14.8	(3.4)		ＡＣＥ	普	橙	45%	
645	H	坏	(14.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
646	H	坏	(14.8)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
647	H	坏	15.2	4.5		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
648	H	坏	(16.1)			ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
649	H	坏	(16.0)	(4.3)		ＡＣＥ	普	橙	30%	
650	H	坏	(17.2)			ＡＣＥ	普	橙	25%	

第15表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（6）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第40図 651	H	坏	(18.1)			ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
652	H	坏	(16.8)	5.0		ＡＢＣＥ	普	赤褐	25%	
653	H	坏	18.2	5.2		ＡＣＥ	普	赤褐	85%	
654	H	坏	17.6	6.5		ＡＣＥ	普	橙	95%	
655	H	坏				ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
656	H	坏	(14.7)			ＡＣＥ	普	黒褐	20%	内面黒色処理
657	H	坏				ＡＢＣＥ	普	橙	10%	内面に線刻
658	H	坏				ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	内面に線刻
659	H	坏				ＡＣＥ	普	赤褐	10%	内面に線刻
660	H	坏				ＡＢＣＥ	普	暗褐	５％	内面に線刻
661	H	坏				ＡＢＣＤＥ	普	橙	10%	内面に線刻
662	H	坏				ＡＣＥＩ	普	橙	10%	内面に線刻
663	H	坏				ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	10%	内面に線刻
664	H	坏				ＡＢＣＥ	普	灰褐	５％	内面に線刻
665	H	坏				ＡＢＣＥ	普	暗褐	10%	外面に線刻
666	H	蓋				ＡＣＥ	普	橙	15%	
第41図 667	H	皿	18.0	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	50%	
668	H	皿	(18.9)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
669	H	皿	(19.0)	2.5		ＡＣＥ	普	橙	45%	
670	H	皿	(19.2)	3.2		ＡＣＥ	普	赤褐	35%	
671	H	皿	(19.7)			ＡＣＥ	普	橙	10%	
672	H	皿	19.7	(3.8)		ＡＣＥ	普	橙	70%	
673	H	皿	(20.5)			ＡＢＣＥ	普	灰褐	20%	
674	H	皿	20.2	3.1		ＡＣＥ	普	黒褐	60%	
675	H	皿	20.3	3.5		ＡＣＥ	普	灰褐	75%	
676	H	皿	20.1	3.2		ＡＢＣＥ	普	赤褐	45%	
677	H	皿	(20.5)			ＡＣＥ	普	橙	15%	
678	H	皿	(20.6)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	20%	
679	H	皿	(20.6)	3.2		ＡＢＣＥ	普	赤褐	45%	
680	H	皿	(20.6)	2.7		ＡＣＥ	普	橙	25%	
681	H	皿	(20.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	35%	
682	H	皿	20.9	2.8		ＡＣＥ	普	灰褐	75%	
683	H	皿	(21.2)	3.6		ＡＣＥ	普	橙	45%	
684	H	皿	(21.2)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
685	H	皿	21.2	3.0		ＡＢＣＥ	良	赤褐	90%	
686	H	皿	21.3	2.8		ＡＣＥ	普	橙	55%	
687	H	皿	21.5	2.9		ＡＢＣＥ	普	橙	70%	
688	H	皿	(21.2)	(3.2)		ＡＣＥ	普	黒褐	25%	
689	H	皿	(21.4)	(2.8)		ＡＢＣＥ	普	赤褐	25%	
第42図 690	H	皿	(21.0)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
691	H	皿	(21.1)			ＡＣＥ	普	灰褐	10%	
692	H	皿	(21.5)	2.9		ＡＣＥ	普	黒褐	40%	
693	H	皿	21.6	3.1		ＡＢＣＥ	普	橙	55%	
694	H	皿	21.5	3.0		ＡＣＥ	良	橙	75%	
695	H	皿	(21.7)	(3.3)		ＡＣＥ	普	暗褐	40%	
696	H	皿	(21.2)	(3.0)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	45%	
697	H	皿	(21.4)	2.0		ＡＣＤＥ	普	橙	45%	
698	H	皿	22.0	3.1		ＡＢＣＥＩ	普	橙	70%	
699	H	皿	(22.0)	3.5		ＡＣＥ	普	橙	60%	

第16表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（7）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第42図 700	H	皿	22.6	3.1		ＡＣＥ	普	赤褐	60%	
701	H	皿	22.7	(2.5)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	70%	
702	H	皿	22.8	(1.7)		ＡＣＥ	普	にぶい橙	30%	
703	H	皿	(23.0)	2.9		ＡＣＥ	普	灰褐	35%	
704	H	皿	(23.0)			ＡＣＥ	普	灰褐	25%	
705	H	皿	(23.3)			ＡＣＥ	普	灰褐	15%	
706	H	皿	(23.5)	3.5		ＡＣＥ	普	黒褐	50%	
707	H	皿	23.4	2.8		ＡＣＥ	普	橙	60%	
708	H	皿	(23.7)			ＡＣＥ	普	灰褐	５％	内面に線刻
709	H	皿	23.6	2.7		ＡＢＣＥ	普	橙	60%	
第43図 710	H	皿	(24.0)			ＡＣＥ	普	橙	10%	
711	H	皿	(24.2)	2.4		ＡＣＥ	普	にぶい橙	50%	
712	H	皿	23.9	2.3		ＡＣＥ	普	灰褐	50%	
713	H	皿	20.3	(3.7)		ＡＣＥ	普	赤褐	60%	
714	H	皿	(20.7)	2.9		ＡＣＥ	普	橙	20%	
715	H	皿	(21.7)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	15%	
716	S	蓋	9.3	3.8		ＡＣ	良	暗灰	80%	外面に線刻
717	S	蓋	9.6	3.6		ＡＣＨ	普	灰	75%	外面に線刻
718	S	蓋	9.5	3.6		ＡＣ	良	灰	40%	
719	S	蓋	9.8	4.0		ＡＣ	普	灰	80%	
720	S	蓋	10.3	3.6		ＡＣ	良	青灰	100%	
721	S	坏	(10.0)	3.7		ＡＣ	良	灰	45%	
722	S	坏	(10.1)	3.3		ＡＣ	普	灰	40%	外面に線刻
723	S	坏	(10.8)			ＡＣ	良	灰	５％	
724	S	蓋	10.4	(2.7)		ＡＣＦＨ	良	暗灰	45%	
725	S	蓋	10.6	3.7		ＡＣＨ	良	青灰	100%	外面に自然釉
726	S	蓋	(10.5)	(3.7)		ＡＣ	良	灰	40%	外面に自然釉
727	S	蓋	10.9	3.2		ＡＣ	良	暗灰	55%	外面に自然釉
728	S	蓋	(10.8)			ＡＣ	良	灰	20%	
729	S	蓋	(11.0)	(3.5)		ＡＣＨ	普	灰	45%	
730	S	蓋	(10.8)	(3.5)		ＡＣＦＨ	良	灰	40%	
731	S	蓋	(10.9)	2.9		ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
732	S	蓋	(11.0)	(2.7)		ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
733	S	蓋	11.0	(2.9)		ＡＣＦＨ	良	灰	80%	
734	S	蓋	11.0			ＡＣＦＨ	普	灰	40%	
735	S	蓋	(11.2)	(2.7)		ＡＣＦＨ	不良	灰褐	20%	
736	S	蓋	11.5	3.1		ＡＣＨ	良	灰	100%	
737	S	蓋	(11.7)	(2.8)		ＡＣＦＨ	良	青灰	20%	
738	S	蓋	(11.7)	(3.1)		ＡＣ	良	灰	20%	外面に自然釉
739	S	蓋	(11.8)	(3.2)		ＡＣＨ	良	灰	20%	外面に自然釉
740	S	蓋	(12.5)	(3.4)		ＡＣＨ	普	灰	20%	
741	S	蓋	(12.5)	2.8		ＡＣＦＨ	良	青灰	35%	
742	S	蓋	(12.8)	(3.0)		ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
743	S	蓋	(14.1)	(3.8)		ＡＢＣＨ	普	灰	25%	
744	S	蓋	(14.2)	3.6		ＡＣＦＨ	普	灰	30%	
745	S	蓋	14.8	(3.8)		ＡＣＦＨ	普	灰	90%	
第44図 746	S	蓋	(15.6)			ＡＣ	普	灰	10%	内面に自然釉
747	S	蓋	(15.3)	3.8		ＡＣＨ	普	灰	25%	
748	S	蓋	(15.7)			ＡＣＦＨ	良	青灰	15%	

第17表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（8）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第44図 749	S	蓋	(15.7)	(3.5)		ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
750	S	蓋	(15.9)			ＡＣＨ	普	灰	15%	
751	S	蓋	(16.3)			ＡＣＨ	良	青灰	20%	
752	S	蓋	(16.8)			ＡＣＨ	良	灰	20%	
753	S	蓋	(15.6)	(4.9)		ＡＣ	良	灰	20%	外面に自然釉
754	S	蓋	(16.6)	(4.3)		ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
755	S	蓋	(17.3)	3.4		ＡＣＦＨ	普	灰褐	25%	
756	S	蓋	(18.3)	(4.0)		ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
757	S	蓋	(19.1)	(5.0)		ＡＢＣＨ	良	灰	30%	
758	S	蓋	(19.6)			ＡＣＦＨ	普	灰	15%	
759	S	蓋	(20.9)			ＡＣＨ	良	青灰	15%	
760	S	蓋	(21.8)	2.5		ＡＣＦＨ	良	青灰	40%	
761	S	蓋	(21.3)			ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
762	S	蓋	(20.7)	(5.2)		ＡＣＦＨ	普	灰	40%	
763	S	蓋	(22.6)	(4.1)		ＡＢＣＦＨ	不良	灰	30%	
764	S	蓋	(11.2)	1.9		ＡＣＤＦＨ	良	灰	30%	
765	S	蓋	(11.8)	(2.6)		ＡＣＤＨ	普	にぶい赤褐	25%	
766	S	蓋				ＡＣＦＨ	良	灰	25%	
767	S	蓋				ＡＣＥＦＨ	不良	灰褐	25%	
768	S	蓋				ＡＣＨ	良	青灰	５%	
769	S	蓋				ＡＢＣ	普	にぶい橙	５%	
770	S	蓋				ＡＢＣＦＨ	不良	にぶい橙	10%	
771	S	蓋				ＡＣＧＨ	良	青灰	30%	
772	S	坏	(9.2)	(3.2)	6.0	ＡＣＦＨ	良	青灰	50%	
773	S	坏	(9.3)	(4.0)	(7.1)	ＡＢＣＦＨ	普	にぶい橙	40%	
774	S	坏	9.5	3.1	6.5	ＡＣ	良	青灰	80%	
775	S	坏	9.4	3.2	5.6	ＡＣＦＨ	普	灰	75%	
776	S	坏	9.6	3.0	6.0	ＡＣＦＨ	良	青灰	90%	
777	S	坏	9.7	4.3	5.5	ＡＣＤＦＨＩ	普	青灰	100%	
第45図 778	S	坏	(9.8)	(3.9)	(5.5)	ＡＣＦＨ	普	灰褐	45%	
779	S	坏	10.1	3.6	5.0	ＡＣＨ	良	灰	90%	
780	S	坏	9.9	4.0	6.5	ＡＣＨ	良	灰	80%	
781	S	坏	10.2	(3.3)	(7.0)	ＡＣＨ	普	灰	35%	
782	S	坏	(10.2)			ＡＣ	良	灰	15%	
783	S	坏	(10.0)	3.9	(6.0)	ＡCI	普	灰	25%	
784	S	坏	(10.2)	(3.4)	(6.5)	ＡＣＨ	良	灰	25%	
785	S	坏	10.5	3.6	5.0	ＡＣＤＦＨ	良	灰	90%	
786	S	坏	10.1	3.9	5.4	ＡＣＤＨ	良	灰	70%	
787	S	坏	(10.6)	(3.5)	(7.0)	ＡＣ	良	灰	20%	
788	S	坏	(10.8)			ＡＣ	良	灰	20%	
789	S	坏	(10.4)			ＡＣＨ	良	灰	25%	
790	S	坏	10.6	3.9	4.3	ＡＣ	良	灰	75%	
791	S	坏	10.8	4.0	4.6	ＡＣＨ	良	灰	50%	
792	S	坏			(2.8)	ＡＣ	良	黒褐	20%	
793	S	坏	(12.4)	(3.9)	(8.0)	ＡＣＦＨ	良	青灰	40%	
794	S	坏	(13.4)			ＡＣ	良	灰	15%	
795	S	坏	(13.7)			ＡＣＦＨ	普	灰	15%	
796	S	坏	(16.1)	(4.6)	(10.4)	ＡＢＣＥＨ	普	灰	30%	
797	S	坏	(17.9)	3.9	(10.0)	ＡＣＦＨ	良	青灰	30%	

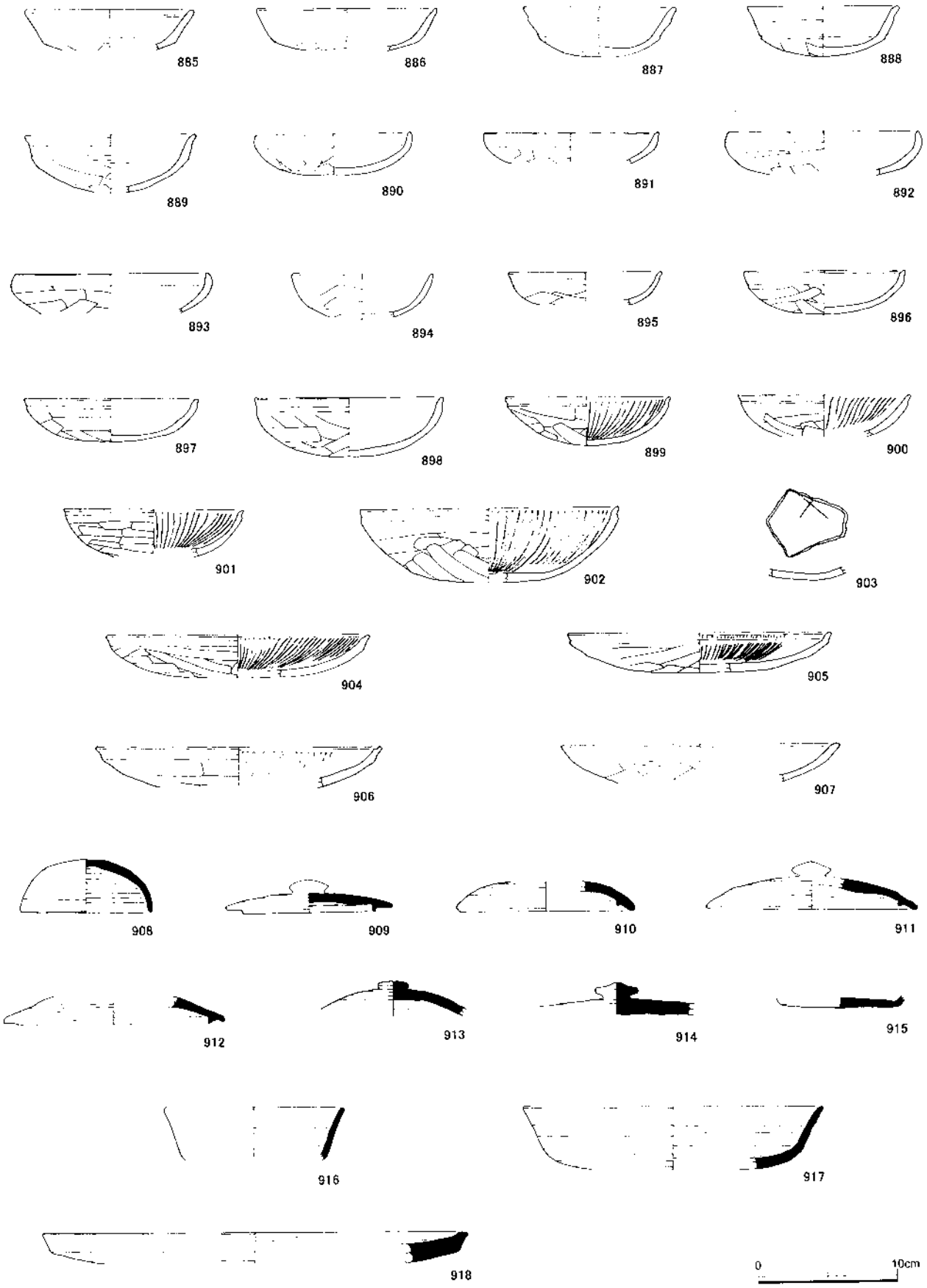
第18表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（9）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第45図 798	S	坏	(17.8)	(4.5)	(9.8)	ＡＢＣＥＨ	普	灰	25%	
799	S	坏			(7.2)	ＡＣＦＨ	良	灰	20%	
800	S	坏			(9.0)	ＡＣＦＨ	良	灰	20%	
801	S	坏	15.4	4.6	10.0	ＡＣＦＨ	良	灰	90%	
802	S	高台坏			9.6	ＡＣＦＨ	不良	灰	30%	
803	S	高台坏			(12.0)	ＡＣＨ	良	灰	10%	
804	S	脚付盤	25.5	(8.0)	(12.1)	ＡＣＦＨ	良	青灰	50%	
805	S	脚付盤	(25.7)	(9.1)	(12.6)	ＡＣＥＦＨ	良	灰褐	50%	
806	S	脚付盤	(27.0)	(6.9)	(13.8)	ＡＣＧＨ	普	灰	15%	
第46図 807	S	脚付盤	24.3	6.4	13.5	ＡＣ	良	灰	85%	
808	S	盤	(21.7)			ＡＣＦＨ	良	青灰	10%	
809	S	盤	(30.3)			ＡＣＥ	普	灰	10%	
810	S	脚付盤			(13.8)	ＡＣ	普	灰	15%	
811	S	瓶				ＡＣ	普	灰		外面に自然釉
812	S	甕	(18.2)			ＡＣＦＨ	良	灰		
813	S	甕	(16.5)	31.0		ＡＣＨ	良	灰	60%	
814	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
815	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
816	S	甕				ＡＣ	良	灰		内外面に自然釉
817	S	甕				ＡＢＣＤＦＨ	普	灰		
818	S	甕				ＡＣＤＥＨ	普	にぶい橙		
第47図 819	H	甕	(8.7)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
820	H	甕	(10.2)			ＡＣＥ	普	にぶい赤褐	20%	
821	H	甕	(11.1)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
822	H	甕	(11.7)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
823	H	甕	12.8			ＡＣＥ	普	橙	20%	
824	H	甕	(16.0)			ＡＣＥＨ	普	橙	10%	口縁部付近の内外面を赤彩
825	H	甕	(16.8)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	15%	
826	H	甕	14.3	21.2	7.0	ＡＢＣＩ	良	橙	60%	底面に木葉痕
827	H	甕	(18.3)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	５％	
828	H	甕	(18.7)			ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
829	H	甕	(19.8)			ＡＣＥＩ	普	橙	５％	
830	H	甕	(20.1)			ＡＣＥＩ	普	橙	10%	
831	H	甕	(19.0)			ＡＣＥＨ	普	橙	５％	
832	H	甕	(19.2)			ＡＣＥ	普	橙	10%	
833	H	甕	(19.8)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	10%	
834	H	甕	(19.5)			ＡＣＥ	普	暗褐	10%	
835	H	甕	20.0			ＡＢＣＥＨ	普	橙	25%	
836	H	甕	(20.4)			ＡＢＣＥＩ	普	橙	20%	
837	H	甕	(20.6)			ＡＣＥＨＩ	普	にぶい橙	25%	
第48図 838	H	甕	(20.1)			ＡＣＥＩ	普	橙	20%	
839	H	甕	(21.3)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	20%	
840	H	甕	(20.4)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
841	H	甕	(21.0)			ＡＣＥＨ	普	にぶい橙	20%	
842	H	甕	(21.9)			ＡＣＥＨ	普	にぶい橙	20%	
843	H	甕	(23.1)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	10%	
844	H	甕	22.4			ＡＣＥ	普	橙	30%	
845	H	甕	22.6			ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	25%	
846	H	甕	(20.0)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	15%	

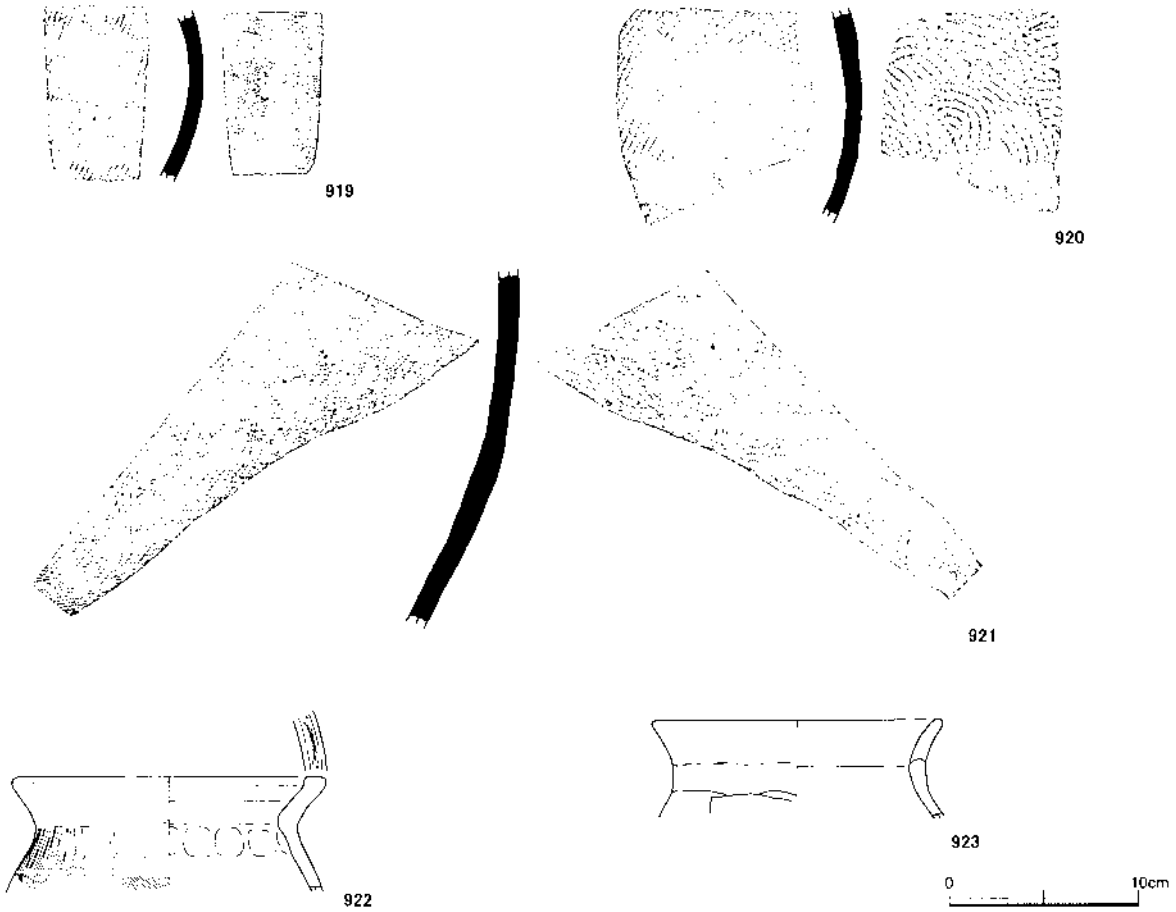
第19表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（10）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第48図 847	H	甕	(20.7)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	20%	
848	H	甕	(20.3)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	５％	
849	H	甕	(21.2)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
850	H	甕	(20.4)			ＡＢＣＥＩ	普	橙	20%	
851	H	甕	(21.3)			ＡＣＥＨ	普	橙	５％	
852	H	甕	(22.4)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
第49図 853	H	甕	(21.3)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
854	H	甕	(21.8)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
855	H	甕	(21.1)			ＡＣＥＨ	普	橙	25%	
856	H	甕	(22.1)			ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
857	H	甕	(22.6)			ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
858	H	甕	(22.1)			ＡＣＥ	普	橙	５％	
859	H	甕	(23.3)			ＡＣＥ	普	橙	10%	
860	H	甕	22.4			ＡＣＥＨ	普	橙	40%	
861	H	甕	22.7			ＡＣＥＨ	普	橙	30%	
862	H	甕	(25.3)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	５％	
863	H	甕	(25.4)			ＡＢＣＥＨＩ	普	にぶい橙	15%	
第50図 864	H	甕				ＡＣＥＨ	普	橙	30%	
865	H	甕				ＡＣＥＨ	普	橙	20%	
866	H	甕			3.9	ＡＢＣＥ	普	灰褐	５％	
867	H	甕			4.7	ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	５％	
868	H	甕			4.2	ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	５％	
869	H	甕			4.9	ＡＣＥ	普	灰褐	５％	
870	H	台付甕			(11.5)	ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
871	H	台付甕			(11.1)	ＡＣＥ	普	にぶい橙	５％	
872	H	台付甕	10.5	(11.6)	(6.5)	ＡＣＥＨ	普	橙	80%	
873	H	鉢	(22.6)			ＡＣＥ	良	橙	30%	
874	H	鉢	(28.7)			ＡＣＥＨ	普	橙	50%	
875	H	支脚			(13.5)	ＡＣＥ	良	橙	45%	
876		土錘	長7.2	幅3.6	厚3.6	ＡＢＣＥ	普	橙	90%	重さ　77.39ｇ
877		棒状鉄製品	長8.5	幅0.6	厚0.4					重さ　6.26ｇ
878		刀子		幅3.1	厚0.7					重さ　3.94ｇ
879		羽口								外面に鉄分が付着
880		鉄滓	長5.6	幅3.3	厚1.4					重さ　35.25ｇ
881		鉄滓	長4.7	幅3.2	厚2.1					重さ　41.70ｇ
882		骨角製品	長11.5	幅1.6	厚0.3					重さ　5.73ｇ
883		円筒埴輪				ＡＣＤＥＨ	普	橙		
884	R	坏			5.0	ＡＢＣＥＨ	普	橙	15%	

第20表　第４号特殊土坑出土遺物観察表（11）



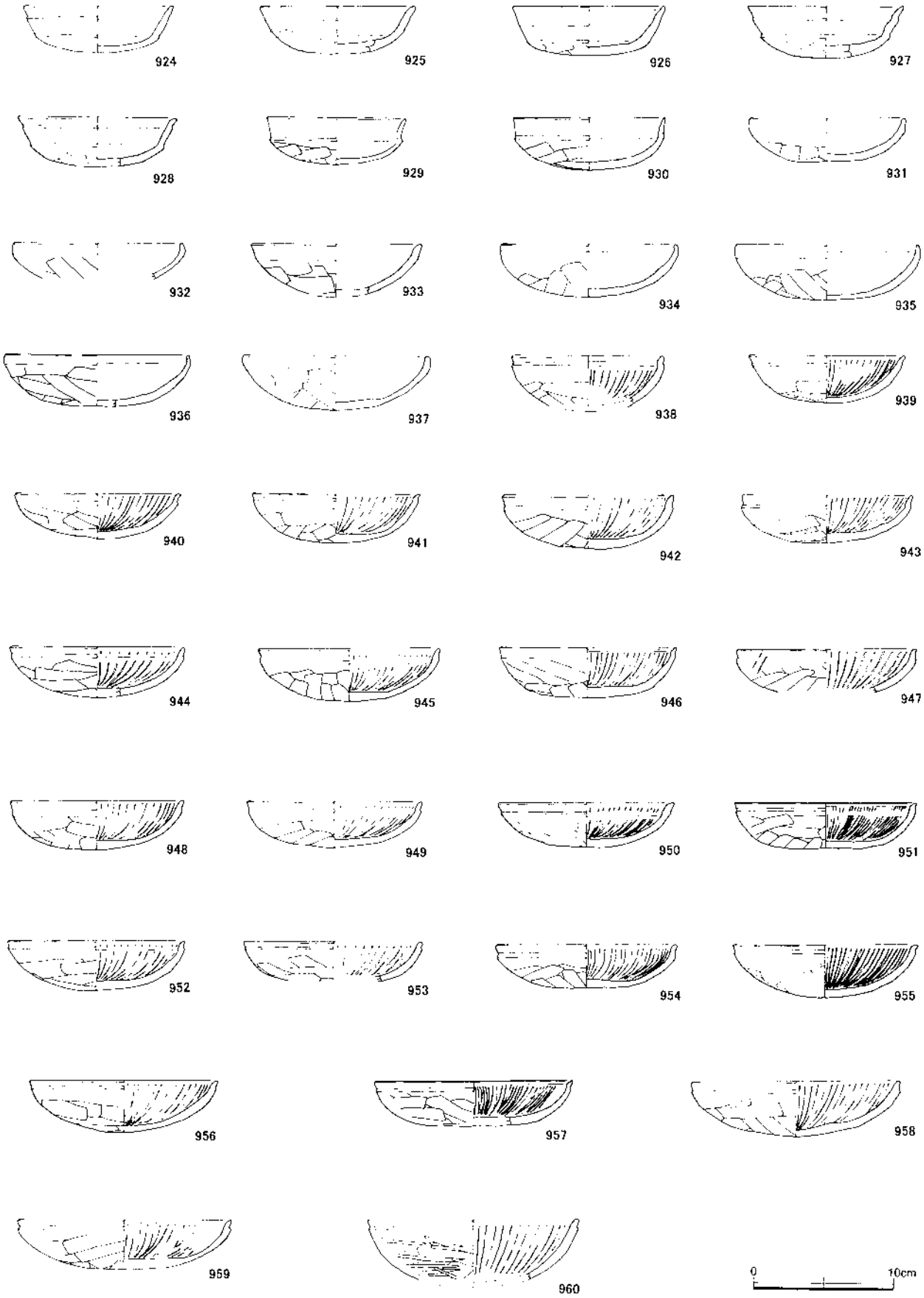
第51図　第５号特殊土坑出土遺物（1）



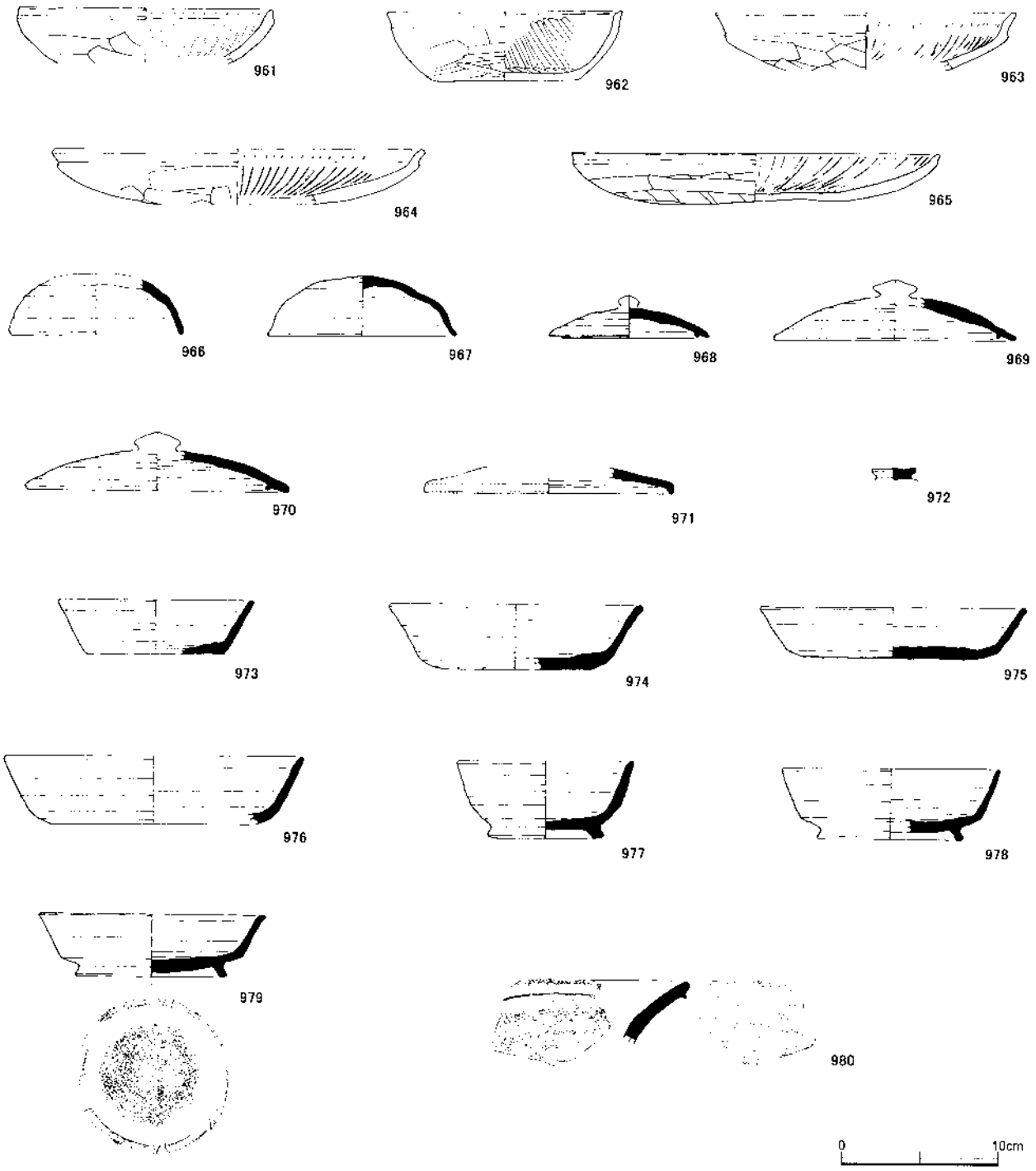
第52図　第５号特殊土坑出土遺物（2）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第51図 885	H	坏	(11.9)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
886	H	坏	(12.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
887	H	坏	(10.7)	3.6		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
888	H	坏	(10.6)	3.6		ＡＣＥ	普	赤褐	50%	
889	H	坏	(12.1)	(4.2)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
890	H	坏	(11.1)	3.0		ＡＣＥＩ	普	橙	30%	
891	H	坏	(12.4)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
892	H	坏	(13.5)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	20%	
893	H	坏	(13.8)			ＡＢＣＥＩ	普	橙	20%	
894	H	坏	(10.0)	(3.3)		ＡＣＥＨＩ	普	赤褐	20%	
895	H	坏	(10.9)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
896	H	坏	11.4	3.1		ＡＣＥ	良	橙	80%	
897	H	坏	12.3	3.1		ＡＢＣＥＩ	普	橙	90%	
898	H	坏	(13.4)	4.2		ＡＣＥＩ	普	橙	25%	
899	H	坏	11.6	3.5		ＡＢＣＥ	普	橙	75%	
900	H	坏	(12.2)			ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
901	H	坏	(12.7)			ＡＣＥＩ	普	橙	20%	
902	H	坏	18.3			ＡＣＥ	普	赤褐	55%	
903	H	坏				ＡＢＣＥＩ	普	橙	10%	内面に線刻

第21表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（1）



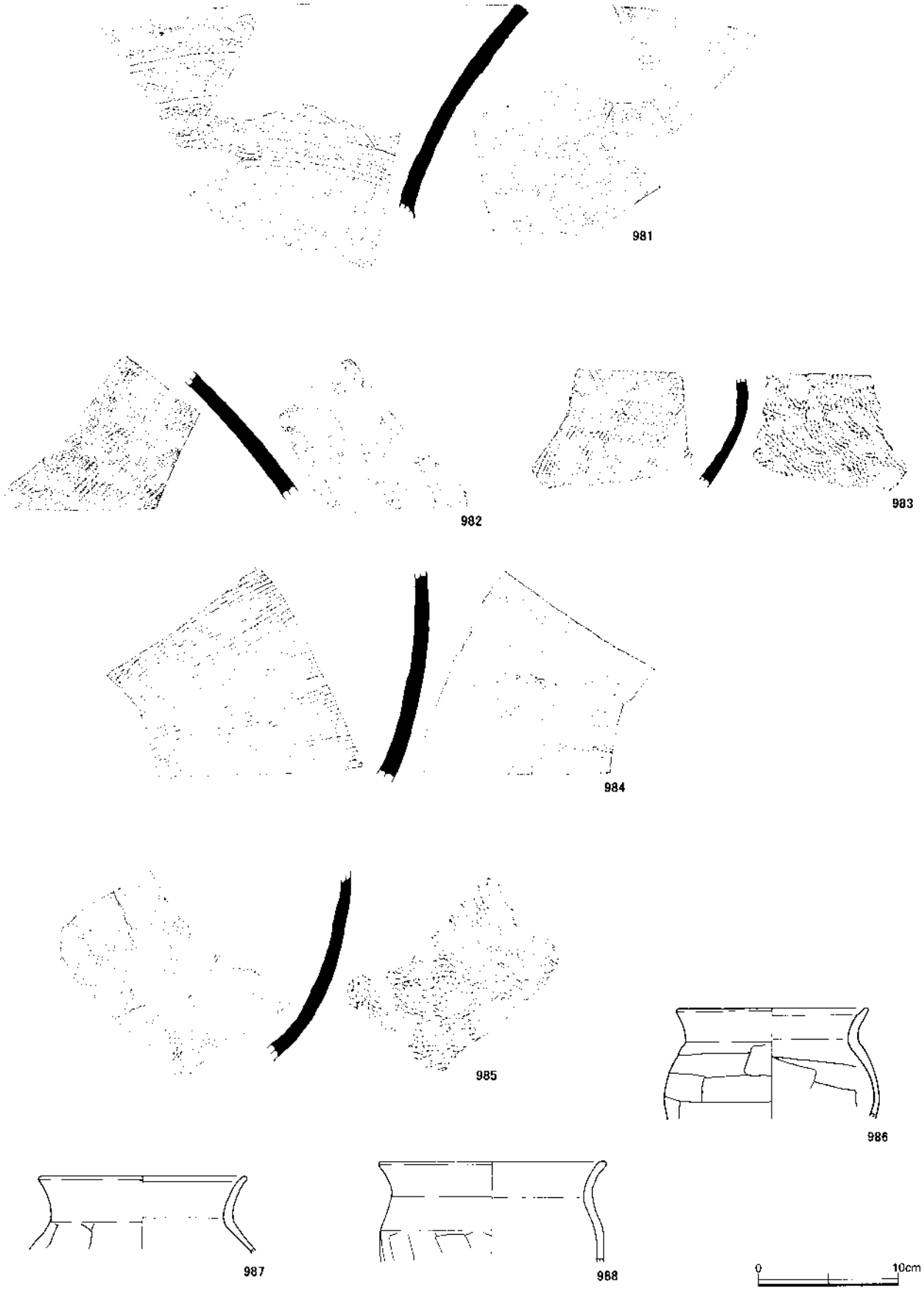
第53図　第６号特殊土坑出土遺物（1）



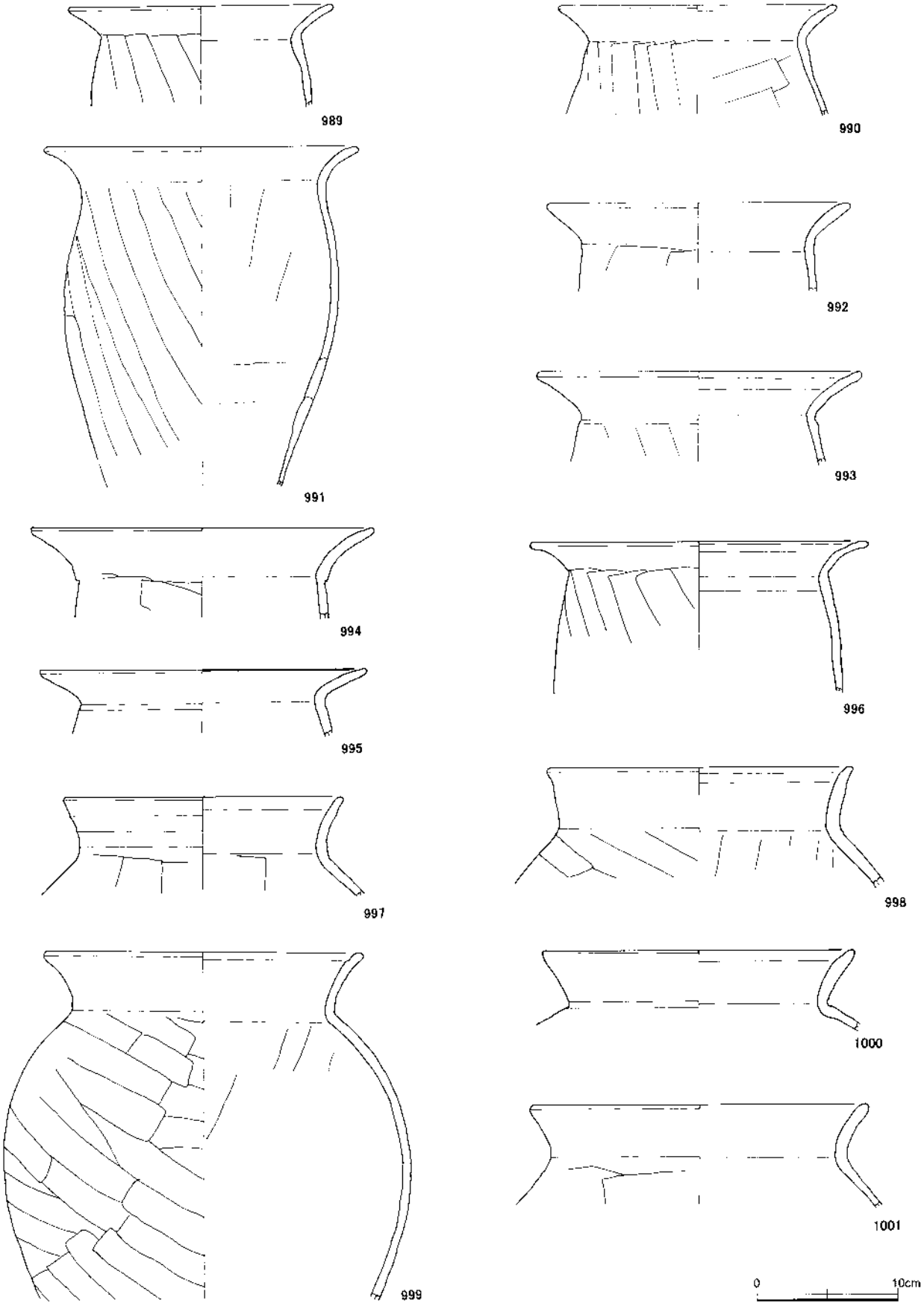
第54図　第６号特殊土坑出土遺物（2）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第51図 904	H	皿	(18.7)	(3.0)		ＡＢＣＥ	普	橙	20%	
905	H	皿	(18.7)	(2.8)		ＡＣＥ	普	橙	15%	
906	H	皿	(20.3)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
907	H	皿	(19.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	15%	
908	S	蓋	9.8	3.8		ＡＣＥ	良	青灰	90%	
909	S	蓋	(11.7)	(2.4)		ＡＣＦＨ	普	灰	25%	
910	S	蓋	(12.4)			ＡＣＦＨ	良	青灰	15%	外面に自然釉

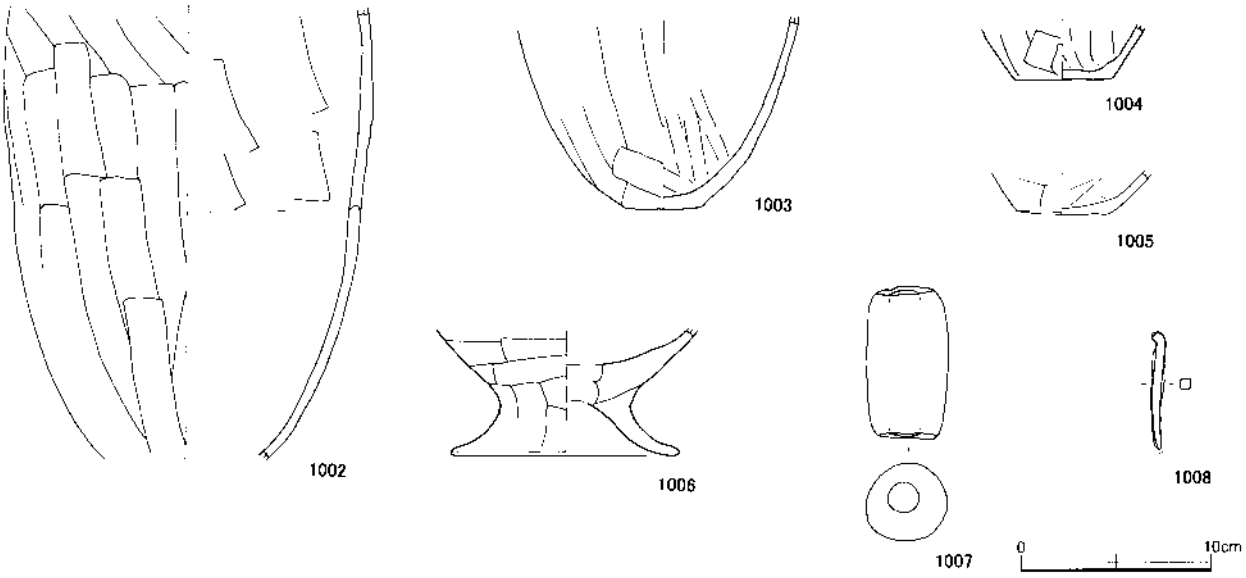
第22表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（2）



第55図　第６号特殊土坑出土遺物（3）



第56図　第６号特殊土坑出土遺物（4）



第57図　第６号特殊土坑出土遺物（5）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第51図 911	S	蓋	(14.7)	(3.4)		ＡＣＨ	良	青灰	20%	
912	S	蓋	(15.8)			ＡＣＦＨ	普	灰	15%	
913	S	蓋				ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
914	S	蓋				ＡＣＦＨ	普	灰	20%	
915	S	坏			5.6	ＡＣＦＨ	普	灰	25%	
916	S	坏	(12.6)			ＡＣＨＩ	普	灰	20%	
917	S	坏	(21.3)	(4.5)	(11.6)	ＡＣＦＨ	良	青灰	15%	
918	S	盤	(30.0)			ＡＣＨ	良	灰	５％	
第52図 919	S	甕				ＡＣ	良	灰		外面に自然釉
920	S	甕				ＡＣＨ	普	灰		
921	S	甕				ＡＣＦＨ	良	灰		
922	H	甕	(15.6)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	外面ハケメ調整
923	H	甕	(14.9)			ＡＣＥ	普	橙	10%	

第23表　第５号特殊土坑出土遺物観察表（3）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第53図 924	H	坏	10.5	3.4		ＡＢＣＥ	普	暗褐	70%	
925	H	坏	(10.8)	(3.4)		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
926	H	坏	10.7	3.5		ＡＣＥ	普	橙	70%	
927	H	坏	(10.8)	(3.7)		ＡＢＣＥ	普	黒褐	25%	
928	H	坏	(11.1)	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	25%	
929	H	坏	9.8	3.4		ＡＣＨ	良	赤褐	90%	内外面を赤彩
930	H	坏	10.7	3.8		ＡＣＨ	良	赤褐	80%	内外面を赤彩
931	H	坏	(10.9)	3.1		ＡＣＥＩ	普	橙	25%	
932	H	坏	(12.1)			ＡＣＤＥＩ	普	橙	10%	
933	H	坏	(11.8)	(3.8)		ＡＣＥ	普	赤褐	40%	
934	H	坏	12.3	3.8		ＡＣＥ	普	橙	70%	

第24表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第53図 935	H	坏	12.8	4.0		ＡＣＥ	普	橙	95%	
936	H	坏	(12.9)	(3.7)		ＡＣＥＨ	普	橙	40%	
937	H	坏	13.1	3.9		ＡＣＥ	普	橙	70%	
938	H	坏	(10.5)	(4.0)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
939	H	坏	(10.9)	3.4		ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
940	H	坏	11.6	3.2		ＡＢＣＥ	普	橙	80%	
941	H	坏	11.7	3.5		ＡＣＥ	普	橙	75%	
942	H	坏	(11.9)	3.8		ＡＣＥ	普	橙	40%	
943	H	坏	11.9	3.4		ＡＣＥＨ	普	橙	80%	
944	H	坏	(12.3)	(3.6)		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
945	H	坏	12.8	3.7		ＡＣＥ	普	橙	60%	
946	H	坏	12.4	3.6		ＡＣＥ	良	橙	98%	
947	H	坏	(12.6)			ＡＣＥ	普	橙	25%	
948	H	坏	12.2	3.5		ＡＣＤＥ	普	赤褐	60%	
949	H	坏	12.3	3.3		ＡＣＥＨ	普	赤褐	75%	
950	H	坏	12.3	3.2		ＡＣＥ	良	橙	55%	
951	H	坏	(12.3)	3.3		ＡＣＥ	普	橙	40%	
952	H	坏	12.4	3.5		ＡＣＤＥ	普	橙	100%	
953	H	坏	(12.5)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	20%	
954	H	坏	(12.3)	3.1		ＡＣＥ	普	橙	40%	
955	H	坏	(12.8)	3.8		ＡＣＥ	普	橙	50%	
956	H	坏	13.4	3.7		ＡＢＣＥ	普	橙	50%	
957	H	坏	(14.0)	(3.3)		ＡＣＥ	普	赤褐	30%	
958	H	坏	14.6	4.0		ＡＣＥ	良	赤褐	55%	
959	H	坏	(15.1)	3.5		ＡＣＥ	普	橙	45%	
960	H	坏	(14.8)	(4.9)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
第54図 961	H	坏	(16.1)			ＡＣＥＩ	普	赤褐	20%	
962	H	坏	(14.8)	4.4	9.1	ＡＣＥ	普	にぶい橙	55%	
963	H	皿	(18.9)			ＡＣＥＩ	普	橙	30%	
964	H	皿	(23.5)	(3.6)		ＡＣＥ	普	赤褐	25%	
965	H	皿	23.2	3.1		ＡＣＤＥＩ	普	橙	50%	
966	S	蓋	(10.9)	(4.0)		ＡＣ	良	灰	30%	
967	S	蓋	11.8	3.9		ＡＣＨ	良	灰	60%	
968	S	蓋	10.0	(2.7)		ＡＣＦＨ	普	灰	50%	
969	S	蓋	(15.2)	(3.9)		ＡＣＦＨ	良	灰	20%	
970	S	蓋	(16.6)	(3.8)		ＡＣＦＨ	普	灰	25%	
971	S	蓋	(15.7)			ＡＣ	良	灰	15%	外面に自然釉
972	S	蓋				ＡＢＣＨ	普	灰	５％	
973	S	坏	(12.2)	(3.5)	(8.7)	ＡＣＦＨ	良	灰	35%	
974	S	坏	(15.8)	(4.2)	(9.0)	ＡＣＦＨ	良	灰	30%	
975	S	坏	16.7	3.3	9.0	ＡＣＦＨ	良	灰	60%	
976	S	坏	(18.9)	(4.3)	(13.0)	ＡＣＦＨ	普	灰	15%	
977	S	高台坏	(11.0)	5.0	6.1	ＡＣＦＨ	良	灰	40%	外面に自然釉
978	S	高台坏	(13.7)	(4.5)	(9.0)	ＡＣＦＨ	良	灰	45%	
979	S	高台坏	14.2	4.0	9.3	ＡＣＦＨ	良	青灰	90%	
980	S	甕				ＡＣＨ	良	青灰		
第55図 981	S	甕				ＡＣＦＨ	良	黒褐		
982	S	甕				ＡＣＨ	普	灰		
983	S	甕				ＡＢＣＨ	普	灰褐		

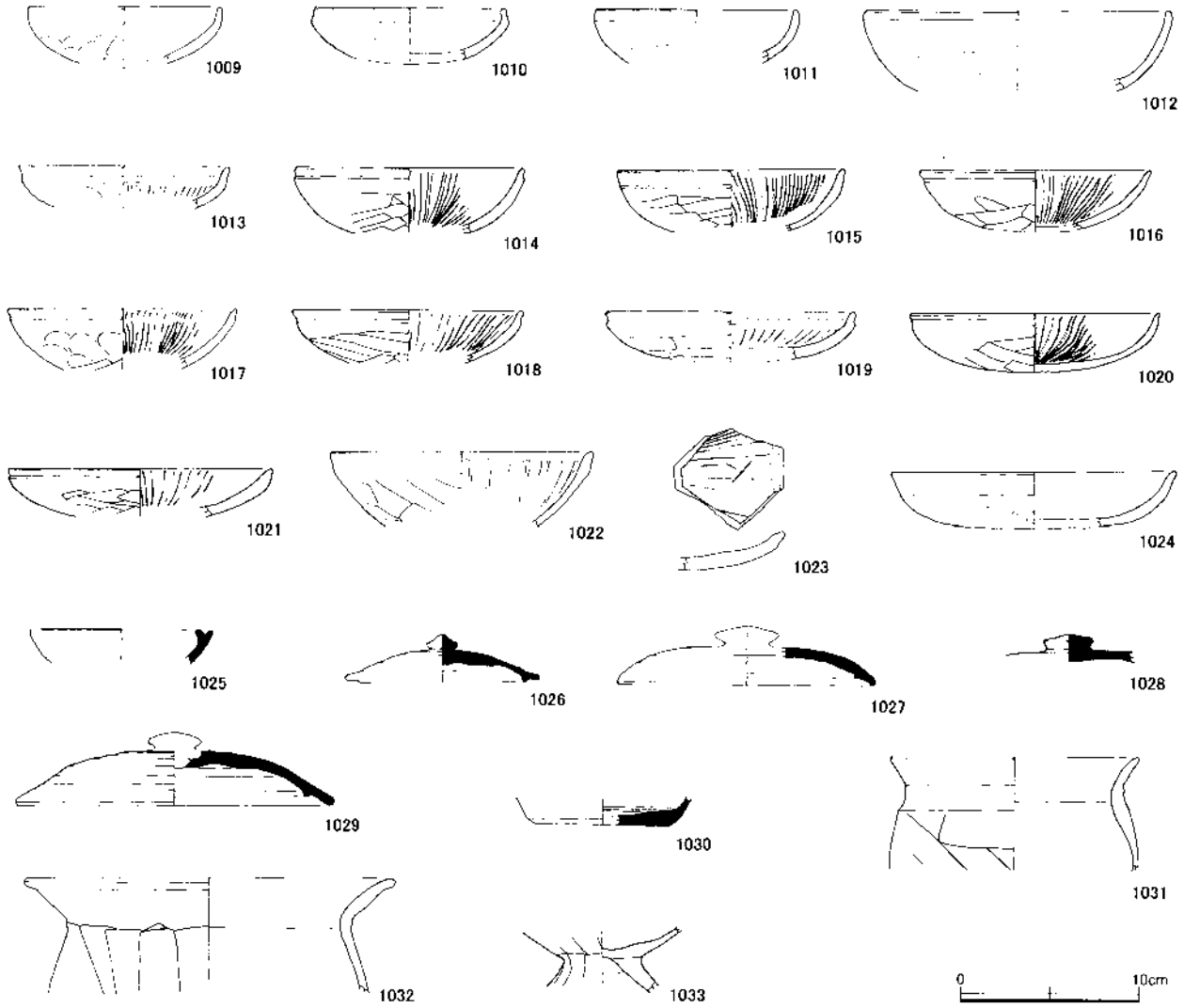
第25表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（2）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第55図 984		S	甕				ＡＣＨ	良	暗灰		
985		S	甕				ＡＣＤＨ	普	灰		
986		H	甕	(13.5)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
987		H	甕	14.7			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
988		H	甕	16.0			ＡＣＥ	普	灰褐	20%	
第56図 989		H	甕	(19.5)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	15%	
990		H	甕	(19.2)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
991		H	甕	21.9			ＡＢＣＥＨ	普	橙	75%	
992		H	甕	(20.9)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
993		H	甕	(22.5)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
994		H	甕	(24.0)			ＡＣＥ	普	にぶい橙	５％	
995		H	甕	(22.8)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
996		H	甕	23.3			ＡＢＣＥＨ	普	橙	15%	
997		H	甕	(19.4)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	10%	
998		H	甕	(21.1)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	15%	
999		H	甕	22.0			ＡＢＣＥＨ	良	赤褐	60%	
1000		H	甕	(21.8)			ＡＢＣＥＩ	普	橙	10%	
1001		H	甕	(23.3)			ＡＣＥＩ	普	橙	10%	
第57図1002		H	甕				ＡＢＣＥＩ	普	橙	25%	
1003		H	甕			3.9	ＡＢＣＥＩ	普	橙	20%	
1004		H	甕			(5.1)	ＡＣＥＨ	普	暗褐	５％	
1005		H	甕				ＡＢＣＥ	普	黒褐	５％	
1006		H	台付甕			(11.6)	ＡＢＣＥ	普	暗褐	15%	
1007			土錘	長7.7	幅4.4	厚4.4	ＡＢＣＥ	普	赤褐	100%	重さ136.68ｇ
1008			鉄釘	長6.3	幅0.5	厚0.6					重さ　5.03ｇ

第26表　第６号特殊土坑出土遺物観察表（3）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第58図1009	H	坏	(10.7)	(3.4)		ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
1010	H	坏	(10.5)	(3.2)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
1011	H	坏	(11.0)			ＡＣＨＩ	普	にぶい橙	15%	
1012	H	坏	(16.9)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
1013	H	坏	(11.7)			ＡＣＥ	良	赤褐	15%	
1014	H	坏	(12.7)			ＡＣＥＨＩ	普	橙	20%	
1015	H	坏	(12.6)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
1016	H	坏	(12.9)	(3.5)		ＡＣＥ	普	橙	20%	
1017	H	坏	(12.9)			ＡＣＥ	普	橙	20%	
1018	H	坏	(12.7)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	25%	
1019	H	坏	(13.7)	(2.9)		ＡＢＣＥ	普	赤褐	20%	
1020	H	坏	(13.8)	3.3		ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
1021	H	坏	(14.8)			ＡＣＥＩ	普	橙	25%	
1022	H	坏	(14.6)			ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	20%	
1023	H	坏				ＡＢＣＤＥ	普	橙	15%	内面に線刻
1024	H	坏	(15.7)	(3.2)		ＡＣＥ	普	赤褐	20%	
1025	S	坏	(10.1)			ＡＣ	良	青灰	10%	
1026	S	蓋	(10.8)	2.7		ＡＣＦＨ	良	暗灰	35%	
1027	S	蓋	(14.2)	(3.4)		ＡＣＦＨ	普	灰	20%	

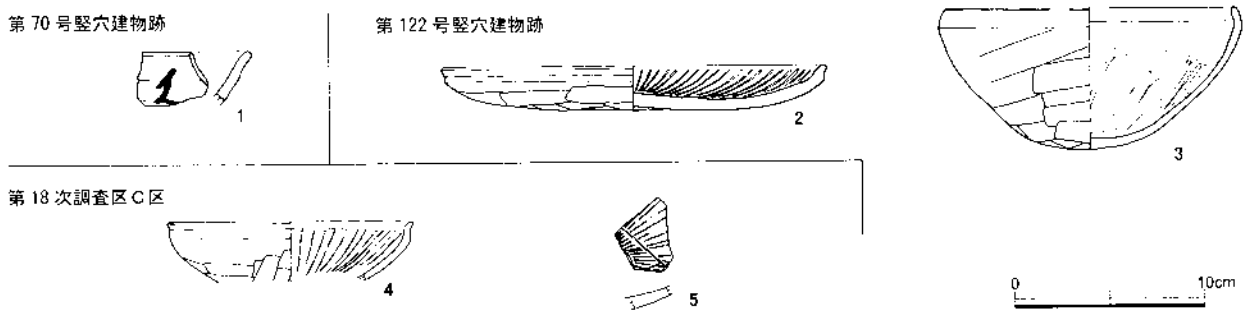
第27表　特殊土坑群出土遺物観察表（1）



第58図　特殊土坑群出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第58図1028	S	蓋				ＡＣＦＨ	普	灰	５％	
1029	S	蓋	(27.6)	(4.2)		ＡＣＦＨ	良	灰	35%	
1030	S	坏			(7.5)	ＡＢＣＨ	普	灰	20%	
1031	H	甕	(13.7)			ＡＢＣＥ	普	暗褐	20%	
1032	H	甕	(20.4)			ＡＣＥ	普	橙	10%	
1033	H	台付甕				ＡＣＥ	普	橙	10%	

第28表　特殊土坑群出土遺物観察表（2）



第59図　追加掲載遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　考
第59図 1	ＳＪ70	R	坏				ＡＣＥ	普	黄橙	5％	外面に墨書
2	ＳＪ122	H	皿	20.2	2.4		ＡＢＣＥＩ	普	橙	75%	
3		H	坏	(15.4)	7.4		ＡＣＥ	良	黒褐	40%	
4	第18次調査区Ｃ区	H	坏	(13.0)			ＡＣＥ	普	橙	30%	
5		H	坏				ＡＣＥ	普	橙		内面に線刻

第29表　追加掲載遺物観察表

3　第19・31次調査区

a　概要

第19次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南東部のＥ－Ⅳ－164～Ｆ－Ⅴ－126グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡18棟、掘立柱塀跡６基、竪穴建物跡22棟、特殊土坑16基、溝８条、二重溝と土塁による区画等である。

調査区周辺の標高は約34mで、確認面までの深さは北西側が浅く、第19次調査区Ｃ～Ｆ区や第31次調査区Ａ・Ｂ区は約30cm、南東側の第19次調査区Ａ・Ｂ区は約50cmを測る。

第31次調査区は、第19次調査区の北側隣接部Ｅ－Ⅳ－257～Ｅ－Ⅴ－370グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡３棟、竪穴建物跡８棟、土坑２基、溝３条、二重溝と土塁による区画等である。ここでは、この内の掘立柱建物跡と掘立柱塀跡について報告することとし、それ以外の成果については、改めて報告したい。

b　建物跡

第41号建物跡（第71図）

第19次調査区Ｂ区に位置し、南東柱列を第41号溝に切られる。総柱式掘立柱建物跡で、２×２間（一辺3.3m）、柱間は1.65mと思われる。主軸方位はＮ－35°－Ｗである。

柱の掘方は、直径50～70cmの円形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約20cmと推定される。

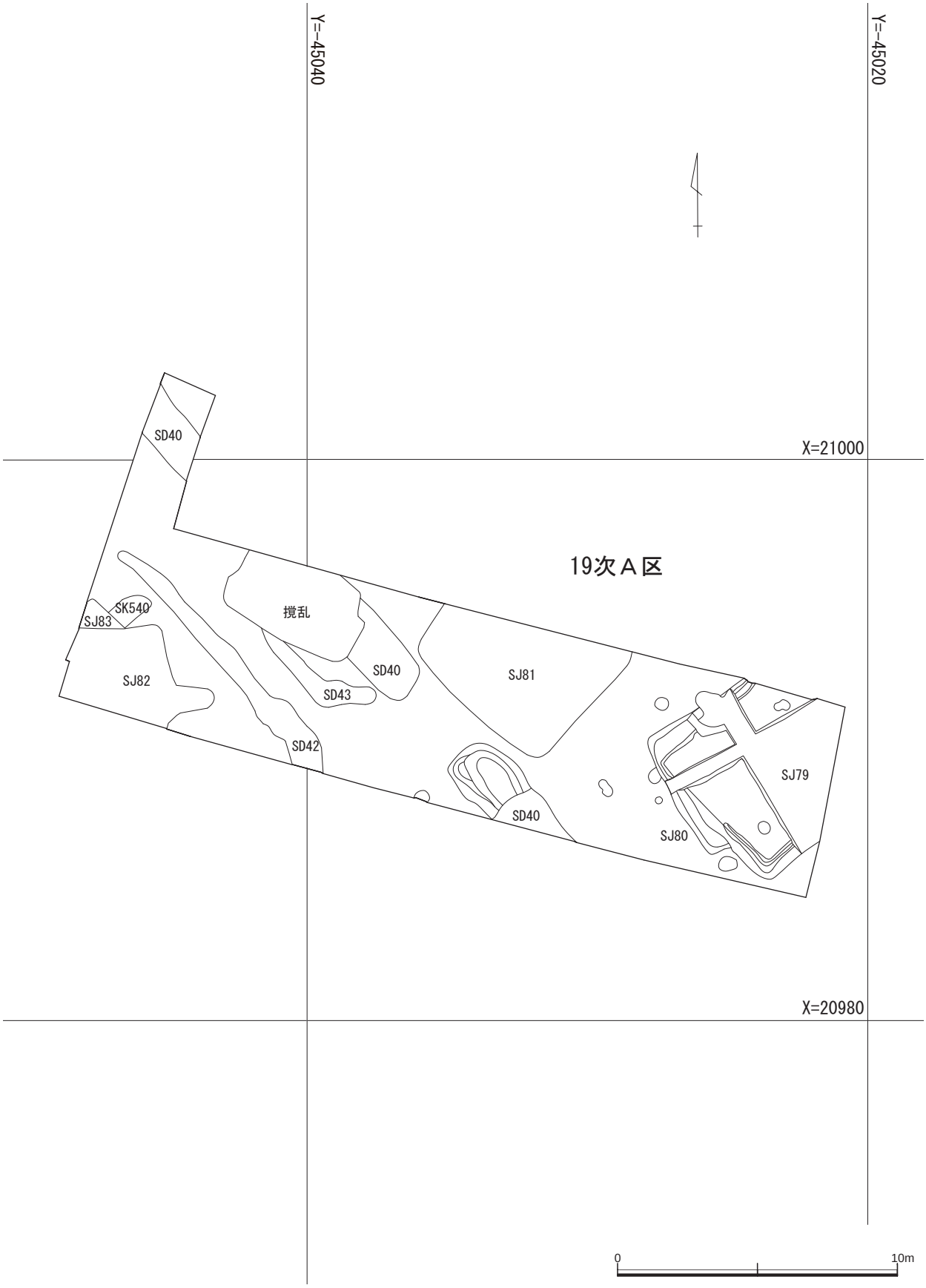
図示できる遺物は出土しなかった。

第42号建物跡（第72図）

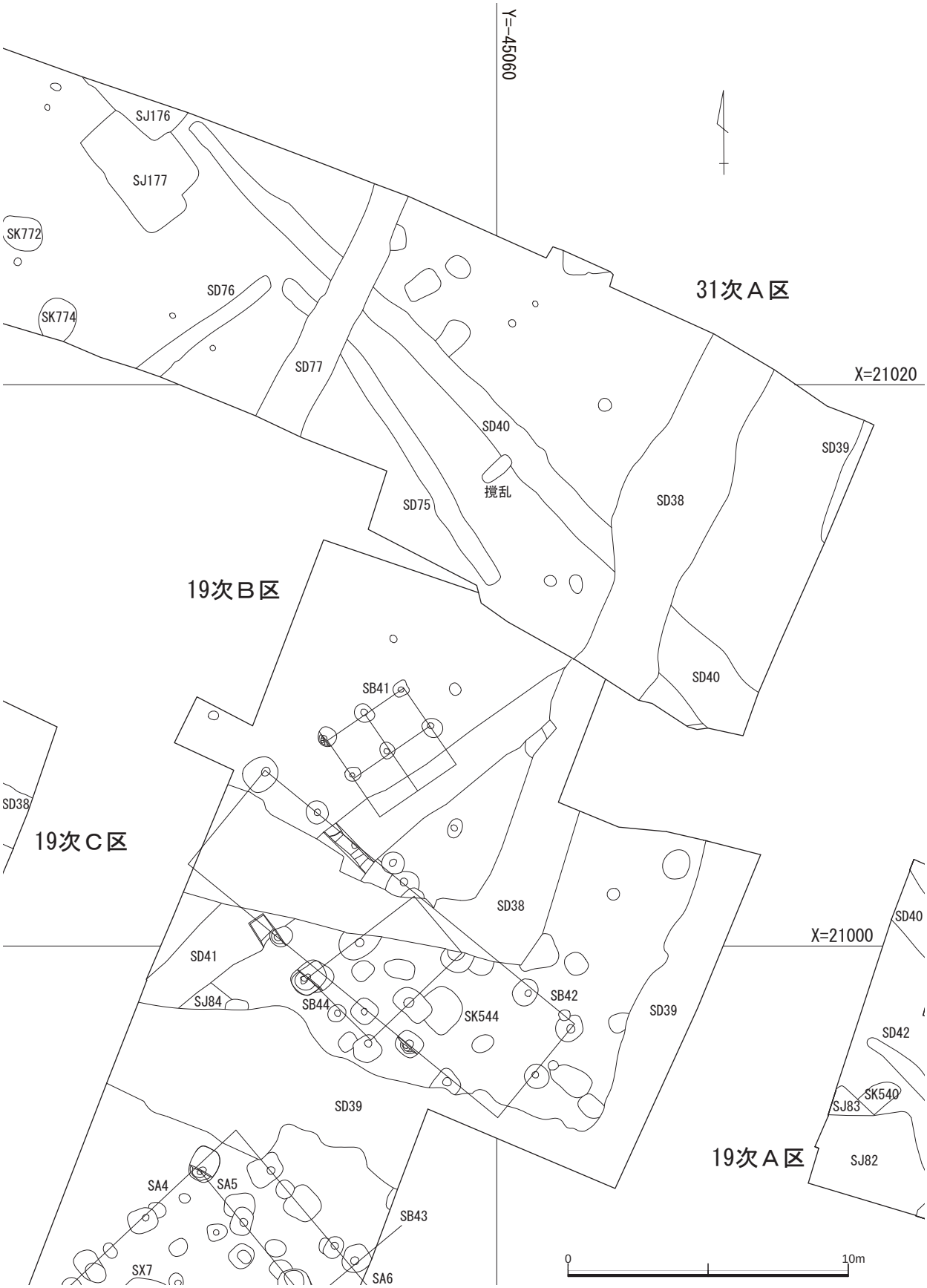
第19次調査区Ｂ区に位置し、第44号建物跡、第38・39・41号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行７間（14.2m）×梁行２間（4.3m）、柱間は桁行が、北西から2.25m－1.85m－2.2m－1.9m－2.0m－1.9m－2.1m、梁行が北東から2.1m－2.2mを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗである。

柱の掘方は、直径80～120cmの円形を基本とし、一部隅丸方形を呈する。柱穴の深さは、確認面から70cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の

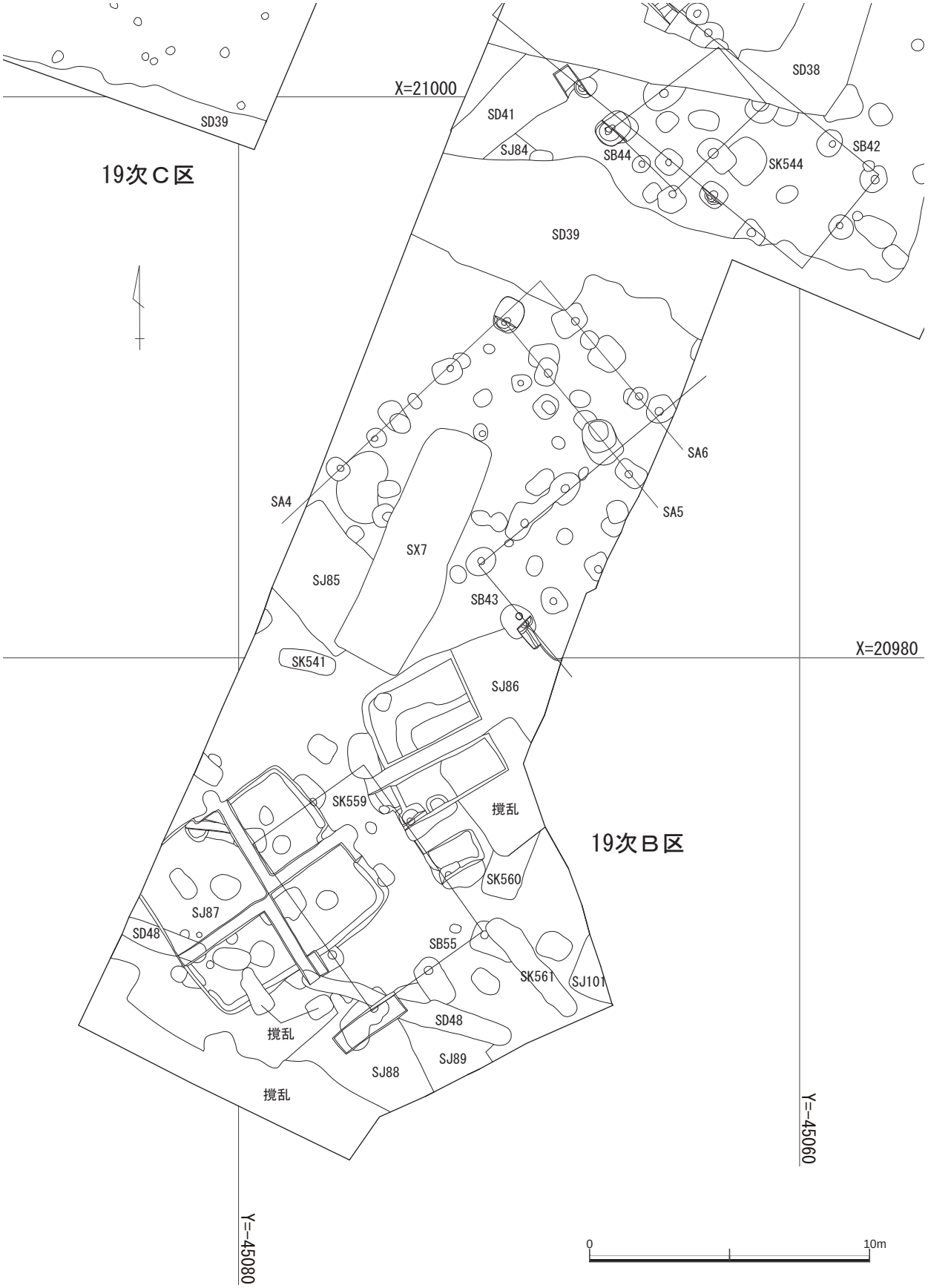
第60図　第19・31次調査区全体測量図（1）



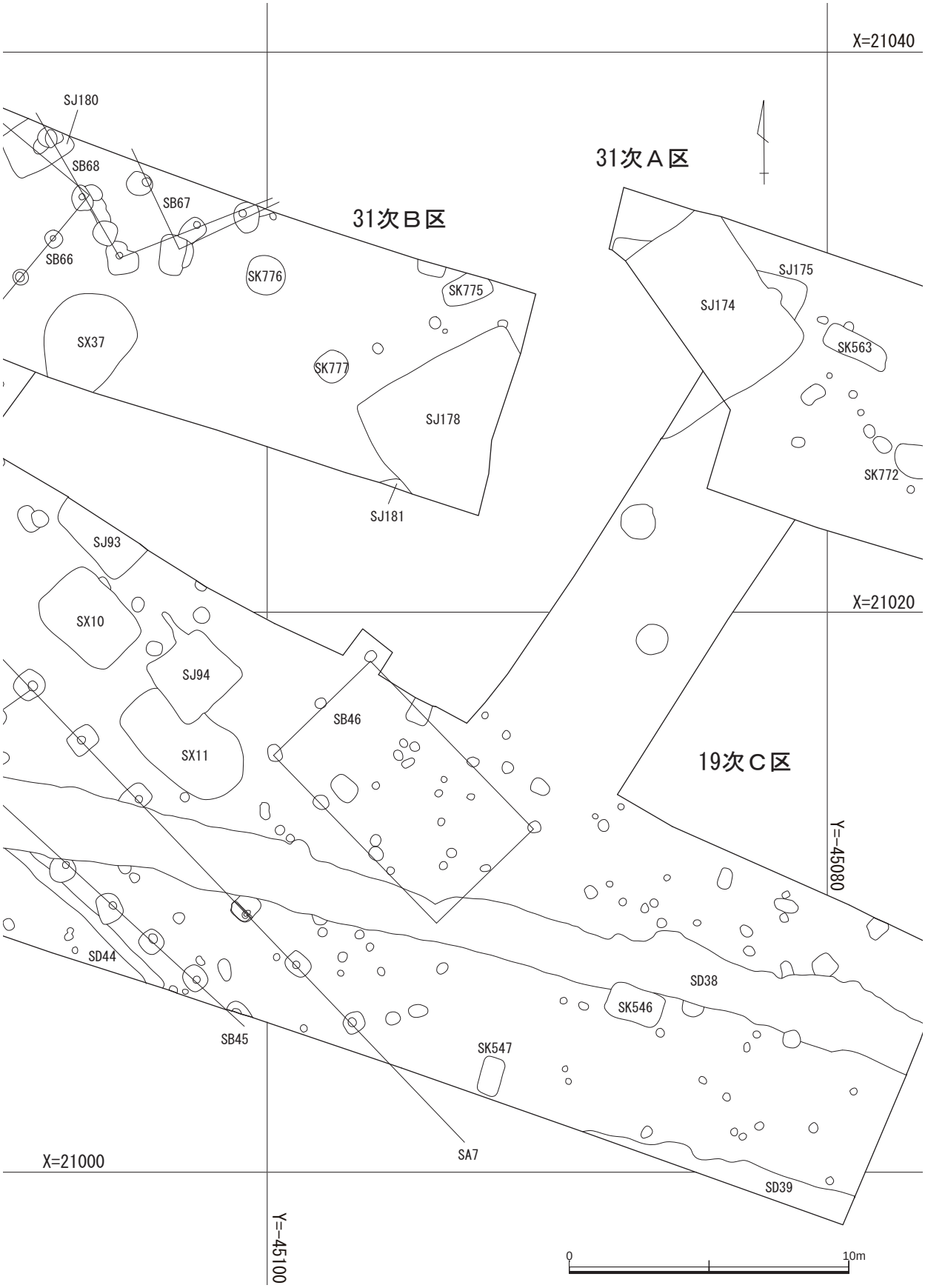
第61図　第19・31次調査区全体測量図（2）



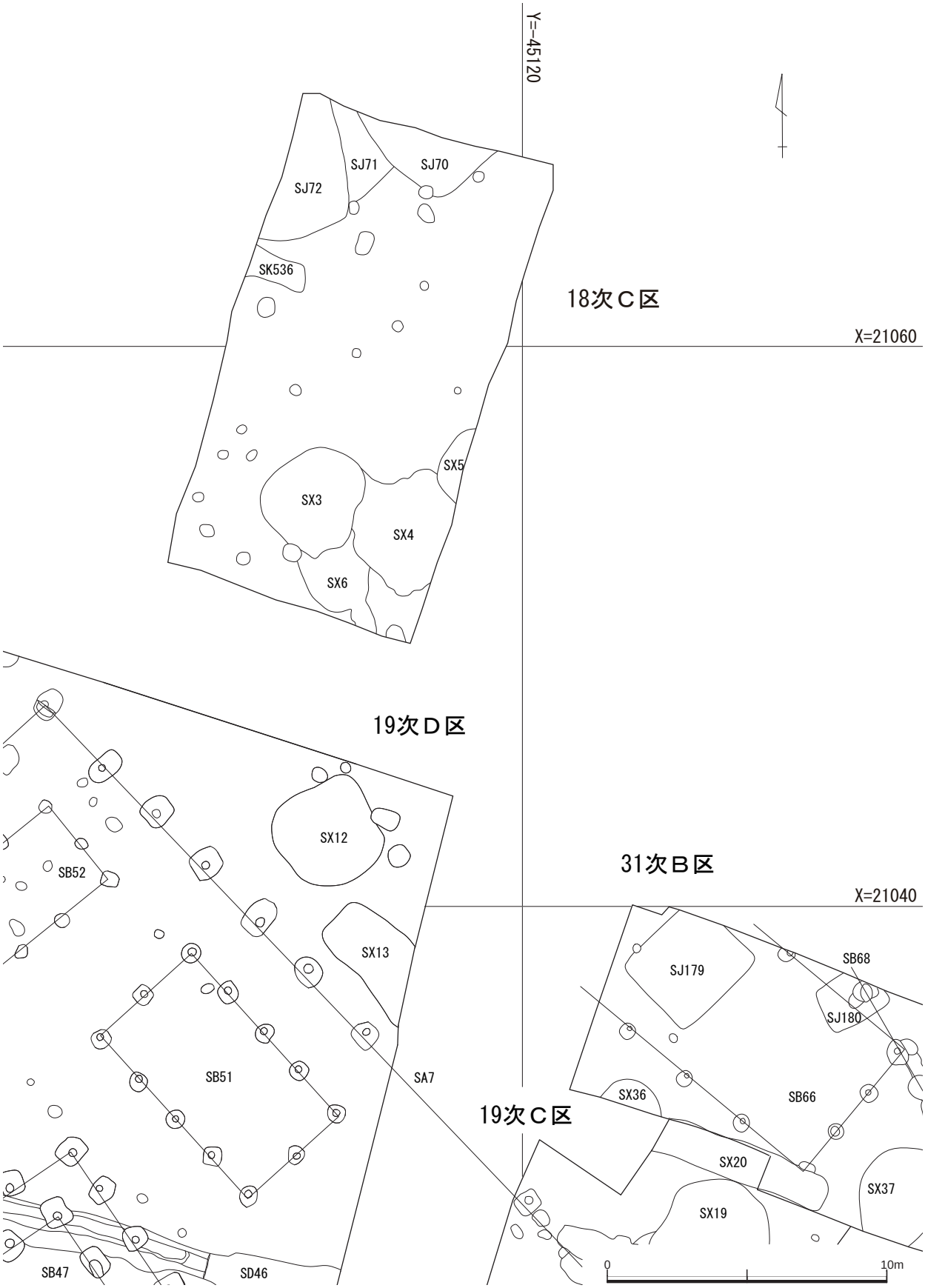
第62図　第19・31次調査区全体測量図（3）



第63図　第19・31次調査区全体測量図（4）

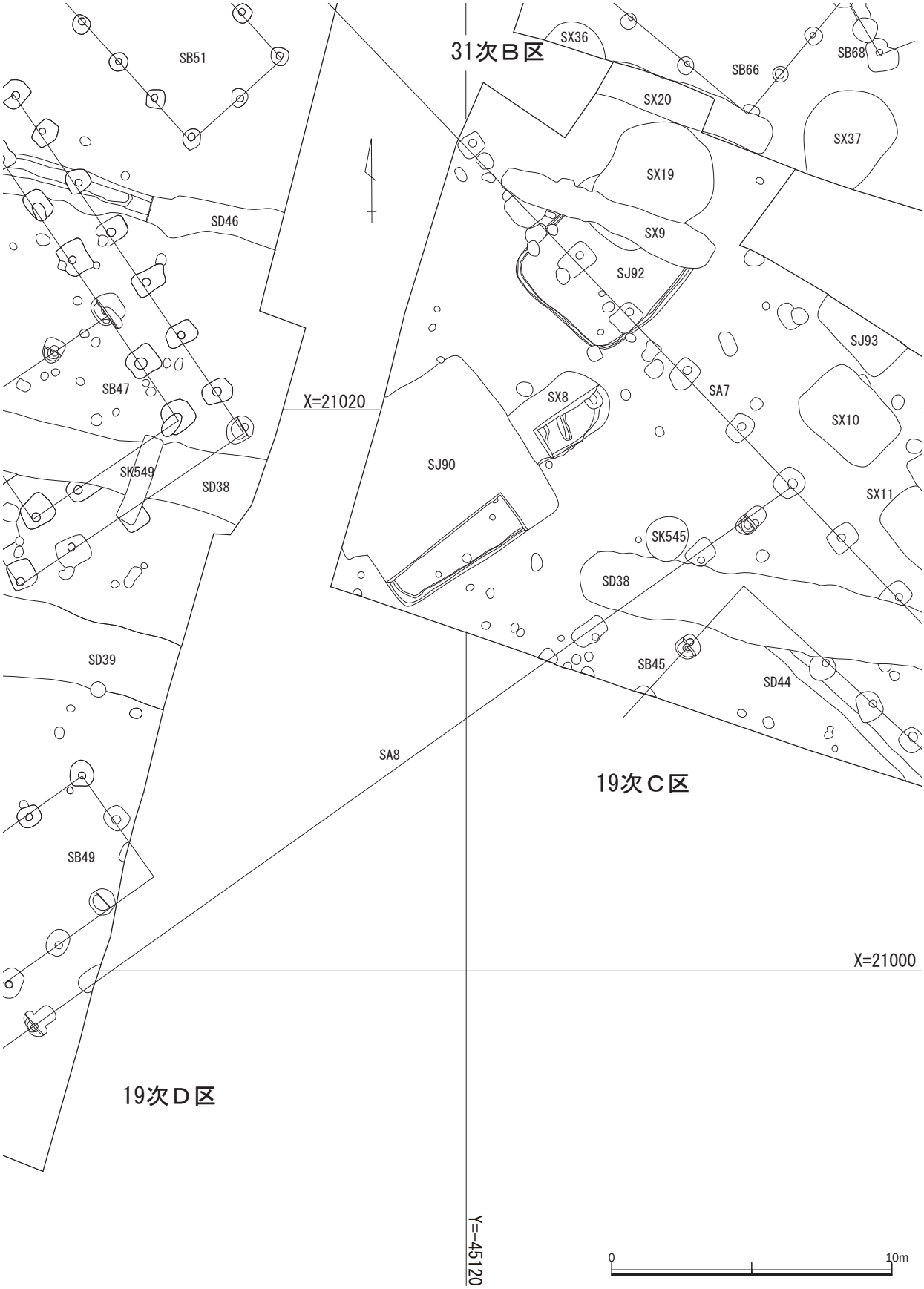


第64図　第19・31次調査区全体測量図（5）

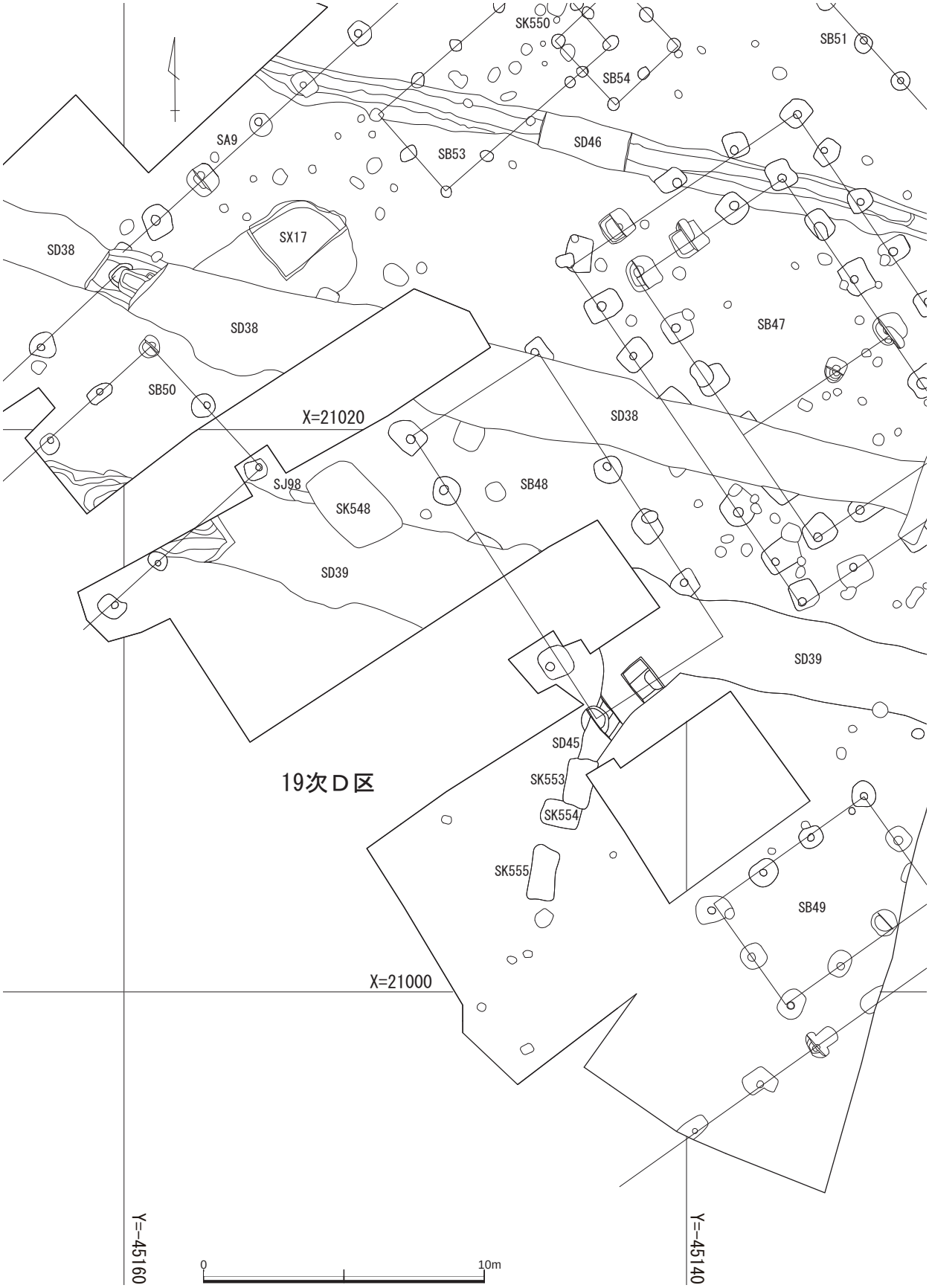


第65図　第19・31次調査区全体測量図（6）

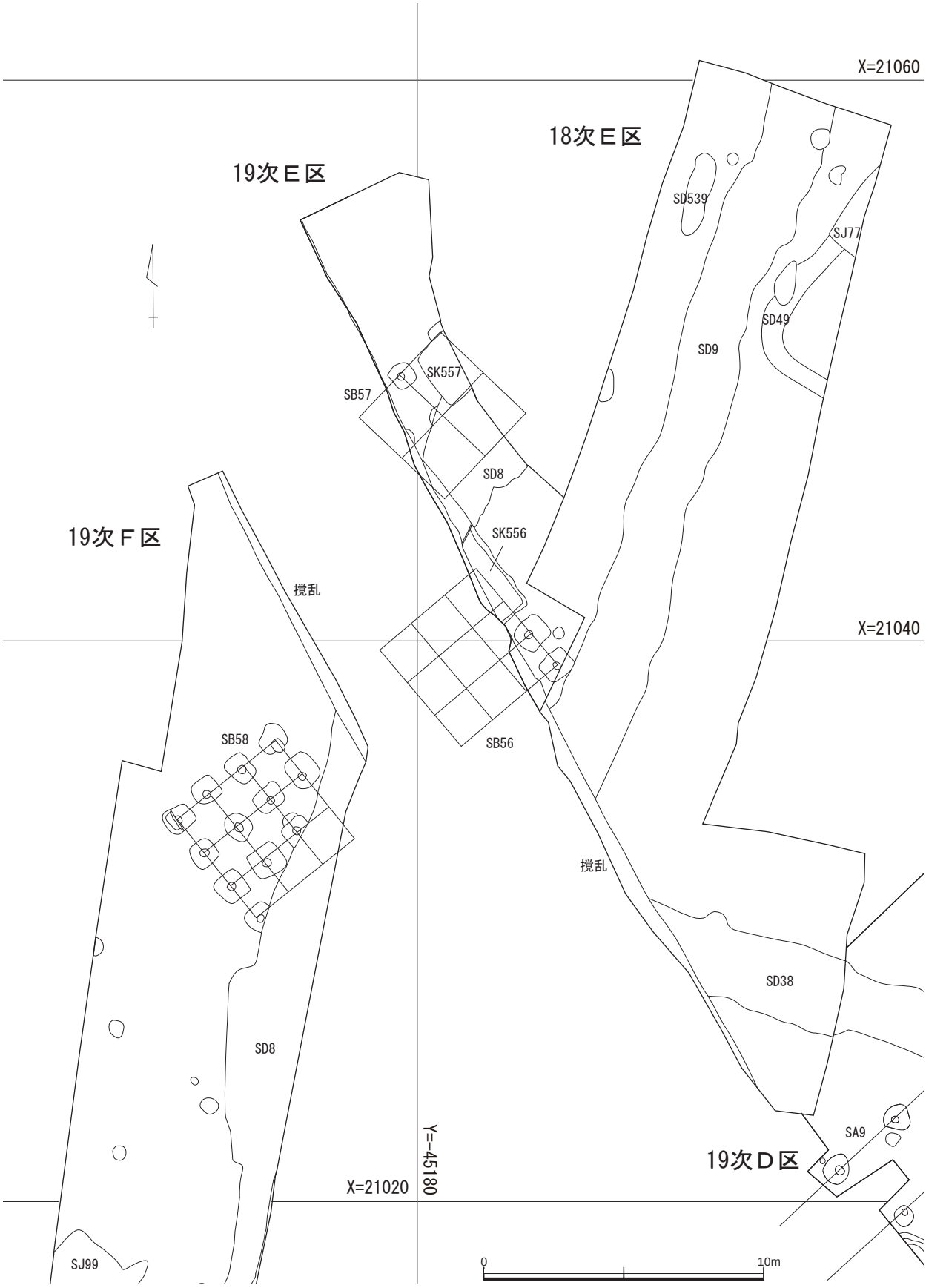
第66図　第19・31次調査区全体測量図（7）



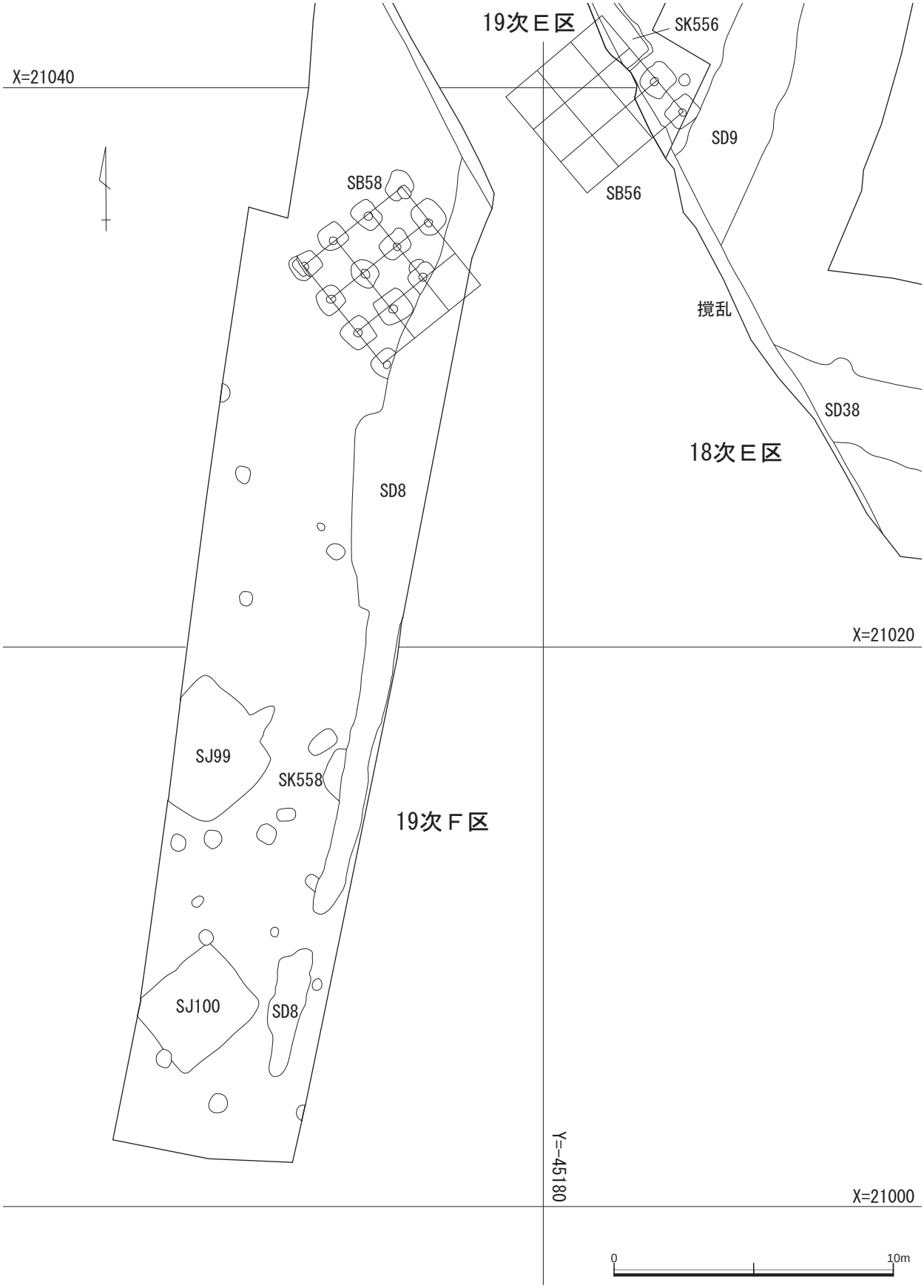
第67図　第19・31次調査区全体測量図（8）



第68図　第19・31次調査区全体測量図（9）



第69図　第19・31次調査区全体測量図（10）



第70図　第19・31次調査区全体測量図（11）

直径は約30cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

第43号建物跡（第73図、第92図１～５、第30表）

第19次調査区Ｂ区に位置し、第86号竪穴建物跡を切り、第５号塀跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行４間以上（8.4m以上）×梁行２間以上（4.8m以上）、柱間は桁行が2.1m、梁行が2.4mを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺１～1.2mの隅丸方形を基本とし、Ｐ３とＰ４の間に溝を有する。柱穴の深さは、確認面から80cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図１～５である。１～３はＰ１出土で、１は土師器坏、２は須恵器坏である。３は須恵器蓋で、外面に自然釉がかかる。４・５はＰ３出土の須恵器坏である。底面は共に回転ヘラ削り調整が施される。

第44号建物跡（第72図）

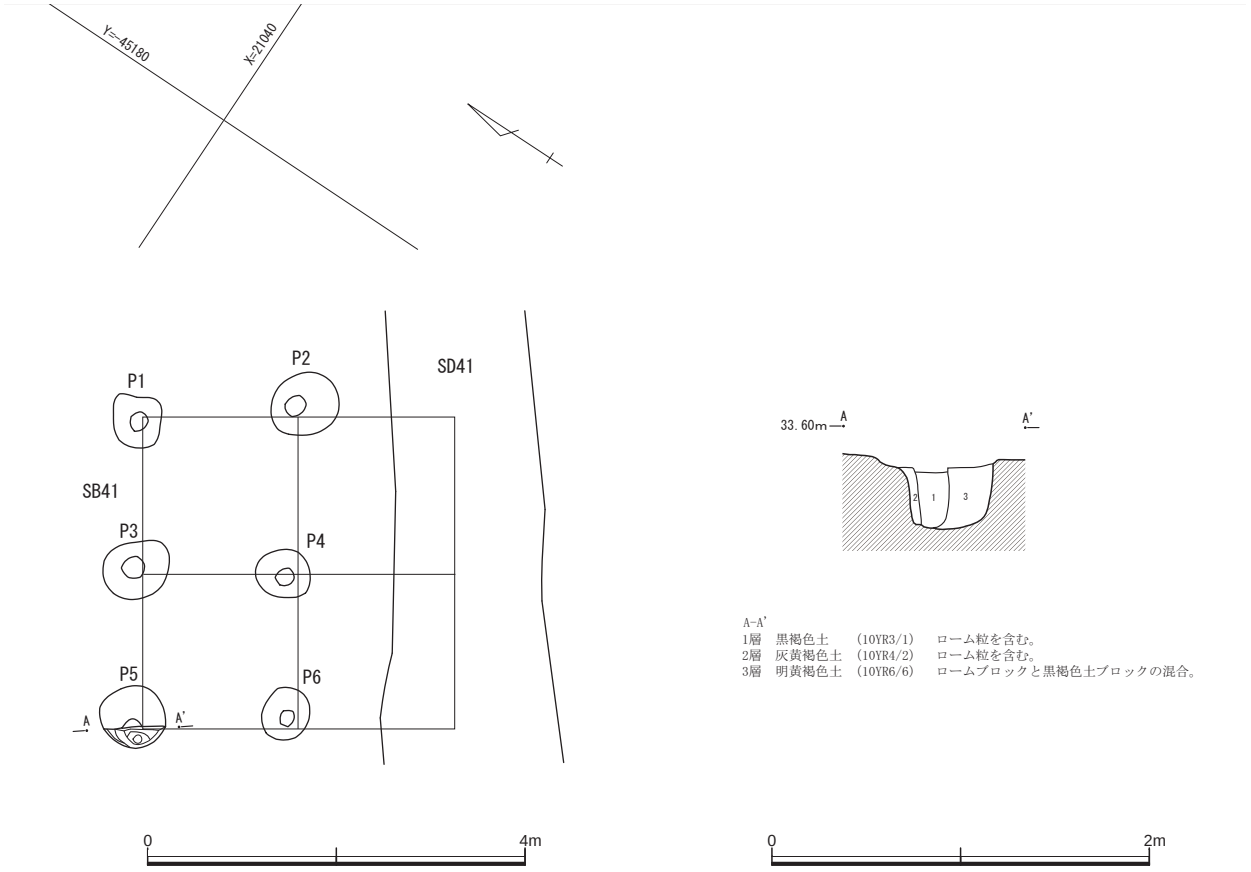
第19次調査区Ｂ区に位置し、第42号建物跡を切り、第38号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行２間（4.4m）×梁行２間（3.15m）、北東側が狭くなる。柱穴の規模の割に小規模な建物である。柱間は不揃いで、桁行は南東柱列が北東から2.4m－2.0m、梁行は南西柱列が北西から1.65m－1.5mを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺80～140cmの隅丸方形を基本とする。梁行の中間柱であるＰ６はやや小規模で、直径60cmの円形を呈する。柱穴の深さは、確認面から70cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。Ｐ５では、柱の当たりが認められ、若干窪むと共に変色していた。

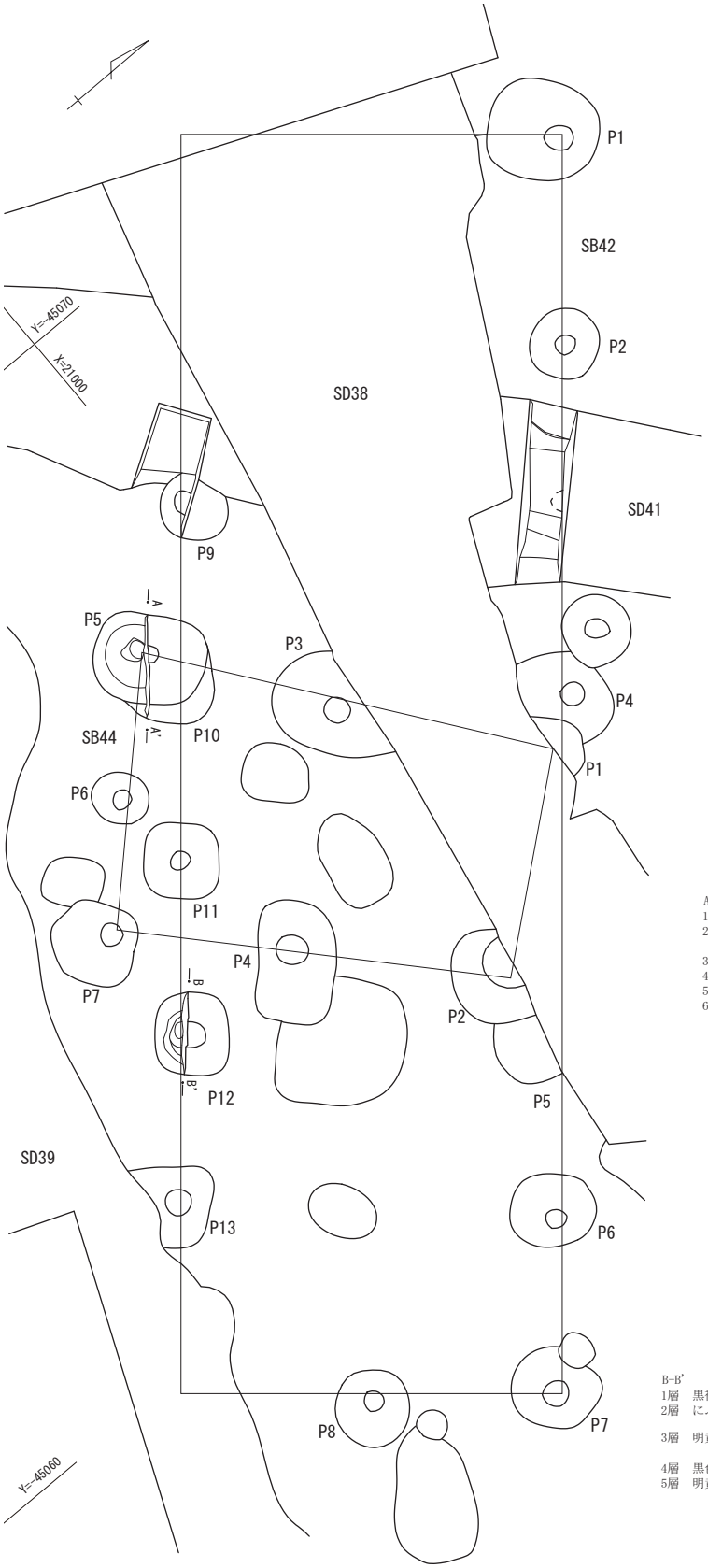
図示できる遺物は出土しなかった。

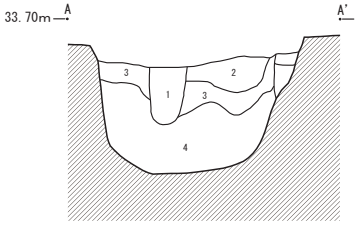
第45号建物跡（第74図）

第19次調査区Ｃ区に位置し、第44号溝を切り、第38



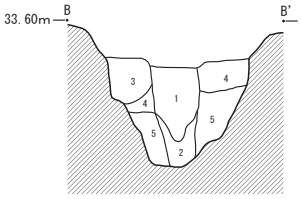
第71図　第41号建物跡





A-A'

1層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒を含む。しまり弱い。
2層	褐色土	(10YR4/4)	ローム粒を多く含む。 ロームブロック(5cm)を含む。
3層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・ブロック（1cm）を多く含む。
4層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。
5層	褐色土	(10YR4/4)	ローム粒を含む。
6層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ロームで構成。

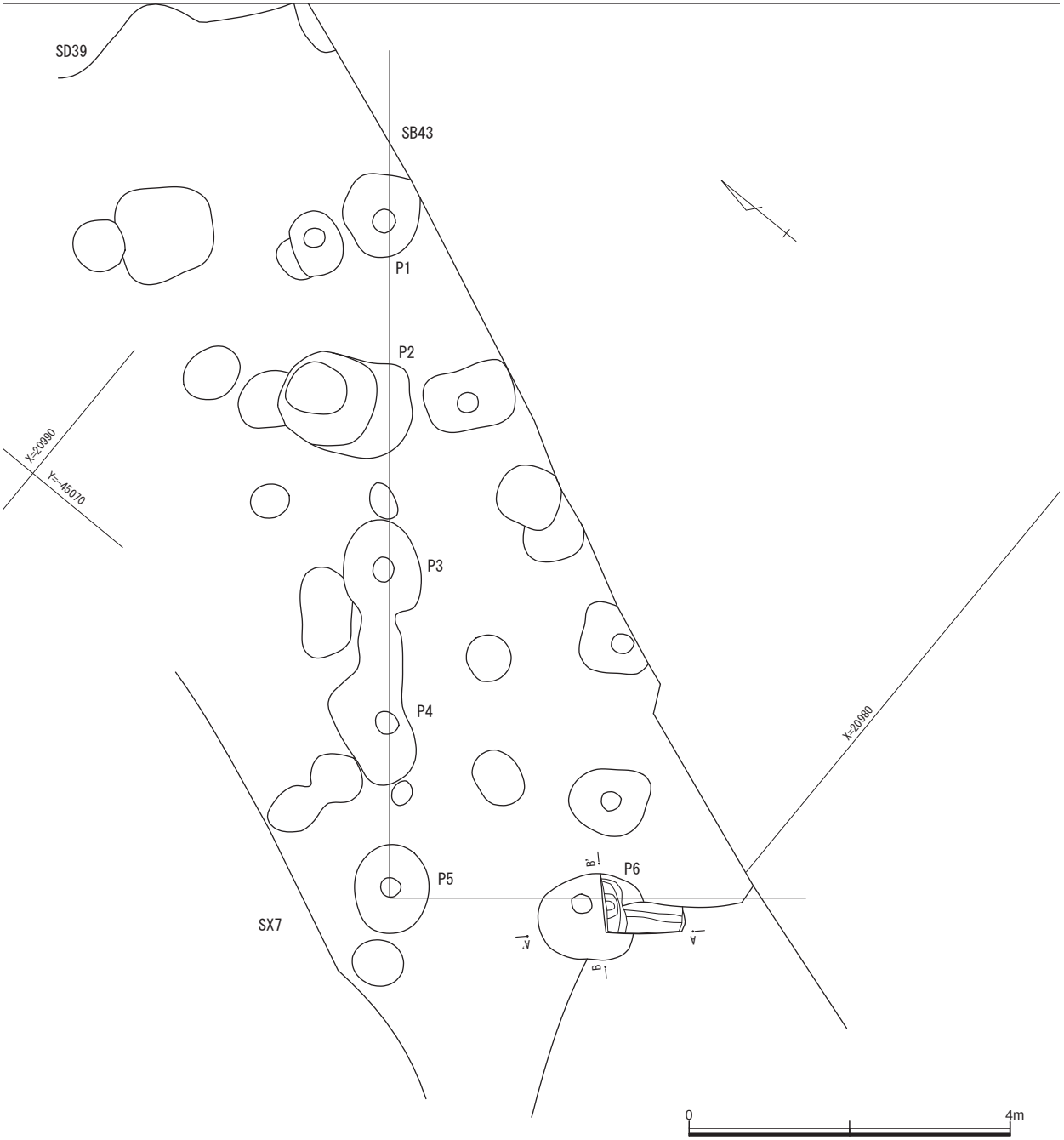


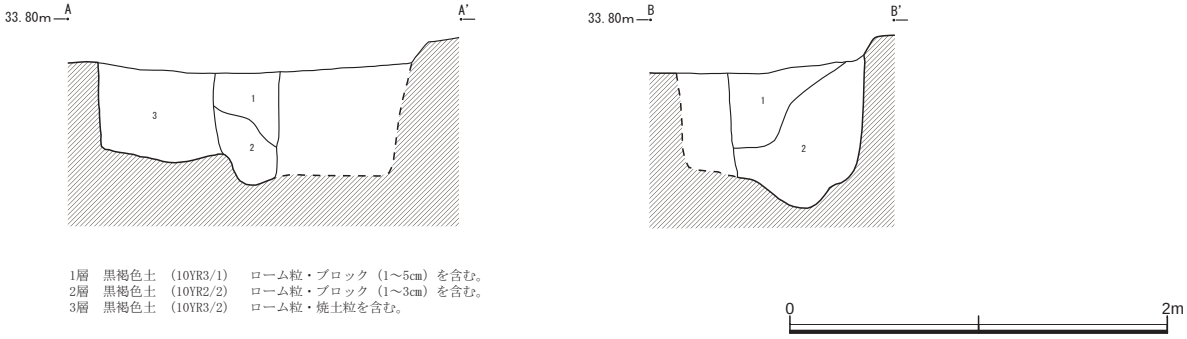
B-B'

1層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒を含む。しまり弱い。
2層	にぶい黄褐色土	(10YR5/4)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。 しまり弱い。
3層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ロームで構成され黒褐色土を含む。 しまり弱い。
4層	黒色土	(10YR2/1)	ローム粒・ブロック（1m）を含む。
5層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ロームで構成され黒褐色土を含む。しまりやや強い。

0　2m

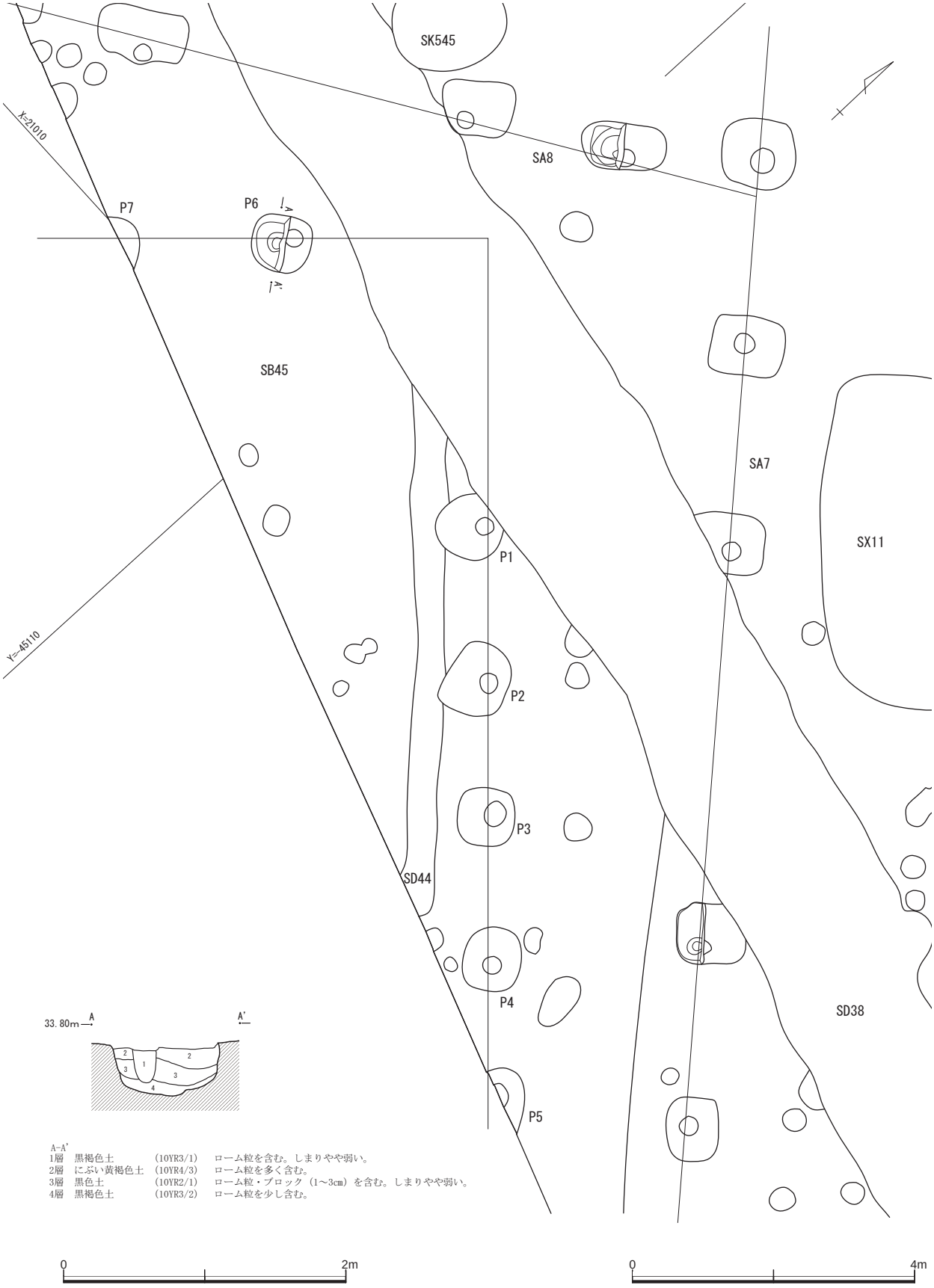
第72図　第42・44号建物跡





1層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・ブロック（1～5cm）を含む。
2層　黒褐色土　(10YR2/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を含む。
3層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒を含む。

第73図　第43号建物跡



第74図　第45号建物跡

号溝に切られる。第７号塀跡と第８号塀跡による区画内に位置するが、主軸方位が両者ともやや異なる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行６間以上（12.2m以上）×梁行２間以上（5.4m以上）、柱間は桁行がＰ１から2.2m－1.9m－2.1m－1.9m、梁行が2.7mを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｅである。

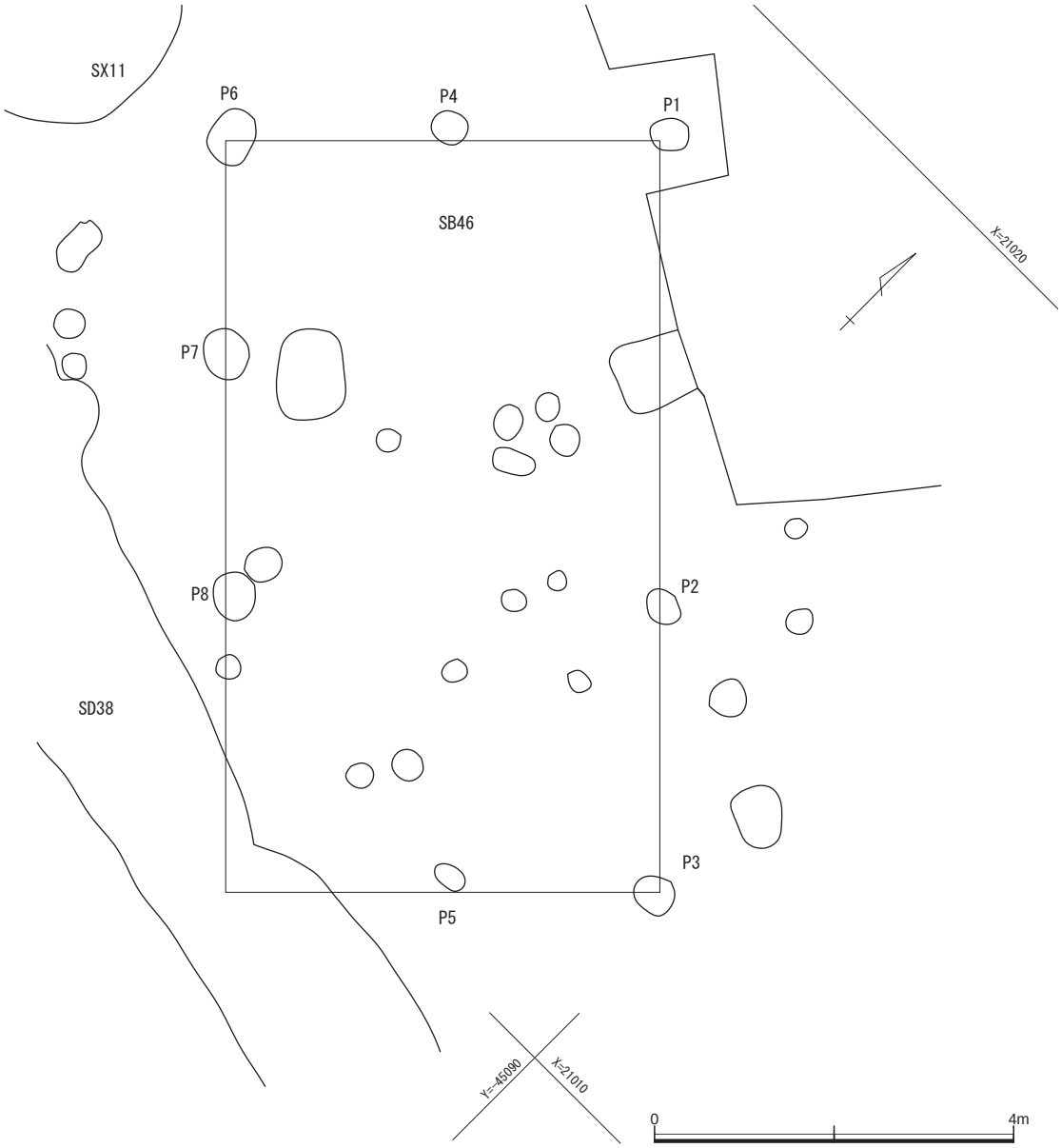
柱の掘方は、一辺80cm程の隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から40cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

第46号建物跡（第75図）

第19次調査区Ｃ区に位置し、第38号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行３間（8.4m）×梁行２間（4.8m）、柱間は桁行が北西から2.4m－2.8m－3.2m、梁行が2.4mを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｗである。

柱の掘方は、一辺30～60cmの不整円形を基本とする。梁行の中間柱はやや小規模で、直径20～30cmで



第75図　第46号建物跡

ある。柱痕跡は確認できなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第47号建物跡（第76図）

第19次調査区Ｄ区に位置し、第38・39・46号溝、第549号土坑に切られる。塀による区画施設内の中心となる四面庇建物跡である。身舎は桁行５間（11.2m）×梁行３間(6.3m)、柱間は桁行が2.24m、梁行が2.1mを測る。庇の出は、桁梁共1.65mを測る。妻側の庇は、柱列が外側にやや膨らむ。また、身舎との柱列は揃わない。主軸方位はＮ－34°－Ｗである。

柱の掘方は、一辺70～120cmの隅丸方形を基本とする。間仕切りと考えられるＰ36はやや小振りで、70×90cmの隅丸方形を呈する。柱穴の深さは、確認面から50～70cmを測る。柱は大部分が柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は身舎が35cm程度、庇が25～30cm程度、Ｐ36は20cmと推定される。柱の抜き取り穴は、身舎ではＰ11・13・15・18・22、庇ではＰ29で確認された。抜き取り穴には白色粒子が多く含まれており、極めて特徴的である。

図示できる遺物は出土しなかった。

第48号建物跡（第77図、第92図６～７、第30表）

第19次調査区Ｄ区に位置し、第38・39号溝に切られる。第47号建物跡の南に平行して隣接する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行５間（12.0m）×梁行２間（5.4m）、柱間は桁行が2.4m、梁行が2.7mを測る。主軸方位はＮ－34°－Ｗである。

柱の掘方は、一辺80～120cmの隅丸方形を基本とする。柱は、抜き取りと思われるＰ３の他は柱痕跡が残る。柱痕跡から、柱の直径は約30cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図６・７である。６はＰ２、７はＰ６から出土した。６は土師器有段口縁坏、７は須恵器坏Ｈの蓋である。

第49号建物跡（第78図）

第19次調査区Ｄ区に位置する。第47号建物跡の南にＬ字に並び、第８号塀跡の西に平行する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行３間（6.6m）×梁行２間（4.4m）、柱間は桁行が北西から2.4m－2.1m－2.1m、梁行が2.2mを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺80～120cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は25cm程度と推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

第50号建物跡（第79図、第92図８～９、第30表）

第19次調査区Ｄ区に位置し、第39号溝に切られる。第52・53号建物跡の南に、第17号特殊土坑を挟んで直列に並び、第９号塀跡に平行する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行３間以上（7.2m以上）×梁行２間（5.84m）、柱間は桁行が2.4m、梁行が2.92mを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺60～100cmの隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から50cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は25cm程度と推定される。

図示できた遺物は、第92図８・９である。共にＰ５から出土し、８は土師質土器の壷、９は土師器甕である。

第51号建物跡（第80図）

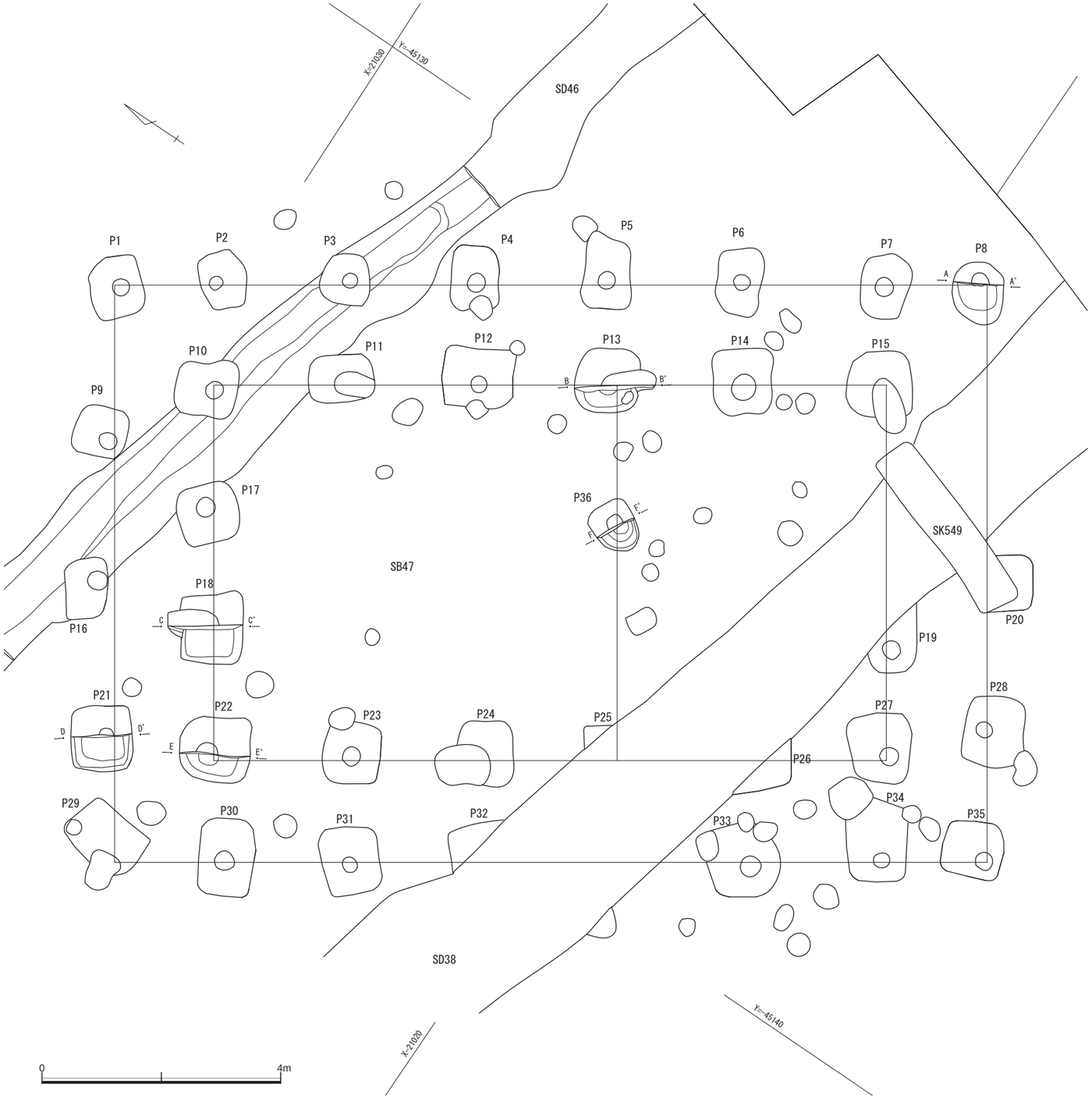
第19次調査区Ｄ区に位置する。第47号建物跡の北に平行して隣接し、第７号塀跡の南に平行する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行４間（7.8m）×梁行２間（4.4m）、柱間は桁行が1.95m、梁行が2.2mを測る。主軸方位はＮ－42°－Ｗである。

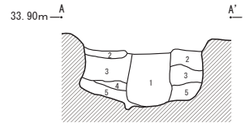
柱の掘方は、一辺60～70cmの隅丸方形を基本とし、一部円形を呈する。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

第52号建物跡（第81図）

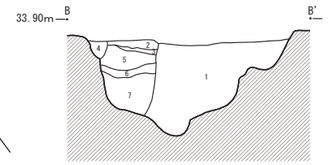
第19次調査区Ｄ区に位置する。第53号建物跡の北に直列に並び、第７号塀跡と第９号塀跡のコーナー付近





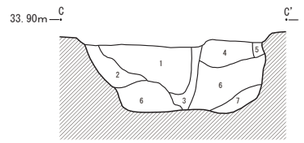
P8 A-A'

1層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒をやや多く含む。しまり弱い
2層	にぶい黄褐色土	(10YR5/4)	ローム粒を多く含む。しまり弱い
3層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒で構成される。しまり強い
4層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒をやや多く含む。しまり強い
5層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。しまり強い



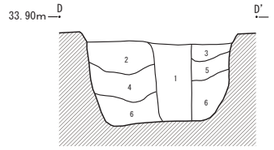
P13 B-B'

1層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・ブロック（1cm）を多く含む。白色粒を多く含む。しまり弱い
2層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。しまり強い
3層	黒色土	(10YR2/1)	ロームブロック（1cm）をわずかに含む。しまりやや強い
4層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・ブロック（1～3cm）をやや多く含む。しまり弱い
5層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多く含む。しまり強い
6層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒をやや多く含む。しまりやや弱い
7層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。しまり強い



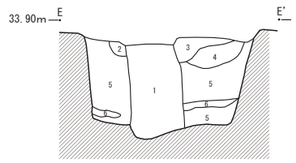
P18 C-C'

1層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ボソボソのロームで構成、白色粒を多く含む。しまり弱い
2層	黄褐色土	(10YR5/6)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多く含む。しまり弱い
3層	黒褐色土	(10YR3/2)	ローム粒を含む。しまり弱い
4層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。しまり強い
5層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒をわずかに含む。しまり弱い
6層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒・ブロック（1～3cm）をやや多く含む。しまり強い
7層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ロームで構成される。しまり強い



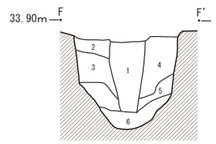
P21 D-D'

1層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・ブロック（1cm）を多く含む。
2層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・ブロック（1～3cm）をやや多く含む。しまり強い
3層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ロームで構成。しまり強い
4層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。しまり強い
5層	黒褐色土	(10YR3/2)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。しまり強い
6層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒・ブロック（1cm）をやや多く含む。



P22 E-E'

1層	黒褐色土	(10YR3/2)	ローム粒をわずかに含む。しまり弱い
2層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒を少し含む。しまり弱い
3層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を多量に含む。しまり強い
4層	暗褐色土	(10YR3/3)	ローム粒をやや多く含む。しまり強い
5層	明黄褐色土	(10YR6/6)	ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。しまり強い
6層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒を少し含む。しまりやや強い

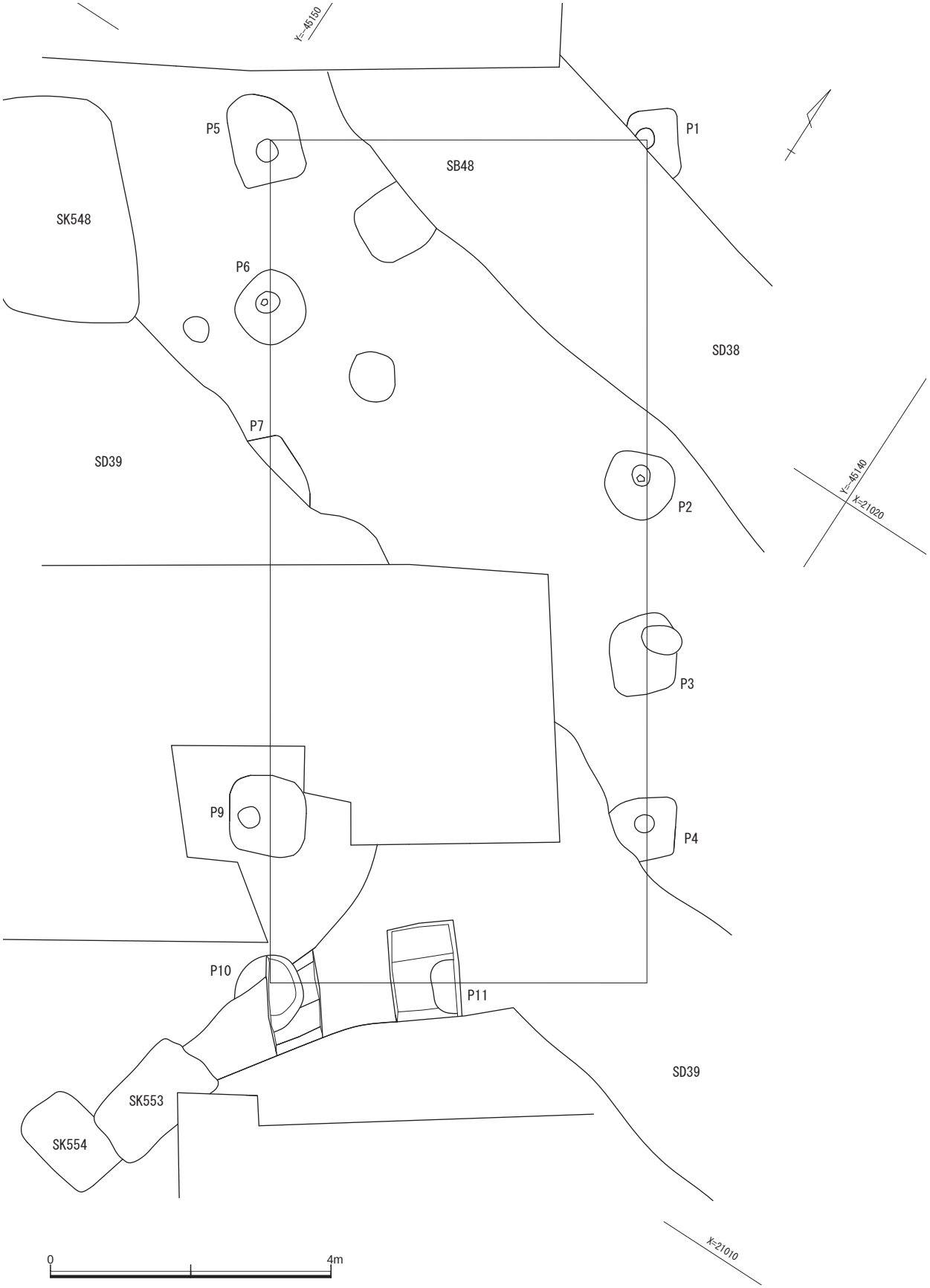


P36 F-F'

1層	灰黄褐色土	(10YR4/2)	ローム粒・白色粒を含む。しまり弱い
2層	灰褐色土	(10YR4/1)	灰褐色粘土を多く含む。しまり強い
3層	黒褐色土	(10YR3/1)	ローム粒を含む。
4層	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒・ブロック（1～3cm）を含む。
5層	灰黄褐色土	(10YR5/2)	灰褐色粘土を多く含む。ローム粒を含む。しまり強い
6層	黒褐色土	(10YR2/1)	ローム粒含む。

0 2m

第76図　第47号建物跡



第77図　第48号建物跡

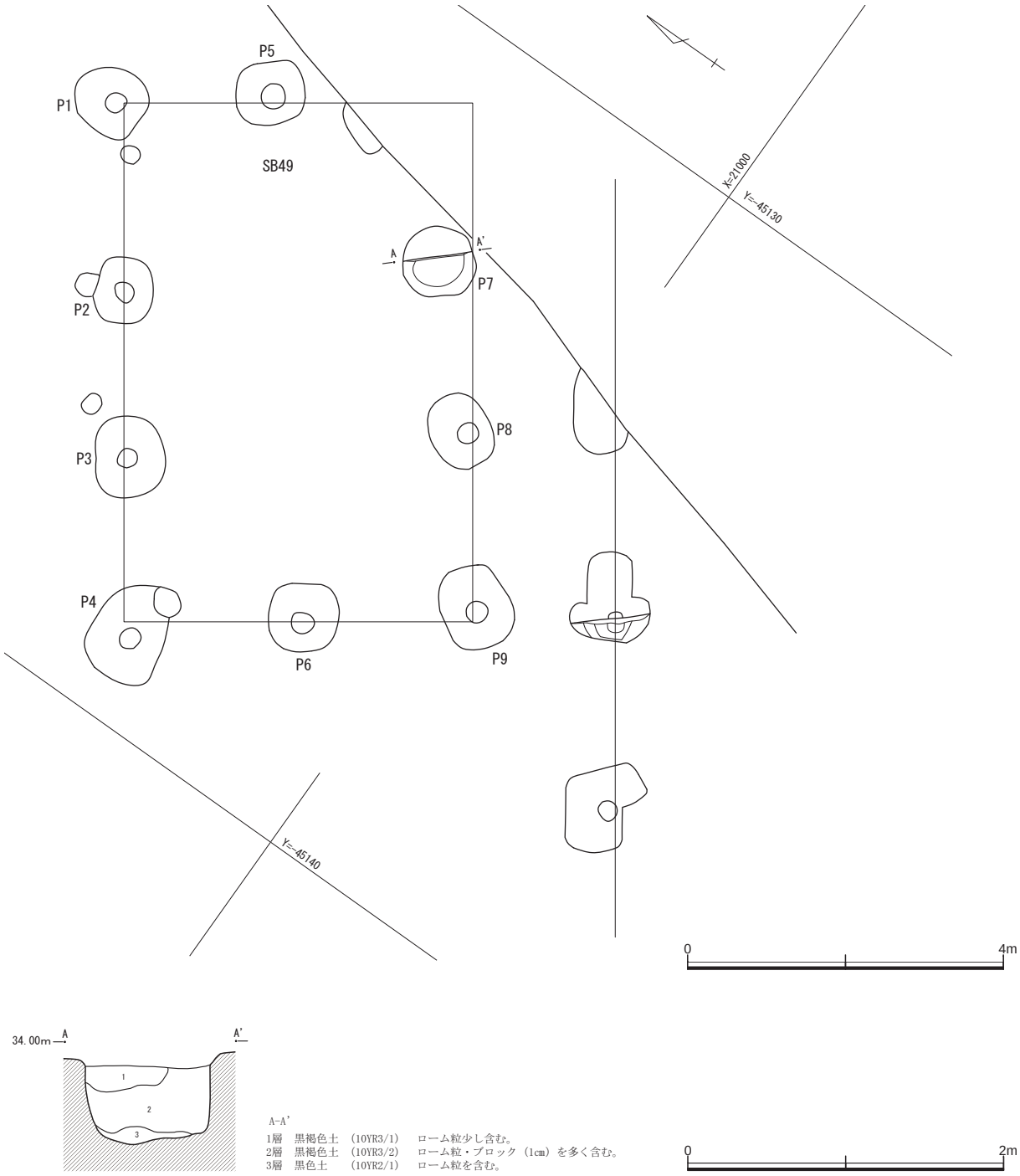
に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行４間(8.2m)×梁行２間(3.4m)、柱間は桁行が北東から2.1m－2.1m－2.25m－1.95m、梁行が北西から1.8m－1.6mを測る。主軸方位はN－50°－Eである。

柱の掘方は、一辺40～60cmの隅丸方形を基本とし、一部円形を呈する。柱痕跡は確認できなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第53号建物跡（第82図）

第19次調査区D区に位置し、第46号溝に切られ、第54号建物跡と重複する。第52号建物跡の南に直列に並び、第９号塀跡の東に平行する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行４間（7.8m）×梁行２間（3.6m）、柱間は桁行が北東から1.95m－2.1m－1.8m－1.95m、梁行が1.8mを測る。主軸方位はN－49°－Eである。



第78図　第49号建物跡

柱の掘方は、一辺40 ～ 60cmの隅丸方形を基本とし、一部円形を呈する。柱痕跡は確認できなかった。

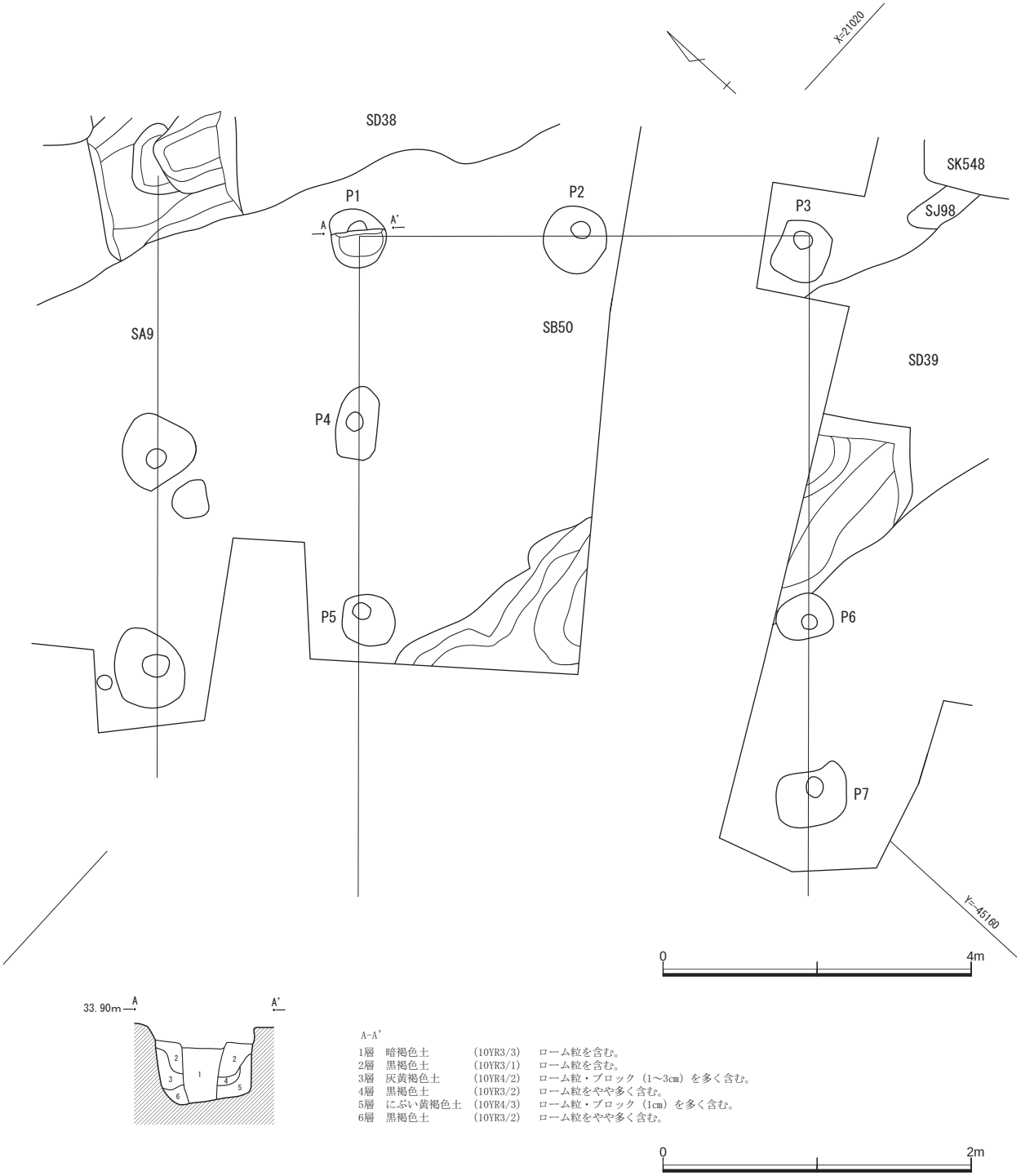
図示できる遺物は出土しなかった。

第54号建物跡（第82図）

第19次調査区Ｄ区に位置する。第９号塀跡の東に平行し、第53号建物跡と重複する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行２間（3.0m）×梁行２間（3.0m）、柱間は桁行、梁行共1.5mを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｅである。

柱の掘方は、直径40 ～ 50cmの円形を基本とする。柱痕跡は確認できなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。



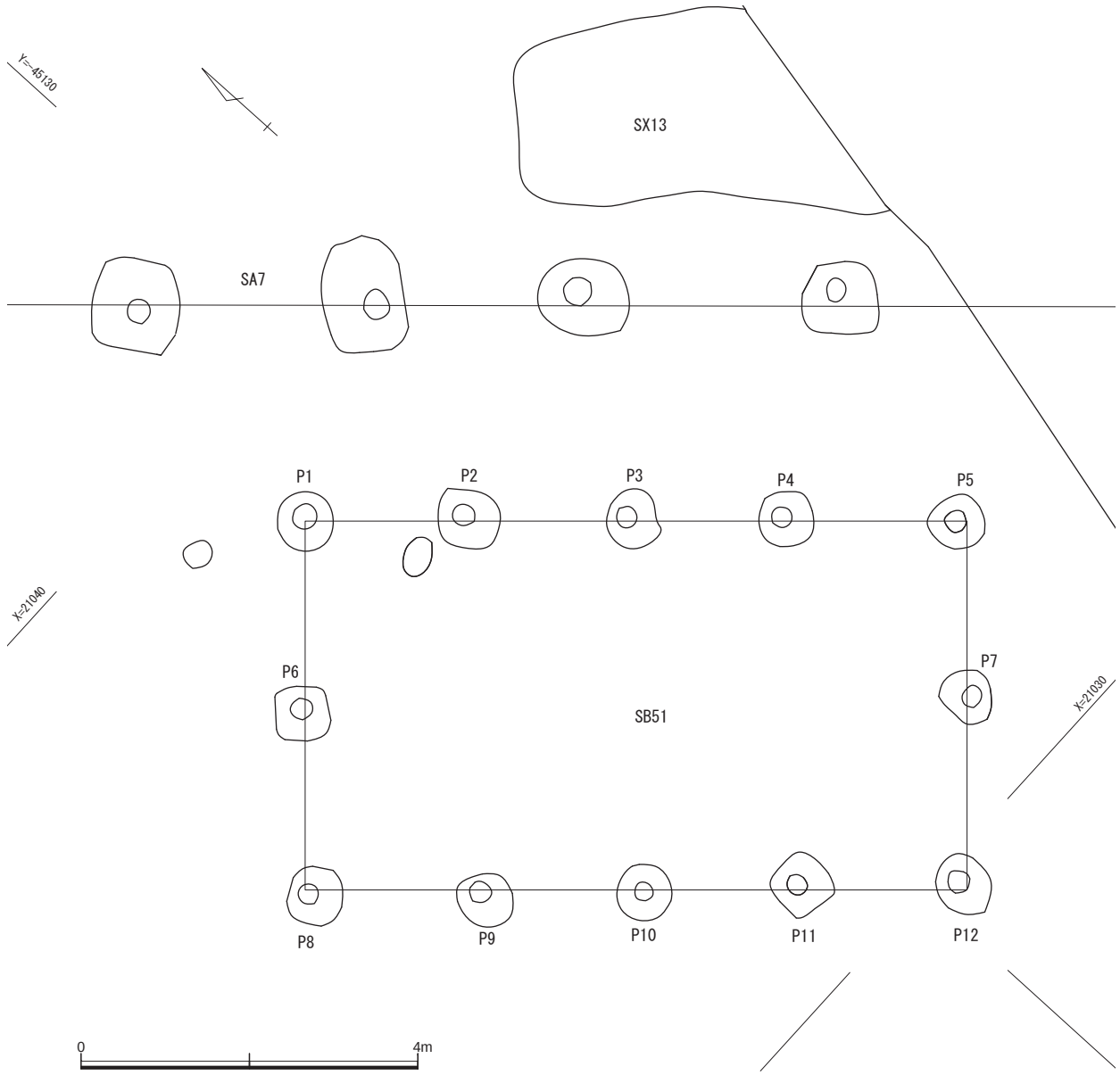
第79図　第50号建物跡

第55号建物跡（第83～84図、第92図10、第30表）

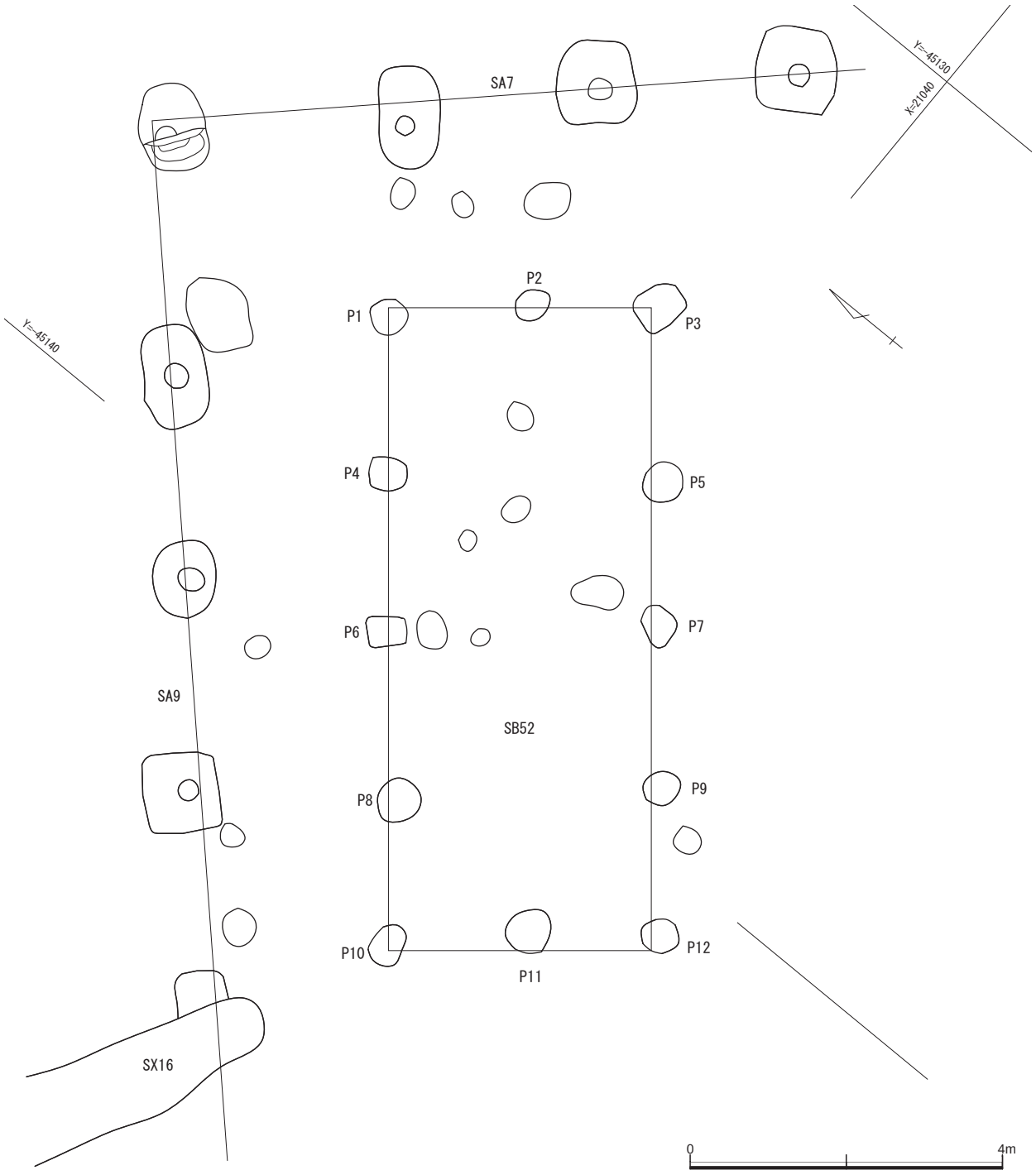
第19次調査区Ｂ区に位置し、第86・88・89号竪穴建物跡を切り、第87号竪穴建物跡、第48号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行３間（7.2m）×梁行２間（4.8m）、柱間は桁行、梁行共2.4mを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗである。

柱の掘方は、長軸1.4～3.0m、短軸0.9～1.1mの隅丸長方形を基本とする。柱は、掘方の中で、建物の中心寄りに据えられる。掘方は、建物の中心よりが深く掘られ、確認面からの深さは約２ｍを測る。建物の外側寄りはやや浅く、確認面から1.0～1.6mの深さである。Ｐ２・Ｐ３では、この部分の掘方が20cm窪み、埋土が充填された上で、外側から落とし込むように柱が据えられたとみられる。Ｐ２では、この充填土に礫が多量に用いられている。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約30cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図10である。須恵器坏で、Ｐ３から出土した。



第80図　第51号建物跡



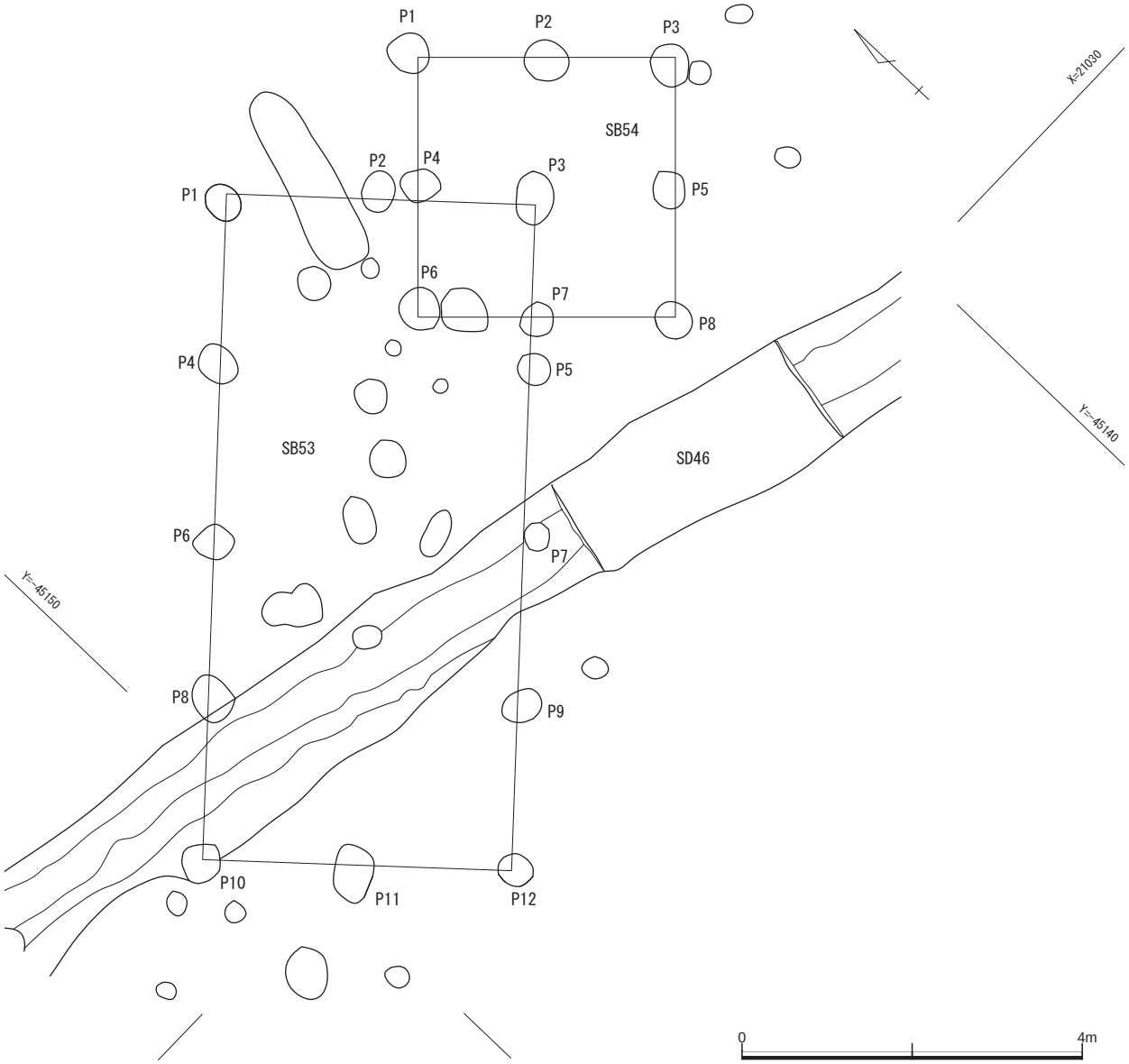
第81図　第52号建物跡

第56号建物跡（第85図）

第19次調査区Ｅ区に位置し、第556号土坑に切られる。また、大部分は調査区外にある。柱穴２基のみの確認であるが、柱穴の規模や南の第58号建物跡との関係から、第58号建物跡と同規模、３×３間（一辺4.5m）程度の総柱式掘立柱建物跡と推定される。柱間は1.5mを測り、主軸方位はＮ－50°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺1.0mの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約30cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。



第82図　第53・54号建物跡

第57号建物跡（第86図）

第19次調査区Ｅ区に位置し、第８号溝、第557号土坑に切られる。不明な部分が多いが、２×２間(一辺4.2m)、柱間は2.1m程度の総柱式掘立柱建物跡と推定される。主軸方位はＮ－43°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺80～90cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約25cmと推定される。

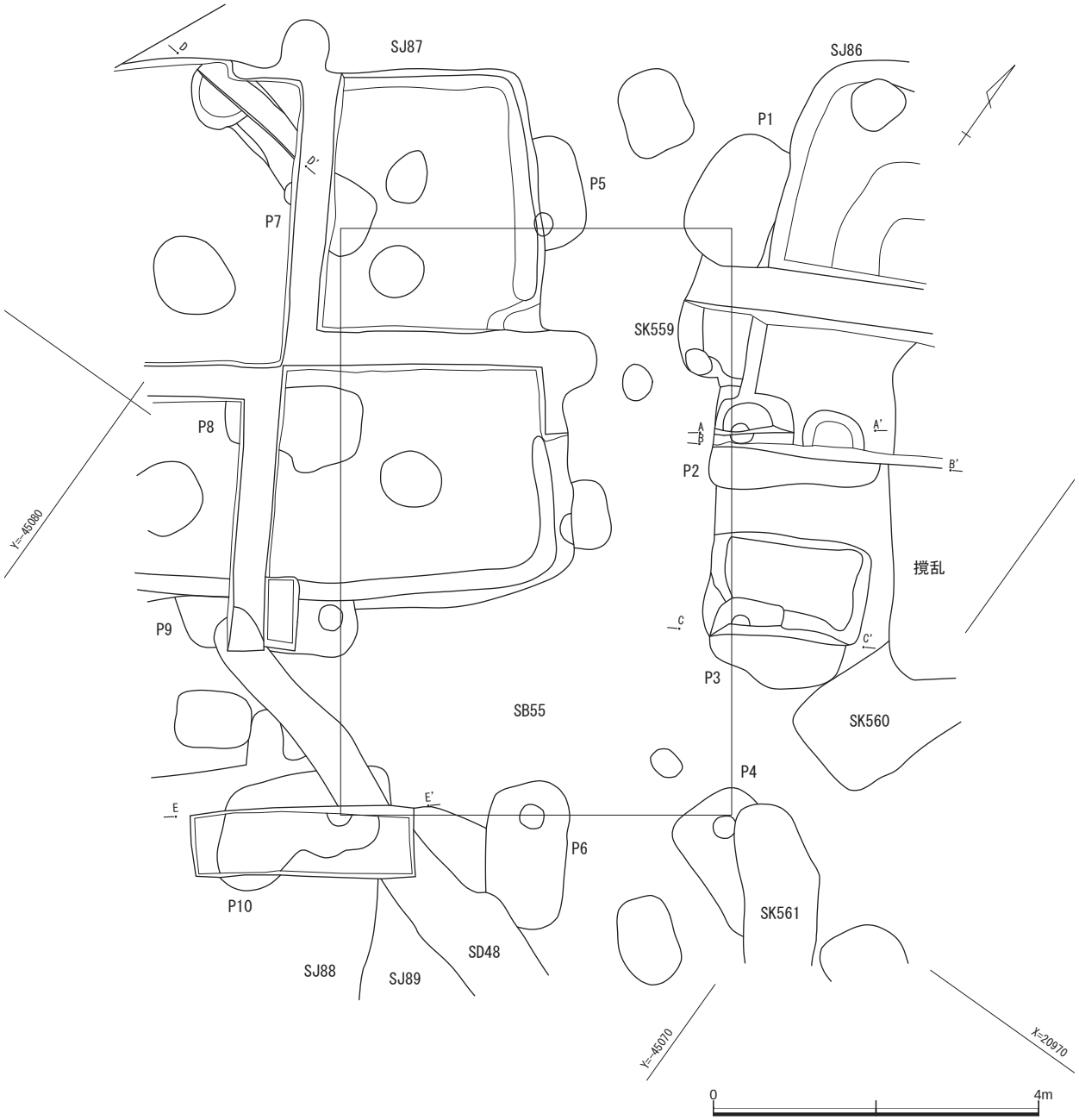
図示できる遺物は出土しなかった。

第58号建物跡（第87図）

第19次調査区Ｆ区に位置し、第８号溝に切られる。第56号建物跡と直列に並ぶ位置にある。総柱式掘立柱建物跡で、桁行３間（4.5m）×梁行３間（4.5m)、柱間は1.5m等間を測る。主軸方位はＮ－50°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺80～120cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約30cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。



第83図　第55号建物跡

第66号建物跡（第88図）

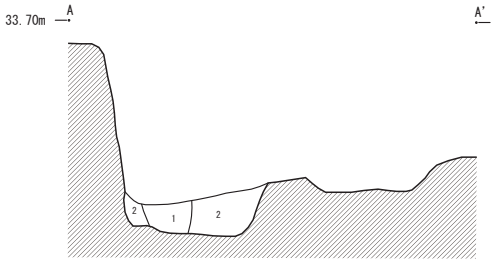
第31次調査区Ｂ区に位置し、第180号竪穴建物跡を切り、第68号建物跡・第20号特殊土坑に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行３間（8.1m）以上、梁行３間（5.7m）、柱間は桁行2.7m、梁行1.9mを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗである。

柱の掘方は、直径50～60cmの円形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約20cmと推定される。

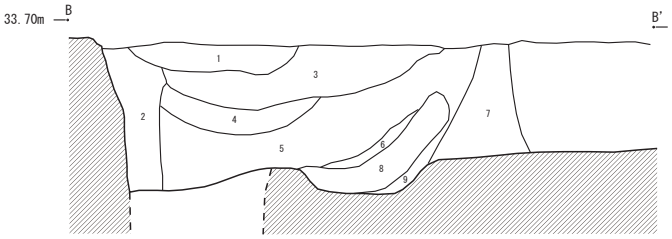
図示できる遺物は出土しなかった。

第67号建物跡（第88図）

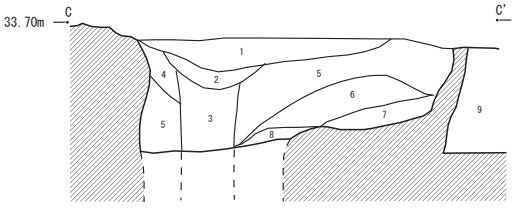
第31次調査区Ｂ区に位置し、第68号建物跡を切る。側柱式掘立柱建物跡で、規模は不明である。柱間は、南北軸が2.4m、東西軸が2.55mを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｗである。



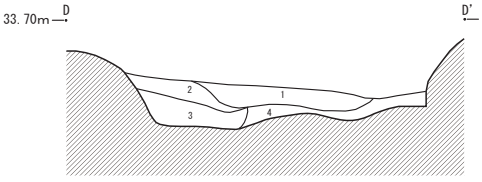
A-A'
1層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1cm）を含む。炭化粒・焼土粒をわずかに含む。しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブッロク（1cm）、炭化粒を含む。※B-B'の5層と同一層



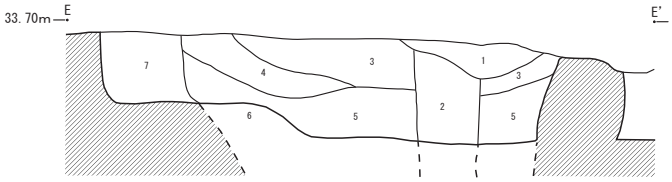
B-B'
1層　黒褐色土　(10YR4/4)　ローム粒・ブロック（1～2cm）を多く含む。炭化粒を少し含む。
2層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1cm）を含む。炭化粒・焼土粒をわずかに含む。しまりやや弱い。
3層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）をやや多く含む。炭化粒を少し含む。
4層　にぶい褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多量に含む。
5層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブロック（1cm）、炭化粒を含む。
6層　黒褐色土　(10YR3/2)　5mm～10cm程の礫を多量に含む。
7層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・ブロック（1cm）、焼土粒を少し含む。（SJ86覆土）
8層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ローム粒で構成される。礫(1～3cm）を含む。
9層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブロック（1～2cm）をやや多く含む。



C-C'
1層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。
2層　黄褐色土　(10YR5/6)　ローム粒を多く含む。
3層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をわずかに含む。しまり弱い。
4層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をわずかに含む。
5層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）をやや多く含む。
6層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。
7層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。
8層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・炭化粒をわずかに含む。
9層　灰褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。（ST86）

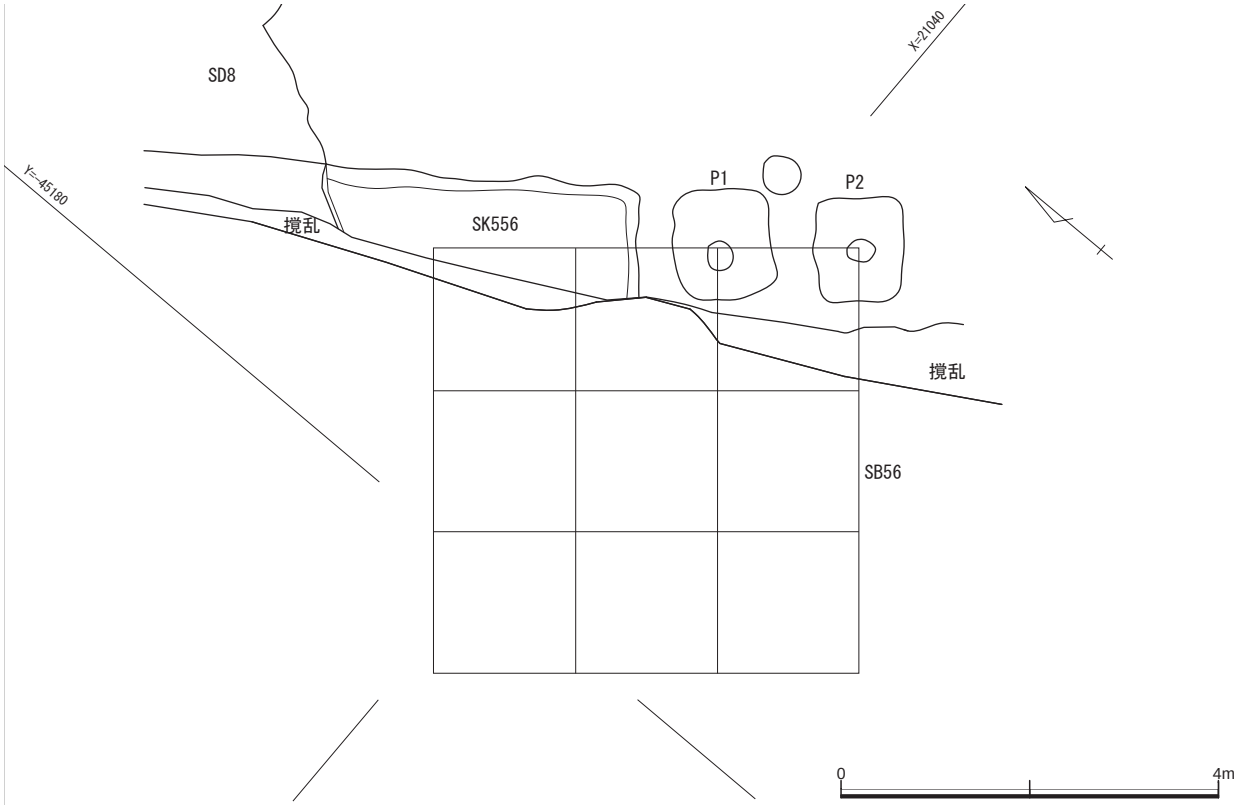


D-D'
1層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒を少し含む。上層にSJ87貼床
2層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒・炭化粒を少し含む。
3層　黒色土　(10YR2/1)　ローム粒をやや多くを含む。
4層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・ブッロク（1～5cm）を多く含む。

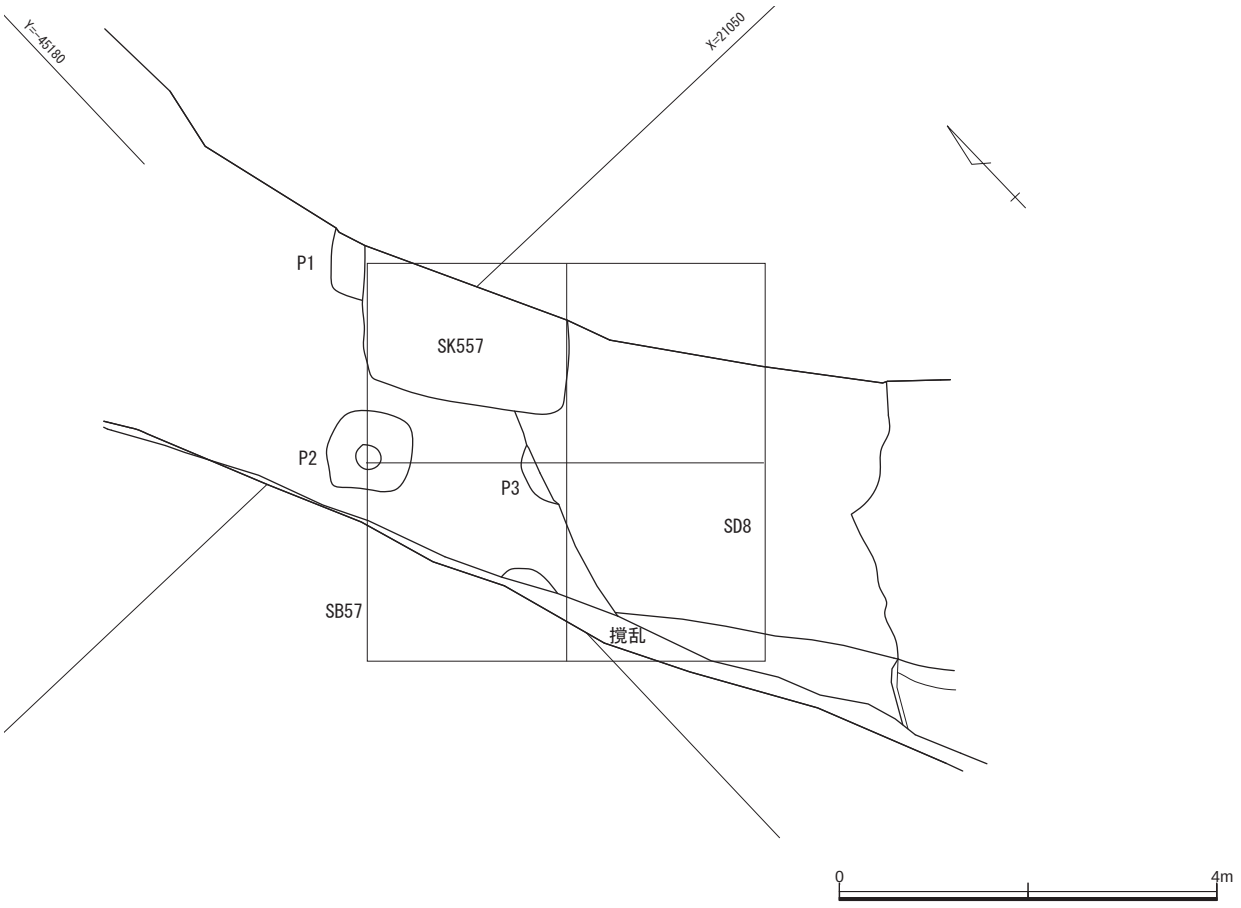


E-E'
1層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・ブロック（1cm）を少し含む。しまり強い。
2層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
3層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒・ブロック（1～5cm）をやや多く含む。
4層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・ブロック（1～2cm）、をやや多く含む。
5層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・ブロック（1～2cm）、焼土粒を含む。
6層　黒褐色土　(10YR3/2)　5mm～10cm程の礫を多量に含む。
7層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒を少し含む。

第84図　第55号建物跡土層断面図



第85図　第56号建物跡



第86図　第57号建物跡

柱の掘方は、直径90～110cmの円形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約25cmと推定される。

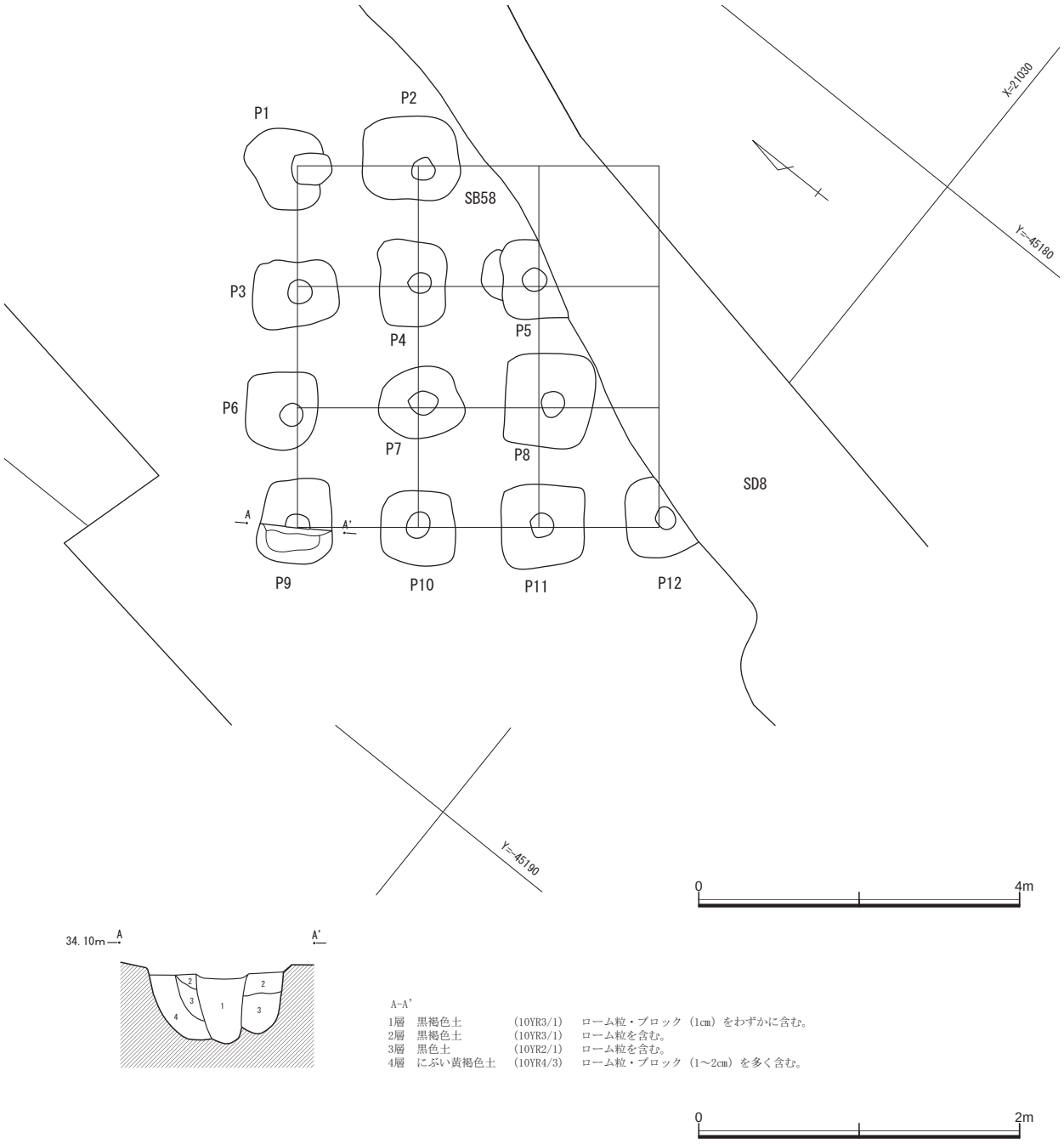
図示できる遺物は出土しなかった。

第68号建物跡（第88図、第92図11、第30表）

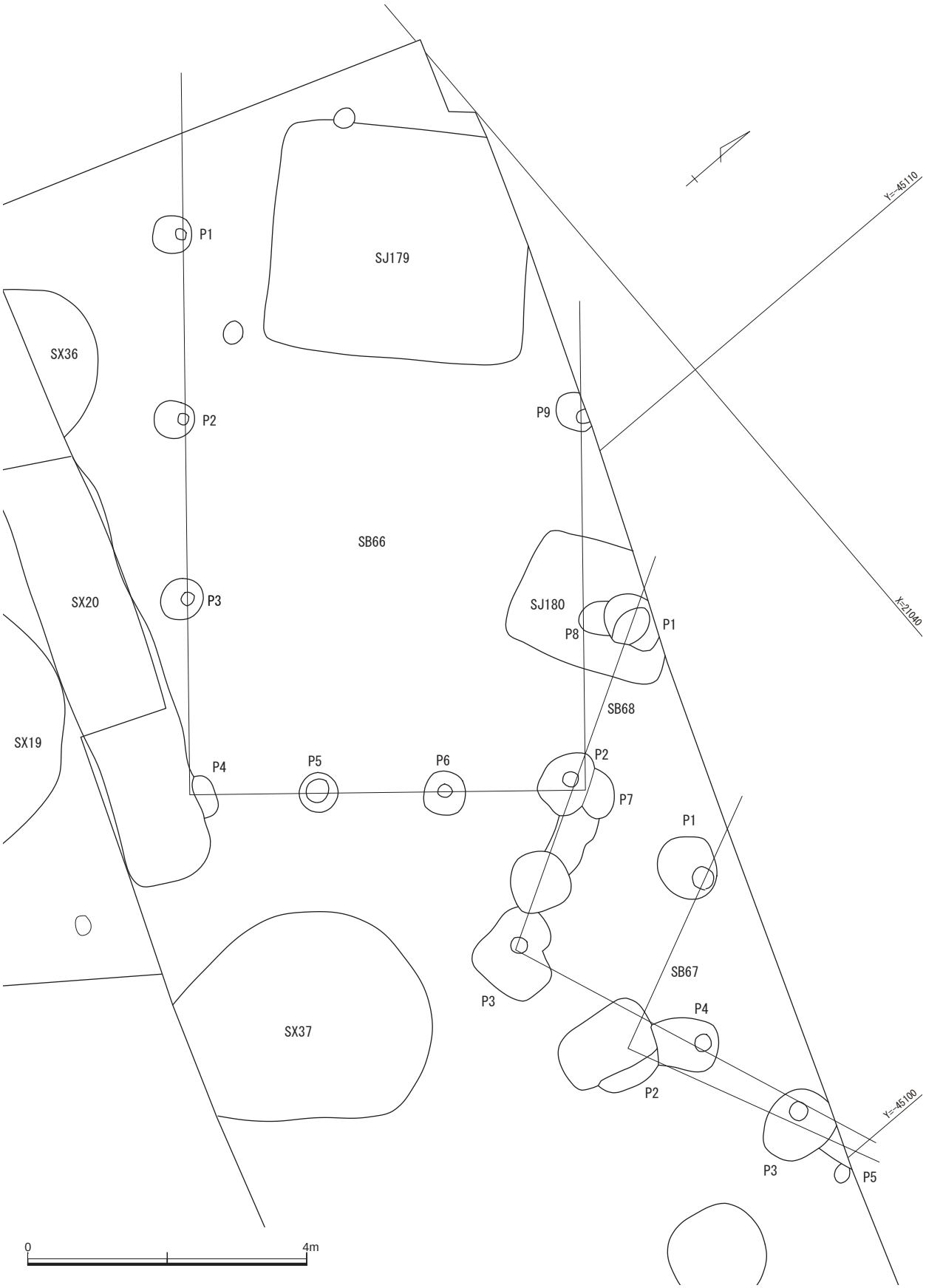
第31次調査区Ｂ区に位置し、第66号建物跡・第180号竪穴建物跡を切り、第67号建物跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、南北軸２間（4.8m）以上、東西軸２間（5.7m）以上、柱間は南北軸2.4m、東西軸2.85mを測る。主軸方位はN－30°－Wである。

柱の掘方は、一辺70～110cmの隅丸方形を基本とし、南隅柱はＬ字形を呈する。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約20cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図11である。土師器甕で、Ｐ４から出土した。



第87図　第58号建物跡



第88図　第66 ～ 68号建物跡

c　塀跡

第４号塀跡（第89図、第92図12～14、第30表）

第19次調査区Ｂ区に位置する。溝による区画内に構築されたもので、第５号塀跡及び第６号塀跡とほぼ直角に交わる。主軸方位はＮ－47°－Ｅである。

柱穴は７基確認された。柱の掘方は隅丸方形を基本とし、柱穴の規模は一辺80～130cmのＰ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７と一辺40～70cmのＰ２・Ｐ４・Ｐ６がある。Ｐ１は確認面から60cmの深さを測る。柱は柱痕跡が残り、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図12～14である。全てＰ１から出土し、12は土師器暗文坏、13・14は須恵器蓋である。

第５号塀跡（第89図、第92図15～21、第30表）

第19次調査区Ｂ区に位置する。溝による区画内に構築されたもので、第43号建物跡を切り、第４号塀跡とほぼ直角に交わる。主軸方位はＮ－40°－Ｗである。

柱の掘方は、Ｐ３・Ｐ４は直径70cmの円形、その他は一辺70～110cmの隅丸方形を呈する。柱は一部で柱痕跡が残り、柱痕跡から、柱の直径は約25cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図15～21である。15は螺旋暗文が施された土師器暗文坏で、Ｐ３から出土した。16～21はＰ５から出土した。16は螺旋暗文が施された土師器坏である。17～20は須恵器蓋、21は須恵器坏である。

第６号塀跡（第89図、第92図22～25、第30表）

第19次調査区Ｂ区に位置する。溝による区画内に構築されたもので、第39号溝に切られ、第４号塀跡とほぼ直角に交わる。主軸方位はＮ－41°－Ｗである。

柱の掘方は、Ｐ２・Ｐ４は直径60cmの円形、その他は一辺60～120cmの隅丸方形を呈する。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約25cmと推定される。

図示できた遺物は、第92図22～25である。22は須恵器甕で、Ｐ２から出土した。23～25はＰ３から出土したもので、23･24は須恵器坏、25は須恵器盤である。

第７号塀跡（第90～91図、第92図26、第30表）

第19次調査区Ｃ・Ｄ区に位置し、第92号竪穴建物跡を切り、第19号特殊土坑・第38号溝に切られる。塀による区画施設の北辺を区画する掘立柱塀跡である。南東部は調査区外にあるが、約60mにわたって確認された。柱間はＰ１からＰ７までが、西から3.0m－2.55m－2.55m－2.7m－2.55m－3.0m、Ｐ８からＰ16までが2.55m－3.0m－2.7m－2.85m－2.85m－2.7m－2.55m－3.0m、Ｐ17からＰ19までが2.55m－2.85mを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｗである。

柱の掘方は、一辺70～140cmの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは、Ｐ１が70㎝、Ｐ17が40cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20～25cmと推定される。

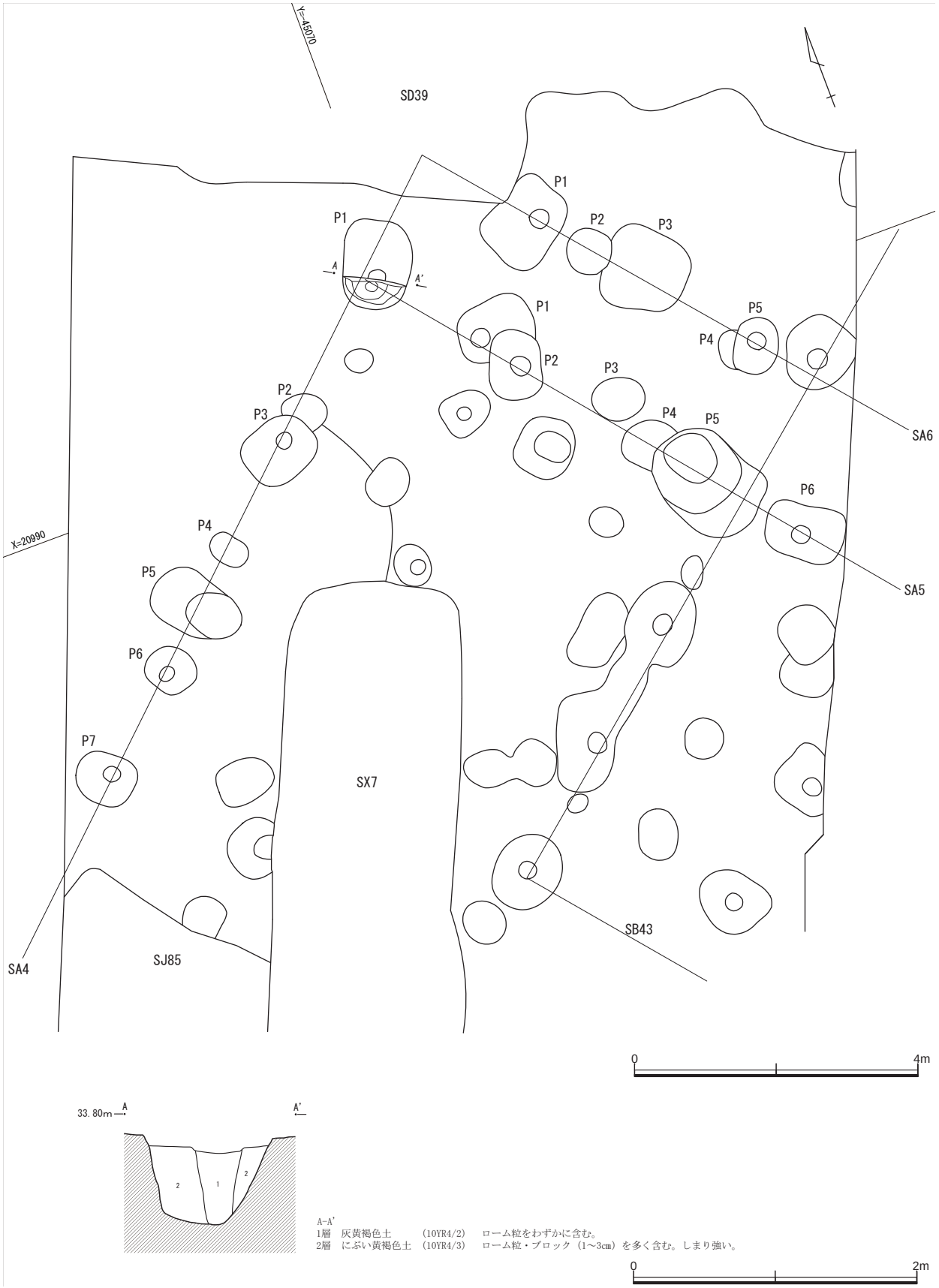
図示できた遺物は、第92図26である。土師器甕で、Ｐ10から出土した。

第８号塀跡（第90～91図）

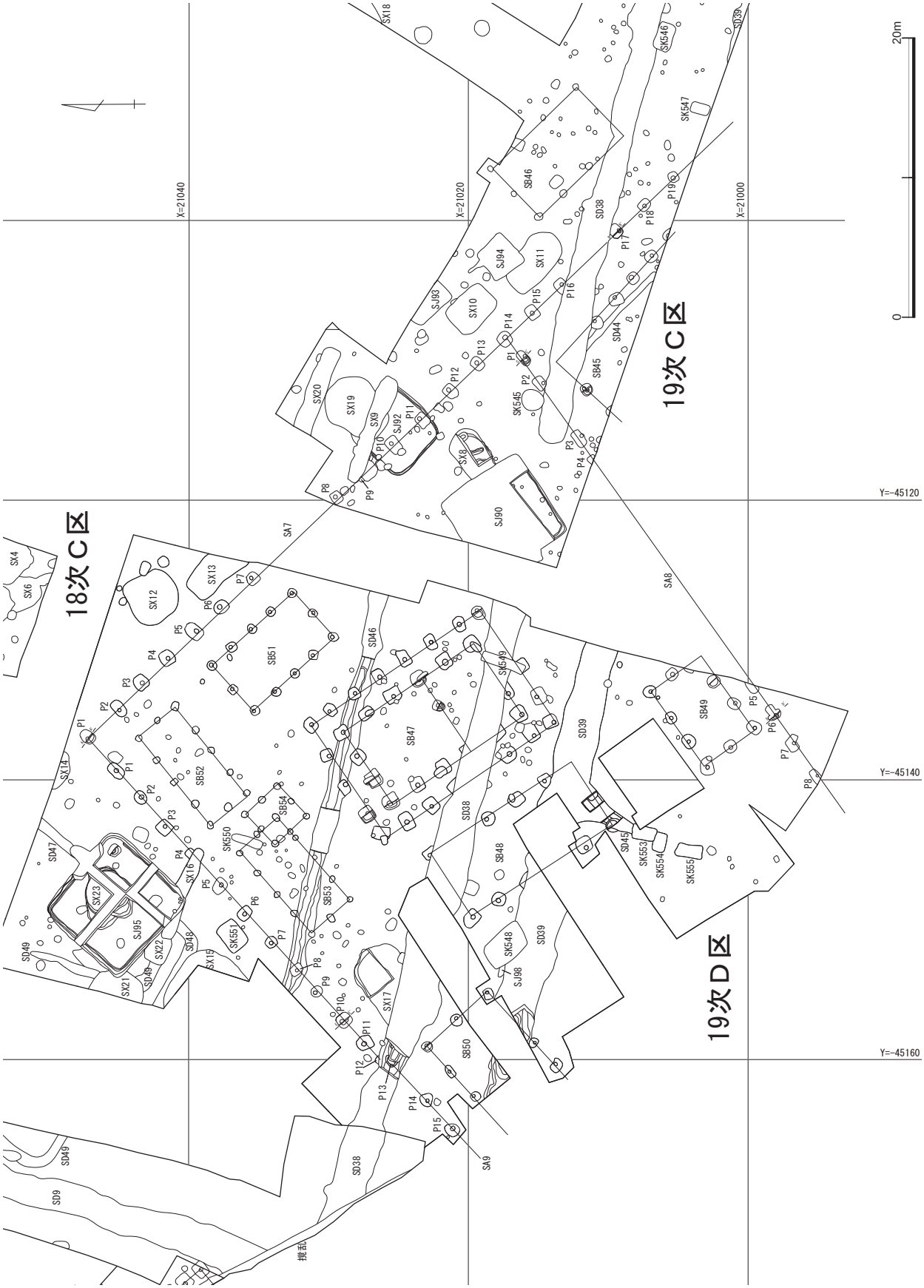
第19次調査区Ｃ・Ｄ区に位置し、第38号溝に切られる。塀による区画施設内を仕切る掘立柱塀跡である。北は第７号塀跡に連結すると思われる。南西部は調査区外にあるが、約40mにわたって確認された。柱間は第７号塀跡Ｐ14からＰ２までが、北から1.8m－2.4m、Ｐ６からＰ８までが2.4m－2.85mを測る。主軸方位はＮ－54°－Ｅである。

柱の掘方は、60～80㎝×100～130cmの隅丸長方形を基本とする。ただし、Ｐ６はＴ字形、Ｐ７はＬ字形を呈する。確認面からの深さは、Ｐ１が50㎝、Ｐ６が70cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約20cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

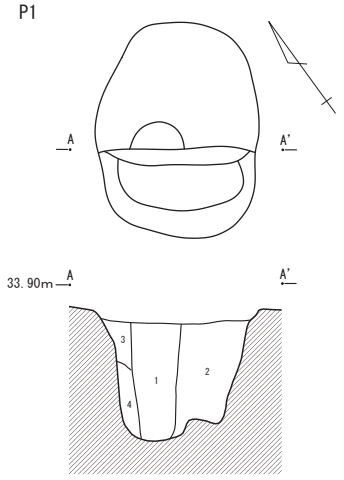

Y=45070
SD39
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
A
A'
SA6
SA5
SA4
SX7
SJ85
SB43
X=20990
0
4m
33.80m
2
1
2
A-A'
1層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒をわずかに含む。
2層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。しまり強い。
0
2m

第89図　第４～６号塀跡


18次C区
19次C区
19次D区
X=21040
X=21020
X=21000
Y=-45120
Y=-45140
Y=-45160
0
20m
撹乱

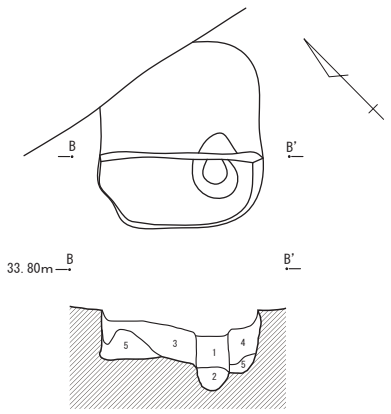
第90図　第７～９号塀跡

SA7　P1



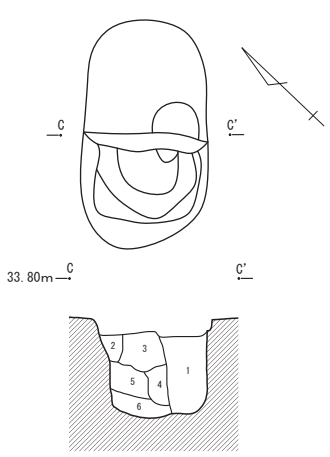
A-A'
1層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒少し含む。
2層　黒色土　(10YR2/1)　ローム粒を少し含む。
3層　黒褐色土　(10YR3/2)　ローム粒をやや多く含む。
4層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・ブロック（1cm）を多く含む。

SA7 P17



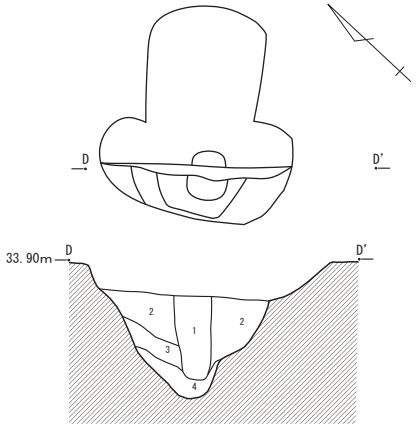
B-B'
1層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒を少し含む。しまりやや弱い
2層　黒褐色土　(10YR5/6)　黒色土粒を少し含む。ローム粒で構成。
3層　黒色土　(10YR2/1)　ローム粒を少し含む。
4層　黒褐色土　(10YR6/6)　ローム粒・ブロック（1cm）を多量に含む。
5層　明黄褐色土　(10YR3/2)　ロームで構成。
黒色土粒・ハードロームブロック（5cm）を含む。

SA8　P1



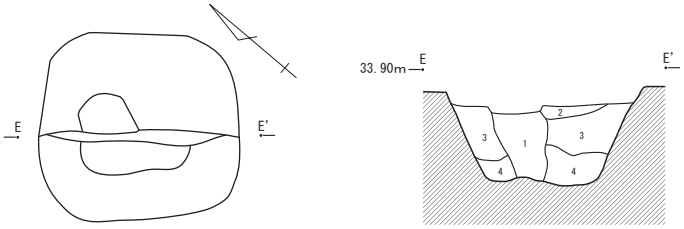
C-C'
1層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒を含む。
2層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒を少し含む。
3層　褐色土　(10YR4/4)　ローム粒・ブロック（1～3cm）
黒色土ブロック（1～3cm）を多量に含む。
4層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒を少し含む。
5層　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　ローム粒・ブロック（1～2cm）を少し含む。
黒色土ブロック（1～2cm）を多く含む。
6層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ロームで構成される。黒色土粒を少し含む。

SA8 P6



D-D'
1層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒を含む。しまり弱い
2層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多く含む。しまり強い
3層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　ローム粒を多く含む。
4層　黄褐色土　(10YR5/6)　ローム粒・ブロック（1～5cm）を多量に含む。

SA9 P10



E-E'
1層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　ローム粒を含む。
2層　黒褐色土　(10YR3/1)　ローム粒をわずかに含む。
3層　暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒・ブロック（1cm）をやや多く含む。
4層　明黄褐色土　(10YR6/6)　ローム粒・ブロック（1～3cm）を多量に含む。

第91図　第７～９号塀跡土層断面図

第９号塀跡（第90 ～ 91図、第92図27、第30表）

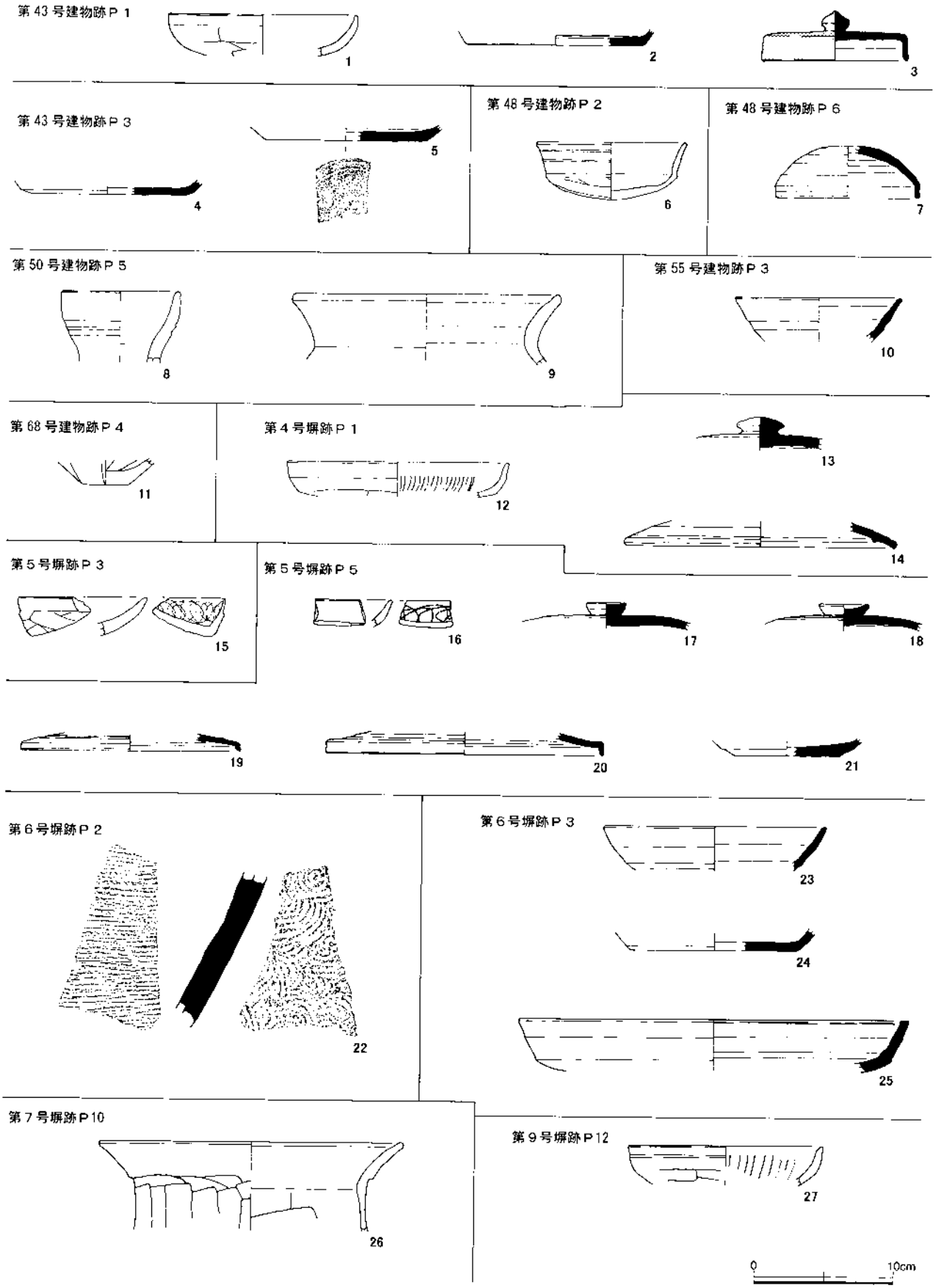
第19次調査区Ｃ・Ｄ区に位置し、第16号特殊土坑、第38・46号溝に切られる。塀による区画施設の西辺を区画する掘立柱塀跡である。南西部は調査区外にあるが、約40mにわたって確認された。柱間は第７号塀跡Ｐ１からＰ12までが、北から3.0m－2.7m－2.7m－2.85m－2.85m－2.7m－2.85m－2.7m－2.1m－2.85m－2.1m－1.8m、Ｐ13からＰ15が3.75m－2.7mを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｅである。

柱の掘方は、一辺70 ～ 130cmの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは、Ｐ10が50cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は20 ～ 25cmと推定される。

Ｐ13は第38号溝に大部分壊されており、わずかな窪みで判断されたものである。Ｐ14との間は、3.75mと特に間隔が開いている。Ｐ13が柱穴ではなく、開放部となる可能性もあるが、第50号建物跡との関係から、その可能性は低いものと思われる。いずれにしても、Ｐ12以北とＰ13以南とでは、直線的に結び付かないのは確実である。造営工事や測量の方法に起因するものであろうか。

図示できた遺物は、第92図27である。土師器暗文坏で、Ｐ12から出土した。

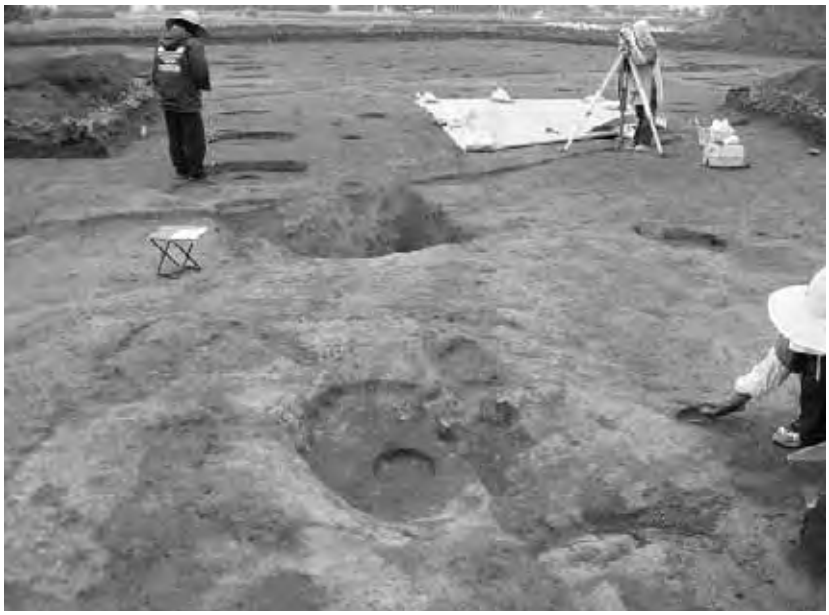
第47号建物跡



第92図　建物跡・塀跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備　　考
第92図 1	ＳＢ43Ｐ１	Ｈ	坏	(13.5)			ＡＣＤＥＨ	普	橙	10%	
2		Ｓ	坏			(12.5)	ＡＣＨ	普	灰	５％	
3		Ｓ	蓋	(10.4)	3.6		ＡＣ	良	灰	60%	外面に自然釉
4	ＳＢ43Ｐ３	Ｓ	坏			(11.0)	ＡＣＨ	普	灰白	10%	
5		Ｓ	坏			(11.6)	ＡＧＨ	良	青灰	10%	
6	ＳＢ48Ｐ２	Ｈ	坏	(10.6)	4.1		ＡＢＣＥ	良	橙	75%	
7	ＳＢ48Ｐ６	Ｓ	蓋	(10.2)		3.8	ＡＨ	良	青灰	30%	
8	ＳＢ50Ｐ５	Ｈ	壷	(8.4)			ＡＣＨ	不良	橙	５％	
9		Ｈ	甕	(19.0)			ＡＢＣＥＨ	普	橙	５％	
10	ＳＢ55Ｐ３	Ｓ	坏	(9.8)			ＡＣＧＨ	普	灰	20%	
11	ＳＢ68Ｐ４	Ｈ	甕			3.2	ＡＣＥＨＩ	普	橙	５％	
12	ＳＡ４Ｐ１	Ｈ	坏	(15.8)			ＡＣＥＩ	普	橙	20%	
13		Ｓ	蓋				ＡＣＦＨ	良	青灰	15%	
14		Ｓ	蓋	(19.2)			ＡＣＦＨ	良	青灰	15%	
15	ＳＡ５Ｐ３	Ｈ	坏				ＡＢＣＥ	普	橙	10%	
16	ＳＡ５Ｐ５	Ｈ	坏				ＡＣＥ	普	橙	５％	
17		Ｓ	蓋				ＡＧ	良	青灰	25%	
18		Ｓ	蓋				ＡＧＨ	普	灰白	25%	
19		Ｓ	蓋	(15.8)			ＡＨ	良	青灰	５％	
20		Ｓ	蓋	(19.8)			ＡＣＧ	普	灰	５％	
21		Ｓ	坏			(7.6)	ＡＣＧＨ	普	灰	10%	
22	ＳＡ６Ｐ２	Ｓ	甕				ＡＣＦＨ	良	青灰		
23	ＳＡ６Ｐ３	Ｓ	坏	(15.8)			ＡＣＧＨ	普	灰白	10%	
24		Ｓ	坏			(11.8)	ＡＣＧＨ	良	青灰	10%	
25		Ｓ	盤	(28.0)			ＡＣＨ	普	灰白	５％	
26	ＳＡ７Ｐ10	Ｈ	甕	(21.6)			ＡＢＣＥＨ	普	暗褐	10%	
27	ＳＡ９Ｐ12	Ｈ	坏	(13.8)			ＡＢＣＥ	普	橙	10%	

第30表　建物跡・塀跡出土遺物観察表



調査風景

Ⅳ　調査のまとめ

１　はじめに

幡羅遺跡は、北西部の正倉域、南東部の実務官衙域から成る。郡庁は現在のところ確認されていないが、実務官衙域の周辺にある可能性が高いと思われる。

今回報告したのは、実務官衙域の一部についてである。塀による区画施設とその周辺にある特殊土坑（廃棄土坑）、溝による区画施設の跡が確認された。塀による区画施設は、四面庇建物を主殿とし、建物配置や、竪穴建物を伴うとみられる点等から、少なくともある時期には館として位置付けられると考えられる。特殊土坑はそれに近接していることから、館に関連付けて考えることができる。また、溝による区画施設は、内部に鍛冶工房を伴う点等から、生産に関わる曹司と捉えられる。

ここでは、それらのうち一部、特殊土坑、掘立柱建物跡、掘立柱塀跡についてのみ報告した。竪穴建物跡等については整理中のため、それを施設の一部に含む区画施設についての総合的な考察は改めて行なうこととし、特殊土坑から出土した多量の遺物について考察を加えたい。

２　特殊土坑出土遺物について

今回調査された特殊土坑群の中で、主たる部分は第３号特殊土坑（ＳＸ３）と第４号特殊土坑（ＳＸ４）である。この２基の特殊土坑から、図示できたものだけでも884点にも及ぶ遺物が出土した。両土坑とも深さ１ｍ前後を測り、遺物は下層から上層まで特に粗密無く分布している。また、両土坑には切り合い関係が認められ、ＳＸ４の埋没後にＳＸ３が掘り込まれていることが確認されている。主な器種は、土師器では模倣坏、有段口縁坏、北武蔵型坏、暗文系無文坏、暗文坏、ミガキを有する坏、皿である。それらの器種ごとの遺物分布を第93～97図に示した。また、須恵器供膳具の分布を第98・99図に示した。

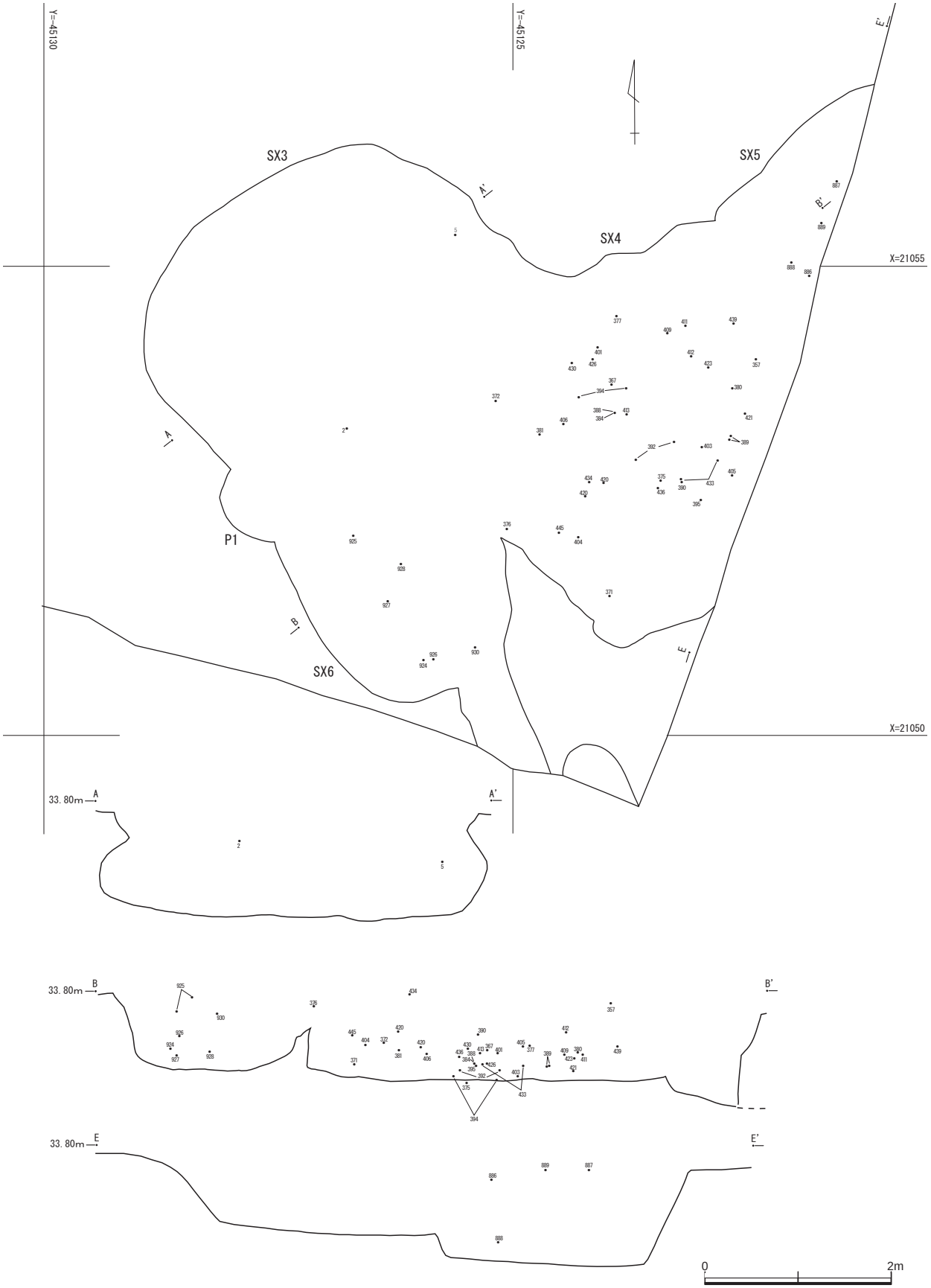
確認された土層は細かく、層ごとに遺物を分類することは不可能と判断されたため、ＳＸ３は１～４層を上層、５層以下を下層として、ＳＸ４は11層を基準としてそれ以上を上層、それより下を下層に区分、出土位置の判明しているものの内、供膳具をそれぞれに分類し、検討を行なった。埋没の順に述べていきたい（第101～105図）。なお、上下層に分類しないＳＸ３・４全体の器種組成、径高分布を、参考資料として第100図に示した。

まずＳＸ４下層であるが、須恵器の割合は低く、土師器では有段口縁坏が４分の１を占める。暗文坏は口径10.6～17.6cm程度で、径高指数は平均29.657を測る。須恵器は坏Ｈが一定量みられる。坏は坏Ｇが主体で、高台坏も認められる。坏Ｇの口径は10.2～10.6cm程度である。しかし、蓋の中には口径約19cmのものも認められる。また、脚付盤を伴う。

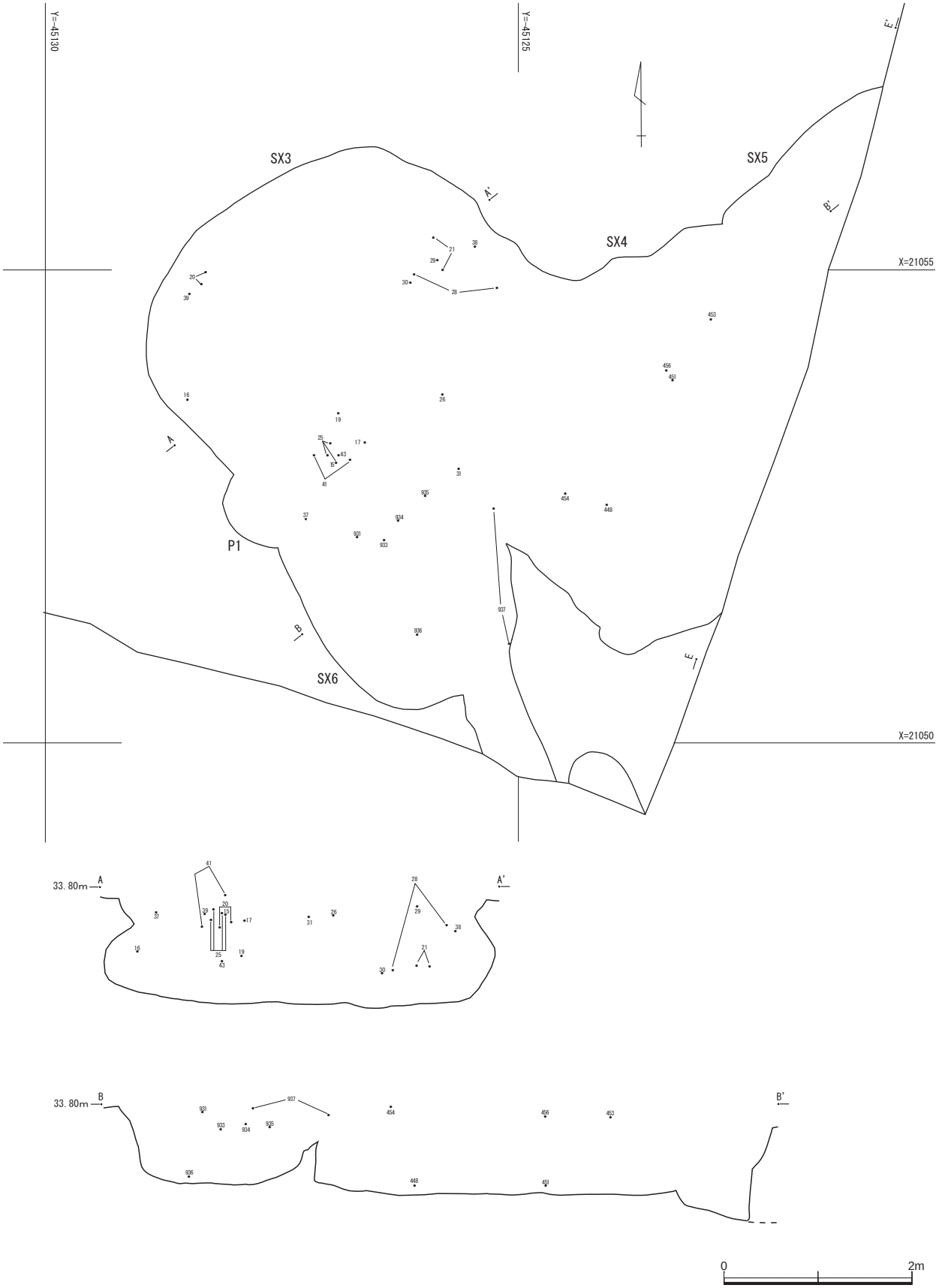
ＳＸ４上層は、須恵器の割合が４割近くと大きくなり、土師器は有段口縁坏の割合が減少する。暗文坏は口径10.8～18.2cm程度で、径高指数は平均29.067を測る。須恵器は坏Ｈが少量認められる。坏は坏Ｇと無台坏が主体となる。坏Ｇは口径9.4～10.5cm程度、無台坏は口径10.0～17.8cm程度である。また、脚付盤を伴う。

ＳＸ３下層は、有段口縁坏が無くなり、北武蔵型坏の割合が増加する。暗文坏は口径11.3～16.7cm程度で、径高指数は平均28.344を測る。須恵器は坏Ｈがわずかながら認められる。坏は無台坏が主体となり、高台坏が少量認められる。無台坏は、口径12.5～18.5cm程度である。蓋は口径19cm以上のものがあり、かえりは弱いものが認められる。

ＳＸ３上層は、器種組成に関して、皿が減少する他はＳＸ３下層との変化は認められない。暗文坏は口径11.0～18.2cm程度で、径高指数は平均28.256を測る。須恵器は坏Ｈが含まれない。坏は無台坏が主体であり、



第93図　模倣坏、有段口縁坏出土状況



第94図　北武蔵型坏出土状況

第95図　暗文坏、暗文系無文坏、ミガキを有する坏出土状況（1）

第96図　暗文坏、暗文系無文坏、ミガキを有する坏出土状況（2）

第97図　土師器皿出土状況

第98図　須恵器供膳具出土状況（1）

第99図　須恵器供膳具出土状況（2）

口径は12.2～18.2cm程度である。蓋は口径20cm以上のものがあり、かえりは弱いものが多い。

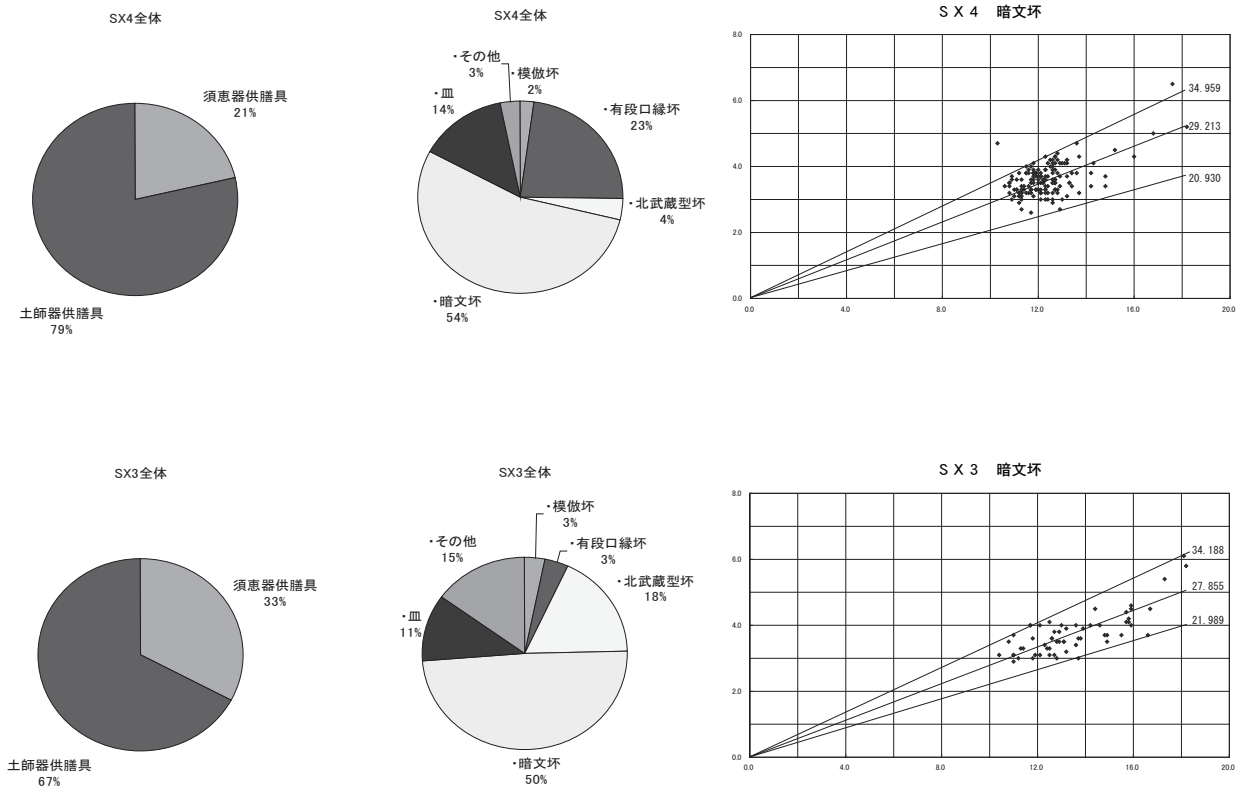
以上の４区分した土器群は、須恵器の割合の増加、有段口縁坏の減少と消滅、暗文坏の径高指数の減少という一定方向の変化が認められた。生産から廃棄までの流れの中で、若干の時間のズレは生じようが、埋没過程と矛盾するものではなく、また、徐々に変化していくことから､実態に近い時間的な変化と考えられる。

幡羅遺跡では、この他に、第４次調査区第13号竪穴建物跡（ＳＪ13)、第75号土坑（ＳＫ75）出土土器がまとまった資料である。ＳＫ75は出土遺物に時間幅が大きい可能性があるため、後日改めて検討することとして、ここでは扱わない。また、岡部地区にある熊野遺跡の第131次１号住居跡（131次１住)、Ａ区第２号特殊遺構（Ａ区ＳＸ２）も、ＳＸ３・４出土土器を考える上で非常に参考になる。これら３つの遺物群についてみていきたい。

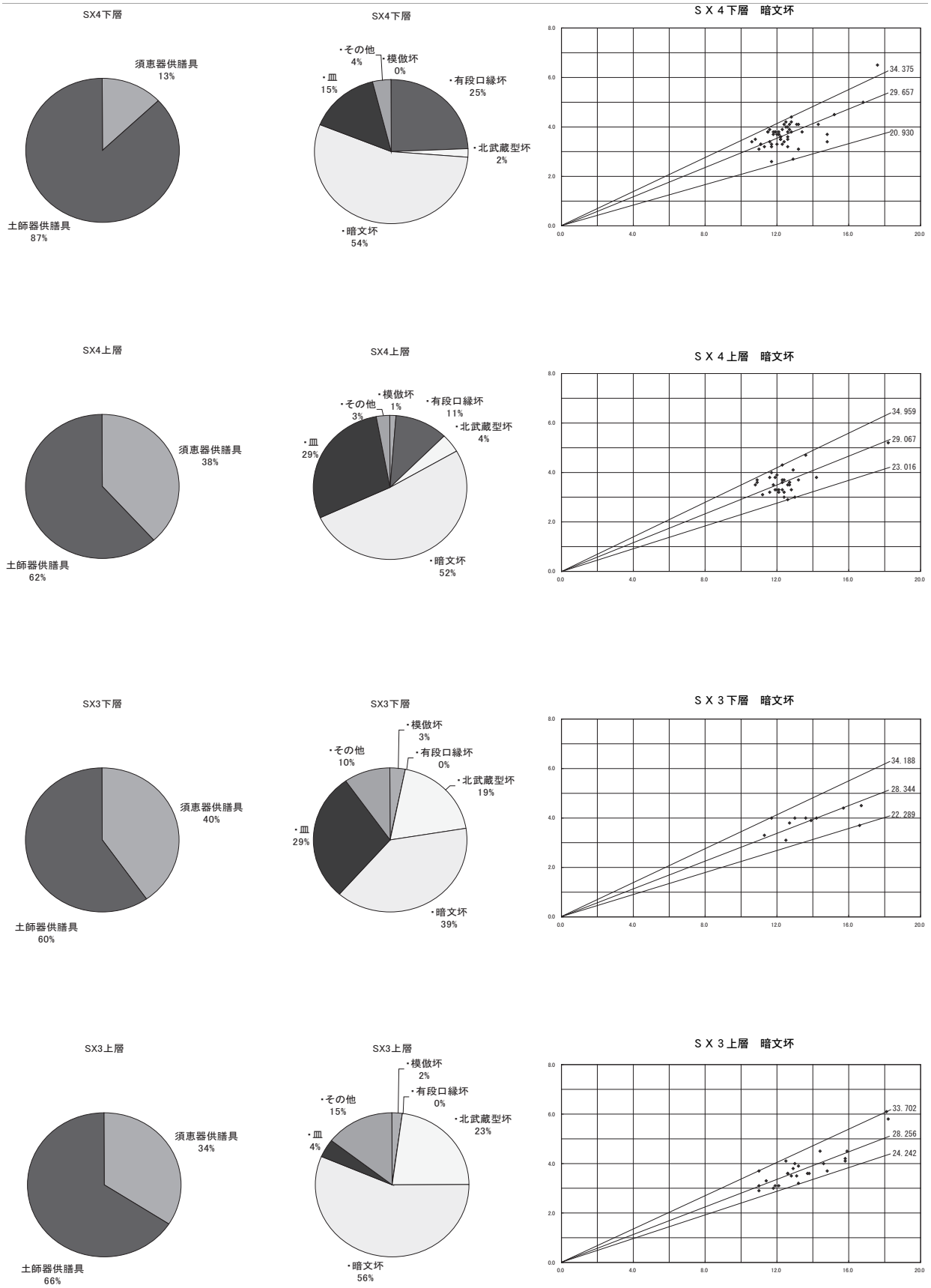
幡羅遺跡ＳＪ13は、須恵器の割合が８％と低く、有段口縁坏の割合は約３割を占める。暗文坏は口径9.5～17.2cm程度で、径高指数は平均29.65を測る。口径の小さいものから大きいものまで同じ指数を測るものが良く揃っており、重椀構造を呈する。須恵器は坏Ｈと坏Ｇを主体とする。坏Ｇの口径は10.3～11.0cm程度である。

熊野遺跡131次１住は、須恵器の割合が11％と低く、有段口縁坏の割合は36％と高い。北武蔵型坏の割合が高いのは、幡羅遺跡と異なる点である。暗文坏の口径は8.6～17.8cm程度、径高指数は平均34.794を測り、深みのある器形が標準である。また、第103図１～３の畿内産土師器を伴う。須恵器は坏Ｈ、坏Ｇ、無台盤がある。坏Ｇの口径は、8.0～9.5cm程度である。

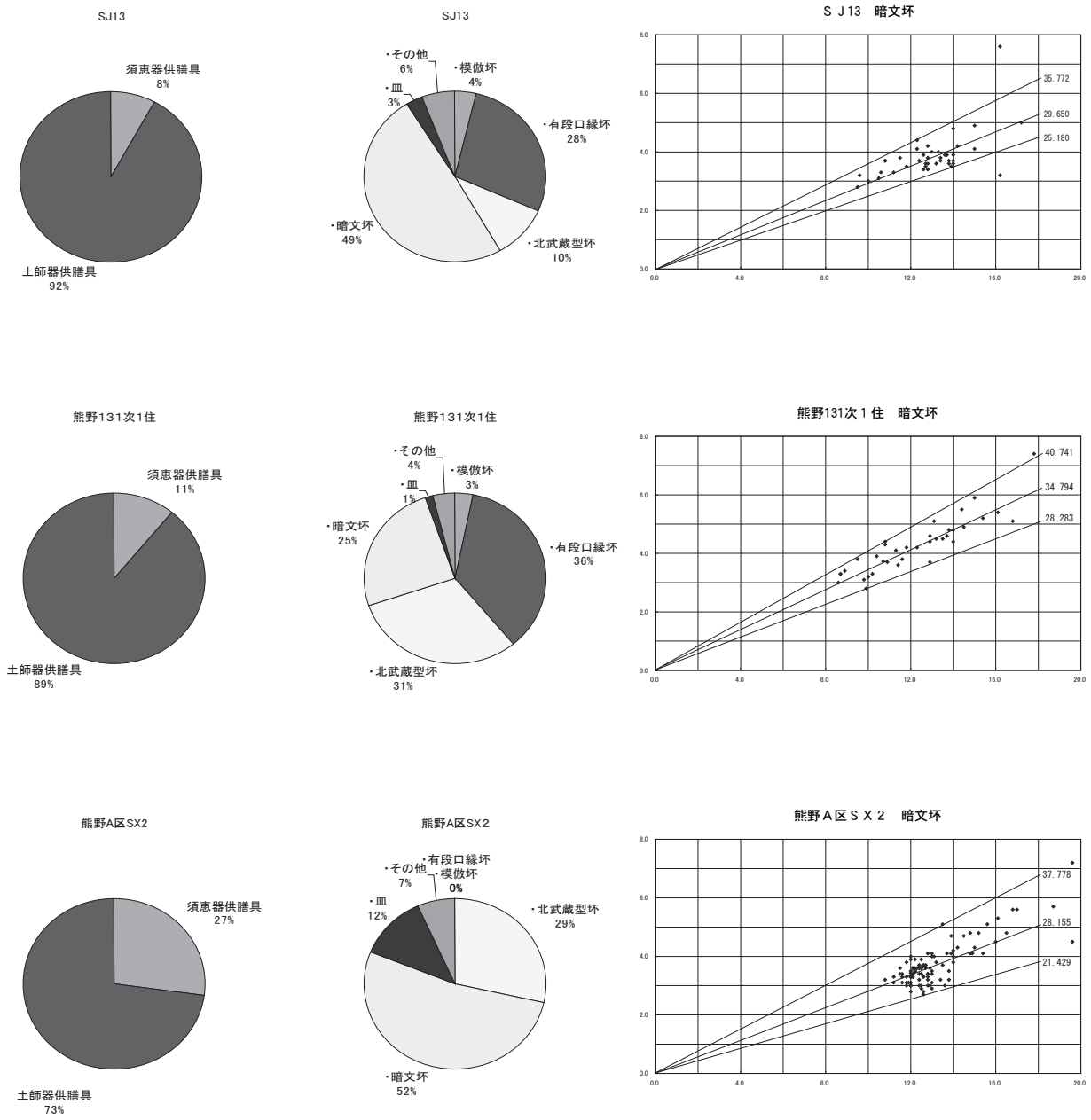
熊野遺跡Ａ区ＳＸ２は、須恵器の割合、土師器の組成共にＳＸ３上層に近い。暗文坏の口径は12.1～19.6cm程度で、径高指数は平均28.155である。長屋王邸ＳＤ4750段階と推定される畿内産土師器を伴う(第105図204)。須恵器は無台坏が主体であり、高台坏もみられる。無台坏の口径は、10.7～17.0cm程度である。



第100図　器種組成と径高分布（1）



第101図　器種組成と径高分布（2）



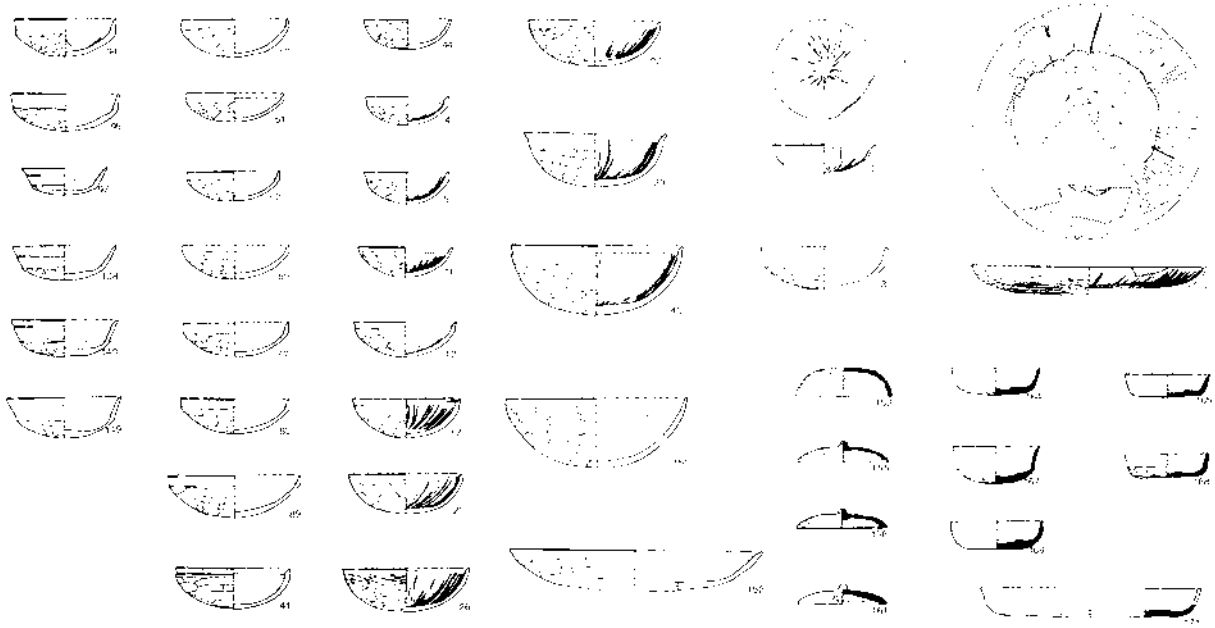
第102図　器種組成と径高分布（3）

以上の３土器群と、幡羅遺跡ＳＸ３・４の土器群とを比較し、その位置付けについて考えたい。熊野遺跡131次１住は、熊野遺跡でも最古段階に位置付けられるもので、畿内産土師器等から、７世紀第Ⅲ四半期のものと考えられている（鳥羽2001他）。土器組成は、須恵器が少なく、有段口縁坏が多いことから、最も古い様相を呈していることが分かる。器種組成についてはＳＸ４下層と近いが、暗文坏の径高指数は平均34.794で、ＳＸ４下層（平均29.657）とは一線を画し、深身のものが標準である。こうしたことから、熊野131次１住出土土器はＳＸ４下層のものより古段階に位置付けることができると考えられる。

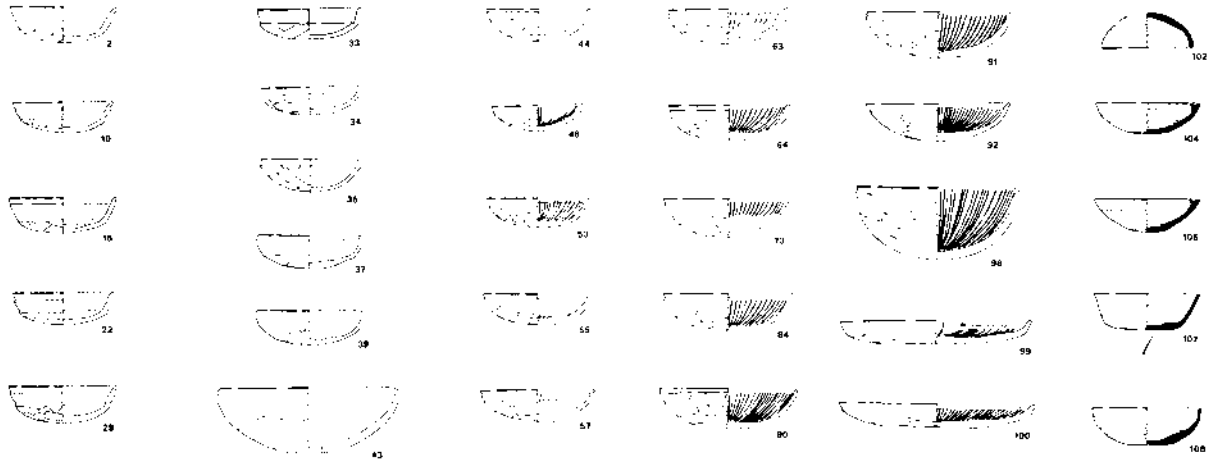
次に幡羅ＳＪ13は、須恵器の割合が低く、有段口縁坏が多い点は、古い様相を呈する。しかし、暗文坏の径高指数が平均29.650を測る点はＳＸ４下層とほぼ同じである。須恵器は坏Ｈと坏Ｇを主体としており、ＳＸ４下層と同段階と捉えられる。

熊野Ａ区ＳＸ２は、須恵器の割合、土師器の組成の

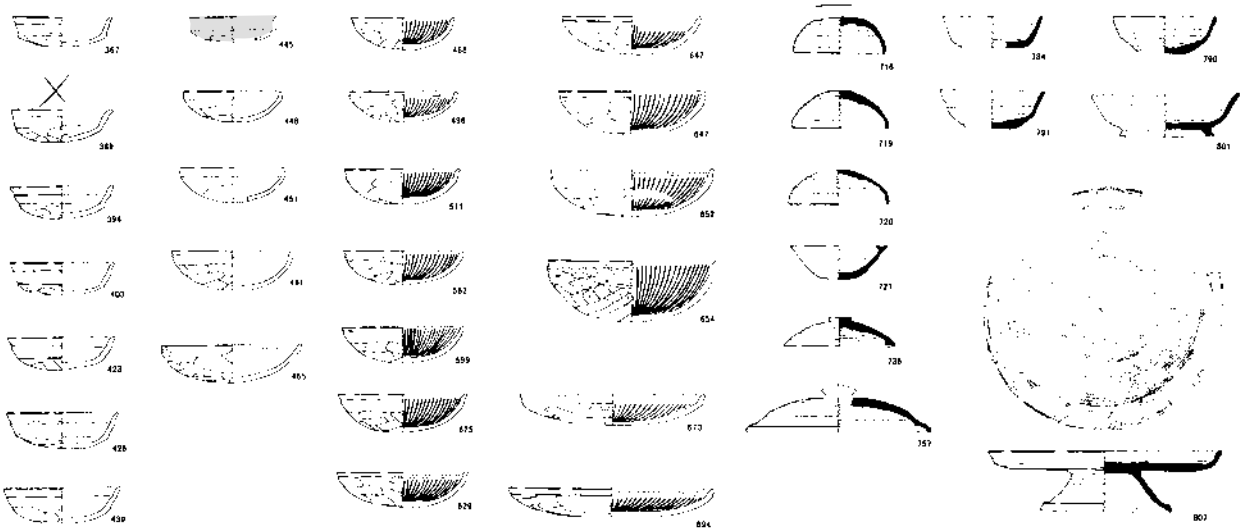
熊野 131 次 1 住



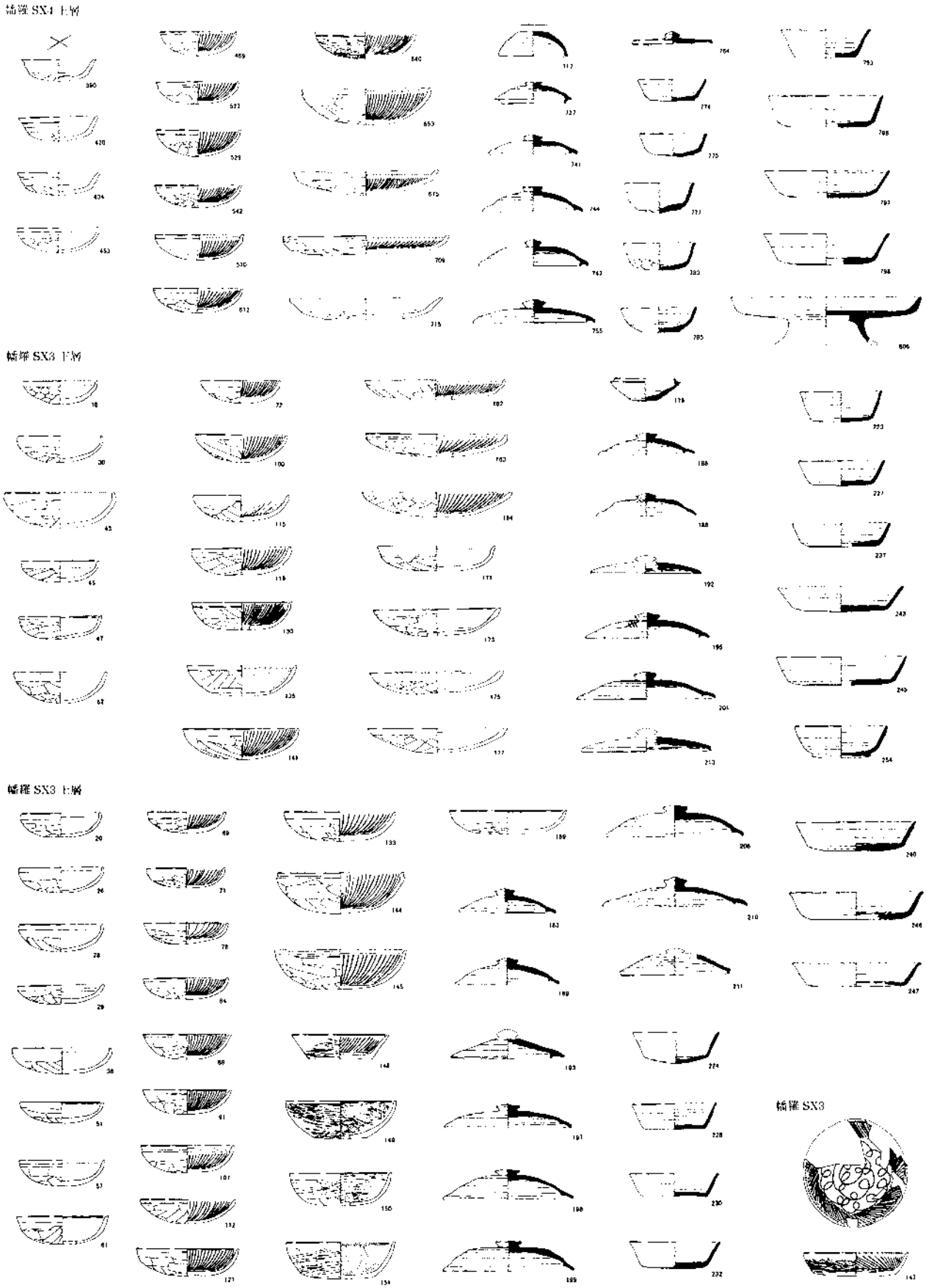
幡羅 SJ13



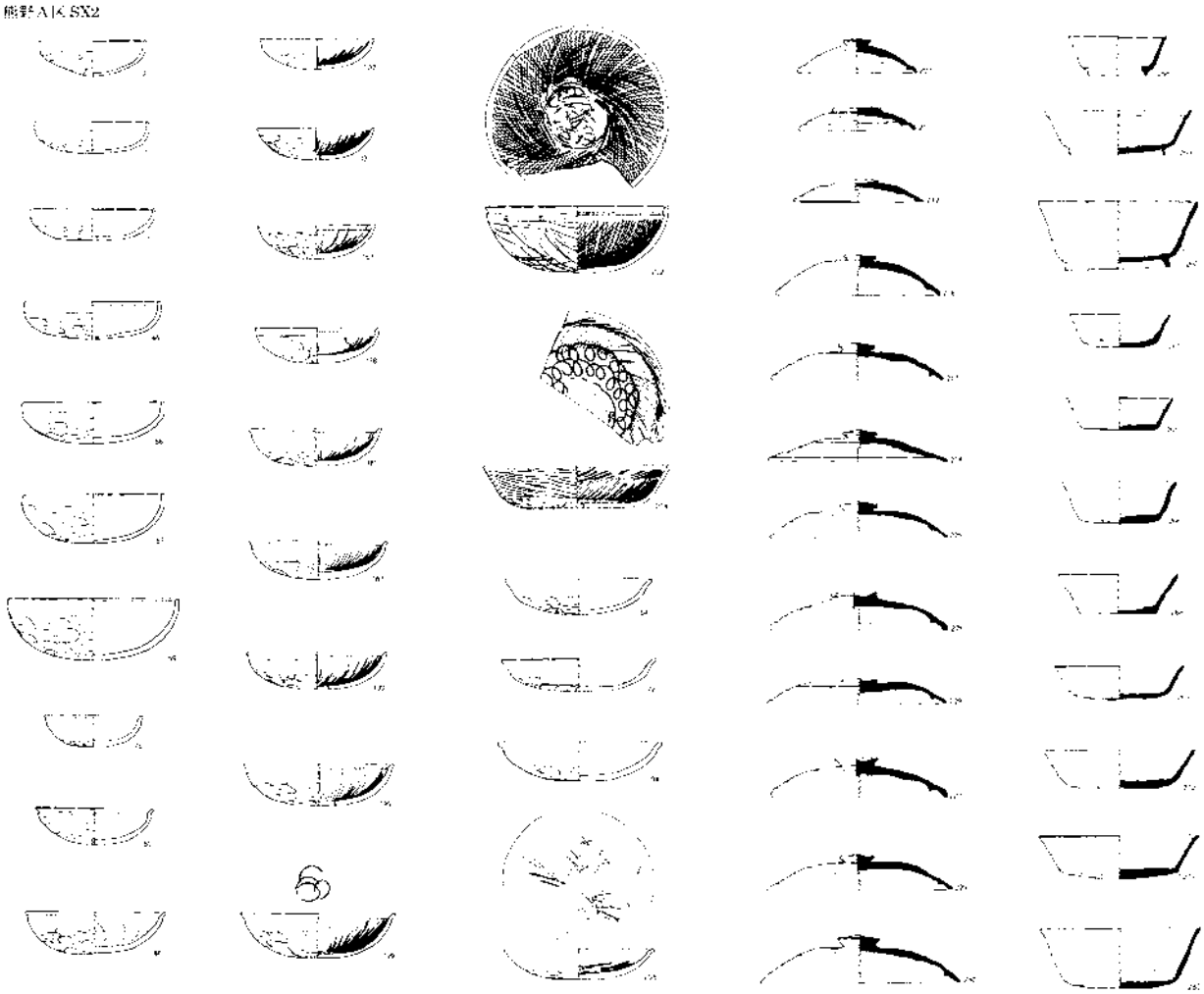
幡羅 SX4 下層



第103図　幡羅・熊野遺跡の土器（1）



第104図　幡羅・熊野遺跡の土器（2）



第105図　幡羅・熊野遺跡の土器（3）

いずれもＳＸ３上層とほぼ一致している。また、暗文坏の径高指数をみても、平均28.155とＳＸ３上層（平均28.256）に極めて近い数値を示す。須恵器も法量分化した無台坏を主体としており、ＳＸ３上層と同段階と考えられる。第104図147は、平底風で体部が開く器形である。これは熊野Ａ区ＳＸ２の畿内産土師器（第105図204）に類似する。口径がＳＸ３－147は14.9cmと、熊野Ａ区ＳＸ２－204（19.6cm）に比べて一回り小さいが、径高指数は前者が23.4、後者が22.9と近い数値を示す。ＳＸ３－147は在地産で、口唇が内屈する代わりに凹線を巡らせる点等、畿内産のものを模倣した可能性が考えられる。この２個体は、ほぼ同時期のものと考えて良いであろう。ＳＸ３－147は出土したレベルが明確ではないが、ＳＸ３上層と熊野Ａ区ＳＸ２の土器群の関係を考慮すると、ＳＸ３上層に属する可能性が高い。熊野Ａ区ＳＸ２の土器群については、伴出する木簡により霊亀２年（716）頃に埋没したとされる長屋王邸ＳＤ4750出土土器との関係から、８世紀第１四半期にあたると推定される（富田2002）。ＳＸ３上層についてもこれと同じ年代が推定される。

ＳＸ３・４出土土器群については、分析が進み年代が推定されている熊野遺跡出土土器群との関係から、熊野131次１住より新しい段階から、熊野Ａ区ＳＸ２併行段階まで存続するものと推定される。これを、富田和夫氏による編年に照らし合わせると、熊野遺跡Ⅰ期新相からⅡ期新相が相当すると考えられる。年代は、７世紀第４四半期～８世紀第１四半期が推定される（富田2002）。

３　塀による区画施設について

前述したとおり、塀による区画施設については、それに伴うと考えられる竪穴建物跡の整理が完了していないため、総合的な検討は改めて行なう。ここでは、その概略について述べたい。

区画及び内部の建物群は、主軸方位から大きく２分できる。一群は北から約50度東に傾くＳＢ51・52・53、ＳＡ７・９、もう一群は北から約35度東に傾くＳＢ47～49、ＳＡ８である。ＳＡ８は区画全体の内部を仕切る塀であることから、それを含む北から約35度東に傾く一群が後出と考えられる。施設の存続期間については、竪穴建物跡の整理を行なった後に最終的に確定したいが、ＳＸ３・４がその時期を示すとするなら、７世紀第４四半期～８世紀第１四半期にわたると推定される。その中のある時期において、主殿とされる四面庇建物のＳＢ47、そしてＳＢ48・49、ＳＡ８が増設されたものとみられる。ＳＢ47とＳＡ８の柱穴覆土は、ロームを特に多く含んでおり、非常に類似したものである。両者は、主軸方位を同じくする一群の中でも特に関係が深いと思われる。

施設の性格については、少なくともＳＢ47等が増設された以降は館と考えるのが最も妥当であろう。ＳＸ３・４からは、多量の遺物の他に炭化物や焼土、焼土塊、そして動物遺存体等が多量に出土している。館と推定される施設の北側区画塀の外に近接した場所に位置しており、館に伴う廃棄土坑と考えられる。出土遺物の内容から、近くに厨家があったことも窺わせる。ＳＢ66～68は、厨家として位置付けられる可能性がある。一方、その前段階においては、塀とそれに平行する特に大規模ではない建物群、竪穴建物があり、中央部は広場となっている。この段階における施設の性格についても、ＳＢ47建設以降と同様に扱うことは危険と思われるため、竪穴建物跡の整理と共に、再度検討する必要があると考える。しかし、ＳＢ47等が増設されるより以前、７世紀後半のＳＸ４下層から既に、多量の動物遺存体が出土している。これらの遺物は基本的に、饗宴が行なわれたことを示すものであると思われる。このことから、区画施設が建設された当初から、主殿をもつ館と認識できる段階まで、継続的にこの施設内が饗宴の場となっていたことが推定される。区画施設建設当初の性格について考える上で、大きな手掛かりとなろう。

４　おわりに

今回は、実務官衙域のうち、中核的な施設の一つと思われる塀による区画施設の一部と、それに付属するとみられる特殊土坑等について報告した。塀による区画施設は、２段階に細分が可能で、少なくとも後半は館と位置付けることができる。しかし、前半段階については改めて検討を行なう余地を残したい。竪穴建物跡の整理を行い、区画施設全体の総合的な検討をすることは今後の課題である。

特殊土坑出土土器については、７世紀第４四半期～８世紀第１四半期にわたることが推定された。４細分を行い、その変化の傾向を示すことができた。これにより、塀による区画施設の時期を明確にすることが可能になると共に、幡羅遺跡の変遷を今後考える上で、特に成立期において、大きな指標になると考える。多量の遺物を伴う官衙遺跡ならでこそ可能な成果であり、官衙のみならず、集落を分析する上での指標にもなり得よう。

発掘調査から報告書の刊行を行なうにあたり、埼玉県発掘調査評価･指導委員会の須田勉氏、山中敏史氏、佐藤信氏を始めとする多くの方々より多大なるご教示を頂いた。感謝申し上げたい。

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力を頂いた地権者の方々を始め、幡羅遺跡の発掘調査、整理作業に携わり、文化財を後世に残すことにご尽力頂いた皆様に敬意を表したい。

〈参考文献〉

青木克尚　2004 『下郷遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第72集

青木克尚他　2006 『幡羅遺跡Ⅰ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第75集

知久裕昭　2007 『幡羅遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第88集

知久裕昭　2007 『居立（第２次）／森吉古墳／下郷』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集

知久裕昭　2008 『幡羅遺跡Ⅲ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集

鳥羽政之他　2001 『熊野遺跡Ⅰ』岡部町遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第９集

鳥羽政之他　2004 『熊野遺跡Ⅲ』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第９集

鳥羽政之　2008 『深谷市内遺跡ＸＶ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第94集

富田和夫　2002 『熊野遺跡（Ａ・Ｃ・Ｄ区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第172集

山中敏史　1994 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房

山中敏史他　2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ遺構編』奈良文化財研究所

山中敏史他　2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ遺物・遺跡編』奈良文化財研究所

付編１　幡羅遺跡出土の動物遺体

阿部常樹・江田真毅

はじめに

本遺跡では７世紀後半～末に比定される遺物を含むＳＸ３、ＳＸ４、ＳＸ６の３つの土坑から29分類群の動物遺体が出土した。これらの土坑は館と位置づけられる塀で囲まれた四面庇建物を主殿とする遺構群の北側に隣接し、館に伴う同時期の廃棄土坑と推定される。覆土はすべて回収され、１mmメッシュの篩を用いた水洗選別法によって資料が抽出されている。本報告において、鳥類は江田が、それ以外の分類群は阿部がそれぞれ分析及び執筆をおこなった。また、まとめは両名が共同で執筆した。

１．貝類（表２）

本遺跡からは、水産貝類遺体が３分類群52個体出土している。内訳は、ハマグリが32個体(62.7％)、アカニシが19個体(37.3％)である。共に遺存状態は芳しくない。そのほかには、陸産貝類であるヒメコハクガイが１点出土しているのみである。前者２種はともに海産で、内湾砂底域に生息しているものである。

ハマグリは、計測が可能な個体がなかったが、殻長50mm以上の大型のもののみが含まれていた。

大型ハマグリとアカニシの組み合わせは、報告者の管見の限りでは古代から中世にかけて居館や城跡など公的な機関のあった場で一般的にみられるものである。

また、海産であるこれらの貝類が、もし保存のため加工してから持ち込まれた場合、剥き身にされることが想定される。つまり、本遺跡において殻が出土していることから、生貝のまま本地に運ばれた可能性が推測される。

２．魚類（表３・４）

(1) 分析方法

分析方法は樋泉(2003)に準拠する。資料から主上顎骨・前上顎骨・歯骨・角骨・方骨・前鰓蓋骨・舌顎骨・主鰓蓋骨・椎骨を抽出して「同定標本」とし、それ以外の部位は「同定対象外」資料とする。しかし、分類群によって、上記の「同定標本」以外に同定することのできる特徴的な部位を有するものは、適宜、「同定標本」に加える。また、「同定標本」の内、残存状況が悪く同定することが不可能であったものは「同定不可」資料とする。

組成の算出には、「同定標本」とした資料のうち、「同定不可」資料とタイ型の歯を除いた破片数でおこなっている。

なお、タイ科の歯及び椎骨に関して、他の分類群でも形態が類似したものがあることから、これらも含めて「タイ型」としている。

(2) 分析結果

・概要

魚類遺体は、13分類群165点が出土した。遺跡全体で最も多く出土しているのは、コイ科54点(32.7％)で、その他に５％を越えるのは、ニシン科35点（21.2％)、タイ科（型）23点（13.9%)、ギギ科とアユとアジ科各10点（6.1％）である。なお、ニシン科には、マイワシなどが含まれる（表３)。

本遺跡では、淡水域産と海産のものが混在するのが特徴である。淡水域産のものは、ウナギ目、コイ科、ドジョウ科、ギギ科、アユ、サケ科、海産のものがニシン科、サヨリ科、スズキ属、アジ科、タイ科、カツオ、サバ属で、ともに６分類群81点(49.1％)である。なお、サケ科は、淡水域及び海産のものが含まれるが、海産

であるサケ属に関しても産卵のため川へ溯上したものを採集したことも想定されることから淡水域産に含めた。この傾向は、遺跡全体の出土量の８割近くを占めるＳＸ３の傾向が大きく反映している。実際、ＳＸ４は、タイ科が50％を占めることもあり、海産が70％を占める。逆にＳＸ６はコイ科（５点35.7％）とギギ科（３点21.4％）の２分類群で60％近くを占めることから淡水域産のほうが多い（表３（２））。

ＳＸ３

本遺構からは、10分類群127点出土している。最も多く出土しているのは、コイ科45点（35.4％）で、その他に５％を越えるのは、ニシン科34点（26.8％）、タイ科（型）11点（8.7%）、アジ科８点（6.3％）、ギギ科７点(5.5％)である。さらに、サバ属５点(3.9％)、サケ科４点（3.1％）、カツオ３点（2.4％）、ドジョウ科１点（0.8％）と続く。コイ科は咽頭骨から、フナ属とコイの２分類群が含まれていることが判った。

本遺構は、６つ（Ａ～Ｆ）に分割して遺物が取り上げられている（表４）。その内、遺構一括で取り上げられたものが44％、分割して取り上げられたものが56％である。分割して取り上げられたもののなかでの比率は、Ａ8.3％、Ｂ9.7％、Ｃ11.1％、Ｄ12.5％、Ｅ55.6％、Ｆ2.8％で、ＥよりＳＸ３の魚類遺体のほぼ半分が出土している。また、底面を基準とし、覆土を深さ10cm単位で７つ（０～＋70cm）に分けて、遺物が取り上げられている。その内、＋30cm～＋40cmに28.2％と最も多く出土している。次いで、＋10cm～＋20cmに23.9％、＋20cm～＋30cmに16.9％、０cm～＋10cmに14.1％出土している。つまり、＋40cmより下のレベルにおいて魚骨の廃棄が集中している。その中で、コイ科に関してのみ、＋40cmより上からも35％出土している。地点ごとに見ると、Ａは＋10～＋20cm、Ｂは０～＋10cmに廃棄主体があり、これらは、Ｃ～Ｅよりもレベルがやや下である。なお、ギギ科、アユ、サケ科はＥからは出土していない。サバ属は、一括で取り上げられたもののみである。

ＳＸ４

本遺構からは、６分類群24点出土している。最も多く出土しているのは、タイ科（型）12点で本分類群が全体の50％を占める。その他に、コイ科４点(16.7％)、アユとスズキ属各３点（12.5％)、サヨリ科とカツオが各１点（4.2%）出土している。なお、タイ科は、主上顎骨と前上顎骨からクロダイ属のものが含まれていることがわかった。また、コイ科で属以下まで分類群が判るものは、咽頭骨からコイのみである。なお、スズキ属とサヨリ科は、ＳＸ３からは出土していない。

ＳＸ６

本遺構からは、７分類群14点出土している。最も多く出土しているのは、コイ科５点で本分類群が全体の35.7％を占める。その他に、ギギ科３点（16.7％)、ウナギ目、ニシン科、アユ、アジ科が各１点（7.1%）出土している。なお、コイ科で属以下まで分類群が判るものは、咽頭骨からコイのみである。

３.鳥類（表５）

(1) 資料と方法

鳥類遺体は３つの遺構から計163点出土した。これらの資料は現生骨格標本との肉眼比較で同定した。現生標本としては、筆者（ＥＰ）および川上和人氏（森林総合科学研究所）の所蔵標本（ＫＰ）を利用した。骨の部位の名称はBaumel et al（1993）および日本獣医解剖学会（1998）に、分類群名は基本的に日本鳥類目録編集委員会（2000）に従い、同書で言及されていないカモ科の亜科の分類についてはAmerican Ornithologist’Union（1983）に従った。同定は椎骨、肋骨、趾骨を除くすべての骨を対象にし、これらの資料と同定対象とした部位で現生標本の不足などから鳥綱以下の同定ができなかった資料は種不明とした。資料の破損が著しいために同定できなかった資料は同定不能とした。資料にほとんど損傷がないものは完存、近位端や遠位端の関節が半分以上残っているものはそ

れぞれ近位端、遠位端とした。また、主要四肢骨では骨幹のほぼ中央にある栄養孔が残存している骨は中間部として記載し、以上の条件に合わない資料は中間部破片とした。各資料について骨の表面の粗さと骨端の癒合状態に基づく成長段階、同定時に目に付いた解体痕や加工痕、焼成痕を記載した。成長段階は、部位に関わらず骨端の癒合していない資料を幼鳥とし、骨端は癒合しているものの形成が不完全な資料や粗い骨幹を呈し骨端の残存していない資料は若鳥とした。また、髄腔が確認できた資料では骨髄骨様組織の有無を記載した。資料の計測はDreisch（1976）にしたがった。

(2) 結果

資料のほとんどは火を受けて断片化していた。目以下の単位で同定できたのは32点で、他は同定不能であった。確認された分類群はカモ亜科、ウズラ、キジ科、スズメ目で３目３科以上であった（表１、５）。同定された遺体の63%（20点）はスズメ目で、キジ科が７点(うちウズラ１点)、カモ亜科が５点であった。以下、遺構ごと、分類群ごとに記載する。

１. 遺構ごとの記載

ＳＸ３

142点が検出され、うち25点が同定できた。遺構全体としてスズメ目が18点、カモ亜科が３点、ウズラが１点、キジ科が３点出土した。最小個体数はスズメ目で５個体、他の分類群で各１個体であった。

ＳＸ４

18点が検出され、カモ亜科が２点、キジ科とスズメ目が各１点確認された。最小個体数はすべての分類群で１個体であった。

ＳＸ６

３点が検出され、キジ科が２点とスズメ目が１点確認された。最小個体数は各１個体であった。

２. 分類群ごとの記載

スズメ目

各遺構から計20点が出土し、鳥類遺体の主体であった。すべての資料が火を受けて白色～灰褐色を呈していた。解体痕や加工痕、骨髄骨や幼鳥・若鳥の骨などは確認されなかった。ヒヨドリ（ＥＰ－19）を基準にすると、それより小さいものが18点、大きいものとほぼ同じ大きさのものが各１点であった。被熱による骨の収縮程度の差を反映している可能性もあるものの、少なくとも３種が含まれる可能性がある。遺跡全体として下肢の遠位よりの骨が多く出土し、特に足根中足骨が70%（14点）を占めた。これと連結する脛足根骨の遠位端が15%（３点）、上肢の骨である尺骨が10%（２点）、手根中手骨が５%（１点）で部位の偏りが認められた。

キジ科（ウズラを含む）

各遺構から計７点が出土した。うち５点はヤマドリのメス（ＥＰ－144）とほぼ同じ大きさ、１点は同標本よりやや小さいもので、これらの資料はキジ科と同定した。このうち上腕骨の遠位端では肘頭窩内に小窩が認められた。残りの１点はウズラ（ＥＰ－29）よりさらに小さいものでウズラと同定した。スズメ目と同様、すべての資料が火を受けていた。解体痕や加工痕、骨髄骨や幼鳥・若鳥の骨などは確認されなかった。ウズラと同定した資料が下肢の骨（足根中足骨）であったのを除くと、出土部位は上肢帯（烏口骨と肩甲骨）と上肢の骨（上腕骨、手根中手骨、小指節骨）であり、スズメ目とは出土部位が異なる傾向があった。

カモ亜科

ＳＸ３とＳＸ４から計５点が出土した。スズメ目やキジ科と異なり、火を受けた痕跡はＳＸ３出土の左脛足根骨のみで認められた。また、ＳＸ３出土の左橈骨の近位端には解体痕が認められた。ＳＸ３出土の右脛足根骨で橋の形成が不完全であるのを除くと、骨髄骨や幼鳥・若鳥の骨は観察されていない。出土した骨には

ホシハジロ（ＥＰ－８）程度、ヒドリガモ（ＥＰ－６）程度、オナガガモ（ＥＰ－４）程度、カルガモ（ＥＰ－84）程度のものが含まれ、オナガガモ程度の骨は２点認められた。

種不明・同定不能鳥類

上顎骨と歯骨はキジ科やカモ亜科とは明らかに形態が異なる。また、両分類群と比較してかなり小さいことからも四肢の骨で主体的であったスズメ目のものである可能性が高い。しかし、スズメ目の上顎骨や歯骨は科内や属内の変異が大きく、比較標本の不足から同定できなかった。計８点出土した趾骨と末節骨もキジ科やカモ亜科の各種のものと比べて著しく小さく、スズメ目のものである可能性が高い。これらの同定は今後の課題としたい。同定不能資料のうちＳＸ３から出土した３点の骨（左脛足根骨を含む）の髄腔には骨髄骨様組織が認められた。

考察

本遺跡の鳥類遺体の主体はスズメ目で、その85％は下肢の遠位よりの骨(脛足根骨の遠位端と足根中足骨)であった。本遺跡では１mmメッシュの篩を用いて資料が採集されているため、出土部位の偏りがサンプリングエラーに由来する可能性は低い。鳥類では脛足根骨の遠位端から趾にかけては脚鱗（鱗状の外皮）に被われる。可食部（筋）は脚鱗よりも近位に位置することから、脚鱗に被われた足根中足骨（と場合によっては脛足根骨の遠位端）から足の骨の除去が本遺跡でなされ、そのまま遺棄されたと考えられる。下肢の骨が卓越することから大腿部から足のみが遺跡に持ち込まれる場合もあったかもしれない。一方で、食用になりそうな大きな筋の付着しない上顎骨や歯骨でもスズメ目のものと思しき骨が少なからず出土していることから、全身が遺跡に持ち込まれることもあったであろう。これらの骨が前述のように館に伴う廃棄土坑から検出されたことを考え合わせると、本遺跡で解体されたスズメ目の腿肉や胸肉などは当地で消費され、出土していない上肢と下肢の近位よりの骨は肉とともにミンチ状につぶすような料理方法（吉井1978：p131）で肉とともに消費されたのかもしれない。出土点数は少ないもののウズラを除くキジ科の骨は上肢と上肢帯の骨で構成されており、スズメ目とは好対照をなす。さらに、２点以上が出土したＳＸ３とＳＸ６の出土部位は、同一側の連結する骨から構成されている。スズメ目とは異なり胸部から上肢の部分のいわゆる「胸肉」が選択的に遺跡に持ち込まれ、利用された可能性がある。出土したスズメ目の骨はすべて白色あるいは灰白色を呈するほど火を受けていた。脚鱗に被われた骨までが白色化するほどに火を受けるような調理では肉は炭化してしまうと想像されるため、ここまでの焼成は廃棄後、匂いなどを抑えるために焼かれた結果であろう。スズメ目と同様、キジ科の遺体はすべて火を受けていたのに対して、カモ亜科の遺体では５点中１点のみが火を受けていた。調理方法の差を反映する可能性もあることとして、指摘しておきたい。

４．哺乳類（表６～９）

(1) 分析方法

哺乳類は、同定することのできる特徴的な部位を有するもののみをそれに用いる（同定標本）。特に、部位の判別も難しい破片、肋骨、環椎・軸椎・仙椎を除く椎骨などは、基本的に同定の対象から外している。また、「同定標本」の内、残存状態が悪く同定することが不可能であったものは「同定不可」資料とする。組成の算出には、「同定標本」から「同定不可」とした資料を除いたものの破片数でおこなっている。なお、同定対象外としたものでも、部位の明らかなものに関しては表に点数および観察などの記載をおこなう。

サイズの計測方法はDreisch (1976) に基づいている。

(2) 分析結果

・概要

哺乳類遺体は、７分類群55点が同定することができ

た。最小で20体分である。最も多いのが、イノシシ類で25点45.5％、次いでニホンジカが14点25.5％、ネズミ類６点10.9％、ウシ４点7.3％、ウマ、ノウサギ類、食虫目、イヌ科、不明大型哺乳類（ウシorウマ？）、不明小型哺乳類が各１点1.8％出土している。この内、ネズミ類及び食虫目（モグラ類）は、自らこれらの遺構内に潜り込んで自然死したものであると想定される。ノウサギ類は下顎第１前臼歯、ウマは後肢末節骨、イヌ科は中手／足骨がそれぞれ１点のみであり、他所から混ざりこんだものであることが想定される。ＳＸ３のウシに関しても、中節骨が１点のみであり、ＳＸ４からの混ざりこみの可能性も含め同様の可能性が想定される。つまり、イノシシ類、ニホンシカの２分類群に、ＳＸ４のウシも含めた３分類群が廃棄主体者によって認識されて３基の遺構に廃棄されたものであると想定される。

なお、同定対象外や同定不可とした骨の多くは、イノシシ類もしくはニホンシカの長骨骨幹部分のもの想定される破片である。これらの破片の中には、所謂、スパイラル状の剥片が含まれていることから、骨髄も利用していた可能性が推定される。

・イノシシ類（ブタ）

イノシシ類は、ＳＸ３より16点（最小で３体分）、ＳＸ４より８点（最小で１体分）、ＳＸ６より１点が出土している。部位別でみると頭蓋骨部分が多い。その一方で下顎骨に由来するものが１点も出土していない。また、四肢骨は出土しているものの完存のものがほとんどなく、種の同定まで至ったものは端部のみ残存するものや、脚部でも中手及び中足骨より末端に近い部分のものが多い。これらの四肢骨の遺存状態に関して、全体的に良くないため一概には言えないが、骨幹部分の破片においてスパイラル状のものがみられたことから、骨髄まで利用された結果である可能性が想定される。

なお、椎骨の出土が見られないこと、肋骨もＳＸ３Ｅからニホンジカもしくはイノシシ類のものと推定されるものが１点のみしか出土していないことから、他所で解体されて、必要とする（食す）部分のみを持ち込んだ可能性が想起される。

さて、ＳＸ３（遺物番号001＋008）とＳＸ４（遺物番号016）の頭蓋骨２点に、ブタ標本に近い形態的特徴が認められる。以下、イノシシとブタ（ミニブタ）の現生骨標本との比較、観察した結果を記載する。なお、国立歴史民俗博物館西本豊弘先生所蔵の現生標本を比較に用いている。

まず、ＳＸ３のものは、右側上顎第１後臼歯から第３後臼歯とその歯槽の一部が残存している。第１後臼歯の後側よりも第２後臼歯の前側の幅（頬舌方向）が広く、その為、歯列において舌側に段差が認められる。また、各咬頭の襞がイノシシ標本のものよりもやや多い。さらに、第１と第２後臼歯の間の舌側歯槽に歯周症による退縮が認められる。これらは、西本豊弘らによって、家畜化されたイノシシ（ブタ）の特徴として指摘されている（西本・姉崎1999など）。

ＳＸ４のものは、右側頬骨・涙骨・上顎骨部分のみが残存している。本資料は、イノシシのものに比べて

①上顎側面の高さが相対的に高い。

②眼窩がやや前方に傾く。

③筋窩が深い。

④涙骨縁部分の幅が広い。

以上の違いが認められる。これらの特徴は、さらに本資料よりもブタ現生標本のほうが顕著に見られる。つまり、本資料は、比較に用いたイノシシとブタの現生標本の中間的な特徴を示す。このことから、これらの資料がブタであるものと推測される。

動物考古学においては、西本らによって、遅くとも弥生時代に家畜化されたブタが存在したことが指摘されているが（西本1999など）、史料においては、『日本書紀』や『播磨風土記』に仁徳天皇の時代、つまり５世紀初めに「猪」の飼育がおこなわれていたことを暗示する記載が初見される（加茂1976）（註１）。加茂儀一は、特に『播磨風土記』において、揖保の天照神社に猪を持参し奉った日向国の人朝戸君という人物が、

百済国からの渡来人の子孫であることから、当時九州では彼らが猪を飼っていたこと、また、その猪が豚に近いものである可能性を指摘している（加茂1976）。その後の史料では、「猪甘」（ゐかひ）や「猪飼」などの部名が見られるようになり、『令義解』巻三賦役令第一一には、諸国からの貢献の諸品に「猪脂三合」という記載があることから、朝廷自身が部民に豚を飼育させてその脂を献納させていたことを指摘している（加茂1976）。養老５年（721年）には殺生の禁及び生物の放生に関する詔勅が出され、その生物の内、「諸國鶏猪」もその本来の棲む場所に放ち、天命を全うさせるよう命じられている。つまり、少なくとも５世紀から８世紀初頭にかけては、公にブタが飼育されていたことが史料から示されており、本遺構群の年代が７世紀後半とされていることからも齟齬はない。

・ニホンジカ

ニホンジカは、ＳＸ３より８点、ＳＸ４より５点出土している。ともに最小で１体分である。また、その他に、出土した遺構が不明な資料であるが、頭蓋骨片が１点出土している。

まず、ＳＸ３は、角２点を除くと四肢骨部分のみが出土している。対して、ＳＸ４は、５点中２点が下顎骨に由来する部位であり、その他に、角、中手骨、中足骨が各１点出土している。なお、出土遺構不明のものは、頭蓋骨の右側頭頬骨突起部分である。つまり、ＳＸ３のみでは、出土部位が四肢骨に偏っているようにみえるが、遺跡全体では、頭部も出土している。また、ＳＸ３において「同定不可」とした資料の内、ニホンジカのものである可能性のある脳頭蓋部分の破片が出土していることから、部位の偏りに関して、積極的な議論は避けるべきであろう。その一方で、イノシシ類と同様に椎骨が出土していないことを鑑みるに、他所で解体されて、必要とする（食す）部分のみを持ち込んだ可能性が想起される。

ＳＸ３より２点、ＳＸ４より１点、角が出土している。いずれも加工痕（切断痕）を有する。特にＳＸ３より出土したものは先端部分と分岐部分であり、角製品の作成に際して、不必要な部分として廃棄されたものと想定される。また、分岐部分の加工痕は、枝部分および角座部分を切断した際のものだけでなく、側面全体にも見られる。おそらく、製品に加工する主幹部分を切断する前に側面を加工したことによるものと推測される。近世の江戸遺跡の事例であるが、先端部分と角座部分のみ切断され、側面が加工された鹿角が出土している。

つまり、ニホンジカ遺体に関しては、食物残滓と鹿角製品作成の際の廃棄物が複合している。

・ウシ・ウマ

ウシは、ＳＸ３Ｃから１点（中節骨）、ＳＸ４から３点出土している。ウマは、ＳＸ４Ｂから後肢末節骨が１点出土している。さらに、ＳＸ４からウシとウマいずれかのものと推測される大型哺乳類の腰椎が１点出土している。

仏教の伝来以降、ウシやウマは殺生肉食の禁止対象動物として、度々、名が挙がっている。翻れば、古代日本において、ウシやウマは食べられていたことを示しているともいえる。史料における最初のものが、『日本書紀』巻二九の天武天皇４年（676年）の詔勅とされている。その対象とされた動物は、牛、馬、犬、猿、鶏である。なお、猪（豚）及び鹿は含まれていない。期間は４月１日（四月朔）から９月30日（九月卅日）に限定され、完全に禁止されているわけではない。これらの遺構の覆土の堆積推定時期が７世紀後半であり、これらの遺体が廃棄された時期が、詔勅が出された年以降であった場合、10月から翌年の３月までに食されたものであることも推測される。さて、その後、天平13年（741年）に牛馬屠殺の禁止の詔が出される（『続日本紀』）。そのなかで、「國郡は未だ禁止すること能わず。百姓は猶屠殺すること有りと。」という記述があり、地方では、８世紀第３四半期において、ウシやウマの食肉がおこなわれていたことを示すものである。

しかし、ニホンジカやイノシシ類よりも一つ一つの部位が大きく丈夫であるにも関わらず、その２種よりも極めて出土点数が少ない。他所で廃棄されたものが、これらの遺構を埋めるために土を運び込んだ際に共に移動してきた可能性も考慮に入れる必要があろう。

５．その他の動物遺体（表10）

その他に、ＳＸ３からバフンウニ類の殻破片１点、ＳＸ３ＡおよびＥからカエル類８点（最小１体）が出土している。バフンウニ類は、小片１点であるため積極的には議論できない。しかし、出土動物遺体全体の遺存状態が芳しくないこと、一方、ウニ類の殻は一般的に比較的残りにくいものであるにもかかわらず残存していることなどから、実際にはある程度の量が持ち込まれていた可能性も想像される。カエル類は、先述したネズミ類やモグラ類（食虫目）と同様に、自ら遺構の覆土内にもぐりこみ、そのまま自然死したものである可能性が高い。

６．骨製品

ＳＸ４から、全長114mm×幅16mm×厚４mmの短冊状で扁平カマボコ型の断面を呈した骨製品が１点出土している。片側には幅８mm、深さ２mmほどの鋸歯状の刻みがある。その刻みを向って左側においた場合、それは上から12mmの所にある。裏側には、緻密骨の内側の壁が縦に残存していることから、使用した部位が四肢骨の骨幹部分であることが分かった。表面は平らにするために加工している。使用した動物の種類までは特定できなかったが、形状に歪みがないことから、ニホンジカの中手／足骨などの骨幹部分を用いたものと推定される。用途は不明である。

類似したものが宮崎県石巻市五松山洞穴遺跡より出土している（宮城県石巻市教育委員会1988）。その内、２点が特に本遺跡の資料と類似している。サイズが、１点が全長112.4mm×幅16.3～18.7mm×厚5.0mm（以下、Ａ資料とする）、もう１点が全長123.3mm×幅18.2mm×厚4.2～4.6mm（以下、Ｂ資料とする）である。そして、形状が、ともに、短冊形で、扁平カマボコ型の断面を呈している。サイズ、形状ともに本資料とほぼ同じである。また、Ａ資料は、それ以上の加工は見られないが、Ｂ資料は、「体部の側面部に鋸歯状刻み加工」を持つ点でも類似する一方、両端に飾り（報告では彫刻）を有する点で異なる。また、五松山洞穴遺跡の資料は、鹿角製である点も異なる。これらは弭（ゆづか）、つまり、弓の持ち手の部分に用いたものであった可能性が指摘されている。しかし、これらは、古墳時代中期のもので本遺跡よりも古いことから、形状の類似だけで本遺跡の資料と単純に結びつけることは避けたほうがよいであろう。

７．まとめ

本遺跡は関東平野の奥部に所在するにも関わらず、貝類と魚類にはともに海産のものが多く含まれていた。特に貝類は貝殻が出土することから、生のまま当地に運ばれた可能性が高い。これらの運搬には、本遺跡に近接する利根川が利用されたものと推測される。一方で、利根川を運搬に利用する場合であっても東京湾までは約60km以上の距離がある。これらの海産物は日常的な食事ではなく、特別な場で供されたものであることは想像に難くない。鳥類遺体はスズメ目が主体であり、キジ科とカモ亜科が同程度ずつ含まれた。これらの分類群はすべて遺跡周辺で狩猟可能であったろう。哺乳類ではニホンジカとイノシシ類、ウシが食物残滓としてこれらの遺構に廃棄されたものと想定される。このうちイノシシ類はブタであると考えられる。文献史からブタやウシなどの家畜はどこの村落でも飼育されていたとは考えにくく、特定の村落から郡衙に貢納されたものであると推測される。ニホンジカの遺体には食物残滓と鹿角製品作成の際の廃棄物が複合したものが含まれた。当時の鹿角製品には祭祀に関わると考えられるものもあり、食物残滓とされた動物遺体

についても祭祀などの際に供されたものや神饌とされたものの可能性がある。本遺跡は同時期の西別祭祀遺跡に近接している。今後、祭祀などとの関わりの可能性も含めて、動物遺体の使用された場や方法を検討する必要があるだろう。

謝辞

本報告にあたって、西本豊弘先生(国立歴史民俗博物館)には現生標本を閲覧させていただくとともに、特にイノシシ類や骨製品に関して多大なるご指導を賜った。樋泉岳二氏(早稲田大学)には、魚類遺体の同定に際してご指導を賜った。川上和人氏（森林総合研究所）には、鳥類の現生標本を閲覧させていただいた。中坪啓人氏（東京大学総合研究博物館）ならびに東京大学総合研究博物館には、鳥類の標本作成にご協力いただいた。ご芳名を記し、感謝の意を表したい。

註

1）『日本書紀』巻第一一、仁徳天皇一四年の条

冬十一月、爲橋於猪甘津（ゐかひのつ）、即號其處曰小橋。(ルビ及び破線は、報告者付記)

『播磨風土記』賀毛郡山田里猪飼野の条

猪養野　右号猪飼者難波高津宮御宇天皇之世日向肥人朝戸君天照大神坐舟於猪持參來進之。可飼所求申。仰仍所賜此處而放飼猪。故曰猪飼野。

参考文献

加茂儀一　1976 『日本畜産史　食肉・乳酪篇』法政大学出版局

樋泉岳二　2003 「明石町遺跡の魚類遺体群」『東京都中央区　明石町遺跡』明石町遺跡調査会, 172-180.

西本豊弘　1999 「第９章　家畜その１― イヌ・ブタ・ニワトリ」西本豊弘・松井章編『考古学と動物学』 同成社, 159-167.

西本豊弘・姉崎智子　1999 「Ⅴ．№１-Ａ東地点の動物遺体」『池子遺跡群Ⅸ　第１分冊　付編　自然　科学分析結果報告』財団法人かながわ考古学財団, 409-439

日本獣医解剖学会　1998 『家禽解剖学用語』日本中央競馬会.

日本鳥類目録編集委員会　2000 『日本鳥類目録　改訂第６版』日本鳥学会.

宮城県石巻市教育委員会　1988 『五松山洞穴遺跡―発掘調査報告―』

吉井始子　1978 「古今料理集」『翻刻江戸時代料理本集成』第２巻、臨川書店.

American Ornithologist' Union 1983 *The A.O.U. Check List of North American Birds.* American Ornithologist' Union.

von den Driesch, A. 1976 *A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites.* Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University.

Baumel, J.J., King, A.S., Breazile, J.E., Evans, H.E., & Berge, J.C.V., 1993 *Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium.* Nuttall Ornithological Club.

表１　幡羅遺跡出土動物遺体種名表

標本番号	写真	地区	地区細分	№.	層位	日付	種名	部位	左右	残存部	数量	骨髄骨	大きさの記載	解　体　痕	備　　考	ＢＰ	ＢＤ
1	○	ＳＸ４	A		0～10		キジ科	手根中手骨	左	完存	1	なし	ヤマドリ♀（ＥＰ-144）とほぼ同大	火を受けて白化		10.67	7.25
2		ＳＸ４	A		0～10		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	3	なし					
3		ＳＸ４	A		0～10		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
4		ＳＸ３					同定不能鳥類	上腕骨	右	中間部	1	なし			おそらくガン類だが決め手にかける		
5		ＳＸ３					同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	17	なし		火を受けて白化～黒褐色化			
6	○	ＳＸ３					同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	あり		火を受けて白化			
7	○	ＳＸ３					種不明鳥類	歯骨		先端部	1	なし					
8	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	左	遠位端	1	なし	ヒヨドリ（ＥＰ-19）とほぼ同大	火を受けて灰褐色化			
9	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	左	近位端	1	なし	ヒヨドリ（ＥＰ-19）より小さい	火を受けて白化			
10	○	ＳＸ３					スズメ目	手根中手骨	右	完存	1	なし	ヒヨドリ（ＥＰ-19）より小さい	火を受けて白化			
11		ＳＸ３	C		20～30		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
12		ＳＸ３	C		20～30		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし					
13	○	ＳＸ３	C		20～30		スズメ目	足根中足骨	左	遠位端	1	なし	ヒヨドリ（ＥＰ-19）より小さい	火を受けて灰褐色化			
14		ＳＸ３	C		50～60		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	6	なし		火を受けて白化～黒褐色化			
15		ＳＸ３	C		30～40		スズメ目	脛骨	右	遠位端	1	なし	ヒヨドリ（ＥＰ-19）より大きい	火を受けて灰褐色化			
16	○	ＳＸ３	C		30～40		種不明鳥類	歯骨		先端部	1	なし					
17	○	ＳＸ４		骨18		051115	カモ亜科	上腕骨	右	中間部	1	なし	ホシハジロ（ＥＰ-８）とほぼ同大				
18		ＳＸ３		骨10		051102	同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし					
19		ＳＸ３	D			051115	同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	5	なし		火を受けて白化～黒褐色化			
20		ＳＸ４	B		40～50		種不明鳥類	趾骨			1	なし		火を受けて灰褐色化			
21		ＳＸ３	B		0～10		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	9	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
22		ＳＸ３	B		0～10		種不明鳥類	趾骨			1	なし		火を受けて灰褐色化			
23	○	ＳＸ３	B		0～10		キジ科	烏口骨	右	肩端	1	なし	ヤマドリ♀（ＥＰ-144）とほぼ同大	火を受けて白化			
24		ＳＸ３	A			051013	同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて灰褐色化			
25		ＳＸ４				051021	同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	9	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
26	○	ＳＸ４				051021	カモ亜科	肩甲骨	左		1	なし	オナガガモ(ＥＰ-４)とほぼ同大				
27		ＳＸ４				051021	スズメ目	尺骨	左	近位端～中間部	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
28		ＳＸ３					同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	20	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
29		ＳＸ３					同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	8	なし					
30		ＳＸ３					種不明鳥類	趾骨			1	なし		火を受けて灰褐色化			
31		ＳＸ３					種不明鳥類	末節骨			1	なし		火を受けて灰褐色化			
32		ＳＸ３					同定不能鳥類	椎骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
33	○	ＳＸ３					種不明鳥類	上顎骨			1	なし		火を受けて白化			
34	○	ＳＸ３					種不明鳥類	歯骨			1	なし		火を受けて白化			
35	○	ＳＸ３					同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	あり		火を受けて白化			
36	○	ＳＸ３					同定不能鳥類	脛骨	左	中間部	1	あり		火を受けて白化			
37	○	ＳＸ３					キジ科	上腕骨	右	遠位端	1	なし	ヤマドリ♀（ＥＰ-144）よりやや小さい	火を受けて白化	肘頭窩内の窩あり		
38	○	ＳＸ３					ウズラ	足根中足骨	右	遠位端	1	なし	ウズラ(ＥＰ-29)より小さい	火を受けて白化			4.33
39	○	ＳＸ３					スズメ目	尺骨	左	近位端～中間部	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化		2.79	
40	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	右	近位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
41	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	右	近位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
42	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	右	遠位端～中間部	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
43	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	右	遠位端～中間部	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
44	○	ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	左	遠位端～中間部	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
45	○	ＳＸ３		骨31			カモ亜科	橈骨	左	近位端～中間部	1	なし	カルガモ(ＥＰ-84)とほぼ同大	近位端よりに解体痕あり			
46		ＳＸ３	D		30～40		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	3	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
47		ＳＸ３	D		30～40		種不明鳥類	趾骨			1	なし		火を受けて灰褐色化			
48		ＳＸ３	D		30～40		スズメ目	足根中足骨	左	近位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
49	○	ＳＸ３	D		10～20		カモ亜科	脛骨	右	遠位端～中間部	1	なし	ヒドリガモ（ＥＰ-６)とほぼ同大		遠位端の橋は完全に形成されていない		
50		ＳＸ３	D		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	3	なし					
51		ＳＸ３	D		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
52		ＳＸ３	D		10～20		スズメ目	足根中足骨	左	遠位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			7.18
53		ＳＸ３	E		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	4	なし					
54		ＳＸ３	E		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
55		ＳＸ３	E		10～20		種不明鳥類	趾骨			1	不明		火を受けて灰褐色化			
56		ＳＸ３	E		10～20		スズメ目	脛骨	右	遠位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて白化			
57		ＳＸ３	E		10～20		スズメ目	足根中足骨	右	遠位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
58		ＳＸ３	E		60～70		同定不能鳥類	橈骨		近位端破片	1	なし					
59		ＳＸ３	E		60～70		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	2	なし					
60		ＳＸ３	E		20～30		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて灰褐色化			
61		ＳＸ３	E		40～50		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	3	なし		火を受けて灰褐色化			
62		ＳＸ３	E		40～50		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし					
63		ＳＸ３	E		30～40		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	2	なし					
64		ＳＸ３	E		30～40		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	4	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
65		ＳＸ３	A		20～30		種不明鳥類	椎骨		中間部破片	1	なし					
66		ＳＸ３	A		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし					
67		ＳＸ３	A		10～20		同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	3	なし		火を受けて白化～灰褐色化			
68		ＳＸ３	A		10～20		スズメ目	足根中足骨	左	遠位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて白化			
69	○	ＳＸ３	C			051024	キジ科	肩甲骨	右		1	なし	ヤマドリ♀（ＥＰ-144)とほぼ同大	火を受けて白化			
70		ＳＸ３	C			051024	同定不能鳥類	四肢骨		中間部破片	1	なし		火を受けて白化			
71	○	ＳＸ３	C			051024	カモ亜科	脛骨	左	遠位端破片	1	なし	オナガガモ(ＥＰ-４)とほぼ同大	火を受けて白化			
72	○	ＳＸ６			10～20		キジ科	手根中手骨	左	遠位端	1	なし	ヤマドリ♀（ＥＰ-144)とほぼ同大	火を受けて白化			
73	○	ＳＸ６			10～20		キジ科	小指節骨	左		1	不明	ヤマドリ♀（ＥＰ-144)とほぼ同大	火を受けて白化			
74		ＳＸ６			20～30		スズメ目	脛骨	右	遠位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化			
75		ＳＸ３					スズメ目	足根中足骨	左	近位端	1	なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化		2.24	
76		ＳＸ３					種不明鳥類	趾骨			1	不明					
77		ＳＸ３	E		20～30		種不明鳥類	趾骨			1	不明					
78		ＳＸ３	E		20～30		スズメ目	足根中足骨	左	近位端～中間部		なし	ヒヨドリ(ＥＰ-19)より小さい	火を受けて灰褐色化。湾曲			

棘皮動物門　Phylum ECHINODERMATA

ウニ綱　Class Echinoidea
ホンウニ目　Order Echinoida
オオバフンウニ科　Family
属種不明　gen. et sp. indet.

軟体動物門　Phylum MOLLUSCA

腹足綱　Class Gastropoda
新腹足目　Order Neogastropoda
アッキガイ科　Family Muricidae
アカニシ　*Rapana venosa*
柄眼目　Order Stylommatophora
コハクガイ科　Family Zonitidae
ヒメコハクガイ　*Hawaiiaminuscla*

二枚貝綱　Class Bivalvia
マルスダレガイ目　Order Veneroida
マルスダレガイ科　Family Veneridae
ハマグリ　*Meretrix lusoria*

脊椎動物門　Phylum VERTEBRATA

硬骨魚綱　Class Osteihthyes
ウナギ目　Order Anguilliformes
科属種不明　fam,gen. et sp. indet.
コイ目　Order Cypriniformes
コイ科　Family Cyprinidae
コイ　*Cyprinus carpio*
ドジョウ科　Family Cobitidae
属種不明　gen. et sp. indet.
ナマズ目　Order Siluriforms
ギギ科　Family Bagridae
属種不明　gen. et sp. indet.
ニシン目　Order Clupeiformes
ニシン科　Family Clupeidae
属種不明　gen. et sp. indet.
サケ目　Order Salmoniformes
アユ科　Family Plecoglossidae
アユ　*Plecoglossus altivelis*
サケ科　Family Salmonidae
属種不明　gen. et sp. indet.
メダカ目　Order Cyprindontiformes
サヨリ科　Family Hemiramphidae
属種不明　gen. et sp. indet.
スズキ目　Order Perciformes
スズキ科　Family Serranidae
スズキ属　*Lateolabrax sp.*
アジ科　Family Carangidae
属種不明　gen. et sp. indet.
タイ科　Family Sparidae
クロダイ属　*Acanthopagrus sp.*
属種不明　gen. et sp. indet.
ハゼ科　Family Gobiidae
属種不明　gen. et sp. indet.
サバ科　Family Scombridae
サバ属　*Scomber sp.*
カツオ　*Katsuwonus pelamis*

鳥綱　Class Aves
カモ目　Order Anseriformes
カモ科　Family Anatidae
カモ亜科　Subfamily Anatinae
属種不明　gen. et sp. indet
キジ目　Order Galliformes
キジ科　Family Phasianidae
ウズラ　*Coturnix japonica*
属種不明　gen. et sp. indet
スズメ目　Order Passeriformes
科属種不明　fam. gen. et sp. indet

両生綱　Class Amphibia
カエル目　Order Amphibia
科属種不明　fam,gen. et sp. indet.

哺乳綱　Class Mammalia
ウサギ目　Order Lagomorpha
ウサギ科　Family Leporidae
ウサギ類　*Lepus sp.*
食肉目 Order　Carnivora
イヌ科　Family Canidae
属種不明　gen. et sp. indet.
偶蹄目　Order Artiodactyla
イノシシ科　Family Suidae
イノシシ（ブタ）　*Sus scrofa*
シカ科　Family Cervidae
ニホンジカ　*Cervus nippon*
ウシ科　Family Bovidae
ウシ　*Bos taurus*
奇蹄目　Order Perissodactyla
ウマ科　Family Equidae
ウマ　*Equus caballus*

表３　出土魚類遺体組成表（1）

ＳＸ３			
分　類　群	部位	左右	数
ニシン科	主鰓蓋骨	右	2
	前鰓蓋骨	右	2
	第１椎骨		1
	腹椎		10
	尾椎		19
ニシン科？	尾椎		1
コ　イ	咽頭骨	左	2
	咽頭歯	右	1
フ　ナ　属	咽頭骨	左	1
コ　イ　科	蝶形骨		1
	主上顎骨	左	2
	角骨	左	1
	角骨	右	2
	舌顎骨	左	1
	前鰓蓋骨	右	1
	咽頭骨	右	3
	方骨	右	2
	主鰓蓋骨	左	3
	主鰓蓋骨	右	1
	前鰓蓋骨	左	2
	鰓蓋骨		1
	尾椎		11
	腹椎		10
ドジョウ科	腹椎		1
ギ　ギ　科	硬状鰭棘		5
	腹椎		1
	尾椎		1
ギ ギ 科？	尾椎		1
ア　ユ	腹椎		6
サ　ケ　科	腹椎		1
	尾椎		1
	椎骨		2
ア　ジ　科	主上顎骨	左	1
	方骨	左	1
	稜鱗		1
	腹椎		4
	尾椎		1
タ　イ　科	舌顎骨	右	1
	主上顎骨	右	1
	※破片のためはっきりしないがクロダイ属近似		
	前上顎骨	左	1
	顎骨		4
	腹椎		1
タ　イ　型	腹椎		3
タ イ 型？	腹椎		1
カ　ツ　オ	前上顎骨	左	1
	主上顎骨	左	1
	尾椎		1
サ　バ　属	腹椎		2
	尾椎		1
	椎骨		2
計			127
タ　イ　型	歯		4
同 定 不 可	前上顎骨	左	1
		右	1
	主上顎骨	右	2
	主鰓蓋骨	右	1
	腹椎		5
	尾椎		1
	椎骨		11
未　同　定	椎骨		1

表２　出土貝類遺体組成

遺　構	アカニシ	ハマグリ 左	ハマグリ 右	ＭＮＩ	不明	ヒメコハク	アカニシ	ハマグリ
ＳＸ３	4	△		5	△		80.0%	20.0%
ＳＸ３Ａ	○	○		2			50.0%	50.0%
ＳＸ３Ｂ	1	○		2			50.0%	50.0%
ＳＸ３Ｃ	△	1		2	△	1	50.0%	50.0%
ＳＸ３Ｄ	1			1			100.0%	—
ＳＸ４	10	19	28	38	○		26.3%	73.7%
ＳＸ４Ｂ	1			1			100.0%	—
ＭＮＩ	19	32		51	○	1	37.3%	62.7%

○：破片のみ，△：破片のみ且少量

ＳＸ４			
分　類　群	部位	左右	数
コ　イ	咽頭骨	左	1
	咽頭歯	右	1
コ　イ　科	腹椎		2
ア　ユ	腹椎		2
	尾椎		1
サ ヨ リ 科	第１椎骨		1
ス ズ キ 属	主上顎骨	左	1
	歯骨	左	1
	方骨	左	1
クロダイ属	主上顎骨	左	1
	前上顎骨	右	3
タ　イ　科	主上顎骨	左	1
	角骨	左	1
	第１椎骨		1
タ　イ　型	歯		5
カ　ツ　オ	尾椎		1
計			24
同 定 不 可	前上顎骨	左	2
	椎骨		4
	尾椎		1

スズキ属：大型

ＳＸ６			
分　類　群	部位	左右	数
ウ ナ ギ 目	腹椎		1
ニ シ ン 科	尾椎		1
コ　イ	咽頭骨	左	1
コ　イ　科	尾椎		2
	腹椎		2
ギ　ギ　科	尾椎		3
ア　ユ	腹椎		1
サ　ケ　科	椎骨		1
ア　ジ　科	主上顎骨	左	1
	腹椎		1
計			14

表３　出土魚類遺体組成表（2）

分　類　群		全　体		ＳＸ３		ＳＸ４		ＳＸ６	
ウ　ナ　ギ　目	海	1	0.6%					1	7.1%
ニシン科(マイワシ類)	海	35	21.2%	34	26.8%			1	7.1%
ニシン科(マイワシ類)？	—	1	0.6%	1	0.8%				
コ　イ　科	淡	54	32.7%	45	35.4%	4	16.7%	5	35.7%
ド ジ ョ ウ 科	淡	1	0.6%	1	0.8%				
ギ　ギ　科	淡	10	6.1%	7	5.5%			3	21.4%
ギ　ギ　科　？	—	1	0.6%	1	0.8%				
ア　ユ	淡	10	6.1%	6	4.7%	3	12.5%	1	7.1%
サ　ケ　科	淡	5	3.0%	4	3.1%			1	7.1%
サ　ヨ　リ　科	海	1	0.6%			1	4.2%		
ス　ズ　キ　属	海	3	1.8%			3	12.5%		
ア　ジ　科	海	10	6.1%	8	6.3%			2	14.3%
タ イ 科 (型) ※	海	23	13.9%	11	8.7%	12	50.0%		
タ　イ　型　？	—	1	0.6%	1	0.8%				
カ　ツ　オ	海	4	2.4%	3	2.4%	1	4.2%		
サ　バ　属	海	5	3.0%	5	3.9%				
合　計		165		127		24		14	

※歯は除く

淡　水　産	81	49.1%	63	49.6%	7	29.2%	11	78.6%
海　産	81	49.1%	61	48.0%	17	70.8%	3	21.4%
不　明	3	1.8%	3	2.4%				

表４　ＳＸ３における魚類遺体の出土傾向（1）　魚種・生息域別

淡水域産

コイ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10					1			1
+10～20	1			2	7			10
+20～30					1			1
+30～40					3			3
+40～50				1	3			4
+50～60			1	1	1			3
+60～70				1				1
一括							22	22
計	1		1	5	16		22	45

ドジョウ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20								
+20～30					1			1
+30～40								
+40～50								
+50～60								
+60～70								
一括								
計					1			1

ギギ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20	1							1
+20～30								
+30～40			1					1
+40～50								
+50～60								
+60～70								
一括							5	5
計	1		1				5	7

ア　ユ	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20								
+20～30			1					1
+30～40			1					1
+40～50								
+50～60		1						1
+60～70								
一括							3	3
計		1	2				3	6

サケ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20	1							1
+20～30				1				1
+30～40			1					1
+40～50								
+50～60								
+60～70								
一括							2	2
計	1		1	1			2	5

海産

ニシン科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10	2	4	1	1	1			9
+10～20					2			2
+20～30			1		5	1		7
+30～40				2	3			5
+40～50								
+50～60								
+60～70		1						1
一括							10	10
計	2	5	2	3	11	1	10	34

アジ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20					1			1
+20～30			1					1
+30～40					4			4
+40～50					1			1
+50～60								
+60～70								
一括							1	1
計			1		6		1	8

タイ科	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20						1		1
+20～30								
+30～40					1			1
+40～50								
+50～60					1			1
+60～70								
一括		1					10	11
計		1			2	1	10	14

サバ属	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20								
+20～30								
+30～40								
+40～50								
+50～60								
+60～70								
一括							5	5
計							5	5

カツオ	A	B	C	D	E	F	一括	計
0～+10								
+10～20								
+20～30								
+30～40					3			3
+40～50								
+50～60								
+60～70								
一括								
計					3			3

合計

淡水域産	A	B	C	D	E	F	計
0～+10					1		1
+10～20	3			2	7		12
+20～30			1	1	2		4
+30～40			3		3		6
+40～50				1	3		4
+50～60		1	1	1	1		4
+60～70				1			1
計	3	1	5	6	17		32

海　　産	A	B	C	D	E	F	計
0～+10	2	4	1	1	1		9
+10～20					3	1	4
+20～30			2		5	1	8
+30～40				2	11		13
+40～50					1		1
+50～60					1		1
+60～70		1					1
計	2	5	3	3	22	2	37

表４　ＳＸ３における魚類遺体の出土傾向（2）　区×レベル×魚種

区×レベル	A	B	C	D	E	F	計
0～+10	2	4	1	1	2		10
+10～20	3			2	10	1	16
+20～30			3	1	7	1	12
+30～40			3	2	14		19
+40～50				1	4		5
+50～60		1	1	1	2		5
+60～70		1		1			2
計	5	6	8	9	39	2	69

区×魚種		A	B	C	D	E	F	一括
淡水域産	コ　イ　科	1		1	5	16		22
	ドジョウ科					1		1
	ギ　ギ　科	1		1				5
	ア　　ユ		1	2				3
	サ　ケ　科	1		1	1			2
海産	ニシン科	2	5	2	3	11	1	10
	ア　ジ　科			1		6		1
	タ　イ　科		1			2	1	10
	サ　バ　属							5
	カ　ツ　オ					3		

魚種×レベル	淡水域産					海産				
	コイ科	ドジョウ科	ギギ科	アユ	サケ科	ニシン科	アジ科	タイ科	サバ属	カツオ
0～+10	1					9				
+10～20	10		1		1	2	1	1		
+20～30	1	1		1	1	7	1			
+30～40	3		1	1	1	5	4	1		3
+40～50	4						1			
+50～60	3			1				1		
+60～70	1					1				
一　　括	22	1	5	3	2	10	1	11	5	

表５　出土鳥類遺体一覧

遺構		層位	分類群名	部位	左右	残存部	点数
ＳＸ３	Ａ	10-20	スズメ目	足根中足骨	左	ｄ	1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	4
		20-30	種不明	椎骨		ｍｆｒ	1
		一括	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	1
	Ｂ	0-10	キジ科	烏口骨	右	ｄ	1
			種不明	趾骨			1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	9
	Ｃ	20-30	スズメ目	足根中足骨	左	ｄ	1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	2
		30-40	スズメ目	脛足根骨	右	ｄ	1
			種不明	歯骨			1
		50-60	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	6
		一括	カモ亜科	脛足根骨	左	ｄｆｒ	1
			キジ科	肩甲骨	右		1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	1
	Ｄ	10-20	カモ亜科	脛足根骨	右	ｍ－ｄ	1
			スズメ目	足根中足骨	左	ｄ	1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	4
		30-40	スズメ目	足根中足骨	左	ｐ	1
			種不明	趾骨			1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	3
		一括	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	5
	Ｅ	10-20	スズメ目	足根中足骨	右	ｄ	1
					左	ｐ－ｍ	1
				脛足根骨	右	ｄ	1
			種不明	趾骨			2
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	5
		20-30	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	1
		30-40	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	6
		40-50	同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	4
		60-70	同定不能	橈骨		ｐｆｒ	1
				四肢骨		ｍｆｒ	2
	一括		カモ亜科	橈骨	左	ｐ－ｍ	1
			キジ科	上腕骨	右	ｄ	1
			ウズラ	足根中足骨	右	ｄ	1
			スズメ目	尺骨	左	ｐ－ｍ	1
				手根中手骨	右	ｗ	1
				足根中足骨	右	ｍ－ｄ	2
						ｐ	2
					左	ｄ	1
						ｍ－ｄ	1
						ｐ	2
			種不明	歯骨			2
				上顎骨			1
				趾骨			2
				末節骨			1
			同定不能	上腕骨	右	ｍ	1
				脛足根骨	左	ｍ	1
				椎骨		ｍｆｒ	1
				四肢骨		ｍｆｒ	48
ＳＸ４	Ａ	0-10	キジ科	手根中手骨	左	ｗ	1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	4
	Ｂ	40-50	種不明	趾骨			1
	一括		カモ亜科	肩甲骨	左		1
				上腕骨	右	ｍ	1
			スズメ目	尺骨	左	ｐ－ｍ	1
			同定不能	四肢骨		ｍｆｒ	9
ＳＸ６	一括	10-20	キジ科	手根中手骨	左	ｄ	1
				小指節骨	左		1
		20-30	スズメ目	脛足根骨	右	ｄ	1
総計							163

ｗ：完存、ｐ：近位端、ｄ：遠位端、ｍ：中間部、ｆｒ：破片。烏口骨の肩端はｄとした

表６　出土哺乳類遺体一覧（1）　ＳＸ３

遺構	遺物番号	レベル	分類群	部　　位	左右	数	NISP	MNI	備　　考
ＳＸ３	001		イノシシ類	上顎骨	右	1	16	3	(Ｍ１・２)。08と同一個体。Ｍ１は前端が欠損。Ｍ１の後側より、Ｍ２の前側の幅が広い。その為、歯列は、舌側に段差が認められる。共に咬耗し、象牙質が露出している。各咬頭の襞がイノシシ標本のものよりもやや多い。なお、顎体において、第１と第２後臼歯の間の舌側歯槽に歯周症による退縮が認められる。
ＳＸ３			イノシシ類	上顎骨	右	1			歯槽部分はほとんど残存しない。歯は乳歯。(m34)。
ＳＸ３	022		イノシシ類	上顎第１後臼歯	右	1			後側のみ。
ＳＸ３	008		イノシシ類	上顎第３後臼歯	右	1			01と同一個体。第１～３咬頭まで摩耗している。但し、象牙質は露出していない（w)。
ＳＸ３	032		イノシシ類	肩甲骨	左	1			
ＳＸ３			イノシシ類	第２中手骨	右	1			近位部分。
ＳＸ３	030		イノシシ類	脛骨	右	1			遠位端部。
ＳＸ３			イノシシ類	中足骨	左	1			第２？側指。被熱により、収縮し、歪んでいる。
ＳＸ３			イノシシ類	末節骨		2			
ＳＸ３Ｂ		＋10～20	イノシシ類	第３手根骨	右	1			被熱。
ＳＸ３Ｂ	015		イノシシ類	大腿骨	右	1			遠位端部。未癒合の為、骨幹部分から乖離。
ＳＸ３Ｃ		＋10～20	イノシシ類	頭蓋骨		1			後頭顆周辺。
ＳＸ３Ｄ		＋40～50	イノシシ類	第５中手骨	左	1			石灰化。
ＳＸ３Ｆ		＋20～30	イノシシ類	歯冠		3			破片資料。
ＳＸ３	297		ニホンジカ	角		1	8	1	先端部分。近位に切断面を有する。
ＳＸ３	028		ニホンジカ	肩甲骨	左	1			
ＳＸ３	026		ニホンジカ	大腿骨	左	1			近位欠損。
ＳＸ３	035		ニホンジカ	膝蓋骨	左	1			
ＳＸ３			ニホンジカ	脛骨	左	1			近位端部。未癒合の為、骨幹部分と乖離。
ＳＸ３Ａ			ニホンジカ	角		1			分岐部分。切断面を有する。
ＳＸ３Ｂ			ニホンジカ	踵骨	左	1			
ＳＸ３Ｃ	007		ニホンジカ	中手骨	左	1			近位。
ＳＸ３Ｃ	036		ウ　　シ	中節骨	右	1	1	1	完存。
ＳＸ３			ネ ズ ミ 類	犬歯		1	1	1	破片。
ＳＸ３Ａ		＋０～20	小型哺乳類	中手・足骨		1	1	1	ネズミ類
合　　計						28	11	4	
ＳＸ３	029		同 定 不 可	長骨		1			骨幹部分。イノシシ類？右上腕骨？
ＳＸ３Ｂ			同 定 不 可	頭蓋骨		1			脳頭蓋骨片。ニホンジカ？
ＳＸ３Ｅ		＋０～10	同定対象外	肋骨		1			石灰化。中型哺乳類(イノシシ類、ニホンジカなど)

同定対象外資料は、部位の判別ができたもののみ

表６　出土哺乳類遺体一覧（2）　ＳＸ４

遺構	遺物番号	レベル	分類群	部　　位	左右	数	NISP	MNI	備　　考
ＳＸ４	020		イノシシ類	上顎骨	右	1	8	1	犬歯から第４前臼歯前端歯槽まで。切歯は特に前側が摩滅し、象牙質が露出。♀。（ＣＰ23×）
ＳＸ４	016		イノシシ類	頭蓋骨		1			右側頬骨及び上顎骨部分とその周辺。ブタに近い形態。
ＳＸ４	023		イノシシ類	頭蓋骨		○			破片資料。１点右前頭骨頬骨突起部分。
ＳＸ４	029		イノシシ類	頭蓋骨	左	1			左上額骨吻部分(第３切歯歯槽辺りまで)。歯は、第１切歯のみ。第２及び第３切歯歯槽は、壊れている。第１切歯は後側が摩滅し、象牙質および歯髄が露出。歯根の一部まで摩滅している。
ＳＸ４	035		イノシシ類	頭蓋骨		1			左側頭骨部分。
ＳＸ４	052		イノシシ類	頭蓋骨		1			左眼窩上部部分。
ＳＸ４	001		イノシシ類	前肢中節骨	左	1			第４？
ＳＸ４	034		イノシシ類	踵骨	左	1			
ＳＸ４	021		ニホンジカ	下顎骨	左	1	5	1	下顎枝部分。
ＳＸ４	037		ニホンジカ	下顎第２後臼歯	右	1			
ＳＸ４	027		ニホンジカ	中足骨		1			骨幹部分破片。
ＳＸ４			ニホンジカ	角		1			破片資料。中型哺乳類。切断面有り。
ＳＸ４Ｂ		０～＋10	ニホンジカ	中手骨	左	1			近位部分のみ。
ＳＸ４	004		ウ　　シ	上顎第１臼歯(乳)	左	1	3	1	
ＳＸ４	022		ウ　　シ	大腿骨	左	1			
ＳＸ４	024		ウ　　シ	踵骨	右	1			
ＳＸ４			ネ ズ ミ 類	下顎骨	左	1	5	3	犬歯及び歯槽部分。
ＳＸ４			ネ ズ ミ 類	犬歯		1			
ＳＸ４			ネ ズ ミ 類	犬歯	左	1			
ＳＸ４			ネ ズ ミ 類	犬歯	右	1			
ＳＸ４			ネ ズ ミ 類	犬歯	―	1			破片。
ＳＸ４Ｂ	040		ウ　　マ	後肢末節骨	左	1	1	1	
ＳＸ４			ノウサギ類	下顎骨第１前臼歯	左	1	1	1	
ＳＸ４			食　虫　目	下顎骨	右	1	1	1	モグラ類。
ＳＸ４	038		大型哺乳類	腰椎		1	1	1	大型哺乳類(ウシorウマ？)。
合　　計						25	25	10	
ＳＸ４	032		同 定 不 可	頭蓋骨		1			破片資料。
ＳＸ４			同 定 不 可	下顎骨		1			下顎体部分破片。ニホンジカ？
ＳＸ４Ｂ		＋10 ～ 20	同 定 不 可	歯冠		1			破片資料。
ＳＸ４			同 定 不 可	歯冠		5			歯冠部分破片
ＳＸ４			同 定 不 可	上腕骨		1			骨幹近位部分破片。
ＳＸ４			同 定 不 可	上腕骨		1			近位骨幹破片。中型哺乳類。
ＳＸ４	025		同 定 不 可	尺骨	左	1			近位肘頭部分の一部のみ。
ＳＸ４	014		同 定 不 可	脛骨	右	1			中型哺乳類骨幹破片。ニホンジカ？
ＳＸ４	046		同 定 不 可	寛骨	右	1			坐骨部分破片。中型哺乳類。
ＳＸ４	015		同 定 不 可	長骨		1			骨幹部分
ＳＸ４	002		同 定 不 可	長骨		1			長骨骨幹部分
ＳＸ４	017		同 定 不 可	長骨		2			長骨骨幹破片。
ＳＸ４	019		同 定 不 可	長骨		1			中型哺乳類骨幹破片。
ＳＸ４			同 定 不 可	長骨		◎			破片資料

表６　出土哺乳類遺体一覧（3）　ＳＸ６・遺構不明

遺構	レベル	分類群	部　　位		備　　考
ＳＸ６	０～＋10	イノシシ類	頭蓋骨	1	
ＳＸ６	０～＋10	同 定 不 可	頭蓋骨	1	脳頭蓋骨片。イノシシ類？
―		ニホンジカ	頭蓋骨	1	右側頭頬骨突起部分。
―		イ　ヌ　科	中手・足骨	1	近位部分欠損。
―		同 定 不 可	頭蓋骨	1	脳頭蓋骨片。ニホンジカ？

表７　出土哺乳類遺体の四肢骨に関する計測値

遺構	No.	レベル	種名	部位		計測値(単位：mm)							
ＳＸ４Ｂ	―	０～＋10	ニホンジカ	中手骨	左	Ｂｐ	31.4						
ＳＸ３Ｃ	36	―	ウ　　シ	中節骨	右	Ｂｐ	32.8	ＧＬ	40.9	ＳＤ	25.4	Ｂｄ	25.4
ＳＸ３	30	―	イノシシ	脛　骨	右	Ｂｄ	30.1	Ｄｄ	26.4				
ＳＸ３Ｂ	15	―	イノシシ	大腿骨	右	Ｂｄ	49.8	Ｄｄ	59.3				

表８　ニホンジカ及びウシ遺体の歯冠計測値（単位：㎜）

遺構	No.	種名	部位		近遠心径	頬舌径
ＳＸ４	37	ニホンジカ	下顎第2後臼歯	右	17.3	10.8
ＳＸ４	04	ウ　　シ	上顎第1乳臼歯	左	18.7	12.7

表９　イノシシ類遺体の上顎に関する歯冠計測表（単位：㎜）

遺構	No.			ｍ３	ｍ４	
ＳＸ３	―	右	近遠心径	13.2	10.8	
			頬 舌 径	9.0	6.6	
遺構	No.			Ｍ１	Ｍ２	Ｍ３
ＳＸ３	01＋08	右	近遠心径	―	22.7	34.6
			頬 舌 径	15.0	19.1	21.0
			咬耗段階	ＦＷ	ＦＷ	Ｗ
遺構	No.			Ｍ１		
ＳＸ３	22	右	近遠心径	―		
			頬 舌 径	14.7	後側	
			咬耗段階	ＦＷ		
遺構	No.			Ｃ	Ｐ２	Ｐ３
ＳＸ４	20	右	近遠心径	13.9	8.8	12.8
			頬 舌 径	7.4	4.4	8.1
遺構	No.			Ｉ１		
ＳＸ４	29	―	近遠心径	11.6		
			頬 舌 径	6.8		

【咬耗段階】（内山2007）

Ｗ：咬耗が進行し、象牙質が露出し始めた状態
ＦＷ：咬耗がかなり進行しているが、歯冠上に露出した象牙質が舌側と頬側の最大幅はいまだ各咬頭の咬合面の最大幅の半分を超えていない。ただし各咬頭の歯冠上に露出した象牙質の領域は部分的にだが互いにつながり始めている。

表10　その他の動物遺体一覧

遺構	レベル	分類群	部位	左右	数	備考
ＳＸ３		バフンウニ類	―		1	破片。
ＳＸ３Ａ	＋00～10	カ エ ル 類	上腕骨	左	1	
ＳＸ３Ａ	＋30～40	カ エ ル 類	脛腓骨	右	1	
ＳＸ３Ｅ	＋60～70	カ エ ル 類	頸　椎		1	
ＳＸ３Ｅ	＋60～70	カ エ ル 類	四肢骨		1	
ＳＸ３Ｅ	＋60～70	カ エ ル 類	―		4	破片。

付編２　幡羅遺跡第18次調査出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、幡羅遺跡第18次調査SX03とSX04出土炭化材の樹種同定を行った。幡羅遺跡は7世紀末葉～10世紀前半までの活動が確認される官衙遺跡で、18次調査では正倉院の東限ないし実務的な官衙施設を確認する目的で発掘調査が行われた。また、SX03とSX04の時期は7世紀後半～8世紀前半とされている（深谷市教育委員会，2007）。

２．試料と方法

SX03とSX04から出土した炭化材は深谷市教育委員会によって土壌洗浄された結果、得られた試料である。いずれも微小な破片のため、重量による定量分析を行った。

同定試料は、各遺構から出土した炭化材を実体顕微鏡下で観察し、異なる分類群と思われる試料を抽出した。その際に分類を行った炭化材の重量計測を行った。その後抽出した試料を走査型電子顕微鏡で同定した。樹種同定用の炭化材を選び出す際には、材の3方向の断面（横断面・接線断面・放射断面）を作製することが可能な大きさの炭化材を選び出した。なお、同定を行なった残りの炭化材は深谷市教育委員会に保管されている。

３．結果

同定の結果、広葉樹のヤナギ属･コナラ属クヌギ節･コナラ属アカガシ亜属・ケヤキ・モモの5分類群が産出した。

表１　幡羅遺跡出土炭化材の量比による樹種構成

樹　　種	SX03	SX04
ヤナギ属	0.3	
コナラ属クヌギ節	11.7	67.1
コナラ属アカガシ亜属	0.3	6.6
ケヤキ		0.4
モモ		1.7

単位：g

以下に、同定された材の特徴を記し、図版に1分類群1点の電子顕微鏡写真を示す。

(1)ヤナギ属　Salix　ヤナギ科　図版1　1a-1c

単独ないし2、3個の道管が放射状ないし接線状に接合する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列異性である。ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギ、シダレヤナギなどがある。

(2)コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Cerris　ブナ科　図版1　2a-2c

大型の道管が年輪の始めに並び、孔圏外の道管は径を減じて火炎状となる環孔材である。放射組織は同性で単列のものと、集合放射組織のもので構成される。同館の穿孔は単穿孔を有する。クヌギ節にはクヌギとアベマキがある。

(3) コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版1　3a-3c

やや大きい厚壁の道管が年輪界に関係なく単独で放射方向に並ぶ。道管の穿孔は単穿孔を有する。放射組織は同性で､単列のものと複合状のもので構成される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがある。

(4) ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　図版1　4a-4c

大型の道管が年輪はじめに1列に並び、孔圏外の小道管は数個複合して接線状に並ぶ環孔材である。放射

組織は1 ～ 5列の紡錘形で、上下には大型の結晶を持つ直立細胞がある。道管の穿孔は単穿孔を有し、小道管にはらせん肥厚がみられる。

(5)モモ　Prunus persica (L.) Batsch　バラ科　図版15a-5c

非常に小さい道管が単独ないし2、3個複合する半環孔材である。道管の穿孔は単穿孔を有し、内腔には鮮明ならせん肥厚が見られる。放射組織は異性で幅は1 ～ 4列となる。原産地は中国北部で、古来より日本でも栽培されている樹木である。

4. 考察

同定の結果、コナラ属クヌギ節が多く見られた。また、遺構から共伴遺物として土器片、骨、種実などが出土し、調理残渣の可能性が考えられる。そのため今回の炭化材も、調理時の燃料材である可能性が高い。コナラ属アカガシ亜属、コナラ属クヌギ節は陽樹で、2次林の主要構成樹木である。

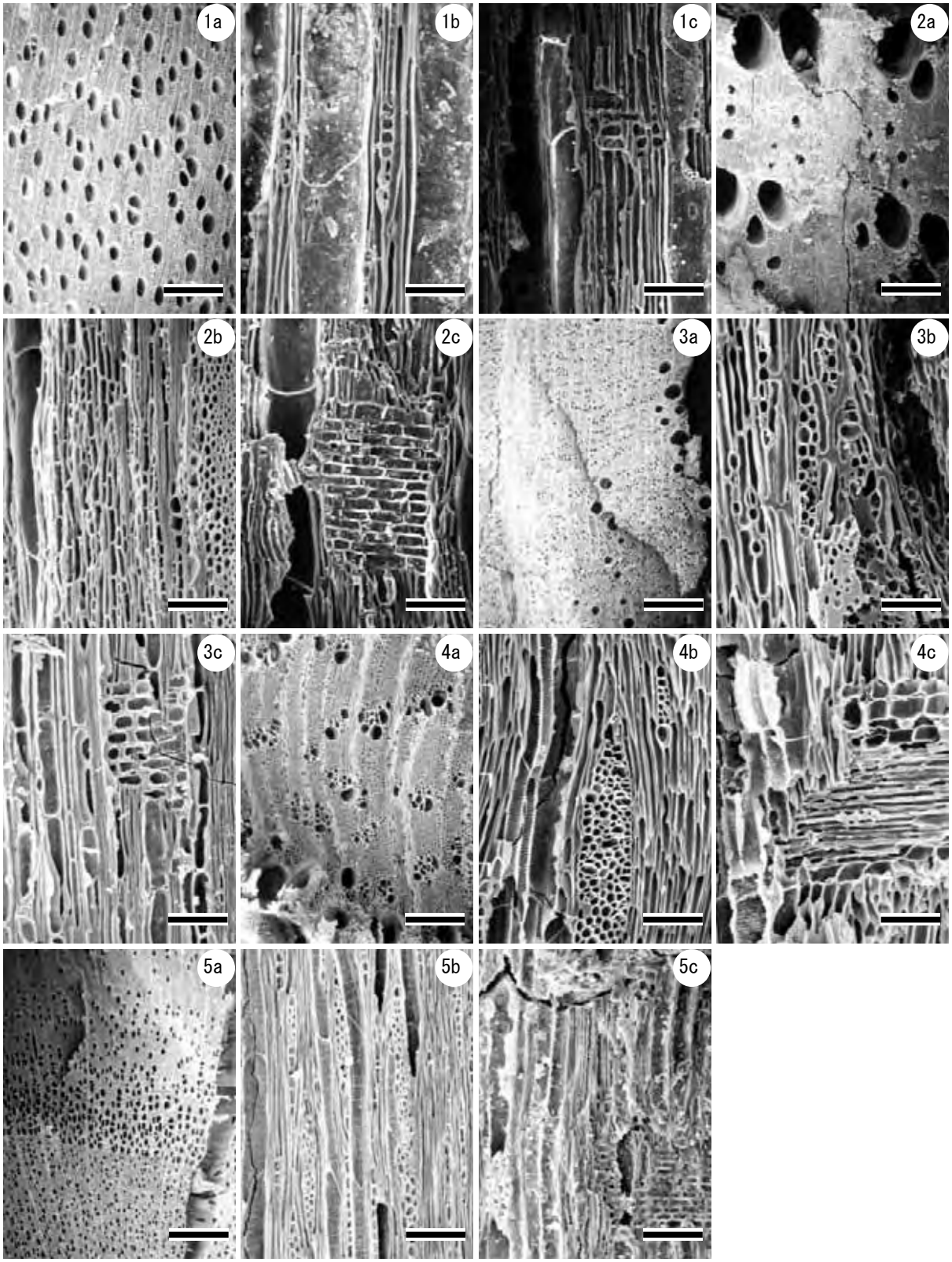
また、同遺跡のSB32では、建物の建築材と思われる炭化材の同定が行われている(植田，2007)。その結果では、クリが卓越し、ケヤキ、オニグルミなども産出しており、今回の同定結果とは異なっていた。SB32の時期は9世紀初頭～ 9世紀後半とされ、時期が異なるため一概には言えないが、燃料材としてコナラ属アカガシ亜属、コナラ属クヌギ節を選択した結果または遺跡周辺に多い樹種であった可能性が考えられる。

同定を行った燃料の中には、少量ながらもモモもあった。共伴遺物の種実にもモモの核が含まれることから、遺跡周辺でモモの栽培がおこなわれていた可能性が考えられる。

引用文献

植田弥生（2007）第32号建物跡南から出土した炭化材の樹種同定．深谷市教育委員会編，「幡羅遺跡Ⅱ-正倉跡の調査(2)-」:119-122.

深谷市教育委員会（2007）知久裕昭，幡羅遺跡Ⅱ-正倉跡の調査(2)-，122p



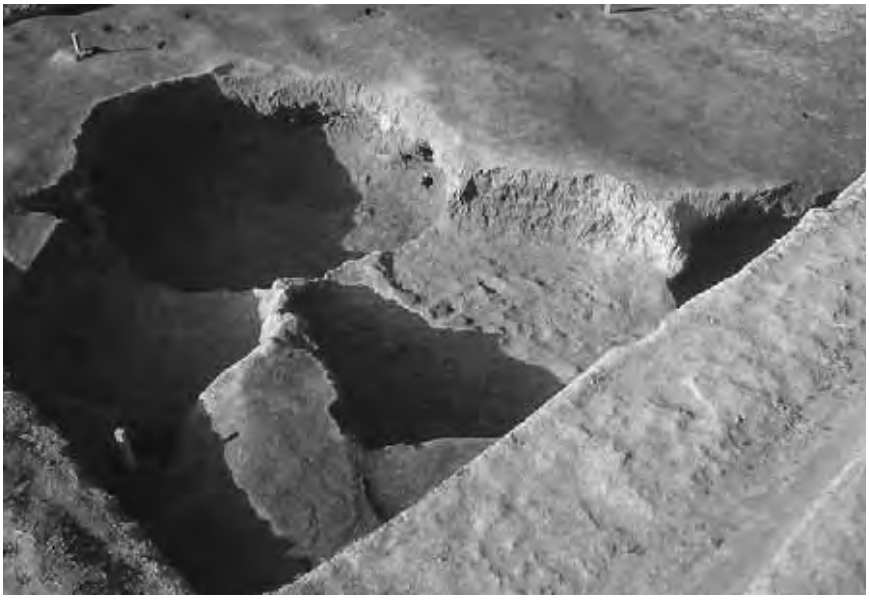
図版 1　幡羅遺跡第 18 次調査出土炭化材組織の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. ヤナギ属　2a-2c. コナラ属クヌギ節　3a-3c. コナラ属アカガシ亜属　4a-4c. ケヤキ　5a-5c. モモ
a: 横断面 (スケール =200 μ m)　b: 放射断面 (スケール =50 μ m)　c: 接線断面 (スケール =50 μ m)

写 真 図 版

図版 1

第 3 ～ 6 号特殊土坑遺物出土状況



第 3 ～ 6 号特殊土坑完掘状況

第 3 号特殊土坑土層断面

図版２

第19次調査区全景

第19次調査区Ｃ～Ｆ区

第19次調査区Ｂ区（1）

第19次調査区Ｂ区（2）

第41・42・44号建物跡

第41号建物跡

図版４

第42・44号建物跡

第55号建物跡

第43号建物跡、第４～６号塀跡

塀による区画施設（1）

塀による区画施設（2）

塀による区画施設（3）

図版 6

塀による区画施設（4）

塀による区画施設（5）

塀による区画施設（6）

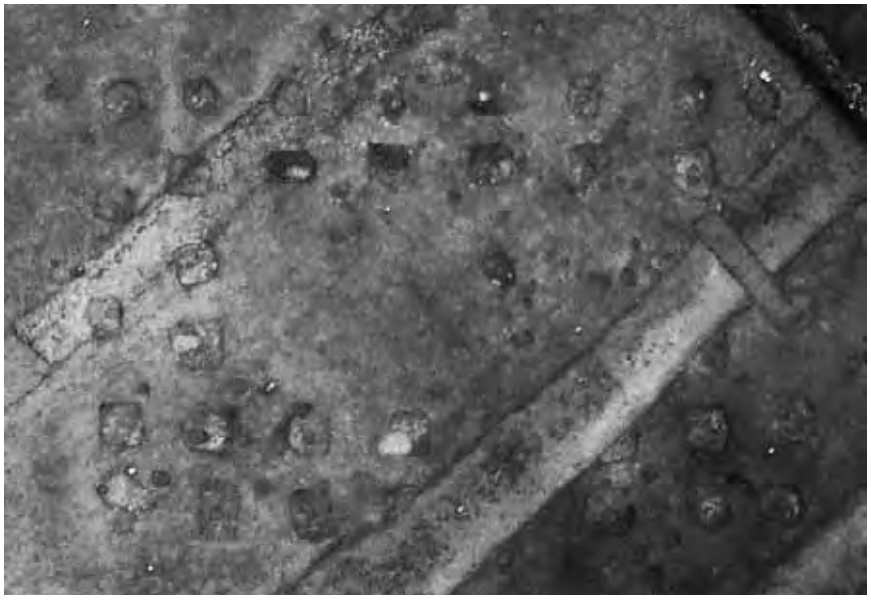
第７・８号塀跡

第７号塀跡

第45号建物跡

図版８

第47号建物跡（1）



第47号建物跡（2）

第49号建物跡

第51号建物跡

第56号建物跡

第58号建物跡

図版 10

第41号建物跡Ｐ 5

第42号建物跡Ｐ 12

第45号建物跡Ｐ 6

第47号建物跡Ｐ 8

第47号建物跡Ｐ 13

第47号建物跡Ｐ 18

第47号建物跡Ｐ 21

第47号建物跡Ｐ 22

第50号建物跡Ｐ 1

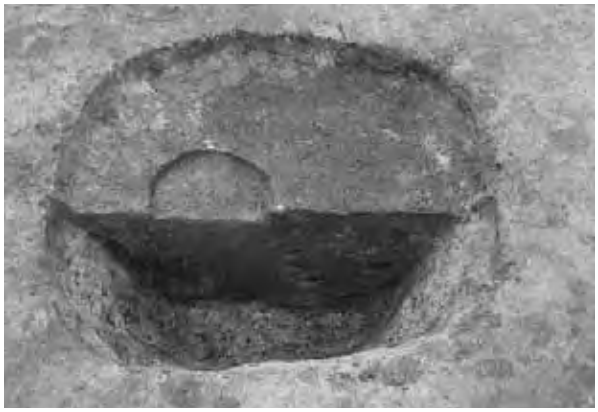
第55号建物跡Ｐ 2

第55号建物跡Ｐ 3

第４号塀跡Ｐ 1

第７号塀跡Ｐ 1

第８号塀跡Ｐ 1



第９号塀跡Ｐ10

幡羅小学校生徒による見学

図版 12

現地説明会（1）

現地説明会（2）

現地説明会（3）

第20図 1 （ＳＸ３）

第20図 2 （ＳＸ３）

第20図 5 （ＳＸ３）

第20図 5 （ＳＸ３）内面

第20図16（ＳＸ３）

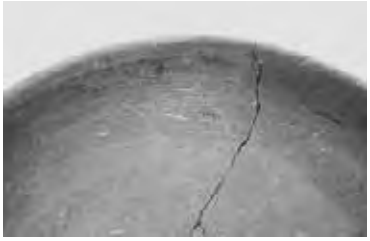
第20図19（ＳＸ３）

第20図20（ＳＸ３）

第20図21（ＳＸ３）

第20図24（ＳＸ３）

第20図25（ＳＸ３）


第20図25（ＳＸ３）内面

第20図25（ＳＸ３）外面

第20図26（ＳＸ３）

第20図28（ＳＸ３）

第20図30（ＳＸ３）

第20図41（ＳＸ３）

第21図43（ＳＸ３）

第21図45（ＳＸ３）

図版 14

第21図47（ＳＸ３）

第21図52（ＳＸ３）

第21図56（ＳＸ３）

第21図57（ＳＸ３）

第21図58（ＳＸ３）

第21図62（ＳＸ３）

第21図65（ＳＸ３）

第21図69（ＳＸ３）

第21図71（ＳＸ３）

第21図72（ＳＸ３）

第21図76（ＳＸ３）

第21図78（ＳＸ３）

第21図83（ＳＸ３）

第22図88（ＳＸ３）

第22図91（ＳＸ３）

第22図94（ＳＸ３）

第22図98（ＳＸ３）

第22図100（ＳＸ３）

第22図107（ＳＸ３）

第22図109（ＳＸ３）

第22図115（ＳＸ３）

第22図119（ＳＸ３）

第22図121（ＳＸ３）

第22図125（ＳＸ３）

第23図133（ＳＸ３）

第23図140（ＳＸ３）

第23図141（ＳＸ３）

第23図144（ＳＸ３）

第23図145（ＳＸ３）

第23図146（ＳＸ３）

第23図147（ＳＸ３）

第23図148（ＳＸ３）

第24図151（ＳＸ３）

第24図159（ＳＸ３）

第24図163（ＳＸ３）

図版 16

第24図164（ＳＸ３）

第24図169（ＳＸ３）

第24図171（ＳＸ３）

第24図173（ＳＸ３）

第24図175（ＳＸ３）

第24図176（ＳＸ３）

第24図177（ＳＸ３）

第24図178（ＳＸ３）

第24図179（ＳＸ３）

第24図180（ＳＸ３）

第24図183（ＳＸ３）

第25図186（ＳＸ３）

第25図188（ＳＸ３）

第25図189（ＳＸ３）

第25図191（ＳＸ３）

第25図194（ＳＸ３）外面

第25図195（ＳＸ３）

第25図195（ＳＸ３）外面

第25図196（ＳＸ３）

第25図197（ＳＸ３）

第25図198（ＳＸ３）

第25図199（ＳＸ３）

第25図201（ＳＸ３）

第25図202（ＳＸ３）

第25図206（ＳＸ３）

第25図207（ＳＸ３）

第25図210（ＳＸ３）

第25図211（ＳＸ３）

第25図211（ＳＸ３）内面

第25図212（ＳＸ３）

第25図216（ＳＸ３）

第26図222（ＳＸ３）

図版 18

第26図223（ＳＸ３）

第26図224（ＳＸ３）

第26図227（ＳＸ３）

第26図228（ＳＸ３）

第26図230（ＳＸ３）

第26図232（ＳＸ３）

第26図234（ＳＸ３）

第26図237（ＳＸ３）

第26図238（ＳＸ３）

第26図240（ＳＸ３）

第26図243（ＳＸ３）

第26図245（ＳＸ３）

第26図247（ＳＸ３）

第27図254（ＳＸ３）

第27図263（ＳＸ３）

第30図310（ＳＸ３）

第30図314（ＳＸ３）

第31図328（ＳＸ３）

第31図329（ＳＸ３）

第31図330（ＳＸ３）

第33図366（ＳＸ４）

第33図367（ＳＸ４）

第33図371（ＳＸ４）

第33図372（ＳＸ４）

第33図375（ＳＸ４）

第33図376（ＳＸ４）

第33図377（ＳＸ４）

第33図381（ＳＸ４）

第33図383（ＳＸ４）

図版 20

第33図384（ＳＸ４）

第33図387（ＳＸ４）

第33図388（ＳＸ４）

第33図389（ＳＸ４）

第33図389（ＳＸ４）内面

第33図390（ＳＸ４）内面

第33図391（ＳＸ４）

第33図391（ＳＸ４）内面

第33図392（ＳＸ４）

第33図392（ＳＸ４）内面

第33図393（ＳＸ４）

第33図394（ＳＸ４）

第34図398（ＳＸ４）

第34図399（ＳＸ４）

第34図400（ＳＸ４）

第34図401（ＳＸ４）

第34図403（ＳＸ４）

第34図404（ＳＸ４）

第34図407（ＳＸ４）

第34図409（ＳＸ４）

第34図410（ＳＸ４）

第34図411（ＳＸ４）

第34図413（ＳＸ４）

第34図415（ＳＸ４）

第34図419（ＳＸ４）

第34図420（ＳＸ４）

第34図423（ＳＸ４）

第34図426（ＳＸ４）

第34図427（ＳＸ４）

第34図428（ＳＸ４）

第34図429（ＳＸ４）

第34図430（ＳＸ４）

第34図431（ＳＸ４）

第34図433（ＳＸ４）

第34図435（ＳＸ４）

第35図436（ＳＸ４）

図版 22

第35図439（ＳＸ４）

第35図448（ＳＸ４）

第35図450（ＳＸ４）

第35図451（ＳＸ４）

第35図460（ＳＸ４）

第35図461（ＳＸ４）

第35図465（ＳＸ４）

第35図468（ＳＸ４）

第35図469（ＳＸ４）

第35図470（ＳＸ４）

第36図477（ＳＸ４）

第36図478（ＳＸ４）

第36図485（ＳＸ４）

第36図487（ＳＸ４）

第36図488（ＳＸ４）

第36図489（ＳＸ４）

第36図492（ＳＸ４）

第36図493（ＳＸ４）

第36図495（ＳＸ４）

第36図496（ＳＸ４）

第36図500（ＳＸ４）

第36図501（ＳＸ４）

第36図502（ＳＸ４）

第36図503（ＳＸ４）

第36図504（ＳＸ４）

第36図505（ＳＸ４）

第36図511（ＳＸ４）

第36図512（ＳＸ４）

第36図513（ＳＸ４）

第37図519（ＳＸ４）

第37図520（ＳＸ４）

第37図523（ＳＸ４）

第37図525（ＳＸ４）

第37図527（ＳＸ４）

第37図528（ＳＸ４）

第37図529（ＳＸ４）

図版 24

第37図530（ＳＸ４）

第37図531（ＳＸ４）

第37図532（ＳＸ４）

第37図537（ＳＸ４）

第37図537（ＳＸ４）内面

第37図538（ＳＸ４）

第37図539（ＳＸ４）

第37図540（ＳＸ４）

第37図542（ＳＸ４）

第37図543（ＳＸ４）

第37図545（ＳＸ４）

第37図546（ＳＸ４）

第37図547（ＳＸ４）

第37図549（ＳＸ４）

第37図552（ＳＸ４）

第37図553（ＳＸ４）

第37図555（ＳＸ４）

第38図558（ＳＸ４）

第38図560（ＳＸ４）

第38図562（ＳＸ４）

第38図565（ＳＸ４）

第38図566（ＳＸ４）

第38図568（ＳＸ４）

第38図568（ＳＸ４）内面

第38図570（ＳＸ４）

第38図572（ＳＸ４）

第38図573（ＳＸ４）

第38図574（ＳＸ４）

第38図583（ＳＸ４）

第38図584（ＳＸ４）

第38図585（ＳＸ４）

第38図586（ＳＸ４）

第38図589（ＳＸ４）

第38図590（ＳＸ４）

第38図591（ＳＸ４）

第38図592（ＳＸ４）

図版 26

第38図593（ＳＸ４）

第38図594（ＳＸ４）

第39図595（ＳＸ４）

第39図597（ＳＸ４）

第39図598（ＳＸ４）

第39図599（ＳＸ４）

第39図600（ＳＸ４）

第39図601（ＳＸ４）

第39図606（ＳＸ４）

第39図608（ＳＸ４）

第39図612（ＳＸ４）

第39図613（ＳＸ４）

第39図614（ＳＸ４）

第39図615（ＳＸ４）

第39図622（ＳＸ４）

第39図625（ＳＸ４）

第39図629（ＳＸ４）

第39図631（ＳＸ４）

第40図635（ＳＸ４）

第40図640（ＳＸ４）

第40図642（ＳＸ４）

第40図643（ＳＸ４）

第40図644（ＳＸ４）

第40図647（ＳＸ４）

第40図653（ＳＸ４）

第40図654（ＳＸ４）

第40図666（ＳＸ４）

第41図667（ＳＸ４）

第41図669（ＳＸ４）

第41図670（ＳＸ４）

第41図672（ＳＸ４）

第41図674（ＳＸ４）

第41図675（ＳＸ４）

図版 28

第41図676（ＳＸ４）

第41図679（ＳＸ４）

第41図682（ＳＸ４）

第41図683（ＳＸ４）

第41図685（ＳＸ４）

第41図686（ＳＸ４）

第41図687（ＳＸ４）

第42図692（ＳＸ４）

第42図693（ＳＸ４）

第42図694（ＳＸ４）

第42図695（ＳＸ４）

第42図696（ＳＸ４）

第42図697（ＳＸ４）

第42図698（ＳＸ４）

第42図699（ＳＸ４）

第42図700（ＳＸ４）

第42図701（ＳＸ４）

第42図706（ＳＸ４）

第42図707（ＳＸ４）

第42図709（ＳＸ４）

第43図711（ＳＸ４）

第43図712（ＳＸ４）

第43図713（ＳＸ４）

第43図716（ＳＸ４）

図版 30

第43図717（ＳＸ４）

第43図718（ＳＸ４）

第43図719（ＳＸ４）

第43図720（ＳＸ４）

第43図721（ＳＸ４）

第43図722（ＳＸ４）

第43図724（ＳＸ４）

第43図725（ＳＸ４）

第43図726（ＳＸ４）

第43図727（ＳＸ４）

第43図729（ＳＸ４）

第43図730（ＳＸ４）

第43図731（ＳＸ４）

第43図733（ＳＸ４）

第43図734（ＳＸ４）

第43図736（ＳＸ４）

第43図741（ＳＸ４）

第43図743（ＳＸ４）

第43図744（ＳＸ４）

第43図745（ＳＸ４）

第44図747（ＳＸ４）

第44図755（ＳＸ４）

第44図760（ＳＸ４）

第44図762（ＳＸ４）

第44図763（ＳＸ４）

第44図772（ＳＸ４）

第44図774（ＳＸ４）

第44図775（ＳＸ４）

第44図776（ＳＸ４）

第44図777（ＳＸ４）

第45図778（ＳＸ４）

第45図779（ＳＸ４）

第45図780（ＳＸ４）

第45図781（ＳＸ４）

第45図785（ＳＸ４）

第45図786（ＳＸ４）

図版 32

第45図790（ＳＸ４）

第45図791（ＳＸ４）

第45図801（ＳＸ４）

第45図804（ＳＸ４）

第45図805（ＳＸ４）

第46図807（ＳＸ４）

第46図810（ＳＸ４）

第46図813（ＳＸ４）

第47図826（ＳＸ４）

第47図835（ＳＸ４）

第47図837（ＳＸ４）

第48図844（ＳＸ４）

第48図845（ＳＸ４）

第49図855（ＳＸ４）

第49図860（ＳＸ４）

図版 34

第49図861（ＳＸ４）

第50図872（ＳＸ４）

第50図873（ＳＸ４）

第50図874（ＳＸ４）

第50図875（ＳＸ４）

第51図888（ＳＸ５）

第51図896（ＳＸ５）

第51図897（ＳＸ５）

第51図899（ＳＸ５）

第51図902（ＳＸ５）

第51図908（ＳＸ５）

第52図922（ＳＸ５）

第53図924（ＳＸ６）

第53図926（ＳＸ６）

第53図929（ＳＸ６）

第53図930（ＳＸ６）

第53図933（ＳＸ６）

第53図934（ＳＸ６）

第53図935（ＳＸ６）

第53図936（ＳＸ６）

第53図937（ＳＸ６）

第53図940（ＳＸ６）

第53図941（ＳＸ６）

第53図942（ＳＸ６）

第53図943（ＳＸ６）

第53図945（ＳＸ６）

第53図946（ＳＸ６）

第53図948（ＳＸ６）

第53図949（ＳＸ６）

第53図950（ＳＸ６）

第53図952（ＳＸ６）

図版 36

第53図955（ＳＸ６）

第53図956（ＳＸ６）

第53図958（ＳＸ６）

第54図962（ＳＸ６）

第54図965（ＳＸ６）

第54図966（ＳＸ６）

第54図967（ＳＸ６）

第54図968（ＳＸ６）

第54図975（ＳＸ６）

第54図977（ＳＸ６）

第54図978（ＳＸ６）

第54図979（ＳＸ６）

第56図991（ＳＸ６）

第56図999（ＳＸ６）

第57図1003（ＳＸ６）

第58図1026（特殊土坑群）

特殊土坑群出土線刻土師器

特殊土坑群出土土錘

特殊土坑群出土金属製品・羽口・鉄滓

図版 38

特殊土坑群出土炭化種子

第59図 1 （Ｓ Ｊ70）

第59図 2 （Ｓ Ｊ122）

第59図 3 （Ｓ Ｊ122）

第92図 3 （Ｓ Ｂ43）

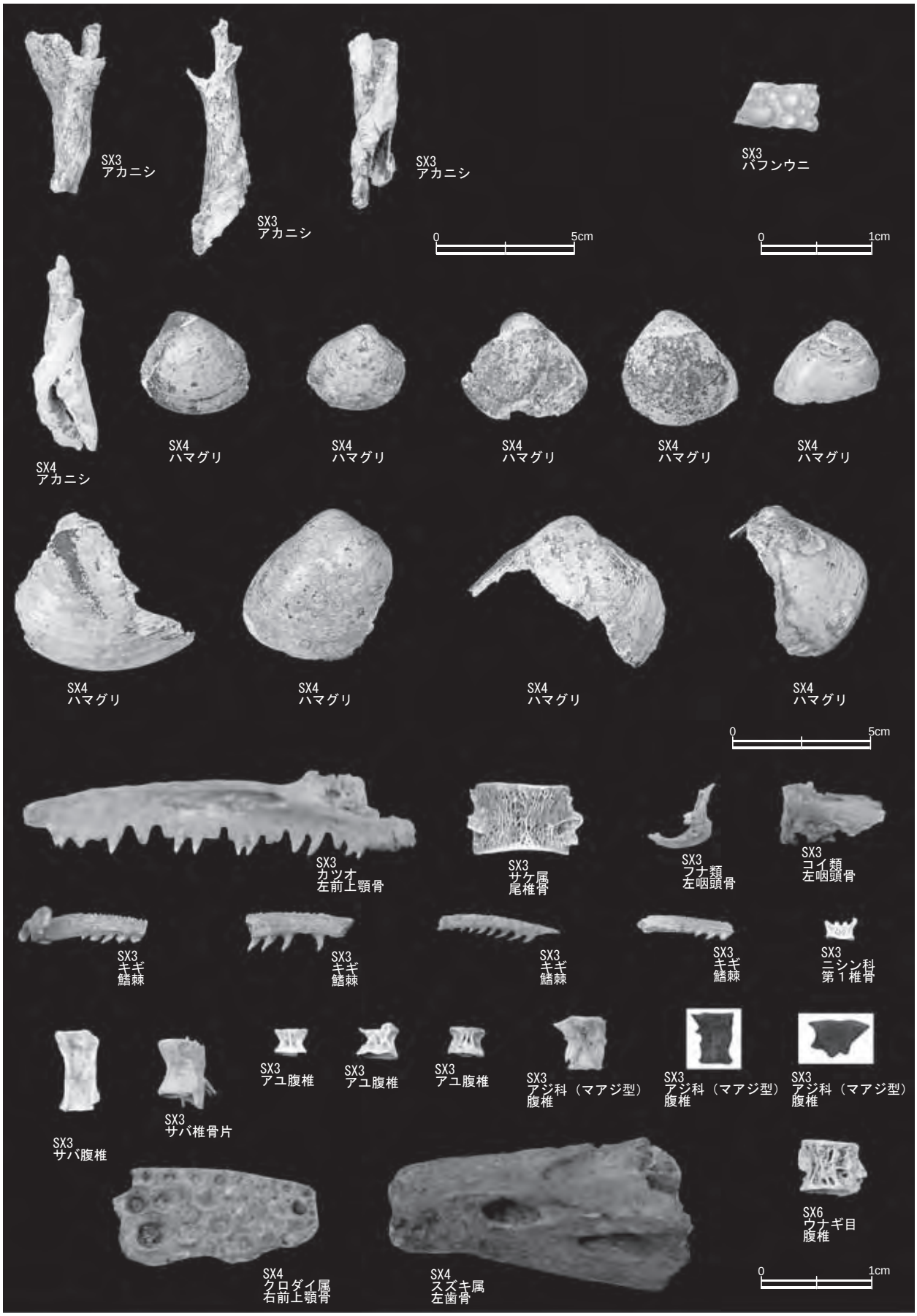
第92図 6 （Ｓ Ｂ48）

建物跡出土遺物

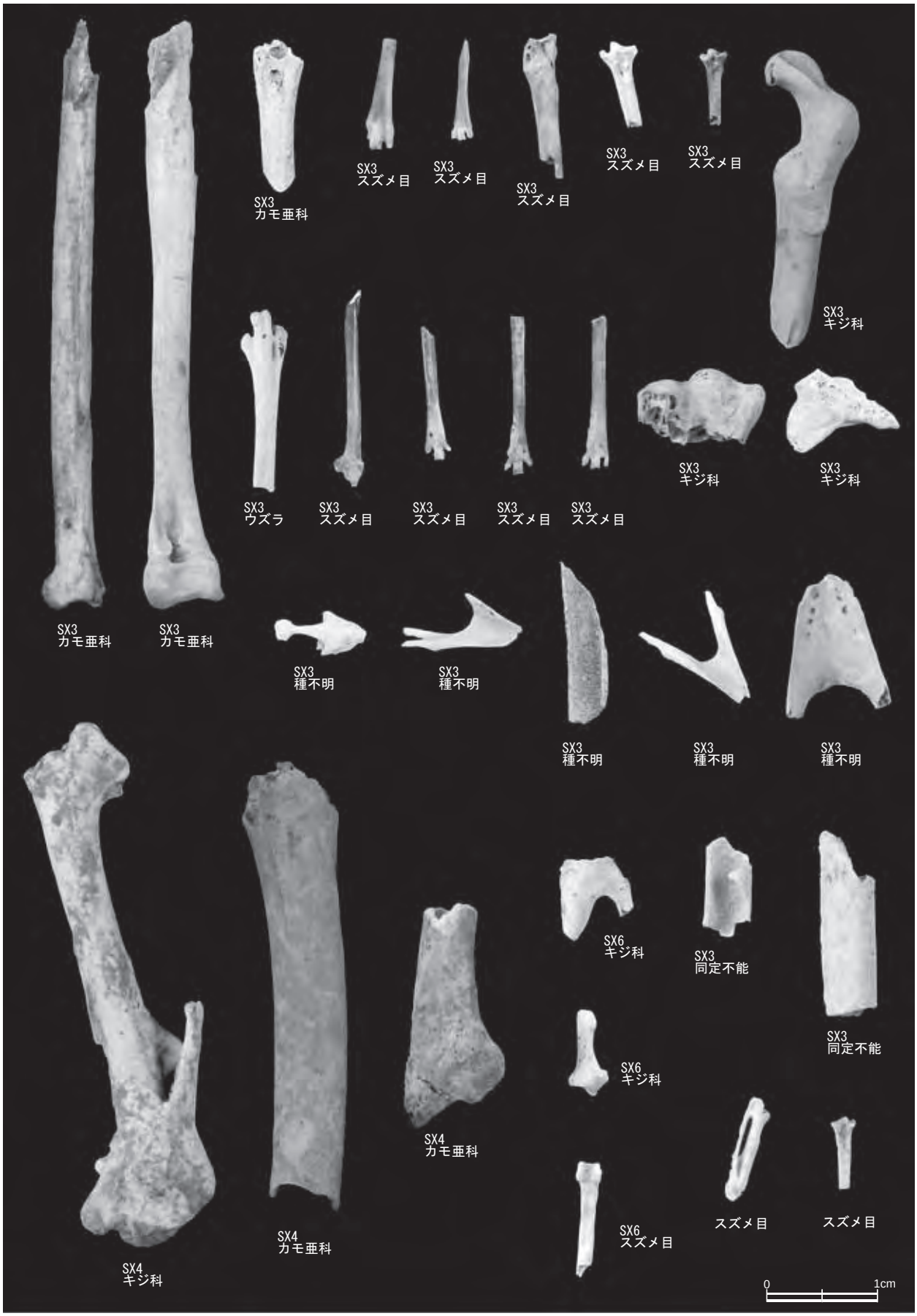
塀跡出土遺物

縄文時代の遺物

図版 40

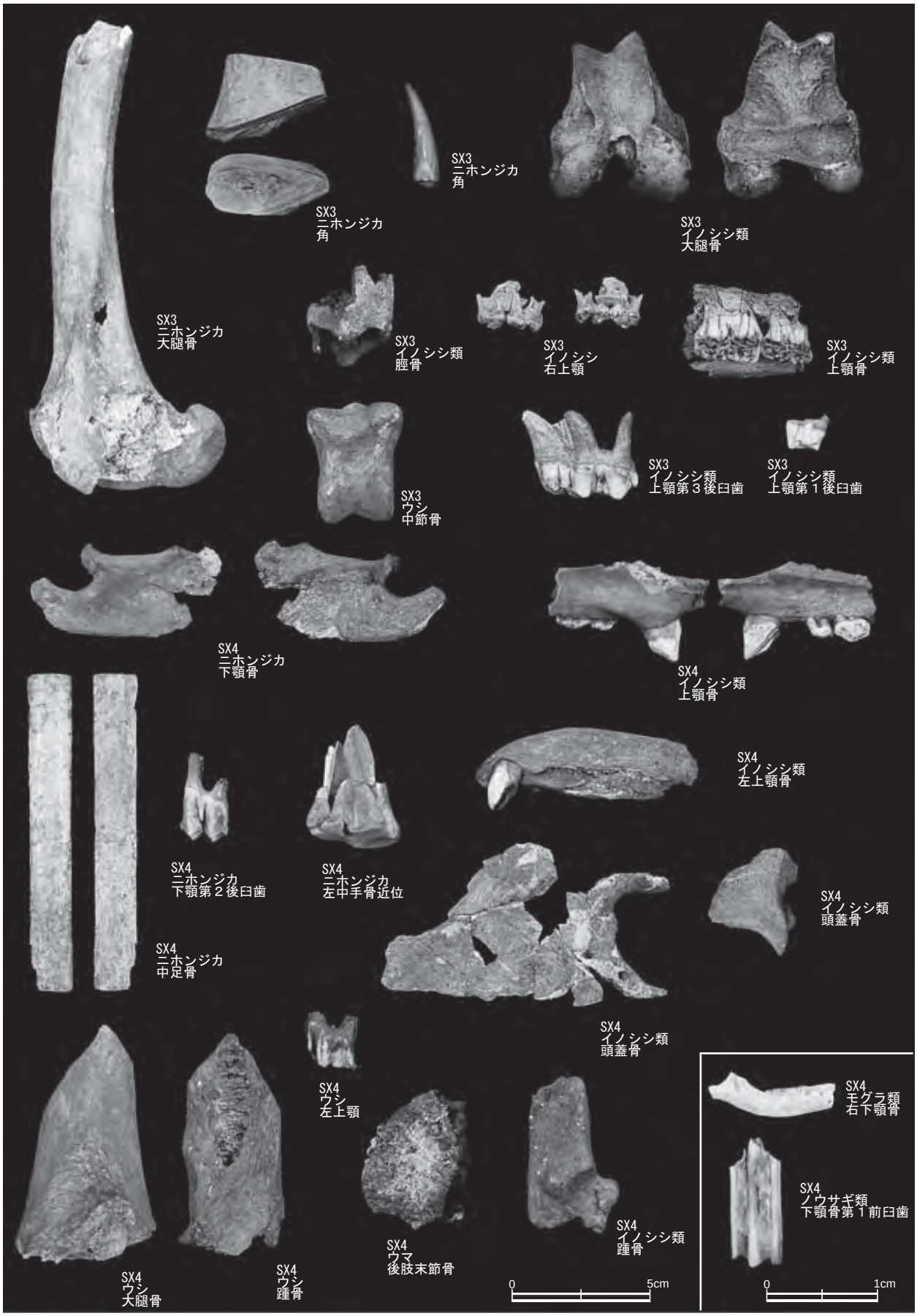


特殊土坑群出土動物遺存体（貝類・魚類）



特殊土坑群出土動物遺存体（鳥類）

図版 42



特殊土坑群出土動物遺存体（哺乳類）

報告書抄録

ふ り が な	はらいせき　よん
書　　名	幡羅遺跡　Ⅳ
副　書　名	実務官衙域の調査（2）
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第104集
編 著 者 名	知久裕昭
編 集 機 関	深谷市教育委員会
所　在　地	〒366－0823　埼玉県深谷市本住町17－3　TEL　048－572－9581
発 行 年 月 日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (°　′　″)	東経 (°　′　″)	調査 期間	調査 面積	調査 原因
幡羅遺跡 (18次)	深谷市東方字辻3026、3040、3045－1	11218	271	36 11 21	139 19 54	20050901 ～ 20051215	2,700㎡	
幡羅遺跡 (19次)	深谷市東方字辻3031、3034、3035、3038、3039、3083	11218	271	36 11 21	139 19 54	20060411 ～ 20060818	4,000㎡	
幡羅遺跡 (31次)	深谷市東方字辻3034、3035	11218	271	36 11 21	139 19 54	20080423 ～ 20080530	600㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
幡羅遺跡	官衙跡 集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	特殊土坑　4基 掘立柱建物跡　21棟 掘立柱塀跡　6基	縄文土器 石器 土師器 須恵器 鉄製品 銅製品	土器、動物遺存体等が多量に廃棄された土坑を確認した。 館と推定される施設跡を確認した。

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第104集

幡　羅　遺　跡　Ⅳ

印　刷　　平成21年３月26日
発　行　　平成21年３月31日

発　　行　　埼玉県深谷市教育委員会